目　　次

第１号（１２月８日）

告　　示 …… 1
応招議員 …… 1
議事日程 …… 2
本日の会議に付した事件 …… 4
出席議員 …… 7
欠席議員 …… 7
事務局職員出席者 …… 7
説明のため出席した者の職氏名 …… 7
開　　会 …… 8
会議録署名議員の指名 …… 8
会期の決定 …… 9
諸般の報告 …… 9
町長提出第１１３号議案 …… １０
町長提出第１１４号議案 …… １０
町長提出第１１５号議案 …… １０
町長提出第１１６号議案 …… １０
町長提出第１１７号議案 …… １０
町長提出第１１８号議案 …… １７
町長提出第１１９号議案 …… １７
町長提出第１２０号議案 …… １７
町長提出第１２１号議案 …… １７
町長提出第１２２号議案 …… １７
町長提出第１２３号議案 …… １７
町長提出第１２４号議案 …… １７
町長提出第１２５号議案 …… １８
町長提出第１２６号議案 …… １８

町長提出第１２７号議案 …… １８
町長提出第１２８号議案 …… １８
町長提出第１２９号議案 …… １８
町長提出第１３０号議案 …… １８
町長提出第１３１号議案 …… １８
町長提出第１３２号議案 …… １８
町長提出第１３３号議案 …… １８
町長提出第１３４号議案 …… １８
町長提出第１３５号議案 …… １８
町長提出第１３６号議案 …… １８
町長提出第１３７号議案 …… １８
町長提出第１３８号議案 …… １８
町長提出第１３９号議案 …… １８
町長提出第１４０号議案 …… ３３
町長提出第１４１号議案 …… ３３
町長提出第１４２号議案 …… ３３
町長提出第１４３号議案 …… ３３
町長提出第１４４号議案 …… ３３
町長提出第１４５号議案 …… ３３
教育長提出報告第８号 …… ４３
散　　会 …… ４５
署　　名 …… ４６

第２号（１２月１２日）

議事日程 …… ４７
本日の会議に付した事件 …… ４７
出席議員 …… ４７
欠席議員 …… ４７

事務局職員出席者 …… ４７
説明のため出席した者の職氏名 …… ４８
開　　議 …… ４８
　会議録署名議員の指名 …… ４８
　一般質問 …… ４８
　　５番　横山　元志君 …… ４８
　１０番　寺戸　昌子君 …… ６６
　　２番　大江　　梨君 …… ８３
　　８番　三浦　英治君 …… １０３
　　９番　田中海太郎君 …… １１２
散　　会 …… １３６
署　　名 …… １３７

第３号（１２月１３日）

議事日程 …… １３９
本日の会議に付した事件 …… １３９
出席議員 …… １３９
欠席議員 …… １３９
事務局職員出席者 …… １３９
説明のため出席した者の職氏名 …… １４０
開　　議 …… １４０
　会議録署名議員の指名 …… １４０
　一般質問 …… １４０
　１１番　川田　　剛君 …… １４０
　　１番　道信　俊昭君 …… １５４
　　４番　米澤　宏文君 …… １７２
　　７番　御手洗　剛君 …… １８３
散　　会 …… １９４

署　　名 …… １９５

第４号（１２月１４日）

議事日程 …… １９７
本日の会議に付した事件 …… １９９
出席議員 …… ２０２
欠席議員 …… ２０２
事務局職員出席者 …… ２０２
説明のため出席した者の職氏名 …… ２０３
開　　議 …… ２０３
　会議録署名議員の指名 …… ２０３
　町長提出第１１３号議案 …… ２０３
　町長提出第１１４号議案 …… ２０４
　町長提出第１１５号議案 …… ２１７
　町長提出第１１６号議案 …… ２１９
　町長提出第１１７号議案 …… ２２４
　町長提出第１１８号議案 …… ２２７
　町長提出第１１９号議案 …… ２３１
　町長提出第１２０号議案 …… ２３２
　町長提出第１２１号議案 …… ２３４
　町長提出第１２２号議案 …… ２３５
　町長提出第１２３号議案 …… ２３５
　町長提出第１２４号議案 …… ２３６
　町長提出第１２５号議案 …… ２３７
　町長提出第１２６号議案 …… ２３８
　町長提出第１２７号議案 …… ２３９
　町長提出第１２８号議案 …… ２４０
　町長提出第１２９号議案 …… ２４１

町長提出第１３０号議案 …… ２４２
町長提出第１３１号議案 …… ２４３
町長提出第１３２号議案 …… ２４６
町長提出第１３３号議案 …… ２４６
町長提出第１３４号議案 …… ２４９
町長提出第１３５号議案 …… ２５１
町長提出第１３６号議案 …… ２５２
町長提出第１３７号議案 …… ２５３
町長提出第１３８号議案 …… ２５５
町長提出第１３９号議案 …… ２５８
町長提出第１４０号議案 …… ２６０
町長提出第１４１号議案 …… ２６９
町長提出第１４２号議案 …… ２７０
町長提出第１４３号議案 …… ２７１
町長提出第１４４号議案 …… ２７２
町長提出第１４５号議案 …… ２７２
議会活性化特別委員会の報告 …… ２７３
発委第４号 …… ２７５
町長提出第１４６号議案 …… ２７８
町長提出第１４７号議案 …… ２８２
散　　会 …… ２８９
署　　名 …… ２９０

第５号（１２月２０日）

議事日程 …… ２９１
本日の会議に付した事件 …… ２９１
出席議員 …… ２９２
欠席議員 …… ２９２

事務局職員出席者 …… ２９２
説明のため出席した者の職氏名 …… ２９２
開　　議 …… ２９３
　会議録署名議員の指名 …… ２９３
　町長提出第１４８号議案 …… ２９３
　町長提出第１４７号議案 …… ３０２
　発議第１号 …… ３１３
　請願第３号 …… ３１６
　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について …… ３１９
　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について …… ３２２
　議員派遣の件 …… ３２６
　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について …… ３２７
　発議第２号 …… ３２８
閉　　会 …… ３２９
署　　名 …… ３３０

津和野町告示第96号

令和５年第７回津和野町議会定例会を次のとおり招集する

令和５年11月24日

津和野町長　下森　博之

１　期　日　　令和５年12月８日

２　場　所　　津和野町役場本庁舎議場

○開会日に応招した議員

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君
草田　吉丸君	

○12月12日に応招した議員

○12月13日に応招した議員

○12月14日に応招した議員

○12月20日に応招した議員

○応招しなかった議員

令和５年　第７回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第１日）

令和５年12月８日（金曜日）

議事日程（第１号）

令和５年12月８日　午前９時00分開会

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　諸般の報告

日程第４　町長提出第113号議案　令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について

日程第５　町長提出第114号議案　令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について

日程第６　町長提出第115号議案　令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について

日程第７　町長提出第116号議案　令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について

日程第８　町長提出第117号議案　令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について

日程第９　町長提出第118号議案　津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について

日程第10　町長提出第119号議案　津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について

日程第11　町長提出第120号議案　左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について

日程第12　町長提出第121号議案　津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について

日程第13　町長提出第122号議案　津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償

に関する条例の一部改正について

日程第14　町長提出第123号議案　津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第15　町長提出第124号議案　津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第16　町長提出第125号議案　津和野町国民健康保険税条例の一部改正について

日程第17　町長提出第126号議案　津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第18　町長提出第127号議案　津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第19　町長提出第128号議案　津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について

日程第20　町長提出第129号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第21　町長提出第130号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第22　町長提出第131号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ戎丁）

日程第23　町長提出第132号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ上新丁）

日程第24　町長提出第133号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）

日程第25　町長提出第134号議案　公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）

日程第26　町長提出第135号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）

日程第27　町長提出第136号議案　公の施設の指定管理者の指定について（道の駅

シルクウェイにちはら）

日程第28　町長提出第137号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場）

日程第29　町長提出第138号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）

日程第30　町長提出第139号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）

日程第31　町長提出第140号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）

日程第32　町長提出第141号議案　令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）

日程第33　町長提出第142号議案　令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第34　町長提出第143号議案　令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第35　町長提出第144号議案　令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）

日程第36　町長提出第145号議案　令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）

日程第37　教育長提出報告第８号　津和野町教育ビジョンについて

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　会期の決定

日程第３　諸般の報告

日程第４　町長提出第113号議案　令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について

日程第５　町長提出第114号議案　令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について

日程第６	町長提出第115号議案	令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について
日程第７	町長提出第116号議案	令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について
日程第８	町長提出第117号議案	令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について
日程第９	町長提出第118号議案	津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について
日程第10	町長提出第119号議案	津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について
日程第11	町長提出第120号議案	左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について
日程第12	町長提出第121号議案	津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について
日程第13	町長提出第122号議案	津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について
日程第14	町長提出第123号議案	津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第15	町長提出第124号議案	津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第16	町長提出第125号議案	津和野町国民健康保険税条例の一部改正について
日程第17	町長提出第126号議案	津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第18	町長提出第127号議案	津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第19	町長提出第128号議案	津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について

日程第20　町長提出第129号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）
日程第21　町長提出第130号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）
日程第22　町長提出第131号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ戎丁）
日程第23　町長提出第132号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ上新丁）
日程第24　町長提出第133号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）
日程第25　町長提出第134号議案　公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）
日程第26　町長提出第135号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）
日程第27　町長提出第136号議案　公の施設の指定管理者の指定について（道の駅シルクウェイにちはら）
日程第28　町長提出第137号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場）
日程第29　町長提出第138号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）
日程第30　町長提出第139号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）
日程第31　町長提出第140号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）
日程第32　町長提出第141号議案　令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）
日程第33　町長提出第142号議案　令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）
日程第34　町長提出第143号議案　令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予

算（第３号）

日程第35　町長提出第144号議案　令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）

日程第36　町長提出第145号議案　令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）

日程第37　教育長提出報告第８号　津和野町教育ビジョンについて

出席議員（11名）

１番　道信　俊昭君	２番　大江　　梨君
４番　米澤　宏文君	５番　横山　元志君
６番　沖田　　守君	７番　御手洗　剛君
８番　三浦　英治君	９番　田中海太郎君
10番　寺戸　昌子君	11番　川田　　剛君
12番　草田　吉丸君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長　中田　紀子君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	岩本　要二君	総務財政課長 ……	益井　仁志君
税務住民課長 ……	山下　泰三君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	清水　浩志君

農林課長 ……	小藤　信行君	商工観光課長 ……	堀　　重樹君
環境生活課長 ……	野田　裕一君	建設課長 ……	安村　義夫君
教育次長 ……	山本　博之君	会計管理者 ……	青木早知枝君

午前９時00分開会

○議長（草田　吉丸君）　御起立をお願いをいたします。

津和野町民憲章の唱和を行います。

〔津和野町民憲章唱和〕

○議長（草田　吉丸君）　御着席ください。

皆さん、おはようございます。日増しに寒くなっていまいりました。この秋におきましては、各地域において、秋祭りあるいは公民館祭り、そして、文化祭等が開催をされました。コロナ禍の中で開催が中止や延期になっていました各行事が平常時に戻ってきたことは大変喜ばしいことであります。このことが津和野町の活性化につながっていくことを願いたいと思います。

本日、令和５年第７回津和野町議会定例会が招集されましたところ、皆様方にはおそろいでお出かけをいただきましてありがとうございます。

ただいまの出席議員数は１１名であります。定足数に達しておりますので、令和５年第７回定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（草田　吉丸君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、９番、田中海太郎議員、１０番、寺戸昌子議員を指名します。

先日、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期及び議事日程等について協議しておりますので、その結果について議会運営委員長の報告を求めます。８番、三浦英治議会運営委員長。

○議会運営委員会委員長（三浦　英治君）　議会運営委員会を令和５年１２月４日に開

催し、今定例会における会議日程ほか議会運営について協議したところ、今定例会の会期は、本日１２月８日から１２月２０日までの１３日間としたいと思います。

会期中における会議日程については、お手元にお配りしております日程表にて御確認ください。

以上、協議した結果を報告いたします。

○議長（草田　吉丸君）　ありがとうございました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２．会期の決定

○議長（草田　吉丸君）　日程第２、会期の決定を議題とします。

お諮りします。本定例会の会期は、議会運営委員長の報告のとおり、本日から１２月２０日までの１３日間としたいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。したがって、会期は、本日から１２月２０日までの１３日間と決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．諸般の報告

○議長（草田　吉丸君）　日程第３、諸般の報告をします。

９月定例会招集日以降における議会行事及び各報告事項につきましては、お手元に配付のとおりであります。

１０月３１日の議員派遣につきましては、緊急を要したため、津和野町議会会議規則第１２８条の規定により、議長において決定しましたので報告をします。

益田地区広域市町村圏事務組合、鹿足郡事務組合、鹿足郡不燃物処理組合及び鹿足郡養護老人ホーム組合の各議会報告に関する書類のほか、令和５年度９月以降の例月出納検査報告及び令和５年度定例監査報告につきましては、お手元に配付のとおりであります。

なお、関係書類は事務局に保管してありますので、必要の向きは御覧ください。

また、本日までに受理した請願等につきましては、お手元にお配りした請願陳情等文書表のとおり報告をします。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．議案第１１３号

日程第５．議案第１１４号

日程第６．議案第１１５号

日程第７．議案第１１６号

日程第８．議案第１１７号

○議長（草田　吉丸君）　日程第４、議案第１１３号令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結についてより、日程第８、議案第１１７号令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結についてまで、以上５案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、皆さん、おはようございます。

本日は、１２月定例議会の招集をお願いいたしましたところ、おそろいで御出席を賜りましてありがとうございます。

今定例会に提案をいたします案件は、契約案件５件、条例案件１１件、指定管理者指定案件１１件、一般会計をはじめ各会計補正予算案件６件、報告案件１件の合計３４案件でございます。いずれも重要な案件でございますので、慎重審議を賜り、それぞれ可決賜りますようお願いを申し上げます。

議案第１１３号でございますが、令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１１４号でございますが、令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１１５号でございますが、令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１１６号でございますが、令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結

について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１１７号でございますが、令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　それでは、議案第１１３号令和４年度町道町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結につきまして、御説明いたします。

契約の目的は、令和４年度町道一の谷線落石対策工事であります。

契約の方法は、随意契約です。

契約の金額は、変更の金額が６，２０９万６００円、変更前の金額が６，１５８万２００円、変更金額が５１万４００円となります。

契約の相手方は、住所、島根県鹿足郡津和野町鷲原イ２００番地１、氏名、有限会社山田土木、代表取締役、山田實でございます。

裏面に資料として、工事請負変更仮契約書の写しを添付しておりますので、御確認ください。

続いて、変更概要について御説明いたします。

参考資料の１を御覧ください。

この請負契約は、令和４年１０月１２日に当初契約を、そして、令和５年３月１６日に工事完成期日の変更を伴う第１回変更契約を、また、上部岩盤の亀裂の進行を抑止する発生源対策工を追加する第２回の変更契約を、令和５年８月２５日に仮変更契約を締結し、翌９月１５日に、議会において議決を頂いたのり面対策工事の契約案件でございます。

今回の変更の主な要因は、落石防護網工及びロープ伏工について、計画数量から現地の状況に対応するための施工数量の変更となっております。それに伴いまして、アンカー等各部材数量の変更が伴っております。

参考資料の２の図面を御覧ください。

青色で示してありますのが計画数量でございます。朱書きで示しているのが今回の

変更数量となっております。

２号ポケット式落石防護網工が５３４平米から５３３平米に、１号ロープ伏工が３５２平米から３７１平米に、７号ロープ伏工が７２平米から７８平米に変更しております。

なお、本件は、津和野町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条において規定されております５，０００万円以上の工事に該当する案件となることから、議会の議決を求めるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第１１４号令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について御説明いたします。

契約の目的は、令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事でございます。

契約の方法は、随意契約でございます。

契約の金額は、変更の金額、４億８，７６４万８，７００円、変更前の金額、４億５，８５９万円、変更額、２，９０５万８，７００円でございます。

契約の工期は、変更前完成期日、令和６年３月８日で、変更後完成期日、令和６年３月２０日でございます。

契約の相手方は、住所、島根県鹿足郡津和野町枕瀬５７５番地９、氏名、堀建設株式会社、代表取締役、堀大地でございます。

１枚めくっていただきまして、次ページに資料といたしまして、建設工事請負変更仮契約書の写しを添付しております。

それでは、変更の概要について御説明いたします。

参考資料１を御覧ください。

まず、本工事の当初契約の概要といたしまして、工事名は、令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事でございます。

契約金額は、４億５，８５９万円でございます。

契約年月日は、令和５年６月１２日でございます。

議会の議決は、令和５年６月１５日でございます。

契約の工期は、着工が令和５年６月１６日、完成が令和６年３月８日でございます。

契約の相手は、堀建設でございます。

続いて、変更契約の概要といたしまして、このたびの変更契約は、契約額及び完成期日を変更するものでございます。

変更契約額は、現契約額４億５，８５９万円に２，９０５万８，７００円を増額し、４億８，７６４万８，７００円に変更するものでございます。

完成期日は、変更前完成期日、令和６年３月８日を、変更後完成期日、令和６年３月２０日に変更するものでございます。

変更理由といたしまして、本工事は、民間事業者のノウハウや創意工夫を生かし、スピード感とコスト縮減等の可能性を見込むことができる設計・施工一括発注公募型プロポーザル方式により、事業者から提案を受け、審査委員会において事業者を選定し、事業に着手しておるところでございます。

設計・施工一括発注公募型プロポーザル方式の場合、基本的には、工事代金並びに完成期日の変更はしないものとしておりますが、工事の進捗状況並びに関係機関等との協議を行う中で、変更が必要と認められるため、事業者と変更金額等を協議し変更するものでございます。

まず、金額といたしましては、工事請負契約締結後におきまして、事業者である堀建設株式会社、指定管理候補者である株式会社丸久、町の３者にて施設設計内容について協議を進めてまいりました。協議の中で株式会社丸久様から施設内装の仕上げ、これはサインや装飾等でございますが、それと外部サイン、それから外灯設備の設置等、細部について御提案を頂いたところであります。

御提案いただいた内容につきましては、施設利用者の集客等に大きく影響するものでございまして、本工事の財源でありますデジタル田園都市国家構想交付金の採択要件でもあります将来的な事業の自立が求められているところであります。そのことからも、町としても必要であると認識しているところであります。

つきましては、株式会社丸久様から御提案を頂きました施設の内装の仕上げ、外部サインや外灯の設備の設置等は、現工事請負費には含まれておりませんので、追加工事として変更契約をし、施工したいものでございます。

工期につきましては、本工事の建築確認申請は、公的機関より期間短縮が可能な民間機関において実施することで当初から進めておりましたが、想定より２週間程度時間を要し、その遅れを取り戻すため、事業者において、現工期内での完成に向け工程の見直しをしましたが、現工期内での完成が困難な状況となったために工期の延長が必要となったものでございます。

参考資料２、３としまして、完成後の外観と店舗内部のイメージ図を添付しております。

現在、同時進行で関係機関と協議等を進めておりますので、完成までにデザイン等が変更となる可能性もございます。あらかじめ御承知おきくださいませ。

なお、本工事の仮契約は、津和野町議会の議決を経たとき、何らの手続をすることなく本契約になるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　それでは、議案第１１５号令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結につきまして、御説明いたします。

契約の目的は、令和５年度町道商人線道路改良工事。

契約の方法は、随意契約です。

契約の金額は、変更の金額が５，００５万円、変更前の金額が３，９１３万２，５００円、変更額が１，０９１万７，５００円。

契約の工期が、変更前完成期日、令和６年２月２８日、変更後完成期日が、令和６年３月２９日であります。

契約の相手方は、住所、島根県鹿足郡津和野町瀧元５８番地１、氏名、株式会社日成建設、代表取締役、坂崎和義でございます。

裏面に資料といたしまして、工事請負変更仮契約書の写しを添付しておりますので、御確認ください。

続いて、変更の概要について御説明いたしますので、参考資料の１を御覧ください。

当初契約の概要でございますが、本契約は、令和５年７月２４日に契約金額３，９１３万２，５００円、完成期日を令和６年２月２８日とする当初契約を締結した

道路改良工事でございます。

今回の変更の主な要因は、狭小区間が連続する当該工事箇所におきまして、通行者の安全確保を図るため、既発注区間から連続する大型ブロック積工を追加施工し、早期の事業効果を図るものであります。

なお、これに伴いまして、交通誘導整理員の増員と、完成期日を令和６年３月２９日としております。

次に、参考資料の２の図面を御覧ください。

青色で示してありますのが当初計画部分、朱書きが変更箇所となります。

大型ブロック積８．３メートルの施工、ガードレール基礎２０メートルの施工となります。また、示しております５号ブロック積は、基礎工の根入れの深さの変更となっております。

なお、本件は、津和野町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条において規定されております５，０００万円以上の工事に該当する案件となることから、議会の議決を求めるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第１１６号令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について、御説明いたします。

工事名は、令和５年度旧日原保育園解体工事でございます。

契約の方法は、一般競争入札でございます。

契約の金額は、５，４４８万８００円でございます。うち消費税が４９５万2，８００円でございます。

契約の工期は、着工を津和野町議会の議決があった日の翌日、完成を令和６年３月２６日としております。

契約の相手方は、住所、島根県鹿足郡津和野町枕瀬５７５番地９、氏名、堀建設株式会社、代表取締役、堀大地でございます。

本工事の落札率は９５．８％でございます。

１枚めくっていただきまして、次のページに資料としまして、建設工事請負仮契約

書の写しを添付しております。

それでは、工事の概要を御説明いたします。参考資料といたしまして、配置図を添付しております。

本工事は、津和野町日原地内にあります旧日原保育園を解体撤去するものでございます。

なお、構造はＲＣ２階建て、延べ床面積は８７３．７５平方メートルでございます。

事前調査の結果、使用建材にアスベスト含有物等が含まれておりましたので、法令に基づき撤去処理した後、附属工作物を含めまして解体撤去するものでございます。

なお、本工事の仮契約は、津和野町議会の議決を経たとき、何らの手続をすることなく本契約になるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　それでは、議案第１１７号令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結につきまして、御説明いたします。

工事名は、令和５年度町道円の谷晩越トンネル修繕工事。

契約の方法は、一般競争入札でございます。

契約の金額は、１億4，８３３万2，８００円でございます。

契約の工期は、着工期日、津和野町議会の議決のあった日の翌日、完成期日、令和６年3月２９日としております。

契約の相手方は、住所、島根県鹿足郡津和野町枕瀬５４５番地１、氏名、内田建設株式会社、代表取締役、内田勝久でございます。

なお、本入札における応札者は５社、落札率は９３．１％となっております。

裏面に資料として、建設工事請負仮契約書の写しを添付しておりますので、御確認ください。

続いて、工事概要について御説明いたします。

道路法等の関係法令の改正によりまして、トンネル、橋、その他道路を構成する施設は、損傷、腐食、その他の劣化などにより、道路の構造や交通に多くの支障を及ぼすおそれがあるものについて、５年に１回の近接目視を基本とした点検の実施が求め

られております。

この晩越トンネルは、点検結果により、早晩、利用者に対して影響が及ぶ可能性が高いため、早期に対策を講じる必要がある状態と判定されたため、適正な維持管理及び長寿命化を図ることを目的に修繕工事の措置を行うものであります。

なお、当該トンネルは、完成年次１９２２年、延長７０メートルでございます。

参考資料の２の図面を御覧ください。

これは、対策工のトンネルの展開図となっております。図面の左側が日原側、右側が六日市側となります。

ピンク色の斜線で図示している部分が、うき・剥離等の材質劣化の変状が確認されている箇所となります。

主な工事内容につきましては、これらの変状が認められた箇所に、円弧状のプレキャストコンクリート板をトンネルの縦断方向に連続設置するＰＣＬ工法や、トンネル覆工表面に含浸接着剤を含浸させて覆工と一体化させる炭素シート繊維工を施工します。また、トンネルの背面空洞化部分には、発泡ウレタン充填の対策を施工する計画としております。

なお、本件は、津和野町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条において規定されております５，０００万円以上の工事に該当する案件となることから、議会の議決を求めるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第９．議案第１１８号

日程第１０．議案第１１９号

日程第１１．議案第１２０号

日程第１２．議案第１２１号

日程第１３．議案第１２２号

日程第１４．議案第１２３号

日程第１５．議案第１２４号

日程第１６．議案第１２５号

日程第１７．議案第１２６号

日程第１８．議案第１２７号

日程第１９．議案第１２８号

日程第２０．議案第１２９号

日程第２１．議案第１３０号

日程第２２．議案第１３１号

日程第２３．議案第１３２号

日程第２４．議案第１３３号

日程第２５．議案第１３４号

日程第２６．議案第１３５号

日程第２７．議案第１３６号

日程第２８．議案第１３７号

日程第２９．議案第１３８号

日程第３０．議案第１３９号

○議長（草田　吉丸君）　日程第９、議案第１１８号津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定についてより、日程第３０、議案第１３９号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）まで、以上２２案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第１１８号でございますが、津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１１９号でございますが、津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２０号でございますが、左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、教育次

長から御説明を申し上げます。

議案第１２１号でございますが、津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２２号でございますが、津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２３号でございますが、津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２４号でございますが、津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２５号でございますが、津和野町国民健康保険税条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２６号でございますが、津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２７号でございますが、津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２８号でございますが、津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１２９号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３０号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３１号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設町家ステイ戎丁）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３２号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設町家ステイ上新丁）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３３号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３４号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３５号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３６号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（道の駅シルクウェイにちはら）、議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３７号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３８号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１３９号でございますが、公の施設の指定管理者の指定について（津和野町

原木・チップヤード施設）、議会の議決を求めるものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第１１８号津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について、御説明いたします。

第１条、設置でございます。この条例は、町の利便性を向上し、町内外の交流と賑わいの拠点として、地域振興及び地域の活性化を図るため、整備する地域活性化複合施設の設置及び管理に関し、必要な事項を定めるものでございます。

第２条、名称及び位置でございます。

第１号、名称は、津和野町地域活性化複合施設「まごころ市場にちはら」でございます。

第２号、設置場所は、津和野町枕瀬９７５番地１でございます。

第３条、指定管理者による管理でございます。複合施設の管理者につきましては、指定管理者による管理を規定しており、業務につきましては、第５条に規定しております。

第６条、休日及び営業時間以降につきましては、管理に関しまして必要な事項を規定しております。

最後に附則といたしまして、第１項、施行期日でございますが、この条例の施行期日は、規則で定めることとしております。

第２項、準備行為でございますが、この条例の規定による指定管理者の指定及びこれに関し必要な手続、利用料金の承認その他条例を施行するために必要な行為は、この条例の施行の日前においても行うことができることとしております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　それでは、議案第１１９号を御説明いたします。

この条例は、令和６年度より公共下水道をなくして、津和野町下水道事業にするために設置する条例です。

第１条で、地方公営企業法の規定に基づき、下水道事業を設置するものです。

第３条第２項、第３項で、今まで２つあった工業下水道を１つにすることにより、計画処理面積は１６９ヘクタールとなります。また、農業集落排水処理施設も下水道事業となります。

第４条で、重要な資産の取得及び処分の額を、第５条で、議会の同意を要する賠償責任の免除の額を示しています。

第６条で、下水道事業に管理者を置かず、町長が下水道事業管理者となります。

第７条で、議会の議決を要する負担付きの寄附の受領額の額を示しています。

第８条で、業務状況説明書類の提出を、年２回提出することをうたっています。

附則として、施行期間は、令和６年４月１日から施行します。

以下、この条例の制定により、他の条例改正が必要となります。その条例改正を附則で行うものとして、まず、津和野町公共下水道施設設置管理条例を廃止します。

次に、津和野町特別会計条例の一部を改正します。第１号及び第２号を削り、第３号を第１号とし、第４号を第２号とし、第５号を第３号とします。

津和野町下水道基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部改正します。

第３条の中の「下水道会計歳入歳出予算」を「下水道事業会計予算」に改めます。

津和野町下水道条例の一部改正、第１条中の「設置及び」を削る。

第２条は、管理は、津和野町が行うものとする。また、別表を削る。

津和野町農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例の一部改正。

第１条中の「設置及び」を削る。第３条を削除。

津和野町農業集落排水施設使用料条例の一部改正。

第１条中の「津和野町農業集落排水施設の設置及び管理に関する条例」を「津和野町農業集落排水施設の管理に関する条例」に改めます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　それでは、議案第１２０号左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について、御説明をいたします。

これは、左鐙コミュニティセンターを学校施設として使用するために制定するものでございます。左鐙コミュニティセンターにつきましては、旧左鐙小学校を社会教育

施設として使用するために、令和２年に条例を制定し、建物を集会機能を持った施設として改修するための設計を進めておりましたところ、設計の段階で建物を学校施設から集会所へ用途変更することに当たり、多額の費用がかかることが判明したことから、用途変更を見送ることといたしました。そのため、施設を学校用途として活用を図るものでございます。

第２条で、名称及び位置も規定しております。

名称につきまして、左鐙学習センター、位置を、津和野町左鐙８８８番地でございます。

第３条に、管理運営に係る必要な規定を設けております。

附則といたしまして、この条例は、令和６年１月１日から施行するものとし、この条例の制定に合わせ、左鐙コミュニティセンターの設置及び管理に関する条例は廃止するものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　総務財政課長。

○総務財政課長（益井　仁志君）　それでは、議案第１２１号を御説明申し上げます。

津和野町職員の給与に関する条例の一部改正についてでございます。

今回の一部改正につきましては、主には、人事院勧告を受けまして、職員等に対して支給いたします給料及び諸手当につきまして所要の改正を行うものでございます。

給与法の改正につきましては、このたびの人事院勧告を踏まえた一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律に準拠して改正するものでございます。

なお、若年層を重点に平均して０．９６％の引き上げとなっております。

施行日は、令和５年４月１日に遡って適用するものでございます。

３枚めくっていただきまして、新旧対照表の上側１ページを御覧ください。

第１条関係の令和５年４月１日適用分として、第２１条では、期末手当について支給割合が改正されております。

第２項で、６月支給の割合は現行どおりでございますが、１２月支給の割合を１００分の１２０から１００分の１２５に改定され、年間で０．０５月引き上げるものでございます。

また、第３項で、再任用短時間勤務職員につきましては、１２月支給の割合を１００分の６７．５から１００分の７０に改正されるものでございます。

また、２４条では、勤勉手当についても支給割合が改正されております。

第１号の再任用短時間勤務職員以外の職員について、６月支給の割合は現行どおりでございますが、１２月支給の割合を１００分の１００から１００分の１０５に改正され、年間で０．０５月分引き上げるものでございます。このことにより、期末手当と合わせまして、現行の４．４０月から４．５０月になるものでございます。

また、第２号で、再任用短時間勤務職員について、１２月支給の割合を１００分の４７．５から１００分の５０に改正されるものでございます。

それでは、新旧対照表の下側の次ページを御覧ください。

第２条関係の令和６年４月１日適用分として、第２１条では、期末手当について支給割合が改正されております。

第２項で、６月支給及び１２月支給の割合をそれぞれ１００分の１２２．５に、定年前再任用短時間勤務職員につきましては、１００分の６８．７５に改定されるものでございます。

また、２４条では、勤勉手当の支給割合が改正されております。

第１号の定年前再任用短時間勤務職員以外の職員につきましては、６月支給及び１２月支給の割合をそれぞれ１００分の１０２．５に、第２号の定年前再任用短時間勤務職員につきましては、６月支給及び１２月支給の割合を１００分の４８．７５へ改正するものでございます。

この条例の第１条は、公布の日から施行し、令和５年４月１日からの施行とするものとします。

第２条につきましては、令和６年４月１日から施行するものでございます。

以上でございます。

続きまして、議案第１２２号を御説明申し上げます。

津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正についてでございます。

今回の一部改正につきましては、人事院勧告を受けまして会計年度任用職員等に対

して支給いたします給料につきまして、所要の改正を行うものでございます。

給料表の改正につきましては、このたびの人事院勧告を踏まえた一般職の職員の給与に関する法律等の一部を改正する法律に準拠して改正するものでございます。

この条例は、公布の日から施行するものとし、令和５年４月１日から適用するものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　それでは、議案第１２３号津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正についてを御説明いたします。

本案は、監査委員による令和４年度分決算審査の口頭意見として、指定管理施設における使用料納付後の収入先について、基本協定書には指定管理者側の収入となる旨の記載はあるが、設置管理条例にその記載がないので、他の同様の条例に合わせて改正すべき指摘があり、これに対応するため本条例の改正を行うものであります。

１ページめくっていただき、新旧対照表を御覧ください。

第１０条第３項の次に第４項として、「使用料は、指定管理者の収入とする」を加えるものであります。

附則として、この条例は、公布の日から施行するものであります。

以上です。

続きまして、議案第１２４号津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正についてを御説明いたします。

本案は、監査委員による令和４年度分決算審査の口頭意見として、指定管理施設における使用料納付後の収入先について、基本協定書には指定管理者側の収入となる旨の記載はあるが、設置管理条例にその記載がないので、他の同様の条例に合わせて改正すべき指摘があり、これに対応するため本条例の改正を行うものであります。

１ページめくっていただき、新旧対照表を御覧ください。

第１０条第３項の次に第４項として、「使用料は、指定管理者の収入とする」を加えるものであります。

附則として、この条例は、公布の日から施行するものであります。

以上です。

続きまして、議案第１２５号津和野町国民健康保険税条例の一部改正についてを御説明いたします。

本案は、全世代対応型の社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律が施行され、国民健康保険法施行例が一部改正されたことに伴い、本条例の改正が必要になったものであります。

改正内容の概略としましては、出産予定の国民健康保険の被保険者または出産した被保険者について、出産の予定日の属する月の前月から出産予定月の翌々月までの期間に係る所得割額及び被保険者均等割額を減額するものであります。

２ページめくっていただいて、新旧対照表を御覧ください。

第２１条第２項の次に第３項として、第１号において基礎課税額の所得割額の、第２号において基礎課税額の被保険者均等割額の、第３号において後期高齢者支援金等課税額の所得割額の、第４号において後期高齢者支援金等課税額の被保険者均等割額の、第５号において介護納付金課税額の所得割額の、第６号において介護納付金課税額の被保険者均等割額の、それぞれ年額の１２分の１の額を出産予定日の属する月の前月から出産予定月の翌々月までの期間減額することが記載されています。

次に、第２２条の２の次に第２２条の３として、出産する予定の被保険者に係る届出の内容、必要な添書等について記載されています。

附則として、１、この条例は、令和６年１月１日から施行する。

２、経過措置として、この条例による改正後の津和野町国民健康保険税条例の規定は、令和５年度分の国民健康保険税のうち令和６年１月以後の期間に係るもの及び令和６年度以後の年度分の国民健康保険税について適用し、令和５年度分の国民健康保険税のうち令和５年１２月以前の期間に係るもの及び令和４年度分までの国民健康保険税については、なお従前の例によるものであります。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　医療対策課長。

○医療対策課長（清水　浩志君）　それでは、議案第１２６号について御説明いたします。津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正でございます。

この条例は、介護老人保健施設及び通所リハビリテーションでの食費について、給食材料費等の物価高騰により改正を行うものでございます。

次ページからの新旧対照表を御覧ください。

別表の入所、短期入所及び介護予防短期入所中の食費について、１日につき１，５１０円を２，０３７円に、次ページの通所リハビリテーション及び介護予防通所リハビリテーション中の食費について、１日につき６２１円を８００円に改正するものでございます。

附則といたしまして、施行期日でございますが、公布の日から施行し、令和５年１２月１日から適用するものでございます。

また、経過措置として、この条例により改正後の津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の規定は、令和５年１２月１日以降の別表の利用料等について適用し、同日前の別表の利用料等については、なお従前の例によるとしております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　それでは、議案第１２７号津和野町農産処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について、御説明いたします。

本案は、監査委員による令和４年度分決算審査の口頭意見として、指定管理施設における利用料納付後の収入先について、基本協定には指定管理側の収入となる旨の記載はあるが、指定管理条例にその記載がないので、他の同様の条例に合わせて改正すべき指摘があり、これに対応するため、本条例の改正を行うものであります。

１ページをめくっていただき、新旧対照表を御覧ください。

第１０条第１項の次に第２項として、「利用料は、指定管理者の収入とする」を加えるものであります。

附則として、この条例は、公布の日から施行するものであります。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　それでは、議案第１２８号について、御説明いたします。

この条例は、水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正するも

のです。

次ページの新旧対照表を御覧ください。

第２２条の見出しを「会計年度任用企業職員の給与」に改め、同条中、「企業職員で職員以外の者については、職員の給与と権衡を考慮し、予算の範囲内で給与を支給する」を「地方公務員法第２２条の２第１項に規定する会計年度任用職員として任用される企業職員（次項において「会計年度任用企業職員」という。）の給与の種類は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定めるところによる」に改め、同条に次の各号を加えます。

附則として、この条例は、公布の日から施行し、令和５年９月１日から適用します。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それでは、議案第１２９号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町町営塾日原でございます。

指定管理者となる団体の名称は、一般財団法人つわの学びみらいでございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日までございます。

公の施設の概要については、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、令和２年４月１日から導入したもので、現在の指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、現在の指定管理者である一般財団法人つわの学びみらいを引き続き、指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３０号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、寺田納骨堂でございます。

指定管理者となる団体の名称は、寺田納骨堂利用者の会でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日までございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

当該施設の指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から導入したもので、現在の指定期間が令和６年３月３１日に満了になることから、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を３年として、現在の指定管理者である寺田納骨堂利用者の会を引き続き、指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３１号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町まちなか再生関連施設町家ステイ戎丁でございます。

指定管理者となる団体の名称は、一般社団法人津和野町観光協会でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成２６年４月１日から導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了になることから公募し、応募のあった１団体について、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、一般社団法人津和野町観光協会を指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３２号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町まちなか再生関連施設町家ステイ上新丁でございます。

指定管理者となる団体の名称は、一般社団法人津和野町観光協会でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成２８年８月１日から公募により導入したもので、指定管理期間が令和６年３月３１日に満了になることから公募し、応募のあった１団体について、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定管理期間を５年として、一般社団法人津和野町観光協会を指定管理者として指定するものでございます。

続きまして、議案第１３３号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野駅でございます。

指定管理者となる団体の名称は、一般社団法人津和野町観光協会でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、令和４年１０月１日から導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから公募し、応募のあった１団体について、令和５年３月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、一般社団法人津和野町観光協会を指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３４号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、日原蚕の人工飼料育研究センターでございます。

指定管理者となる団体の名称は、株式会社にちはら総合研究所でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成２１年４月１日から導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから、津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、株式会社にちはら総合研究所を引き続き指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３５号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町日原賑わい創出拠点施設でございます。

指定管理者となる団体の名称は、特定非営利活動法人にこはらでございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、令和４年１０月１日から導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから公募し、応募のあった１団体について、

令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、特定非営利活動法人にこはらを指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３６号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、道の駅シルクウェイにちはらでございます。

指定管理者となる団体の名称は、株式会社津和野開発でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年3月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日から導入したもので、指定期間が令和６年3月３１日に満了となることから公募し、応募のあった２団体について、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、株式会社津和野開発を指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３７号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場でございます。

指定管理者となる団体の名称は、株式会社津和野開発でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年3月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成１８年９月１日より制度を導入したもので、指定期間が令和６年3月３１日に満了となることから公募し、応募のあった１団体について、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、株式会社津和野開発を指定管理者に選定するものでございます。

続きまして、議案第１３８号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町農産物処理加工施設でございます。

指定管理者となる団体の名称は、三保電機株式会社でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理者制度につきましては、平成２０年４月１日から制度を導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから公募し、応募のあった１団体について、令和５年１０月３１日に開催した津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、三保電機株式会社を指定管理者に指定するものでございます。

続きまして、議案第１３９号について御説明いたします。

公の施設の指定管理者の指定について、議会の議決を求めるものでございます。

公の施設の名称は、津和野町原木・チップヤード施設でございます。

指定管理者となる団体の名称は、有限会社石州造林でございます。

指定する期間は、令和６年４月１日から令和１１年３月３１日まででございます。

公の施設の概要につきましては、裏面資料を御覧ください。

指定管理制度導入に関しましては、令和４年３月１日から制度を導入したもので、指定期間が令和６年３月３１日に満了となることから、令和５年１０月３１日に開催しました津和野町公の施設指定管理者選定審査会の審査を経て、指定期間を５年として、有限会社石州造林を引き続き指定管理者に指定するものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　寺田納骨堂の指定期間のところが、頂いた資料と説明された期間が違ったんで、どちらが正しいのかなと。説明では１１年までだったんですが、資料は９年までになっていたので。１３０号議案です。

○議長（草田　吉丸君）　議案第１３０号。つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　失礼しました。説明が、令和１１年３月３１日と申し上げましたが、令和９年３月３１日が正しいものです。すいません、失礼しました。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

ここで１０時２０分まで休憩といたします。

午前10時07分休憩

……

午前10時20分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３１．議案第１４０号

日程第３２．議案第１４１号

日程第３３．議案第１４２号

日程第３４．議案第１４３号

日程第３５．議案第１４４号

日程第３６．議案第１４５号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３１、議案第１４０号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）より、日程第３６、議案第１４５号令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）まで、以上６案件につきましては、会議規則第３７条の規定により一括議題とします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第１４０号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）についてでございますが、歳入歳出予算の総額にそれぞれ２億５，１９１万８，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を１０３億９，１１５万５，０００円とするものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

議案第１４１号令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）についてでございますが、歳入歳出それぞれ１６万９，０００円を減額し、歳入歳出予算の総額を９億８，６８５万６，０００円とするものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１４２号令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）についてでございますが、歳入歳出予算の総額にそれぞれ４６８万８，０００円を追加し、歳

入歳出予算の総額を１４億２，４５４万１，０００円とするものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１４３号令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）についてでございますが、歳入歳出予算の総額にそれぞれ２９２万８，０００円を追加し、歳入歳出予算の総額を４億１，８６３万１，０００円とするものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１４４号令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）についてでございます。収益的収入を１８万２，０００円減額し、収益的収入予算総額８億２，６４８万１，０００円、収益的支出を１８万２，０００円減額し、収益的支出予算総額８億１，３９９万３，０００円にするものでございます。詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

議案第１４５号でございますが、令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）についてでございます。収益的収入を１，１１４万１，０００円追加し、予算総額３億７，４９２万９，０００円、収益的支出を１，１１４万１，０００円追加し、予算総額３億３，３００万８，０００円に、資本的収入を９万１，０００円減額し、予算総額３億６，８３３万５，０００円、資本的支出を予算総額４億４，５５０万１，０００円にするものでございます。詳細につきましては、担当課長から御説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　総務財政課長。

○総務財政課長（益井　仁志君）　それでは、議案第１４０号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）について御説明申し上げます。

まず５ページを、タブレットでは８６ページを御覧ください。

第２表の債務負担行為補正の追加でございます。

多胡家表門保存修理事業でございますが、修理します工事期間が次年度の令和６年度までとなることから、その事業費に対し債務負担行為を行うものでございます。期間を令和６年度とし、限度額を３，１２３万５，０００円としております。

続きまして、西周旧居保存修理事業でございますが、修理します工事期間が次年度の令和６年度までとなることから、その事業費に対し債務負担行為を行うものでございます。期間を令和６年度とし、限度額を１，２３３万円としております。

１枚めくっていただきまして、第３表地方債補正の変更でございます。

総額で１６０万円の減額補正をしております。詳細につきましては、事項別明細書の中で御説明申し上げます。

それでは、歳出の主なものから御説明いたしますので２４ページを、タブレットでは９８ページを御覧ください。また、お手元に補正予算の概要資料を用意しておりますので、併せて御覧いただけたらというふうに思っております。

全体を通じて人件費関連費目につきまして、一般職並びに会計年度任用職員の給与条例等の改正や、年度中に変更が生じた諸手当によるものなどを計上しております。

総務費では、財産管理費の積立金として、ふるさと津和野基金積立金１，１００万円を計上、企画費の、１枚めくっていただきまして、地域活性化複合施設整備事業の負担金補助及び交付金としてシルクウェイにちはら内のヤマザキショップの改修に伴いシルクウェイにちはら修繕工事負担金１，５４０万円を計上、情報処理費の、１枚めくっていただきまして、委託料として、マイナンバーカードへのローマ字表記等整備に伴う社会保障・税番号制度システム整備委託料９３３万９，０００円、システムの標準化に伴うシステム改修委託料１４５万２，０００円を計上しています。

定住対策費の負担金補助及び交付金として、空き家バンク登録物件改修補助金の追加に伴い定住支援体制強化補助金２２９万２，０００円を計上しています。

続いて３２ページを、タブレットでは１０２ページを御覧ください。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業費の税務住民課分の委託料として物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し住民税非課税世帯へ追加給付することに伴うシステム改修委託料２５０万３，０００円を計上、負担金補助及び交付金として価格高騰重点支援給付金７，５９５万円を計上しています。

１枚めくっていただきまして、賦課徴収費の委託料として森林環境税の賦課徴収に係るシステム改修委託料１７１万６，０００円を計上、１枚めくっていただきまして、住民基本台帳費の委託料としてマイナンバーシステム導入に伴う改修費として戸籍システム改修業務委託料１７４万９，０００円を計上しています。

１枚めくっていただきまして、民生費では、老人福祉費の負担金補助及び交付金として、吉賀町銀杏寮における訪問介護事業所休止に伴い養護老人ホーム負担金

５４３万2,０００円を計上、障がい者福祉費の負担金補助及び交付金として社会福祉法人つわの清流会の障がい福祉サービス事業の赤字補填に伴いつわの清流会補助金３６３万2,０００円を計上しています。

続いて４６ページを、タブレットでは１０９ページを御覧ください。

生活保護費の扶助費として医療費等扶助費の増加に伴い医療補助８５０万5,０００円を計上しています。

続いて５２ページを、タブレットでは１１２ページを御覧ください。

農林水産費では、農業振興費の負担金補助及び交付金として新規就農者の農業機械の購入助成に伴い農業施設機械等導入及び整備補助金２６２万5,０００円を計上、農地費の委託料として山下の大河原地区のため池廃止測量設計業務の増額に伴いため池廃止測量設計委託料１２１万円を計上、工事請負費として添谷の古井戸地区ため池廃止工事費の減額に伴い３２１万円を減額、負担金補助及び交付金として、１枚めくっていただきまして、中山・長福地区等の事業費が増額となったことに伴い県営農業競争力基盤整備事業負担金1,７５０万円、事業費が減額になったことに伴い県営農地耕作条件改善事業負担金１４０万円を減額、これらの財源として辺地債及び過疎債併せて９２０万円を充当することとしております。補償・補填及び賠償金として山下の大河原地区ため池廃止工事に伴う補償金３００万円を計上しております。

続いて６２ページを、タブレットでは１１７ページを御覧ください。

商工費では、観光費の備品購入費として津和野駅に設置するベンチの購入に伴い庁用器具費３３８万8,０００円を計上しています。

続いて６８ページを、タブレットでは１２０ページを御覧ください。

土木費では、地籍調査事業費の委託料として、堤田地区の地籍調査成果の修正に伴い誤謬訂正委託料２２０万円を計上、１枚めくっていただきまして、道路維持費の委託料として、町道等の修繕に伴い９２４万円を計上しています。

続いて８０ページを、タブレットでは１２６ページを御覧ください。

消防費では、災害対策費の備品購入費としてＪアラート設備機器の故障により機器の更新が必要となったことに伴う機械器具費４００万円を計上しています。

続いて９６ページを、タブレットでは１３４ページを御覧ください。

教育費では、文化財保護の委託料として、多胡家表門保存修理に伴い設計監理業務委託料２３５万４，０００円を計上、工事請負費として多胡家表門保存修理工事費２，６０４万８，０００円を計上しています。

続いて１０４ページを、タブレットでは１３８ページを御覧ください。

津和野城址整備事業費の工事請負費として事業費の確定に伴い４０６万３，０００円を減額、この財源として過疎債１８０万円を減額充当することとしております。伝統的建造物群保存事業費の、１枚めくっていただきまして、委託料として防災施設予定地の用地測量業務等に伴う防災調査業務委託料１９３万３，０００円を計上、西周旧宅保存修理事業費の事業費の確定に伴い工事請負費２１９万円を減額、この財源として過疎債７０万円を減額充当することとしております。

続きまして１１０ページを、タブレットでは１４１ページを御覧ください。

災害復旧費では、現年林道災害復旧費の事業費の確定に伴い工事請負費１，９８８万８，０００円を減額、この財源として農林水産業施設災害復旧債６９０万円を減額充当することとしております。

１枚めくっていただきまして、現年公共土木施設災害復旧費の事業費の確定に伴い工事請負費２１４万４，０００円を減額、この財源としまして公共土木災害復旧債２０万円を減額充当することとしております。

それでは、歳入を御説明申し上げますので１２ページに、タブレットでは９２ページにお戻りください。

地方交付税では、普通交付税１億１，６００万円を計上しております。

分担金及び負担金では、分担金の農業費分担金として事業費の増額に伴い県営農業競争力基盤整備事業分担金７５０万円を計上しております。

国庫支出金では、国庫負担金の民生費国庫負担金として医療扶助費の増加に伴い生活保護費負担金６９９万５，０００円を計上、災害復旧費国庫負担金として事業費の確定に伴い災害復旧費負担金１３９万４，０００円を減額、国庫補助金の総務費国庫補助金として価格高騰重点支援給付金の支給に伴い新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金７，５９５万円を計上、１枚めくっていただきまして、教育費国庫補助金として事業費の確定に伴い津和野城跡石垣修理工事費補助金２４０万円を減額、

西周旧居保存修理事業費補助金１０９万５，０００円をそれぞれ減額しております。

県支出金では、県補助金の総務費県補助金として社会保障・税番号制度システム整備事業補助金７９９万７，０００円を計上、農林水産業費県補助金として山下の大河原地区ため池廃止測量設計業務の増額に伴い農業水路等長寿命化防災減災事業費補助金１００万円を計上、教育費県補助金として多胡家表門保存修理に伴い多湖家表門保存修理事業費補助金１，４２５万円を計上、災害復旧費補助金として、現年林道施設災害復旧費の事業費の確定に伴い災害復旧費補助金１，１０５万円を減額しております。

１枚めくっていただきまして、財産収入では、財産売払収入の物品売払収入として、実績見込みに伴い安野光雅美術館ミュージアムショップ売払収入９５３万３，０００円を計上しております。

寄付金では、総務費寄付金として実績見込みに伴い、ふるさと納税１，４００万円を計上しております。

繰入金では、ふるさとづくり寄附事業費の返礼品調達費及び多湖家表門保存修理に伴うふるさと津和野基金繰入金１，８４７万５，０００円を計上しております。

続いて、町債では、農林業債の辺地対策事業債として中山・長福地区の区画整理及び県営農地耕作条件改善事業の事業費の増額に伴い農林漁業経営近代化施設整備事業６５０万円を計上、過疎対策事業債として、山下地区の区画整理及び堤田地区の県営農地耕作条件改善事業の事業費の増額に伴い農林漁業経営近代化施設整備事業２７０万円を計上、１枚めくっていただきまして、教育債の過疎対策事業債として、西周旧宅保存修理事業費及び津和野城跡整備事業費の事業費の確定に伴い地域文化振興事業２５０万円を減額、災害復旧債の農林水産業施設災害復旧費として、事業費の確定に伴い農林水産業施設災害復旧事業６９０万円を減額しております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　それでは、議案第１４１号令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）について御説明いたします。

歳出より説明いたしますので１０ページを、タブレットでは１５６ページを御覧く

ださい。

総務費の一般管理費、給料６万３，０００円増、職員手当等２０万６，０００円減、共済費２万６，０００円減は、職員の給与条例の改正等によるものであります。

続いて、歳入を御説明いたしますので８ページ、タブレットでは１５５ページを御覧ください。

一般会計繰入金の職員人件費１６万９，０００円減は、歳出の一般管理費で説明した職員の給与条例等の改正によるものであります。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　医療対策課長。

○医療対策課長（清水　浩志君）　それでは、議案第１４２号を御説明いたします。令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）でございます。

１０ページ、タブレットでは１６７ページの歳出を御覧ください。

総務管理費の一般管理費、報酬、給料、職員手当等、共済費の合計２６万６，０００円の増額につきましては、職員の給与条例等の改正によるものでございます。

委託料として、介護報酬改定等に伴うシステム改修費として３３０万円を計上しております。

１ページめくっていただきまして、介護認定調査会費の認定調査費、給料、職員手当等、共済費の合計１３万７，０００円の増額につきましては、職員の給与条例等の改正によるものでございます。

負担金補助及び交付金１９万５，０００円の減額は、益田地区広域市町村圏事務組合への負担金変更に伴うものでございます。

１ページめくっていただきまして、包括的支援事業・任意事業の包括的・継続的ケアマネジメント事業、給料、職員手当等、共済費の合計３４万５，０００円の増額につきましては、職員の給与条例等の改正によるものでございます。

任意事業費の負担金補助及び交付金につきましては、成年後見制度利用支援事業助成金として７９万９，０００円を増額しております。

１ページめくっていただきまして、諸支出金、還付金及び還付加算金の国県支出金等還付金でございます。

令和４年度分の介護予防日常生活支援総合事業交付金の国及び県からの交付金確定に伴う還付金として、１万２，０００円を増額しております。

戻りまして８ページ、タブレットでは１６６ページの歳入を御覧ください。

国庫補助金の包括的支援事業・任意事業交付金５万８，０００円の減額及び県補助金の包括的支援事業・任意事業交付金２万９，０００円の減額は、それぞれ交付決定によるものです。

繰入金、他会計繰入金の一般会計繰入金４７７万５，０００円の増額は、歳出で説明をいたしました事業費の増額によるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　それでは、議案第１４３号を御説明いたします。令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）でございます。

４ページをお開きください。タブレットでは１７８ページを御覧ください。

第２表の地方債補正の変更でございます。２６０万円の増額補正をしております。

なお、詳細につきましては、後ほど事項別明細書の中で御説明いたします。

１２ページの歳出を御覧ください。タブレットは１８４ページでございます。

営業費の業務費でございます。給料、職員手当、共済費につきましては、職員の給与条例の改正等に伴うもので、それぞれ２２万９，０００円を増額しております。

需用費の印刷製本費につきましては、インボイス制度に伴い、口座振替依頼書を８万８，０００円増額しております。

１４ページを御覧ください。タブレットは１８５ページです。

施設整備費の工事請負費でございますが、下水道加入に伴い公共ますの新設または追加工事費用として２６１万１，０００円を増額しております。

戻りまして１０ページ、タブレットは１８３ページの歳入を御覧ください。

分担金及び負担金の下水道事業負担金の受益者負担金でございます。合計２４件の加入により２７１万円の増額をしております。

一般会計繰入金でございますが、先ほど支出で御説明しました業務費の減額と歳入の負担金の雑入の増額により２３８万２，０００円減額しております。

下水道事業債でございますが、２６０万円増額しております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　医療対策課長。

○医療対策課長（清水　浩志君）　議案第１４４号を御説明いたします。令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）でございます。

１２ページ、タブレットでは２０１ページの下段、収益的収入及び支出の支出を御覧ください。

病院事業費用の給与費でございます。給料、職員手当、賞与等引当金繰入額、法定福利費、退職組合負担金の合計１８万２，０００円の減額は、職員の給与条例の改正等によるものでございます。

上段の収入を御覧ください。収益的収入でございます。

病院事業収益、医業外収益の負担金交付金につきましては、先ほど支出で御説明いたしました病院事業費用の減額に伴い、１８万２，０００円を減額しております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　議案第１４５号を御説明いたします。令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）でございます。

２ページ、タブレットなら２０３ページの企業債、第４条を御覧ください。

上水道事業債でございます。４３０万円の減額をしております。詳しくは、後ほど資本的収入及び支出で御説明いたします。

１４ページ、タブレットでは２１５ページの収益的収入及び支出を御覧ください。

下段、収益的支出でございます。営業費用の原水及び浄水費でございます。

人件費でございますが、給料、手当、賞与等引当金繰入額、法定福利費につきましては、職員の給与条例の改正等に伴うものと会計年度任用職員分を合わせまして、合計２７９万４，０００円を増額しております。

光熱水費でございますが、水道施設電気代１９０万円を減額しております。

手数料でございますが、環境保健公社に麓耕地区水質検査の追加により３６万６，０００円増額をしております。

修繕費につきまして、左鐙浄水場浄水濁度計修繕、豊稼ポンプ所加圧ポンプユニットの取替え等６２２万7,０００円を増額しております。

続きまして、配水及び給水費でございます。

人件費でございますが、給料、手当、賞与等引当金繰入額、法定福利費につきましては、職員の給与条例の改正等に伴うもので、合計８４万円増額しております。

修繕費につきましては、水道メーター修繕、須川加圧ポンプの修繕により合計１９１万円増額しております。

次ページを御覧ください。

続きまして、総係費でございます。

人件費でございますが、給料、手当、賞与等引当金繰入額、法定福利費、退職手当組合負担金につきましては、職員の給与条例の改正等に伴うもので、合計８５万４,０００円増額しております。

修繕費につきましては、公用車のオイル交換、タイヤ交換で５万円を増額しております。

１４ページ、タブレットでは２１５ページに戻りまして、上段、収益的収入でございます。

営業収益のその他営業収益の分担金につきましては、麓耕地区加入により２６件分、８５万8,０００円を増額しております。

手数料としまして、給水工事等の検査手数料としまして２万１,０００円を増額しております。

営業外収益の他会計補助金です。一般会計補助金につきまして、先ほど支出で御説明しました営業費用の増額に伴い1,０２６万2,０００円を増額しております。

１８ページ、タブレットでは２１７ページの資本的収入及び支出を御覧ください。

資本的支出でございます。建設改良費の水道施設整備費でございます。

燃料費でございますが、公用車の燃料費を２０万円増額しております。

通信運搬費は、郵券料を２０万円減額しております。

委託料でございますが、事業費組替えにより１５２万4,０００円を計上しております。

工事請負費につきましては、事業費組替えにより１６１万4,０００円を減額しております。

補償費につきましては、麓耕水源地の立木補償として７万円、土地購入費につきましても、麓耕水源地の用地購入により２万円計上しております。

資本的収入でございます。企業債でございますが、４３０万円を減額しております。

工事負担金につきましては、麓耕地区給水工事の負担金として４２０万9,０００円を計上しております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３７．報告第８号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３７、報告第８号津和野町教育ビジョンについて、教育長より報告を求めます。教育長。

○教育長（岩本　要二君）　報告第８号でございますが、津和野町教育ビジョンについて御報告するものでございます。

内容につきましては、教育次長から御報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　それでは、報告第８号津和野町教育ビジョンについて御説明をいたします。

５ページ、タブレットのほうでは２２３ページになりますが、お開きをいただきたいと思います。

まず、計画策定の趣旨でございます。

この計画は、教育基本法第１７条第２項に規定する地方公共団体における教育振興基本計画に位置づけられるものでございます。

町の教育の理念や目標、施策を示し、「協働」による町の教育を推進、小・中学校における教育目標、教育方針、各年度の重点目標などの設定や、特色ある学校づくりを進める上での指針であり、保育所や津和野高校との連携強化の指針となるものでご

ざいます。

また、各公民館・文化施設等にとっては、施設の運営方針や重点目標の設定、各施設間または、学校等との連携を図るとともに文化振興の指針となるものでございます。

計画期間につきましては、令和６年度から令和１０年度までの５年間としております。

計画策定の前提といたしまして、第１期計画を基本とし、学校教育、社会教育、地域文化、文化振興をつないだ学びの協働の発展に重点を置くものとしており、そのイメージ図を、めくっていただいた６ページ、タブレットでは２２４ページのほうに示させていただいております。

７ページ、めくっていただいたタブレット２２５ページのほうに基本構想を掲げております。

基本構想につきましては、計画策定の前提と同様に、第１期計画を基本としているところでございます。

タブレットのほう２２７ページ、紙のほうでは９ページのほうをお開きください。

これまで町で進めてまいりました「０歳児からのひとづくり」事業を教育ビジョンの中核に置くこととし、大人になってからも自ら学び続ける人などを基本施策として明記をしております。

タブレット２３０ページ、紙のほうは１２ページを御覧ください。

この１２ページからは、学校教育、社会教育、文化振興の３つの部門について、それぞれ現状と課題を分析し、前述いたしました基本構想、基本施策を踏まえ、各部門が連携するよう、方向と目標、具体的な取組について記載をしております。

また、第２期計画におきましては、具体的な取組に対して数値目標を設定をしたところでございます。

なお、詳細につきましては、改めてお読み取りをいただきますようにお願いをいたしたいと思います。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　特に質疑があれば、これを許します。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日は、これで散会します。お疲れさまでした。

午前10時56分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和５年　第７回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第２日）

令和５年12月12日（火曜日）

議事日程（第２号）

令和５年12月12日　午前９時00分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　一般質問

出席議員（10名）

１番　道信　俊昭君	２番　大江　　梨君
５番　横山　元志君	６番　沖田　　守君
７番　御手洗　剛君	８番　三浦　英治君
９番　田中海太郎君	10番　寺戸　昌子君
11番　川田　　剛君	12番　草田　吉丸君

欠席議員（１名）

４番　米澤　宏文君

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長　中田　紀子君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	岩本　要二君	税務住民課長 ……	山下　泰三君
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	清水　浩志君
農林課長 ……	小藤　信行君	商工観光課長 ……	堀　　重樹君
環境生活課長 ……	野田　裕一君	建設課長 ……	安村　義夫君
教育次長 ……	山本　博之君	会計管理者 ……	青木早知枝君

―――――――――――――――――――――――――――――――――

午前９時00分開議

○議長（草田　吉丸君）　おはようございます。引き続いてお出かけを頂きましてありがとうございます。

これから２日目の会議を始めたいと思います。

米澤議員より、欠席の届けが出ております。

ただいまの出席議員数は１０名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（草田　吉丸君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、１１番、川田剛議員、１番、道信俊昭議員を指名します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第２．一般質問

○議長（草田　吉丸君）　日程第２、一般質問。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

発言順序１、５番、横山元志議員。

○議員（５番　横山　元志君）　おはようございます。議席番号５番、横山元志でござ

います。通告に従いまして一般質問させていただきます。

冒頭にですが、議長、ちょっと通告とは外れることがあるかもしれませんので、駄目だと思われれば止めていただいて結構なんですが、冒頭に一言お話しさせていただきたいことがありますので、すみません、よろしくお願いします。

先日、我々議員は予算をつけていただいて、研修に行かせていただいたところでありますが、その中の講演で、ハラスメントについてのお話がございました。その中で、私は常々ハラスメントというのは、与えた側がどう考えるかではなく、受けた側がどう思うか。受けた側がこれをハラスメントと思うのであれば、それはハラスメントであるんだと私は思っておったし、この講演を聞いた後でもその考えは変わっておりません。

ところが、自分の心情の中で変わったこととして、自分に置き換えたとき、もしかしたら、町長を含め執行部の皆さんに対して私の言動や何かが、もしかしたら皆さんをそのような気持ちにさせてしまっとるのではないか、というのがひとつ講演の後に気になったところでありまして、ただ、議員と執行部という特殊な関係性の中、ときとしてそれを仕事としてしなければならないというのもあるところではあるんですが、その辺りは私も気をつけてやっていかなければならないと思うところではあるところなんですが、私がおそれることとして、私の真意が曲がって伝わるようなことがあるのであれば、それは不本意である。決して私は皆さんを愚弄してやろうとか、おとしめてやろうとか、そういう気持ちがあるわけではなく、この町を良くしたい思いを持って私はこの場に立たせていただいておりますし、当然、執行部の皆さん方もそのつもりでお仕事に臨まれとるんであろう。

ただ、考え方の違いで、何といいますか、例えばグラウンドで言えば、用意ドンで右に向かって走るか左に向かって走るか、でも結局行きたいゴールは同じ場所にあるんだと私は思うところであります。私の真意というのはそこなんです。やっぱり皆様と同じように、この町を良くしたいつもりでやっとることで、ときに意見が食い違うのはこれもう仕方ない。考え方がそもそも違うし生まれた環境も違うのであれば、それが違うのは当然である。

ただ、違うからこそ、その意見をぶつかり合わせることによって、今後何かいいも

のが生まれていければと思うので、私はとにかく議論していきたいと思います、意見が違ったとしても。議論すれば、お互いの気づかなかった点とかが見えてくるようになるのではないか。そのためにやっぱり議論は必要なんだ、というところで、私のことは嫌でも嫌いでもかまいませんが、どうか議論を深めていただいてほしいので、ひとつ今後ともよろしくお願いします。すみません。

通告の１番目にあります。過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業により整備したキッチンカーについて、質問させていただきます。

先日まで、日原体育館の駐車場に停めてあった食品・料理等移動販売車、いわゆるキッチンカーではございますが、車検が令和３年８月で満了しており、最低でも２年以上この場所に停めてあったと推察することができます。この車両はいつ何課が何のためにどのような財源で購入し、そしてなぜ２年以上もこの場所に停めることになったのか、そしてこの車両で営業するとなった場合、保健所の許可が必要となるとは思うんですが、当時、誰がこの許可を取ったのか、それとも取らないでそのまま使わずにおられたのか、また営業はしなかったのか、そしてまたこの最近、日原体育館の駐車場から動いて、一時町内の自動車整備工場にありましたが、現在はそこにはございません。なぜ移動したのか、現在はどこにあるのか、そしてこの車両について今後どのような計画があるのかお伺いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　皆さん、おはようございます。本日から一般質問でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、５番、横山議員の御質問にお答えをさせていただきます。

過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業により整備したキッチンカーについてでございます。

この車両は、総務省の財源により、日原賑わい創出推進協議会へ補助金として交付した事業であり、令和元年度に過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業の中で、創業支援用のキッチンカーとして車両整備されたものです。

事業開始当初には、地域おこし協力隊の１人が企業支援補助金を活用して、この車両を用いてお茶やコーヒーを提供するとしていましたが、世界的な新型コロナ感染症

が拡大する中、事業を辞めることになり、その後、創業していただける方がいなかったために活用がされなかった状況になりました。

なお、営業許可については、地域おこし協力隊起業支援補助金を活用し、保健所から許可を受けて創業を進めていました。

更に、こういった状況であったため、過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業の趣旨の中で、この車両の目的とした創業支援車両として活用するために、役場や商工会などへ創業支援の相談時には車両を活用した事業を提案してきたところです。

そうした中、活用希望の事業者が現れたことにより、現在は構造変更の申請など稼働に必要な準備を行う過程で、車両を山口市内に移動しております。今後の管理については、事業実施者であるＮＰＯ法人にこはらが行っていくことになります。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ちょっとなかなか分かりにくいなと思うところなんですが、総務省の財源で、賑わい創出推進協議会へ補助金を出されて、そして、その補助金の一部からこの車両の購入に至ったということの理解でよろしいでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　そのような理解で結構でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ということになると、幾らかの財源をこの協議会のほうに交付して、その中の一部から車両を買ったということで、その内訳というのは何となく分かりますか、車両は幾らしたのかとか、例えば、交付した補助金は幾らで、車両は幾らぐらいのものだったのかというのはお分かりになられるでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業の補助金の額でございますが、令和元年につきましては１，９９９万９，０００円でございます。引き続き、２年度の事業にもなりますけど、このとき２，０２６万１，８００円で、合計４，０２６万８００円が事業費となっております。これが補助金で交付した額でございますが、そのうち車両の購入費とした額につきましては２２４万９，４４０円となっております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　それで、創業支援用とされておりますが、ということになると、これは創業したい方が適宜借りるというか、私の記憶では約１名、仮にＳ君としましょうか、Ｓ君が創業支援に使って、その後、ほかの方が借りる予定だったんでしょうか。それともＳ君個人にあてがうためのものだけだったんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業を当時事業の目的としましては、２拠点で事業を展開して、道の駅といったようなところと、日原にぎわい創出拠点の部分なんですけど、複数のところで事業活動をするということで事業の提案を国に対してしているところです。

ですので、複数の方に最初から対応するとか、そういうふうな話ではなくて、やっていただける方をある程度決めさせていただいて、その方が引き続きこの事業の趣旨に沿った運営の方法で行っていただける、そういうふうなことを考えておりました。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ということになりますと、日原にぎわい創出拠点の条例にも規則にも、このキッチンカーのことについては触れられておらないようなんですが、運用していく中で何か規則なり何なりがあったんでしょうか、なかったんでしょうか。それとも、この協議会の中にそういうものがあったんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業の実施主体は協議会のほうになっておりまして、その協議会の中での運営ということでございます。ですので、その中に規則決まりをつくられたかどうかというのは、協議会のほうの内規であるかないかということ、それが文書になっているかないかというところまでは、ちょっと確認ができていないんですけど、創業支援用として協議会の活動の中で利用していくということは、決まっていたというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　それから、今口頭の答弁になるので、答弁書を見ますと、企業支援補助金、これ、企てるの業になっておりますが、これは趣旨から言うと、起こすほうではないかと思うところなんですが、どっちが正しいのかな。それで、要綱なんかは起こす業のほうになっとるんです。これ、どちらが正しいものなんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　大変失礼しました。起こすほうが正しいということでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　そして、コロナ禍で事業を辞めざるを得なくなった。これは仕方ないことだと思いますが、このキッチンカー、移動ができるというものでありまして、私の知っとるところではコロナ禍にキッチンカーを購入して、そして当然自分の持っとるお店は休まなきゃいけないというのがあって、だからキッチンカーを購入して、そして人のいる場所に行って、当然表であるので密にはならない。そこで事業を継続されて、結構それがうまくいって、今となってはそのため用に人を雇って、そういうこともあるんですけど、この方がなぜこの事業を辞めなきゃ、何かだからできることとか探せばきっとあったと思うんですが、それは何かしようとは思わなかったんでしょうか、どうでしょうか。これ、本人じゃなけんにゃ分からないことなんかも知れないですけど、要は補助金等を出されておるし、この方にも起業支援補助金を出されております。

補助金というのは、私が思っとることですよ。出したら終わりというものではなくて、出したら出したで、この方に伴走しなきゃいけない。当然、それこそ企てる業の方であれば、ある程度やってきた人なんで注視するぐらいでええかなと思うんですけど、この方に仮にＳ君とすれば、地域おこし協力隊を卒業しての起業支援補助金を受けたということであれば、今まで商売をしたことがない人であるから補助金が出とるわけであるんですけど、伴走されたのか、それとも出してはみたがそれで終わっとったのか、ちょっとその辺りをお聞きしたいところなんですが。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　すみません。地域おこし協力隊に対して起業支援金の補助を出したということでございます。

この地域おこし協力隊というのは、以前、農林課で雇用していたものになります。その当時はマルシェのほうをやっておりましたので、販売というところでは実績がございます。ただ、そこを卒業して起業支援金でキッチンカーとかを活用して事業を進めていきたいというところで、この補助金を出しております。

農林課としては、その後、支援という相談とかは特にできてはいなかったというところでございますが、今回辞められたというのは、特にイベント等もなくなってキッチンカーの出所が減ってきたというところ。それと、あと店舗のほうも町内の店舗を借りて週末行っていたというところを聞いておりますが、なかなかそれもうまくいっていなかったというところで、今回の事業を断念したというところを聞いているというところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　という話は私もある程度、聞いているところではあるんですが、その中で、やっぱり起業支援しとるわけなんで、大きくなって巣立つまでは、ある程度、伴走なり支援というか相談なりをしていかなければならない。相談がないから放っとった。それはちょっとあんまりじゃないかな。

やっぱりそれは担当課としても支援もしなきゃいけないかもしれないし、当然何か困ったことはないか、うもういっとるか、声かけも必要ではないか。補助金を出しとるんであれば、やっぱりただ出して、失敗して、はい、さよなら、これ前回のときにも同じことを言ったと思うんですけど、それではちょっと出した補助金が無駄になるだけではなく、町としてもそういうものを残し続けるというものはよくないし、補助金を受け取った方に対してもよくない。ただ失敗しただけになる。何が自分に悪かったのか分からないままになってしまう。何かそういう声かけ等々、やれることはあったかなかったかといえばどう思われますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　当時、そうやって起業されて活動されていたという

ことで、ある程度活動はされていたんですけれども、コロナ禍に入って中止せざるを得なかった状況になったというところですが、それまでにこの事業の母体であります協議会のほうと、その支援に当たりました行政、役場、それと商工会のほう、その辺りで全く放っておったというところではなくて、イベントも一緒にやってきた部分がありますんで、その中で相談しながらということでやってきたということでございます。

ですので、最終的に選んだ結論が廃業というところではございましたけど、それまでにはかなりのお話はしてきたというふうなことでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　私も当時民間人として、彼にはいろいろお話を聞いとったところではあります。

ちょっと記憶に鮮明に覚えとるのが、彼が自分のお店が休みだった日だったんでしょう。山口まで行って帰りに事故をして動かなくなったからということで、その車を引き上げに私は行ったことがあるんですが、その車中の中の話で、山口まで何しに行っとったんだという話を聞いたら、「喫茶店の勉強しに行っておりました」自分はそのときに思ったのが、どっか田舎の古民家カフェとか行ったんかなと思って、どこら辺に行ってきたんって聞いたら、「スターバックスに行っていました」「Ｓ君よ、そりゃあ、あそこに行ったって俺らが勉強できることは何もないで、せいぜいあるとすれば今流行っているものは何なんだろう。そのくらいのことは分かるかもしれんけど、そこに行ってもあまり得るものはないで、せいぜいタピオカ飲んで帰ってくるくらいじゃろ」という話をして、「そうなんですよ、タピオカが冬にもやってみたいと思いまして」「いやいやＳ君、あの黒い粒があったかい状態で喉に飛び込んできたら恐ろしゅうてやれんで」というようなお話をしながら、壊れた車を引き上げて津和野まで帰ってきたところではあるんですけど、そういったようなお話は、課長、聞かれたことはございますか。何かそういう思うとることとか考えとることとか聞いたことはございますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　大変申し訳ないんですけど、その当時、私がここの

部署にいなかったということで、その後、そういう類いの話も聞き及んではいないというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　あと、店舗でも、この方、間借りしてやりよったんですけど、その店舗でも私何度となく様子を見に行ったことがあるんですが、コーヒーを頼んで出てきたのがプラスチックの容器に入ったコーヒーでした。そのときにも、自分的には、「Ｓ君よ、これプラスチックのカップ、それは持ち歩くならそれでええかもしれんけど、テイクアウトならそれでええかもしれんけど、お店でちょっとした時間を過ごしたいのであれば、これはちゃんとした器を使うべきだよ。せっかく津和野に来たんだから、津和野らしい何か器にした方が良くね」という話をしたところ、Ｓ君は「いや、何らかの陶器なら陶器を洗うこととプラスチック容器を廃棄すること、経費的にあまり変わらないからこれでいいんだ」というお返事でした。

それでは、せっかく場所が良かったんで、ある程度つないではいけるかなとは思ったんですけど、２巡目はないかもね、このプラスチックの容器を出すようでは。テイクアウトというお客さんならそれでいいと思うんですけど。

あと、お茶にしても、せっかく津和野特有の豆茶を出しちょったんですけど、それも煮出すのではなくティーパックで出されとったんです。それについても、せっかく津和野に来て腰を据えてお茶を飲むというのにもかかわらず、煮出したら美味しいはずの豆茶をティーパックで入れとると。これもちょっとあまりよろしくないな。これ、ちょっと時間いただいてもよろしいですかってお伺いを立てて、煮出す時間ぐらい必要じゃないかという話もしたところなんですけど、そういう相談事とかを役場、商工観光課なり、農林課なりにできたのかできなかったのか、できなかった理由は何なのか。

今となって、それこそ課長はそのとき課長ではなかったと言われれば、前課長だったんだろうなと思うところなんですけど、何か彼が相談できなかったとか、そういうお話ができなかった理由というのは、何か現課長の中であると思われますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　議員おっしゃられることで、コーヒーカップのお話

と、あとお茶のお話です。起業で事業をやっていく上で、非常にどちらも大切なことだろうというふうに思います。こういうお話一つひとつが、ほかの誰かに相談することによりまして、その事業がうまくいく、いかなかったりするということが分かれるようというのは非常に理解できます。

相談できなかったという状況が、ちょっと想像はできないんですが、もし仮にそういう溝が当時あったのであれば、そこはよく考えないといけないというふうに思います。そういう方が町外から入ってこられて、一生懸命事業をやっていくという志の下にやられるというところがありますので、その思いを長く町内で続けていっていただけるように、我々は支援していかなければいけないというふうに考えておりますので、そういうお話がもしあったら、相談にも乗るし支援もしていきたいというふうな気持ちでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　そしたら、地域おこし協力隊起業支援補助金交付要綱の１４条の中で、補助金の返還がうたわれておりますが、この彼について、１年弱、２年やっていないかなと思うところなんですけど、このことは検討されたでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　起業支援金の補助金の返還規定でございますが、当時補助金につきましては、本人が起業しておりまして、その内容、偽りとか不正がないということで返還を求めていないということでございます。

それで、特にうちにも多分相談がなかったのかなと思うんですけど、辞められるときに今後何か支援ができるかというところの助言とかというところができていなかったというところだと思っております。

本人にはできれば残っていただきたいというところがありましたが、なかなかその辺の助成ができていなかったというところと認識しているところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　私もさすがに、この彼にとって補助金を戻せとはなかなか言いにくいし、言うものでもないと思うところなんですが、検討の余地は若干あ

ったのかなと思うところではあります。やっぱり事業を途中で辞められとる。これ３年はやらなきゃいけないという規定があったかな。補助事業者が３年以内に事業を中止する場合は、とありますので、やはりここにははまりはするんではないかと思うところではあります。

ただ、私も先ほど言ったように、じゃから補助金を戻せとはなかなか言いにくいし、言うものでもない。もしそれを言ってしまったのであれば、その後この補助金を取りに行く者が少なくなってしまうし、本来この次の方々に対して非常に良くないと思うので、やっぱり補助金を戻せというのは言うものではない。よっぽどのことがない限り。それこそ何らかの不正があったら別ですけど、それは私も同じ意見です。

あと、保健所の許可についてですが、支援補助金を活用し、保健所から許可を受けてとありますが、これは別に補助金が許可を受けるわけではないんで、この言い方はどうなのか。法人なり個人が許可を受けるはずなんだと思いますが、これは一体誰が許可を取ったんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　答弁書にございます起業支援金を活用して保健所から許可を受けて創業したと記載があります。これは、地域おこし協力隊が申請して許可を受けているものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ということになれば、先ほどからお話に出てきとるＳ君が許可を受けたということで理解でよろしいでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　そのとおりでよろしいでございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　その後、活用希望の事業者、これはにこはらさんになってくるのか、にこはらさんが使うわけでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　このキッチンカーの活用については、にこはらが行

うということでございますが、実際の運営とか具体的な活用については、お店を出して飲食を提供するとかということになりますと、一般の事業者の方にお願いしないと、なかなかＮＰＯ法人の中で人がそれだけさけるかどうかというところもありましたんで、本来ならばそこの中で人材がいらっしゃいまして、その方が運営するというのが一番いい方法かと思うんですけど、それは方法としまして、もしそこで人材がいらっしゃらなければ、一般の事業者の方にお貸しして、この事業を始めた趣旨に沿って運営をしてもらうという、そういう形で考えたというところです。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　活用希望の事業者が現れたと答弁書にはありますが、ということは、にこはらさんが活用するわけではなく、管理はにこはらさんがして、これを活用した運営は、現れた人ということになるんでしょうけど、現れた人というのが今の答弁ではちょっと見えてこない、どういった方になるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　町内の事業者の方になります。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ありがとうございます。

２番目の質問をさせていただきます。

地域拠点づくりとして活用した施設、ハレルヤとオフィスＱ＋についてお伺いします。

当時、場所で言えば、津和野高校の対岸あたりに位置しており、ハレルヤと称して地域おこし協力隊が活動していた施設ではありますが、これは、いつ誰が、何のために、そしてどのような財源を活用し、そしていつから活動しなくなったのかをお伺いします。

そして、現在どのような状態になっており、今後どのようにする計画なのかをお伺いします。

次に、場所で言えば、津和野小学校付近にあり、現在でも時折明かりがついておることもありますが、あまり活用されているようには見受けることができないオフィスＱ＋という施設についてですが、これも、いつ誰が、何のために、どのような財源で

建設し、どのように活用されていたのかをお伺いします。

そして、この施設についても、今後どのような活用の計画があるのかをお伺いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、地域の拠点づくりとして活用した施設、ハレルヤとオフィスＱ＋についてお答えをさせていただきます。

まず、ハレルヤについてでありますが、津和野町森村にて、平成３１年４月、劇場ハレルヤという名称で運営を開始いたしました。この施設は、地域おこし協力隊の派遣元である株式会社ファウンディングベースが、民間住宅を貸借し、地域おこし協力隊の活動費を財源として、町の図書館、映画館、雑貨屋など、芸術に触れられる場所を目指し、当時の地域おこし協力隊を中心に整備されたものであります。整備後は、映画上映やワークショップなどが催され、地域住民や津和野高校生の交流拠点として令和２年度頃まで活用されました。

今後につきましては、当施設の利用計画はなく、賃貸契約は令和５年１２月で満了する予定となっております。また、施設については整備前の状態に復旧していることを確認しております。

次に、オフィスＱ＋についてでありますが、津和野町森村にて、令和３年４月、まちのオフィスＱ＋という名称にて運営を開始しております。この施設は、民間住宅を貸借し、株式会社ファウンディングベースが自社の拠点及びコワーキングスペースとして活用することを目的に整備されました。この整備に当たっては、株式会社ファウンディングベースの企業立地に伴う津和野町ＩＴ企業誘致促進補助金が利用されております。補助対象経費５４８万９,８６１円のうち、２７４万４,０００円を町が補助金として支出しております。なお、補助残につきましては、自己資金とクラウドファンディングで調達した金額となっております。

整備後は、町内外の個人及び法人が仕事をする場として活用しているほか、放課後さんまや津和野高校生も利用するなど、地域の活動拠点として利用されました。令和５年５月から１０月まで、誘致企業である有限会社パスカルが施設を一括で使用しており、更に令和６年２月より同会社が利用する予定でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　町長、ハレルヤについてですが、整備前の状況に復旧しているということなんですが、現状を御覧になられたことはございますでしょうか。私が見たところ、壁や柱にペンキが塗られてあったりして、復旧はかなり困難である。ただ、ペンキを塗ったりすることについては、大家さんも了承されておるところなので、これは民民契約の中なので、それはそれで致し方ないのかなと思うところなんでありますが、地域住民の皆さんの声を聞けば、ちょっと大変奇抜に色を塗られておりますので、景観的にいかがなものかという声があったりもしますが、いかがお考えでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　現在の復旧の状況で、確かに色は残っておると思っています。一応、民民の御契約ということなんで、本人同士は現形復旧ということで確認していますが、ただ、議員おっしゃるように、地域住民の方々が景観的にいかがかというようなお話は、私も今初めてお聞きしましたので、その辺に関しては、今後、それぞれの民間の方々にちょっとそうした御意見もあるということで、お伝えしたいというふうに考えています。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　私の目から見ても、大変奇抜で、周りの雰囲気に、あれが活用されていれば、それはそれで美しいことになるんだろうなと思うんですけど、なかなか活用されていない今となっては、何と言いますか、廃墟よりも悪い状態と見受けることができますので、これは民民の中でそれを了承されておるのであれば、こちらが何かできるとか何か言えるものでもないかもしれんですけど、やはりファウンディングベースさんも、このようなものを残されて去られるよりも、何とかしてくれよというのが私のひとつの意見としてありますので、ちょっとそれを考えていただければと思います。何かありましたら。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

執行部の皆さん、発言されるときはマスクを外されて結構です。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　議員おっしゃるように、奇抜な状況と言わ

れれば確かにそういうふうにも見えますし、特に周辺住民の方々がそれでちょっとやっぱり良くないというようであれば、そのままちゃんとお伝えして、しかるべき対処を取るように、私のほうからも話を申し伝えておきます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ぜひ、その辺りお話ししていただきたいと思います。

あと、このハレルヤについてですが、当時、それこそ仮にＴさんと言いましょうか、Ｔさんが中心になって運営していったと思うんですが、このＴさんが確か令和２年の３月に辞められておると思うんですが、この辞めるに至った経緯は何か分かることがあればお伺いしたいのですが。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　辞めるに至った経緯というのは、私も先ほどの答弁と一緒になりますが、当時担当課長ではございませんでしたのでちょっと分かりませんが、私の認識では任期満了というふうに思っております。確か３年たっていなかったのでしたら、いろいろ事情があったのかもしれませんが、申し訳ございません。その事情というのは、私は今は承知しておりません。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　このＴさんではありますが、ある程度私も聞き取りをしておるんではありますが、ここでの発言はちょっと控えさせてもらいたいと思うところなんですが、ざっくり言うと、あまりいいイメージを持って退職されたわけではないというのをひとつ申し添えさせていただきたいと思います。

Ｑ＋の件についてですが、ＩＴ企業誘致推進補助金が出されておるところですが、既にファウンディングベースさんがここにいない、というのであれば、それこそ先ほども同じような話になるのですが、交付要綱の１１条に返還がうたわれておりますが、それの検討はされておるでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　議員おっしゃるのは、ＩＴ企業誘致の補助金だろうと思うんですけども、あそこ今パスカルにも貸した時期がありますが、基本的にはファウンディングベースさんが使っているという環境になっています。

要綱の中にもあると思うんですけども、常駐を必ずするということになっていないということになっていますので、今の最初の段階では、常駐を目指して段階的に人を増やすということで事業計画を頂いておりますが、今は若干ファウンディングベースさんは常駐という環境にないのは承知しております。

そういうこともあって、パスカルさんを間で入れたという経過もありますが、基本的にはファウンディングベースさんが管理責任を持っておるという認識でございますので、今後補助金の返還までに行くに当たっては、今の令和８年度ぐらいまでの猶予の中で、もしそうしたことが達成できなければ、それは検討しなきゃならないというふうな認識でおります。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　有限会社パスカルさんが来られて、ここで活動してくれるのはものすごくありがたいこと、もう喜ばしいことだと思うところなんですが、ここについて、例えば令和５年５月から１０月については、これは、ファウンディングベースの事業のうちのひとつとして考えられるだろうなと思うところなんですが、この６年２月よりこの会社がここを使用するとなった場合、賃貸契約はパスカルさんと所有者さんの契約になるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　この春からもそうでしたし、令和６年の２月からもそうですけど、契約は、株式会社ファウンディングベースさんと有限会社パスカルさんになります。いわゆる転貸するような形になります。大家さんはいらっしゃって大家さんと賃貸契約を結んだファウンディングベースさんが、今度パスカルさんに転貸するというような形になります。契約上はそうなります。

ただ、ファウンディングベースさんが、あまり活動していないようにも見受けられるという認識だろうと思うんですけども、町長の答弁にもございましたとおり、放課後さんまとか、そうしたことも地域の方々も利活用を実際しています。パスカルさんがあそこに入ると、あそこに活用するということの折衝ごとも町も入ってやっていますが、そのときも、そういった地域の方々が使うことには一緒にやっていこうということで合意をした上で、転貸契約を結んでおりますので、そのことも申し添えさせて

いただきます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　だとしたら、果たしてファウンディングベースの必要性というか、賃貸契約はパスカルさんとそしてこの所有者さんでしたほうがいいんではなかろうか、なぜこのファウンディングベースが間にいなきゃいけないんだろうか、もし放課後さんまや津和野高校生の交流などを考えられるのであれば、別にそれはファウンディングベースがいる必要性をちょっと私は感じないし、かえってややこしくなっとるんではないかと思うところですが、いかがでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　このオフィスＱ＋につきましては、まだファウンディングベースさんの資産ですとか、備品、持ち物等もございます。なので、あくまでも大家さん、貸主さんとファウンディングベースさんとの賃貸契約の期間もございます。それからセキュリティーの問題もあります。そうした中で、今のできる最善策は、ちゃんと今のファウンディングベースさんと大家さんとの賃貸契約。それから、転貸という形が一番望ましいのじゃないかということで、そうさせていただいているところです。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　先ほどから言いましたように、パスカルさんがここに来ていただけるというのは、ものすごく喜ばしいことではあるんですけど、果たして今言ったことが、今の答弁された内容がちょっと私的には納得できない、その必要性を感じないというか、そこを改めて整理したほうが、例えば賃貸契約が残っているとはいえ、賃貸契約途中でも解消はできるものではないかなと思うところではあるし、いかんせんげせんところがあるんですが、そのセキュリティーの問題なんかということもありましたけど、セキュリティーの問題で何が。あと資材が残っている、資材ぐらい出せばいいだろうというところでもあるし、げせない部分があるんですが、その辺りに、例えば、もう一度ファンウディングベースさんからの転貸をする必要性についてちょっとお聞かせ願いますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　契約上はできるできないは、ちょっと正直私も契約書自体は見ていませんので、当然民法が適用されるのか、借地借家法が適用されるのか辺りも含めて、ちょっと確認はしておりませんので、それは申し上げにくいんですが、パスカルさんも一応そうした形でのやり方がいいということでした。

それはなぜかというと、パスカルさんも実際今、人選に入っていまして、今不定期でしかあそこのオフィスに入ることができません。ですから、大家さんと直接賃貸契約を結ぶよりは、今あるファウンディングベースさんがあったほうがいいというのが、パスカルさんの見解でもあったということが背景にあるのが１点。

それから、ファウンディングベースさんの言い分としても、今の放課後さんまですとか、そうした辺りの地域の高校生とかが日常的に活用されるときも、そうした場として開放がしたいという意向があったので、お互い話をした中で、今回のような賃貸から転貸のような形になったということでございます。

なかなか確かに契約上は転貸というと、なかなかこの辺じゃありませんので、ちょっといびつに感じるかもしれませんが、一応その来ていただけるパスカルさんも了承した上で、今のような形のほうがまだやりやすいということで、一応双方が話して、役場も間に入って、一番ベターな方法で、今回のこうした契約に落ち着かせていただいたということで御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ベストではなく現状ベターがこれなんだということで理解せざるを得ないところではあるんですが、今日私の質問全てにおいて、地域おこし協力隊もしくはファウンディングベースが関わっておるものであって、これも冒頭話したように、別に地域おこし協力隊とかファウンディングベースが嫌いだとかそういう思いで私は言っとるわけではない。真意としては、何とかこの地域おこし協力隊なりファウンディングベースなり、ちょっといかがなものかと思うところがありますので、良くなっていただければなと思う心で、私は今日答弁させていただいているところでありますので、その辺りは理解していただいた上で、今日の質問を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、５番、横山元志議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで１０時まで休憩といたします。

午前９時52分休憩

……

午前10時00分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序２、１０番、寺戸昌子議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　議席番号１０番、通告に従いまして２件質問をさせていただきます。

まず最初は、児童生徒の不登校についてです。

全国的に不登校の児童生徒が増えています。文部科学省では、コロナ禍の長期化で生活環境が変化したことや、学校生活での様々な制限で交友関係が築きにくくなったことなどが背景にあると分析しています。また、２０１６年に教育機会確保法で、不登校児童生徒の休養の必要性が認められ、無理して学校に行かせなくてもよいという保護者の意識の変化も理由に挙げられています。学校を休んだことで、心と体をしっかり休められ、その後元気を取り戻し、社会で活躍している人はたくさんいます。１０年前、２０年前とは子ども達を取り巻く環境は大きく変化しています。子ども達は誰もが輝く力を持っています。学校に登校できなくても津和野町に住む一人ひとりの子どもが自分に自信を持ち、自分の持つ才能をより伸ばすことができる義務教育であってほしいと考えています。

以下、児童生徒の不登校について質問します。

津和野町内の現在の不登校児童生徒の現状はいかがでしょうか。

現在の教育委員会の対応状況はいかがでしょうか。

フリースクールは活用されているのでしょうか。

そして、今後の不登校児童生徒に対する支援の方針はどうなっているのでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　それでは、１０番、寺戸議員の御質問にお答えをさせていただきます。

まず、１番目の御質問ですが、町内の不登校児童生徒の状況につきましては、令和４年度末時点で、小学校の割合は全国平均１．７％に対し４．０％と高い割合になっており、中学校は全国平均６．０％に対し５．８％と同じ程度となっております。不登校については、個々のケースにより様々な要因から生じている状況にあります。

続いて、２番目の御質問ですけども、不登校児童生徒に対する対応につきましては、各学校では生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、教育相談コーディネーターなどの教員が中心になり、各学校において組織的な支援・対応を行っています。具体的には、一人ひとり個別のケース会を定期的に開催し、対応の協議を実施し、対象児童生徒の保護者と連絡を取りながら、個々のニーズに合った支援を展開しております。

また、教育委員会としては、毎学期末に不登校の状況調査を実施しております。実態を把握し個々の状況や支援体制について学校に聞き取りを行い、指導・助言を行っております。新たに欠席が続く児童生徒がいる場合には、学校からの連絡を受け、学校と教育委員会で対応を協議しております。

学校と教育委員会との連携としましては、各学校で開催されるケース会へ教育委員会が参加し、様々な視点から助言を行っております。また、必要に応じスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの派遣を行っております。

フリースペースにつきましては、学校に行くことのできない児童生徒が学校以外の場所で、教科学習だけでなく、社会性やコミュニケーション能力など、子ども達が大人になる上で必要な力を身に着ける場と認識しております。

誠に申し訳ございませんが身につけるのを「着ける」という字が誤っておりましたので、平仮名の「つ」に訂正をさせていただきたいと思います。誠に申し訳ございませんでした。

現在、ＮＰＯ法人さぶみのに対し、左鐙コミュニティセンターフリースクール運営業務を委託し、週２回火曜日と木曜日でありますけども、開所を行っています。また、町では、おむすびを毎週水曜日に開催しております。このほか、他機関等によるフリースペースも開所されております。それぞれのフリースペースに児童生徒が来所している状況にあります。

続いて、３番目の御質問ですが、不登校の児童生徒への個々の対応は、個々のケースに合わせて、組織的に丁寧に一人ひとりに寄り添って対応することが重要と考えており、これまでと同様に学校と教育委員会と連携し、必要に応じて支援機関へのつなぎ、スクールソーシャルワーカー等の派遣を実施してまいります。併せて、島根県教育委員会が行う各種の研修への積極的な参加を促し、教員の研修機会の確保に努めてまいります。

また、全ての児童生徒の発達を支える働きかけを重視してまいります。日頃からの声かけや対話などの働きかけを大切にするとともに、アンケート、教育相談の活用によって、個々が抱える悩みや困り事など、不安の芽が小さいうちに把握、対応してまいりたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　不登校の児童が増えている中で、全国的には不登校になっている児童に対して支援がまるで行き届いていないということだそうです。不登校になられた子どもさんの４割ぐらいまで手が届いていない、何の支援も届いていないというのが、全国の現状だそうです。

その中で、津和野町ではかなり子どもが少ないからということもあるとは思うのですが、かなりいろいろ個別に対応されているということで、少し安心はしているんですけど、フリースクールとフリースペースの違いがよく分からないけど、多分同じようなものかなと思っています。フリースペースという今お答えがあったので、フリースペースというところで登校のできない子の居場所づくりが行われているということなんですが、聞いてもいいものか、もしだめだったらいいんですけど、何か所ぐらいあるのか。

それから、民間でもそういうことをされているというので、今お答えの中では表面的なものは分かるのですけど、中身がこんなことをしているとか、子どもはこういうことでこのフリースペースに来ることで安心ができているとかいう具体例がありましたら、お聞かせいただけたらと思います。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　町内におけますフリースペースでございますけれども、

答弁をいたしましたＮＰＯ法人さぶみのさん、それから町の教育委員会のＳＳＷが活動として行っておりますおむすび、あと民間のほうでやっております月曜フリースペース、それから、つなぐというこれは社会福祉法人清流会のほうが実施されているものでございます。それと、益田市におきまして、ふれあい学級子ども若者支援センターというのがありますので、そういったところとも連携ということをしながら活動をしております。

主に町内のフリースペースのほうでは、子ども達の自主性といったところを尊重しながらやりたいこと、それから、そうした中で社会性やコミュニケーション能力をつけられるような活動をしていただいているというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　主には民間も含めて４か所町内にはあるということで、かなりたくさん、たくさんといったらあれなんですけど、選ぶというか、子どもにとって行く場所が４か所町内にあるというのはすごいいいことだなと思います。ここはちょっと駄目だけど、こっちなら行ける気がするとか、そういうことがあると思うので、４か所あるというのはいいなと思うんですが、教育委員会が関わりながらされているフリースペースは、さぶみさんとおむすびさんというところがあるんですけど、その民間のフリースペースさんとはどういう関わりを持っておられるんでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　民間のフリースペースさんのほうについても、学校のほうでそういった必要性というか、個々の児童生徒さんのケースに応じて、その関係性の中で、こういった民間のフリースペースさんでの活動ということも、紹介をさせていただいております。そういったところに子どもさんが参加の意向を示せば、そういったところの御紹介もさせていただいております。

また、これは学校教育ではありませんけれども、社会教育係のほうとしても、そういったフリースペースとの関係性も持ちながら、いろいろなそういった子どもの居場所づくりということにも取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　その活動がどのように行われているか、中身を聞かせてもらうことはできますか。もし聞かせてもらうことができれば、教えていただきたいんですが、具体的に子ども達が自主的に何かをしたいと提案して、フリースペースにおられる方がそれを補助して何かをしていくという、何かちょっとぼやっとしたものしか分からないので、もし中身が分かれば教えていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　活動の中身につきましては、例えばフリースペース、さぶみのにおきましては、いろいろな遊びを通した中での学びをつかんでもらうような活動であったりとか、あと民間のほうでやっておられます月曜フリースペースというところでは、これは地元の地域の有志の方が活動されているものでありますけれども、食べ物を調理をしたりとかというような活動をして、あるもんで食堂というようなことも開催をしたりして、そういった活動を通した中での、体験での学びをされているというふうに認識をしております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　フリースペースというものが町内にあるということを知っておられる方って少ないかなと、私自身も具体的に今教えていただいて４か所あるんだということで、結構あるんだなと思いました。そういうものが今言われたみたいにご飯を一緒に作ったりするというのも、すごく心を育てるのにも役に立つし、自分自身の経験としてもすごく子どもにとってはいいことだと思います。地域の方と触れ合いながらということも、すごくいいことだと思います。そういうところがあるということをしっかり宣伝というか、そういうつなぐためのこと、そのフリースペースと子ども・保護者の方をつなぐということは、どういうふうにされているのか教えていただけたら。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　今のフリースペースと子ども達をつなぐということにつきましては、やっぱり答弁でもありましたように、不登校に至る背景というものは個々に応じて異なっているというふうに認識をしております。

そうした学校現場の中で、そういった児童生徒さんのほうとの関わりの中で、それ

から町のＳＳＷであったり、それからこのたび公認心理士を採用していただいておりますけれども、そういったところが連携をしてチームとして活用していく中で、対象となる子どもさんがどういったものを必要としているかということに応じて、今のフリースペースのつなぎであったりとかということを行っておりますので、そういったところで関係性をつくってやっていっているということで、御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　一人ひとり子ども達のことをいろいろ協議するというか、情報交換したり話合いをするケース会、そこでの話合いというかその内容がすごく大事になってくるのかなと今のお話を聞いて伺いました。

全国平均で小学校の不登校の割合が１．７％なのに対して、津和野町では４．０％ということで、ちょっと数字だけ見ると大きいんですけど、本当に先ほど言われたみたいに、子どもにとって学校に行くことができない、学校に行きたくないという理由は本当に様々で、なかなか無理やり引っ張り出すということはしないという今現在なっているところで、４％ということは、全然私としては気にしないというか、反対に不登校になっていてもこの町にいれば安心して義務教育を受けていけるんだというそういうことがあるのかなと思って、この数字は聞かせていただきました。

ですから今、一人ひとり本当に丁寧にされているということを今お伺いしたので、これから民間でされている支援とかにも、教育委員会も多分いろんな課題があると思います、民間でされると。そういうところも支援をしていっていただきたいんですが、そういう考えはないでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　今の不登校の割合につきましては、議員さんのほうも特に気にする数字ではないというお言葉を頂きましたけれども、当町にとって、やっぱり今の児童生徒数が減少してきている中で、分母数が少ないという中で、一人が実際不登校になると、割合がグンと跳ね上がる実態がありますので、そういったところで御認識を頂ければと思います。

ただ、逆にそういった児童生徒の数が少ないというところの中反面、個々に丁寧に

対応ができている状況があるということで、御理解を頂けているのかなと今考えておりますがというところでございます。

民間でのフリースペースとの関わりにつきましては、先ほども申し上げましたが、今社会教育係のほうもそういった子ども達の居場所づくりということにも取り組んでおりますので、そういった中での関わりを今後も継続していきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　ぜひしっかり関わっていただいて、指導するとかそういうのではなく、課題とか何か問題が起きたときに手助けできる教育委員会であっていただきたいと思います。

それで、不登校になってしまうとマイナスのイメージがかなり今もあります。今もというか昔からずっと不登校になってしまったとか、近所の子が学校行けていないよねとか、すごく周りの地域の捉え方がまだまだついていってない、法律はできたけどゆっくり休んで復活して学校行って社会人になってという方は山ほどおられる中で、地域の捉え方ももう少し進化というか、暖かく見守れる地域をつくっていかなくちゃいけないなという思いもあります。

こういうフリースペースとか、そういうのがあるというのも、地域の皆さんに知らせていくというのはできないでしょうか。そうしたら何かいけないことでもあれば駄目なんですが、地域の皆さんにこういうところもあるんだよ、子ども達は学校に絶対行かなきゃいけないんじゃなくて、こういうところで心休めて、また学校に復活もできるんだよというのを知らせるようなことはどうでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　確かに不登校に対するマイナスイメージというところがあるかもしれませんけれども、教育委員会といたしましては、議員さん今おっしゃられましたとおり、そういったいろんな事情がある中で、学校に行けない子どもさんに対する息をつける場所とかという意味でのフリースペースというのは、必要であるというふうに認識をしております。

当然、現在、学校現場のほうでも無理に学校に行かせるということは当然ありませ

んので、そういったところの個々の事情に応じた中でその対応というのはさせていただいているところでございます。

フリースペースを地域の住民の方への周知ということでもありますが、特に教育委員会としては、そういったことは今ちょっと考えておりません。子ども達にとって個々に必要なつなぎを使っていくということを、特に我々のほうは重視していきたいというふうに考えています。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　ちょっと広報とかそういうのは、そぐわないものかなというのは私も思います。個々の本当に必要としている子ども達や保護者、先生は御存じだと思うんですけど、教育現場の方々、そういう方々にしっかりつなげられるように教育委員会がやっていただけたらと思います。よろしくお願いします。

それで、フリースペースに行けない子というのが、今現在おられるかもしれないし、これから先出てくるかもしれないんですけど、そういう場合はどのように対処されるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　ちょっと想定の話になろうかと思いますけれども、そういった子どもさんがもしおられた場合というか、できるだけそうなる前に早い内からチームとして、そういった関わりを持っていってやっていきたいという認識を持っておりますけれども、仮にそういう状況に陥ったとしても、それはその状況、それからそういった背景とかを丁寧に分析していきながら対応していって、そのときに必要な対応をとっていきたいと、無理にフリースクールに行かせるとかということは、またもともとの不登校に陥った原因と同じような形になってしまいますので、そうではなくて、個々にあった対応方法というのを、そのときそのときに応じて検討していきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　チームでいろいろと一人の子どものことを考えて支援をされていくということで、やっぱり子どもが少ないからこそできる津和野町だと思います。子どもが少ないもっとたくさんいてほしいという思いはありますけど、今

現在少ないということを利点にして、こうやって一人ひとりを大事にしていけるこの津和野町、それをどんどん教育の面で生かしていただけたらと思います。

もう一つお聞きしたいのが、教育機会確保法というのが２０１９年にできましたが、それができたことによって何か津和野町が変わったことがもしあれば教えていただけたらと思います。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　今の教育機会確保法ができてから変わったというところは特にはないと思いますけれども、それまでもそういった個々の対応というのはさせていただいてきたかと思います。ただ、この法律が制定されたことによって、よりそういった意識を強めて今取り組んでいるというふうに私達のほうは考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　以前から、この法律ができる前から津和野町はしっかりやってきたということかなと、今お答えを聞いて思っています。不登校になられる子ども達の理由って本当に様々だと聞いています。先ほどもちょっと自分は学校は行きたくないけど部活には行ってたんだというお話を聞いたりとかしています。その不登校になったから、負になっていくんじゃなく、それをプラスに向けてでも行けるような津和野町になっていっていただきたいと思います。子ども達の学びに伴走していける、一人ひとりに伴走していける町だな、教育委員会だなというのをあまり褒めすぎちゃいけませんけど、すごい一人ずつに対応できる津和野町だなというのを思っています。

地域がまだ不登校ということに関しては意識が追いついていないのでその辺が心配かなというところもあります。これから地域で私自身もいろいろお話をしていかなくてはなと思います。皆さんで教育委員会、地域、学校、みんなで力を合わせながら、個性を持つからこそ輝く子ども達だと思いますので、個性があればあるほど不登校になったりすることもあるのかもしれません。そこを伸ばしていける津和野町になっていただきたい。一緒に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

では、次の質問に入ります。

ごみの現状と課題についてです。

毎日の生活からごみは必ず出てきます。高度経済成長時のつくる、増やす、捨てるという習慣によって、私達が出すごみは膨大な量になっています。一昔前に比べると本当とんでもない量になっています。私達が毎日の生活から出すごみは、分別されて最終的には処理できなくなったものだけが、最終処分場で埋め立てられています。しかし、最終処分場も永久に埋め立てをできるわけではなく限りがあります。まずは、ごみを減らしていく努力をしていく、それから一人ひとりが家庭から出たごみを分別したり、リユースしたり、リサイクルしたりと、少しでもごみを減らす努力が必要だと考えます。

ごみ処理問題は地球環境を考える上でも、津和野町の将来を考える上でも、とても大事な問題だと思います。津和野町では、ケーブルテレビでごみ分別の動画を流したり、ごみの分け方、出し方の手引書を各戸配布したり、家庭でのごみ処理、ごみの処理方法の周知に努力をされています。しかし、日々の生活の中では多くの課題にぶつかります。プラスチックの包装容器だけど汚れているから可燃ごみでよいんだろうかとか、何に分別するのか分からないとか、粗大ごみより大きなごみをどうやって出したらよいのか分からないなどの声を聞きます。

以下、ごみについて質問いたします。

包装容器プラスチックについてです。

できるだけ環境に優しく、税金を使わなくても済むように、再利用できるように、役に立つようにという気持ちで出される町民は多くおられます。収集された後、不燃物処理場で手作業で包装容器プラスチックは分別されていると聞きます。現場も見せていただきました。その中で課題がかなりあると、もっと改善してほしいという声を聞きますが、どのような課題があるのでしょうか。

ペットボトルを別の袋に入れて出せば、ペットボトルだけその場で分別する手間が省けるので、ペットボトルだけ分別して袋に入れて収集してもらうということはできないのでしょうか。

次が、大型ごみについてです。

乗用車に乗せて吉賀の不燃物処理場に持っていくことができればいいんですけど、なかなかそれができない場合、どのようにごみは出したらよいのでしょうか。

次は、資源ごみ。

資源ごみは、推進団体の方がいろいろ管理をしてくださっているんですけど、資源ごみ回収活動の仕組みはどのようになっているのでしょうか。

それから、ごみの分け方・出し方の冊子を出されていますが、これリニューアルされるということだったんですが、いつリニューアルがされるのでしょうか。その機会に、ごみの出し方について、しっかり町民の皆さんに知っていただいて、リユースとかリサイクルとかしやすいようにするために、自治会や公民館単位で説明会を行ってはいかがでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、ごみ処理の現状と課題についてお答えさせていただきます。

まず、容器包装プラスチックについてでありますが、不燃物の処理については、吉賀町にあります鹿足郡リサイクルプラザで処理を行っております。異物混入の事例といたしましては、商品プラスチックの中に農薬瓶の混入や医療用の注射針が混入していた事例があり、鹿足郡リサイクルプラザから収集分別時にかなり苦労したことがあったと聞いております。これらの作業は、全て作業員の手作業による分別作業により行われており、作業事故防止の観点からも、いま一度分別の徹底をお願いしたことから、テロップ放送や広報などでも注意喚起を行っており、御協力をお願いしたいと思っております。

ペットボトル単体での袋としては、今のところ容器包装プラスチック袋しか町としては持ち合わせておりませんので、しばらくはこのままでお願いしたいと思います。

次に、大型ごみでございますが、基本直接搬入により施設へ持っていくこととなっております。乗用車に乗らないときは、数回に分けるか、軽トラックなどを借りて搬入していただきたいと思います。

次に、資源ごみでございますが、再資源化推進団体としては、いわゆる地域婦人会や自治会など合わせて１６団体がございます。主に、新聞紙、段ボール、雑誌類、古布やアルミ缶などを団体管理集積ステーションに集め、日原地区は２月に１回、津和野地区は１月に３回収集日を定めております。その後、委託業者による回収により益

田のリサイクル業者へ持っていき、引き取ってもらっております。各団体への支払いは、日原地区は年３回、津和野地区は年４回となっております。

ごみの分け方・出し方の手引書の改定は、発行から五、六年を目安に改定を考えております。発行後、内容に大きな変更点があった場合は、広報、嘱託文書、ホームページ等で随時周知を行っております。今後の改定予定といたしましては、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律が令和４年４月１日より施行となっており、容器包装プラスチック以外のプラスチック製品についても、リサイクルを行う予定としております。以前、令和４年度中には改定予定と回答しましたが、現在、益田市、吉賀町との協議により進めておりますので、もう少しお待ちください。また、リニューアル改定の際には、説明会等も視野に入れて検討していきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　御回答の中で、商品プラスチックの中に農薬瓶が入っていたり医療用の注射針が混入していたりということで、これはとても危ないなと思います。人の手で一つずつこれは違うとか、ベルトコンベアの中で流れていく商品プラスチックの中からそれを見つけて引っ張り出すわけですから、その注射針を取り除く際に、もしも作業員の方の手に刺さったりとかいうことがあったら、本当に大変なことで健康の害になってもおかしくないぐらいです、医療用の針が刺さったりすると。そういうことを防止していかなくては、私達住民自体が意識してそういうことを防止しなくてはいけないと思います。

包装容器プラスチックもかなり汚れたものが混入しているということも聞きましたが、その辺は本当なんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　以前に比べると、かなり容器包装も一度家庭で洗って乾かして出すというところも多いんですけど、いまだに少しではあるんですけど、そういうふうな洗いもせずにそのまま出したりとか、汚したまま出すとか、あとちょっと面倒くさいということで、可燃ごみの中に入れて出してしまうとかというのも事例としてはあります。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　洗って乾かして入れるということは分かっていながら、面倒くさいと今言われましたけど、大量に集会なんかでお弁当箱とかが出たりした場合は、洗えないよねって言って、いいんじゃないという感覚に、それはいいんじゃないかという感覚も町民の中には失礼かな、私が聞いた中ではそういうことも聞いています。本当、汚れたものがリサイクルプラザに行くとどうなるかということもお伺いしてもよろしいですか。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　それこそ汚れたものがそのままリサイクルプラザに行くと、多分、洗浄まではいちいちリサイクルプラザでは行わないとは思うんですけど、それがそのままそれこそ可燃ごみのほうに移ったりする可能性もあるかもしれませんが、それが例えば膨大な量になってきたら、多分手洗いをずっと全部リサイクルプラザさんがやるとは思えないんですけど、あまりにもひどいものはどうしとるかというところが、うちもまだそこのところを把握はしていません。これは本当に一人ひとりの個々がひとつ弁当箱洗って出せば済む問題ではあるんですけど、そこのところは個々のほうで気をつけてもらえれば一番助かります。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　汚れたものがたくさん包装容器プラスチックの中に入ってしまうと、リサイクルが不可能になってくるということになります。せっかくリサイクルするつもりでその袋に入れたのに、その御本人はこれがリサイクルされるだろうと思って入れたけど、リサイクルできなくなってしまう。そういうことも起きかねないので、やっぱり本当は袋に入れる前にきれいに洗って干すんだよということを、いま一度徹底していただかなくてはいけないなと思います。

ごみの分け方・出し方の冊子が、そろそろリニューアルかと思って、各戸で一緒にこれをリニューアルされたときに、一緒にもう１回ごみの分別についてお話ししますねということになると、ちょっとうまいこといくかなと思ったんですけど、それがまだ先になるということなので、ぜひもっと早くこれがリニューアルされる前に、町民にもう一度徹底していただけたらと思います。

昔々ごみの袋が有料化されるときには、自治会ごとに本当に丁寧なお話を頂きまし

て、私はまだただの主婦で、ごみの分別を家で一生懸命やるほうになっていたんですが、その熱意というか、リサイクルということをしていくんだ、うちの町はというごみを燃やすだけじゃないんだというその意気込みをすごく感じました。そういうことをしっかりやっていただけたらなと思います。早くしてもらうということはどうでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　リニューアルの話ではあるんですけど、商品プラスチック、黄色いごみ袋、あれは今まで普通にリサイクルではなしに捨てていたもの、その中も多分採別すると半分ぐらいはリサイクルができるものではないだろうかということで、商品プラスチックの袋も今現在は黄色なんですけど、これをまた２つか、更に３つぐらいに分別するような感じに多分なると思います。リサイクルできるものを今までとおりに捨ててしまう、焼却するものというふうに分けられるとは思うんですけど、これを今、益田市と吉賀町と今うちで、３つでこの話をずっと進めていっている状態です。令和４年の４月１日からこの法律というものは改正されて、うちもかなり早く４年度中にぐらいには、こういう答えが出るのではないかなと思っていたんですけど、今もう既に５年も終わりかけていますが、そこのところが３つとうまいことまだ話が進んでいないというのが、今のところの現状です。ただ、だからといって遅らせるわけにもいかないので、なるべく早く進めていけたらと思っております。もうしばらくちょっとお待ちください。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　ぜひぜひ早くにしていただけたらと思います。

それと、容器包装プラスチックの中にペットボトルを入れるんですけど、あれもリサイクルプラザでベルトコンベアで流れている中で、ペットボトルだけ取り出してペットボトル専用の梱包をするということをお聞きしました。せっかくペットボトルだけは結構なお金になるそうなんで、お金になると言っちゃうなんですが、リサイクルしやすいものなので、それだけを別個に集めるということができないかと思って提案させていただきました。袋を新しく作るというとまた大変なので、益田市では透明なものなら透明なもの半透明なものの袋なら入れて出していいよ、ペットボトルだけ別

個に入れて出していいよということになっています。町が準備するのではなく、透明な袋なら大丈夫とか、そういうペットボトルだけという分別ができたらすごくいいなと思うんですが、いかがでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　確かにその案は結構いい感じがします。僕が今考えていたのは、ピンクの袋ですけど、普通にペットボトル以外のものは今までどおりにピンクに捨ててもらって、ペットボトルはどうしても結構かさばるんで、何ぼぐちゃぐちゃっとしても、なかなか容積的に広がってしまうものがあるんで、もしあれだったらペットボトルのピンクの袋にペットボトルだけ入れてどんどんためていく。こっち側の容器のほうには、容器包装のそれこそ発泡スチロールとか、普通のポリ袋、ラップとかは今までどおりでこっち捨てて、２つで並行していったらどうかなとちょっと今考えていましたけども、さっきの透明の袋ならば、ペットボトルだけならいいですよというようなことができれば、多分かなりいい方向に進んでいくんじゃないかなと、確かに透明だし、その透明の大きい袋どうするんかというのも、まだちょっとあれはするんですけど、家庭で用意できるものがそういうのがあれば、そういうものを捨てても多分いいようにという、ちょっと考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　前向きなお話いただいたので、ぜひよろしくお願いします。

　次に、大型ごみのことなんですけど、乗用車に乗らないような大型ごみは結構あります。それから、空き家になるとき、遺族の方が少しでも整理したいと思うけど、どうやって処理していいか分からないとかいう声も聞きます。その大型ごみ、乗用車にどうしても乗らないというときは、何かほかに方法はないんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　大型ごみの件ですけど、確かに物理的に乗用車に絶対乗らないというようなものもあるし、何回も何回も持っていかなきゃいけないという大型ごみも多分あると思います。結構いいのは、近所の方で、例えば気のいい方が

いまして、軽トラに乗せてあげますよというのがあれば、それは結構ベストではあるかもしれませんが、どうしてもそういう手もないし、周りにもひとりも助けてくれるものがいないということがあれば、シルバー人材センターのほうにでも一報いただけたらと思います。

あと、相談的には、うちのほうにまたそれこそ一報電話もらえてどうしたらいいのかと言ったら、うちのほうでもアドバイスをいろいろしたいと思っております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　環境生活課のほうに相談すれば、何か方法があるということですね。よろしくお願いします。

空き家になる前、空き家になるときに処分、頑張ってしようと思ってできなかったら、そこから先なかなかエネルギーが湧いてこないので、本当、じゃんじゃん電話がかかったら申し訳ないですけど、環境生活課のほうでいろいろ対処していただけたらと思います。よろしくお願いします。

それから、資源ごみのことなんですけど、推進団体の方が頑張って地域での集積、集めることはしていただいていますが、それの流れがちょっとよく分かっていなくて、お金の流れです、お金の流れがよく分かっていなくて、回収の事業者さんが取りに来られて、処理できる会社に持っていかれるということなんですが、イズミなんかに段ボールを持っていくとポイントがもらえたり、そういうこともあったり、どうすることが津和野町にとって一番いいことなのかなというのをすごく悩むところなんですが、推進団体さんが頑張ってやっておられるから、やっぱり町に出して町で回収してもらうのがベストなのかなと私は考えていたんですが、なんか分からなくなったので、町民としてはどうするのが町のためになるのかなとすごく悩みます。

変な質問になってしまいますが、どうするのが一番いいんでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　環境生活課長。

○環境生活課長（野田　裕一君）　確かに、資源ごみ、細かく破いてしまえば多分可燃ごみとしても捨てられると思います。その量にもよりますけど、ある程度のものなら、段ボールでも細かく切って可燃ごみに入れてしまえば、可燃ごみとしては処理ができるかもしれないですけれども、それこそ今地球温暖化というようなこともあって、物

を燃やすときの排出のエネルギーがというようなことがあれば、それはそれでリサイクルというか資源ごみになるものに関しては、できるだけやっぱり自分達で分別して、新聞紙、段ボール、古布とかというのは、まとめて資源ごみとして出してもらったほうが、うちとしては推進します。

やっぱり資源ごみ団体さん、婦人会さんがほとんどではあるんですけど、活動歴にしたら結構長いので、やっぱりこれ積み重ねてきたものをこれからも継続するという意味で推進していけたら、町のほうではありがたいかなとは思っております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　町民としてはきちんと分別をして、きちんと回収ができるように地域の集積場に持っていくということですね。ありがとうございます。

ごみということで、何だごみのことかって昔は思われていました。ごみのことぐらい、そんな議会で質問することはないよなんてことも、昔なら飛んできていたと思います。ところが今もごみというのは本当、とっても大事な問題で、地球を滅ぼすかというぐらいのことになってきています。津和野町にとって、ごみの処理がうまく回っていくというのは、津和野町のCO_2排出の関係にも関わってきますし、ごみがきちんと処理されている町民も、意識が高いよという町になっていけばなと思います。

もう一つ提案なんですが、収集袋を新しく、今在庫があるからすぐにリニューアルはできないと思いますが、もしリニューアルされるときに、中身を使い切るとか、洗って乾かすとか小袋に入れないというのを、分かりやすく上のほうにどーんと書いていただくと助かります。今確かうちの袋には、下のほうにちっちゃく書いてあると思うので、ちょっとお年寄りにも分かりやすく、でっかく書いていただけたらと思います。

では、説明会が早く行われるように願いまして、以上で、寺戸の質問を終わらせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、１０番、寺戸昌子議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで１１時５分まで休憩といたします。

午前10時53分休憩

……

午前11時05分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序３、２番、大江梨議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　議席番号２番、大江です。よろしくお願いします。

今回は大きく３項目について質問をしたいと思います。

この秋は町内各地、いろんなイベントとか行事とか戻ってきまして非常ににぎわいがあったかなと感じています。日本全体でも１０月はインバウンドですとか、行楽シーズンの国内旅行というのが大変好調だったそうで、各地の観光産業は非常に良い流れで、景気全体の押し上げ要因になっているというようなニュースも見かけまして、観光産業全体としては良い流れにあるのかなというふうに思うところなんですが、津和野町について、今回は現状ですとか今後の見通しについてというところでお伺いをしていきたいと思います。

１つ目が、地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業というものについてです。

この事業は、観光庁が行っている事業でして、コロナによる観光地への影響、また従来からの流れであるライフスタイルや価値観の変化による新たな観光ニーズという状況に対して、コロナ後に地域が一体となって、これまで以上の価値を来られた方へ提供するための取組を支援する事業になっています。具体的には、宿泊施設を改修するであったり、観光地魅力向上のための廃屋を撤去する、カフェやお土産物屋さんといったような観光関連施設の改修といったようなものが、主な取組メニューになっていまして、そういったことを行う事業者に対して補助を行っていくというものです。

津和野町は令和４年度にこの事業にエントリーをしていまして、全国３１２地域から申請があったそうですが、その中で審査を経て１３２地域のひとつとして採択をされています。令和５年度においても継続してエントリーを行いまして、採択を受けているところです。

そういった事業を活用したことによって、街中でもいろいろ改修工事ですとかが行われているので、町民の皆さんの注目期待も高い事業であるかなというふうに感じて

おりまして、次のことについてお尋ねをいたします。

この事業は、国からの補助に加えて、島根県と津和野町が独自に補助を加えることで、事業者は少ない負担で事業実施ができるという認識でありますが、補助金額の詳細についてお尋ねをします。

２つ目、この事業の特徴は、事業者が単独で行うという事業ではなくて、地域一体となった取組を支援するというところが支援の対象となっている点であると認識をしていますが、どのように地域一体を達成するかを示した地域計画というものが策定をされています。津和野町における地域計画の特徴についてお尋ねをします。

３つ目、令和４年度と５年度の事業の実施状況についてお尋ねをします。

４つ目、この事業を通じて見えた津和野町の課題は何でしょうか。

そして最後に、今後の起業ですとか事業拡大に対して、町としてはどのような支援を考えておられますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、２番、大江議員の御質問にお答えをさせていただきます。

地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業についてでございます。

まず、令和４年度の総事業費は３億９，８０５万１，０６８円、それに対する国の補助額が１億９，６２７万５，６５０円、県・町の補助額で１億３，０８４万５，０００円、事業者の方の自己負担額が７，０９３万４１８円となっております。

令和５年度の事業では、町内全体の総事業費で４億６，０４０万２，３００円、それに対する国の補助額が２億３，０２０万１，１５０円、県・町の補助額で６，６３７万８，０００円、事業者の方の自己負担額が１億６，３８２万３，１５０円となる見込みです。

本事業では、個別事業に対して国が５０％、島根県と津和野町で２８％を補助し、各事業者は２２％の自己負担の割合となっております。ただし、津和野町外に本社を置く事業者に対しては、補助割合を約１８％としております。更に、国が定める３つの事業区分に応じて、島根県と津和野町の補助額について補助上限額を設けておりま

す。具体的な補助上限額は、宿泊施設の改修では１，４００万円、観光施設の改修では８００万円、廃屋の撤去では１，４００万円となっております。

次に、津和野町の計画の特徴は、まず、町の歴史的背景に調和した景観に配慮すること。２つ目として、持続可能な観光づくりを目指し、地元食材や地元資源を積極的に活用することの２点を盛り込み全体計画を策定しております。計画の作成に当たっては、本年１月から全体説明会を延べ３回開催し、計画採択に向けた国の伴走支援チームによる町内全体会議、計画書に対する改善提案を延べ２回受けながら策定をしております。

３つ目の御質問ですが、令和４年度は、宿泊施設の改修６件、観光施設の改修５件、廃屋の撤去１件が、総額３億９，８０５万１，０６８円で実施されております。業種内訳は、宿泊業が６件、製造業１件、小売業が１件、飲食サービス業２件、金融業が１件、生活関連サービス１件となっており、新規開業３件、他分野への進出が４件、既存事業が５件となっております。

令和５年度は、宿泊施設の改修５件、観光施設の改修７件、廃屋の撤去３件が、総額４億６，０４０万２，３００円で実施されております。業種内訳は、宿泊業が９件、小売業が１件、飲食サービス業が３件、生活関連サービス１件、公務業１件となっており、そのうち新規開業が１件となっております。

現在、令和５年度分の事業に関しては、全１５事業全てに対して国補助分が交付決定済み、島根県・町の補助分については７件が交付決定済みとなっており、国の交付決定を受けた各事業者は、それぞれの個別事業について順次事業を実施されている状況となっております。

４つ目の御質問でありますが、民間の各事業者の方が独自に施設整備を行えるよう、経営状況の改善を行うための支援が課題だと再認識したところでございます。今回の事業に関しては、ポストコロナに向け、国としてもこれまでにない大胆に政策展開した事業であると認識しております。

しかしながら、本来であれば、旅館、ホテル、飲食、小売り施設等の施設整備は、各事業者が自身の事業計画の中で資金を調達し、実施されるのが理想だと認識しております。今後、津和野町の観光がより盛り上がりを見せるには、民間事業者の力が必

要不可欠でございますので、それには強い経営体力をつくる必要があり、そうした取組が課題だと考えております。

５つ目の御質問でありますが、起業・事業拡大に関しては、個別商業支援制度による起業時に必要な経費、新メニュー開発などの事業拡大に対する経費に対して支援を行ってきており、今後も継続していく考えです。

また、個別事業の事業計画の作成、起業後の経営指導については、津和野町商工会で対応いただいているところですが、こうした支援についても各個別案件に関する情報をお互いにやり取りしながら対応しており、今後も同様の対応を進めていきたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　今回この事業は、事業者の方は非常に今負担が少なくて高い補助率でできる事業なんですけれど、これは全国一律こういう低い負担というわけではなくて、津和野町が島根県と協調した動きでこういった高い補助率というのが実現をしていると思います。なので、国からの補助だけではなくて、町も手出しをすることで実現しているんですけど、手出しをしてもこの事業をやろうというふうに思われた理由というのは何かありますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業の最初の取っかかりと申しますか一番最初にあったのが、島根県のほうから、令和３年度の秋辺り、国が地域一体となった高付加価値の事業をするということが、約次年度でするというのが補正で決まったということがございまして、それに対して、島根県のほうも、短期間で大きなこれは国のレベルで１，０００億の事業になるんですけど、非常に大きな事業を短期間で実施して、それの効果で、地域の稼ぐ力を回復強化していきたいという強い思いがあったようでございます。その思いを町のほうに伝えていただきまして、この事業のやり方自体は今までになかった形の事業でございますので、津和野町のほうで財源とか実際に事業者が集まるのかどうなのかそういったようなところも、商工会、観光協会と何回か話した中で検討してきたわけでございます。

今までにない事業ということで、その思いが島根県から町に伝わって、町もそれに

応えたいということで始まった事業ということでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　今までになかった事業ということで、多くの方がチャレンジをされたのかなと思うんですけれど、先ほど答弁いただいた中で、ちょっと内訳をいろいろ教えていただいたんですが、いまいちちょっと分かりにくい分類になっていまして、例えば、皆さんちょっと関心が高いかなと思うのは、この事業の中で新しいお店って、じゃあ、どれぐらい、改修のところは見れば改修をきれいにされているなというのが、既存のところは分かるところがあるかなと思うんですけれど、例えば、新しく開業されたですとか、ほかの分野で新規に進出されたみたいな、そういったものは何件ぐらいあって、どういった業種になっていますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　区分けがちょっと難しくなっとって大変申し訳なかったんですけど、区分けにつきましては、総務省の日本標準産業分類というものがございまして、これは経済センサスとか統計を取るための分類ということで、区分けを一応させていただいたところでございます。結果的にちょっと分かりづらくなったのが申し訳なかったというところでございます。

御質問にありましたように、新規でやられた事業者の方はどんなものかというところでございますけど、まず、新規でやられた方は、宿泊施設ゲストハウス、それから例えばサウナ付きの高単価の宿を始められたとか、それから、またペット同伴のサービスを開始されたというそういうお店がございます。それから他分野からというところで始められたお店というのが、雑貨屋さんをもともとやられとって、それがほかの棟を活用して、一棟貸しの宿をされたとかそういうものがございます。その他、商品を製造する業者の方が展示室というようなものを建物の隣に造るということで、中を改修されるというそういう方がございます。これは令和４年のことでございます。

令和５年につきましては、バーというか飲食店がまた新規に開業されたということになっております。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　既存の改修のほうなんですけれども、既存施設に関しては、例えばどういった高付加価値をつくるために、どのような改修をされたか、一つか二つ事例を教えていただけると。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　例えば、空き家を活用して、もともと住宅で店舗でしょうか、そういうものを改修をして部屋を造りまして、その中を宿泊施設にするとか、そういった事例もございます。それとか、もともとこれは飲食スペースだったものなんですけど、通常の飲食スペースではなくて、しつらえに高級感を持たすとか、津和野らしいデザインをそこで採用するとか、そういったような改修をして、それぞれに入ったときにお客さんが喜ばれるような魅力的な改修というのを皆さんされたということでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　４番の質問で課題ということをお尋ねしたときに説明をしていただいたように、各事業者が独自の事業計画の中で資金調達をして、事業を行えるのが理想という答えで、本当に私はそのとおりだなというふうに同感なんですけれども、事業者ひとつひとつの魅力というのが町の魅力になっていくかなというふうに思っています。

ただ一方で、今回の事業というのは、これは観光庁のホームページにも書いてありましたけど、地域の強みというのを理解した上で、中長期的なビジョンを持ってビジョンの達成に向けて事業者が連携して面的な取組を進めることで、地域産業の稼ぐ力の回復強化を目指すというのが、この事業の目的だというふうに書いてありました。なので、今回役場が中心となって行政が関わって進めていく意義というのは、地域一体となったというところだったり、事業者の面的な取組というところを推進することにあるんじゃないかなというふうに思っています。なので、事業者同士ビジョンを共有した上で、その中で各事業者の独自性というのをこの事業の中においては発揮してもらうということが、より一層津和野町の魅力というのをつくっていくことにつながるんじゃないかなというふうに思うんですけれども、その点において、地域一体となったとか事業者の面的な取組というところで、今回この事業の中でどのようなところ

を意識されて、どういうふうに関わり、どういう役割を果たされてきたかというところをお尋ねします。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業を進めるに当たりまして、まず、地域としての申請が一番最初にございまして、その次に町としての地域計画をつくりまして、その地域計画の中に町の進むべき、観光の進むべきビジョン、目指すものを想定をしたところでございます。

これを策定するに当たりまして、商工会、役場、観光協会、それから事業者、それと事業に対しての財源等もありますので、金融機関等が参加しまして、その中で皆さんで協議をして、津和野町の強みというのは何かというのをかなり皆さんで熱を込めてお話をしたという経緯がございます。

そういう中で、全体の計画、行く道というのはある程度決まるんですけど、その下で個別の事業計画がございまして、各事業者が進む道に対してどういうことが自分でできるのか、その先にあるものに対してどういう裨益効果が出るのかということを考えていただくのと同時に、自らの宿泊施設、観光施設の改修をしていただいたということでございます。

津和野町のその中で出た強みとしましては、高津川の自然とか食材、それと山に囲まれた盆地の静けさ、それから密集した赤瓦の連続した町並み、それとか城下町の昔ながらの景観というものが、津和野町の独自のもの、ほかにないものということで、それが強みということで、そこに向かって個別の事業者が何をできるかということで事業を進めてまいったいうところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　今おっしゃってくださった関係者の方が集まって話し合われた結果が地域計画だと思うんですけど、私も拝見をしています。なかなかそういったものを関係者とはいえ、まとめて形にするというのは難しいところがあると思うんですけれど、皆さんのビジョンを共有したものが地域計画、今特徴としておっしゃってくださったことも含めて反映されていると思うんですけど、具体的にどういうプロセスで各事業者さんそれぞれやっぱりすごい思いがあると思うので、どういうふ

うに思いをすり合わせていかれたのかなというところを少しお伺いしていいでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業の採択を受けるに当たりまして、各スケジュールがございました。スケジュール的には非常にタイトな期間の中でやっていかなければいけないというところがございましたので、通常なら、この地域計画、町がつくらなくても事業者単独といいますか、宿泊事業者と御事業者以上でこの事業をするということになれば、これはこれで成り立つ事業ではございますけど、津和野町のほうでは、町が主体となって事業計画をつくって、それに基づいて各事業者が個別計画をつくるという手法を取ったところでございます。

町としましては、地域計画をつくるということ、それと、各事業者がその計画に向かってきちんと裨益効果を出していただく。それと、自分の事業をしっかりやっていただくというところがございますので、その辺りの調整をしたというところ。それと、期間が短い中でございますので、その２つのことを、会議を繰り返しながら行って、同時に並行してすり合わせを行ったというところで、ここら辺りがかなり調整に力を要したというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　ハード面での改修とかというのは、この事業って終わりがあると思うんですけど、事業者同士の連携ですとか面的な取組というのは、これから事業が完了した後も継続していくことであるかなというふうに思うんですけれども、こういう点に関して継続的な今回参加された事業者さんの関わり、行政としての巻き込みといいますか、計画というのはありますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業の中で、地域計画をつくって地域一体の事業をやっていくという募集を当初したところでございます。順次参加者が増えた中で協議をしてきたところになります。そういう流れの中で、巻き込みというのを商工会、観光協会のほうでＰＲをしながら巻き込みを行って達成したというところでございます。

それぞれの個別の事業者が、この事業を実施することによりまして、それぞれのつながりというのはどうなっているかということは分からないところでございますけど、今から経営の相談とか、補助事業の国・県の補助事業の有無とか、そういう御相談を受けながら、当初この事業が目指した地域一体となった効果が出るような形で相談なりを受けていきたいというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　町長にも少し御意見をお伺いしたいなと思うんですけれど、私は地域計画を見て、強みとか弱みの分析だったりとか、私もよそから来ていますので、観光客視点みたいなところもあって、すごく内容に共感するところもたくさんあったので、この事業が終わってこの計画がお蔵入りみたいになってしまうと、もったいないなというふうにすごく感じるんです。大事にされるといいなというふうに感じていて、前に予算の説明のときにも一体となってみたいなところが多分気になって質問をしたときに、町長は、以前に、各事業者がこんなに有利に使える補助金というのはなかなかないので、できるだけ自由に使ってもらうことが大事だという趣旨の回答をされて、確かにそれも本当そうだなと思う一方で、でもやっぱり役場がせっかく関わっているから、この機会に地域一体とか面的というようなところに力を入れてほしいなと、そのときもちょっと思ったんですけれども、町長は、この地域一体とか面的な取組というところに対して、どのようにお考えですか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　まず大前提として、今日、大江議員がいろいろ御質問、御指摘を頂いているということに対しては、本当に賛同するものだというところであります。

このたび地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業を通して、非常にハード面ではかなり整ってきたというところでありますが、それだけではいけませんので、やはりソフト面として、これからどういう津和野町の更に観光面での魅力のアップ、おもてなし力を上げていくかということ、これはまさに民間事業者が主体となって、しかも民間主体の個別の取組ということではなくて、それに津和野町観光としての面的な取組として取り組んでいく、それがまた大きな情報発信力にも

つながっていくというふうにも思っているといったところであります。

観光庁のホームページも見られているということでありますから、観光立国推進計画でございます。この観光庁が出されているこの計画第４次になりますけれども、御覧になっていただいたこともあるのではないかと思いますが、今観光庁が観光でやろうとしているということは、まず、インバウンドのコロナ前の復活ということで、全体の話になりますが、観光消費額インバウンドに関して５兆円、１人当たりの消費額２５万円に増やしていこうという取組ということと、それからもう既に一部の観光地はオーバーツーリズムの傾向が見始めているということで、非常にそこは観光庁も問題視をしている。そのために観光消費額も落とさずにこの観光をどういうふうにつくっていくかということになると、やはり地方へうまく観光を分散させていく、そこの取組をしっかり取り組んでいきたいというのが今、観光庁の方針だというふうに私自身は受け止めております。

その具体策の中の一つに、このたびの地域一体となった高付加価値化事業があるということでありまして、あくまでもこれは一つにすぎませんので、観光庁としてある意味またソフト対策のほうで、この地方へいわゆる滞在促進をしていく、観光客を送り込んでいく、それがまさに力を入れていこうということになっております。

具体的に、この令和５年度の補正予算もそれから令和６年度の今概算要求の具体的な事業も見させていただいておりますが、やはりその地方への観光誘客ということを促進をしていくという部分に、様々な事業が用意されているということでもありますから、我々としては、今回この高付加価値化事業はひとつのハード整備でありますが、これで終わることなく、常に観光庁の動向や具体的な施策事業にアンテナを張りながら、まさに今後ソフト対策として、面的な取組が進められていくように、そこをまた観光庁のいろんな補助メニューというものを導入しながら、進めていきたいというのが私自身の考え方であり思いでもあるといったところであります。

そのためには、やはり地元の業者の皆さんが、ひとつまた更にやる気を出していただいて、一緒に取り組んでいこうという機運の醸成も必要であろうかというふうにも思っておりますから、今回、この高付加価値化事業を通して、また皆さんもひとつ前向きな気持ちを持っていただいたとも思っています。

それから、もう一つは、日本遺産が民間への波及ということを問われてきたわけであります。そこの中で今、推進協議会もかなり活性化をして、そこにも民間の方々が積極的に今加わってくるという土壌が出来上がっているということでもありますから、そういうようなことをうまくまた皆様にしっかり御協力をお願いして、この取組を推進をしていきたいというふうにも思っております。

そういう取組の中で、我々行政もそこの支援とともに、そのほかにもまだまだ観光を盛り上げていくことを一生懸命やろうということで、ホテルの誘致活動も行ってもおりますし、それを通して、また情報発信の一つの手段にもつなげていこうという取組もしております。

それから、これは１０年前から続けておりますけれども、個別商業包括的支援事業というようなことも導入をして、それぞれの事業者が今回高付加価値化事業を使えなかった事業者の方々も、その町のまた補助事業を使っていただいて、観光振興への取組に生かしていただくというようなこと。ある意味では本当にいろんなメニューを持ちながら、国の事業、県の事業、町の事業と取りそろえてもいるというところでありますから、その中でこういうものをうまく使っていただいて、民間の皆さんとともに、事業者の皆さんとともに、町もそこをバックアップをしていきたいというところで考えているといったところであります。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　私今回この質問をしたいなと思ったのは、今回の事業でいろいろ新しい挑戦をしてくださっている方がおられるので、そういった挑戦を広く知ってもらって、みんなで応援して盛り上げていくことができればなというのもありますし、今までお話ししてきたように一つひとつの事業者の魅力というのが、町の魅力になっていくというのは、それはもちろんそうだと思うんですけど、やっぱり津和野みたいに小さい町であれば、一体となった魅力というんですか、その事業者同士の連携だとか面的な取組というのも魅力が出やすいという地域かなというふうにも思っているので、その点においてちょっと今後も行政のリーダーシップを期待したいなというふうに思っています。

２点目について、先ほども町長のお話の中で、既にインバウンドの話がありました

けれども、２点目の質問、インバウンド施策についてなんですが、日本政府観光局が１１月１５日に発表した１０月の訪日外国人客は、２０１９年コロナ前の１０月に比べて０．８％増加した２５１万６，５００人になっているということで、コロナ禍後初めて訪日客数が２０１９年を上回っているという現状です。今年の１月から１０月の訪日客数は１，９８９万人ですので、前年２０２０年と比較すると１０倍を超える勢いで回復をしているということで、急激に増えてきているという現状です。

町内でも結構外国人の方最近見かけるなというふうに思っておりまして、インバウンドのことについて質問させていただきます。

１点目です。津和野町観光振興計画によりますと、２０１９年の外国人観光客の入込客数、宿泊ベースですが１，２４７人です。２０２３年の現状についてお尋ねします。

２つ目、観光振興計画におけるインバウンド誘致拡大事業として、次の内容が挙げられていますが、取組状況についてお尋ねします。

１つが、外国人客獲得に向けた情報発信事業、掲示物やメニュー、ホームページの多言語化、キャッシュレス決済の導入、フリーＷｉ―Ｆｉの拡充。

３つ目の質問ですが、インバウンドにおける本町の課題は何でしょうか。

４つ目、インバウンドに対応した今後の計画についてお尋ねをします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、インバウンド施策についてお答えをさせていただきます。

まず、外国人の観光入込客数に関しては、宿泊者数を用いております。２０２３年１１月末の状況については、御協力を頂いている宿泊施設様からの報告を頂いておりませんので不明ですが、２０２３年９月末時点では３８９人となっております。

次に、外国人観光客獲得に向けた情報発信では、島根県などと協力し、海外の旅行会社様を招聘した視察ツアーへの対応や、浜田港へのクルーズ船の営業活動、ＳＮＳを用いた動画制作・公開など、様々な分野で関係機関と協力しながら取り組んでいるところです。

多言語化については、観光パンフレットの多言語化も順次進めており、近年では津

和野城や鷺舞神事の英語版の作成などに取り組んでおります。また、津和野町ホームページについては、以前よりウェブサイト上で翻訳可能となっており、対応言語は英語、繁体語、簡体語、韓国語、ドイツ語に対応しております。

キャッシュレス決済については、各事業者の方がそれぞれの実情に応じて順次、決済サービスの導入を進めておられると認識しております。町でどの店舗が対応可能かという情報整理はできておりませんが、決済機器の導入については国の補助が受けられる事業もありますので、適宜ホームページなどで情報を公開していく考えでございます。

フリーＷｉ―Ｆｉは、現在町内で８スポットが利用可能となっております。海外からの訪日旅行者の多くは滞在期間中、フリーＷｉ―Ｆｉを利用する場面も多いという調査結果も得られている一方で、近年では前払い制による通信カードの販売や出発国でのモバイルＷｉ―Ｆｉの貸し出し、国際ローミングなど訪日旅行者が選択できる旅行中の移動手段も多様化していると認識しております。フリーＷｉ―Ｆｉの整備には多くの費用が必要となりますので、今後の拡充に関しては必要となる事業費と通信手段の多様化の推移など、多面的な評価を行いながら検討していきたいと考えております。

次に、インバウンドにおける本町の課題は、大きく２つあると認識しており、１つは、観光地津和野としての認知を得ること、もう１つは、移動手段と方法です。

海外から見た場合、本町はいまだ知られざる一地方の町であり、多くの方に訪日旅行の主目的として選ばれる場所となってはいません。まずは、広島の廿日市市や山口県萩市といった訪日外国人が多く訪れる地を起点に、津和野という地を認知してもらい、起点となる町からどのような交通手段を用いれば訪問することができるのかといった取組を粘り強く続けていくことが必要だと認識をしております。

次に、インバウンドに対応するためには、受入環境の整備を計画的に進めていく必要があると考えております。具体的には、引き続き各種掲示物やパンフレット等の多言語化を順次進めていくことが必要だと考えております。

また、数年後には乙女峠の証し人の列聖・列福申請が認められるのではないかと予測をしております。こうした動きに対応した情報発信とハード整備も併せて必要だと

考えております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　日本全体のインバウンドの回復に比べると、まだ津和野町は緩やかな回復なのかなという数字だと思うんですけれども、津和野町を訪れる、コロナ前はフランス人の方が多いとか、そういうことをよく聞いていたんですけれども、現状何か特徴といいますか、出身国の特徴のようなものはありますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　津和野を訪れていただいている外国人の方についてでございますけど、数字として見られる部分というのは、宿泊された方というところに限定された数字のみ把握しているというところでございます。それも、旅館組合に加入されているところということで、ある程度は限定された部分になってきております。

そういった中、訪れる外国の方で多いところは、議員おっしゃられるようにフランスが今年も一番多いということになっております。この答弁を書かさせてもらった後、１０月までの集計が昨日出ましたので、その数字で述べさせていただきますと、今年１月から今まで５０１人の外国人観光客の方が宿泊をされたということになっております。そのうち、フランスが１２０人、その他ヨーロッパの方が１３２人、それから、それ以外でドイツの方が４９人、それ以外ではアメリカが６５人というふうになっております。ですので、コロナ前の状況と国別については、あまり変わっていないかなと、そういったような状況になっています。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　今５０１人っておっしゃってくださった数字は、旅館組合に入っておられる方の統計、泊まられた方の合計ということなので、新しい宿の方なんかで入っておられないところもあったりするというふうに聞いているので、実際はもっと多いんじゃないかなというふうに思うんですけれど、このヨーロッパの方、特にフランスの方が多いというのは、町として何か特別に働きかけた結果、多いということがあるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　訪日される外国人の方で欧米系が多いというのは、津和野町の特徴になっているというふうに考えております。

この要因につきましてでございますけど、１つは、平成二十六、七年頃ヨーロッパのほうで、それこそ食でいうところのミシュランのガイドブックに当たる、観光に当たる部分でございますけど、ブルーガイドというのが発行されまして、そのブルーガイドの中に、津和野町の中で太皷谷稲成神社と城山が星が３つついたということで、１つの町で星が３つついたのが２か所あるというところが非常になんて申しましょうか、ブルーガイドを読まれた方に対して訴求できたというところが要因のひとつなのかなというふうに思っております。

それと、あと、石見の観光については、県の統計なんですけど、リピーターが多いリピート率がほかと比べて高いという数値結果がございまして、その中で、津和野の町並みとか自然がヨーロッパの方に受けたのかなというふうなことで、そういった要因が重なりまして、欧米系の方が引き続き多く訪れていただいているのかなというふうに思っております。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　外国人観光客の方って、私もこれは想像ですけど、ほぼリピーターの方っておられないのかなというふうに想像するんですけど、外国人観光客の方でリピーターの方がおられるかどうかという把握はされていますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　リピーターの方とかその辺の辺りの宿泊に関する数値の把握については、町のほうでは正確には行っていないところでございます。ただ、宿泊施設の方とお話をする中では、何回か津和野に来て、何年か前に津和野に来て、それでまた良かったからまたいらっしゃったという方が、かなりお話としてはあるということも現実でございます。ですので、数字としてはちょっと分からないんですけど、そういった部分で訪れているリピーターというのはかなりの量はいらっしゃるというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　答弁の中にも萩の話が少し出てきたんですけど、私も萩すぐ隣で観光地ということで少し調べていると、萩は外国人観光客向けに宿泊された方向けに、２０１９年にアンケート調査をしておられて、誰と来ましたかとか、日本は何回目か、萩は何回目か、どうやって萩市の宿泊を手配しましたかとか、萩に来る前にどの観光地にいましたか、萩の後どの観光地に行きますかとか、すごい興味深いなというふうに思って見ていたんですけど、そういったようなアンケート調査など津和野もされたことがありますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　アンケート調査につきましては、行政として実施したというところはございません。主には、されても、観光協会もしくはその下のその中の旅館組合の中で、もしかしたらされているかというところでございまして、ただ、その結果、もし仮にされていたにしても、結果まではまだお聞きしてないというところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　インバウンドやっぱりまだまだこれから可能性がすごくあるかなというふうにも思うので、ぜひそういった調査を旅館の方に協力いただかないとなかなか難しいことだとは思うんですけれども、何かされるとまたよりこう戦略というのが打ちやすくなるんじゃないかなというふうに思います。

その数字的なところなんですけれど、同じ萩市のところを見ていますと、萩市はコロナ前に１万８，０００人の外国人観光客の方がおられて、答弁等にも出てきている廿日市は、廿日市は宮島とかもあるので比べてもあれなんですけど、３７万人ほど来られていると、津和野町は１，２４７人だというようなところで、実際どのぐらい外国人客というのは津和野で目標として設定して頑張っていこうというふうにできるもんなのかなというふうに思って、観光振興計画を見ると、２０２６年に１，６００人という数字が一応目標として書いてはあったんですけど、でも、それはコロナ禍につくられたので、かなり控えめに作られた数字かなというふうにも思っていまして、一方で、先ほど町長、オーバーツーリズムの話もされていましたけど、京都なんかすごいオー

バーツーリズムになっていますし、そういう勢いで津和野に来られると、本当やっぱキャパがないところもありますから、何かそういうのも難しい、まだまだもしかしたら津和野ってキャパがあるんかもしれないですけれども、何かどのぐらいの数字を目指していきたいなというふうに思われていますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　津和野の現状、宿泊の現状から言いますと、１日に泊まれる人数としましては、約２５０人から先ぐらいのところというふうに、これ、旅館組合のだけについてなんですけど、これもコロナで部屋を各部屋にしたり、泊まれなかったりとか、閉めたりするところもございますので変化はありますけど、それぐらいのキャパになっております。ですので、キャパからしますと、外国人の方もっともっといらっしゃっても、まだまだ余裕はあってオーバーツーリズムにはまだまだならないのかなというふうに思っております。

目標とする数値でございますけど、観光計画の中で１，６００人というところでございましたけど、実際多く来ていただいたときには１，２００人から１，３００人が毎年来ていただいておって、ただ、コロナのその後影響がありまして、今少なくなっているというところがございます。ですから、その辺りから考えても、一遍に多くなるというようなイメージじゃなくて、少しずつ多くして、それに対して受入側も準備しながらゆっくりと進めていきたいなというふうな考えでおるところでございます。

ただ、そうは申しましても今、列福・列聖の申請というものがございまして、この認定が下りるか下りないかによって、そのスピードも変わってくるのかなというふうに思っております。それに対しては、しっかり準備をしていく中で、その認定が下りれば、世界の中の聖地の１つに津和野町が挙げられるということで、巡礼の旅の１つになることができるようになります。そうなりますと目標の数値ももっともっと上に上げていかなければいけないのかなというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　観光のプロモーションって、なかなか成果も測りにくいところがあるかなと思いますし、何か結局広く浅くみたいな感じになりがちかなと

いうふうに思うんですけれども、そういったところで、先ほど話の中にもあったアンケートなんかをやっぱりしていただけると、もう少し的を絞った訴求もできてくるのかなというふうに思いますので、検討いただけたらなというふうに思います。

私の時間配分が非常に良くないので、もう一個質問があるんですけど、取りあえず読んでもいいですか、ちょっとすごく途中で中途半端に終わると思いますが、もう１個用意している質問を読ませていただきます。

３つ目が、日本遺産「津和野百景図」の活用状況というところで、津和野百景は日本遺産の第１弾として２０１５年に津和野町に認定をされまして、観光・教育資源として活用されてきました。ですが、文化庁が２０２１年夏に認定から６年が経過した、最初に認定された分１８件について評価を行ったところ、１４件は認定継続となりましたが、津和野町を含む４件が再審査ということになりまして、認定取消しの危機となりました。その後、日本遺産の活用計画を練り直して再提出したところ、条件付で認定継続となって現在に至っています。

２０２４年には再度評価を控えているという状況で、津和野町日本遺産の活用状況についてお尋ねをします。

１つ目、日本遺産の地域活性化計画における目標と現状数値について。日本遺産センターの入込客数延べ人数、地域・教育現場での日本遺産の活用件数、ふるさと納税のうち文化振興や日本遺産の活用保存に充当される額、日本遺産関連商品サービスの売上。

２つ目、これらを踏まえた次回の評価の見込み。

３つ目、認定継続後、どのような推進・連携体制で計画を実行されてきたのか。

４つ目、日本遺産に認定されるメリットは何か。当初考えたメリットが実際に町にあったのかどうなのか。

という４点についてお尋ねをいたします。

すみません、５つ目もありました。失礼しました。

５つ目が、日本遺産センターの自立・自走。日本遺産認定当初からのこれ目標ということで書かれていたかなと思うんですが、どのような状態が自立・自走と言えるのか、現状と今後の計画についてお尋ねします。

失礼しました。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、日本遺産「津和野百景図」の活用状況についてお答えをさせていただきます。

議員御質問の地域活性化計画における目標と現状として、令和４年で日本遺産センターの入込客数の延べ人数は、目標値１万５，０００人に対し、実績値９，６４６人、地域・教育現場での日本遺産の活用件数は、目標値２７件に対し、実績値２８件、ふるさと納税のうち、文化振興や日本遺産の活用に充当される額は、目標値２，０００万円に対し、実績値９７８万８，０００円、日本遺産関連商品サービスの売上は、目標値２，０００万円に対し、実績値３０７万円となっておりますが、いずれの数値も令和５年では、施策の展開により目標を達成できるものと見込んでおります。

次に、次回の評価の見込みについてですが、評価の指標であるデータの部分においては、観光入込客数等スケールの大きい部分では苦戦している部分もございますが、前回指摘があった民間との連携による日本遺産の活用、日本遺産センターと役場との連携、日本遺産の活用のための組織の活性化などの項目は、大きく改善できていると認識しております。加えて、事業者向けの補助金の創出や高校生ガイドの育成、城跡活用事業などの新規の取組も実施しておりますことから、認定の継続に評価を頂けるのではないかと推察をしております。

３つ目の御質問であります。認定継続後は組織を大きく改変し、各団体の長で構成しておりました協議会の構成をよりフレキシブルな意見集約が図られるよう若返りを図り、商工会、観光協会、まちなみ保存会、文化財保護審議会の事務局クラスに、商工観光課、教育委員会を加えた形とし、その下に民間事業者による商工推進、観光・誘客、百景図魅力化、情報発信の各部会と日本遺産センター、地域プロデューサー、事務局、山陰インバウンド機構等のアドバイザーを配置して、その推進に当たっております。

次の御質問でありますが、日本遺産に認定されるメリットといたしましては、やはり文化庁という公的機関による認定であることから、他の地域の日本遺産と共同でＰＲを行っていただける点や、旅行商品造成や地域ＰＲにおける優位性があることは事

実であります。一方で、当初見込んでおりました日本遺産のみでの誘客等においては、世界遺産に比べての認知度がそれほど高くないことも事実でありますが、それでも認定以後の補助金によって日本遺産センターの整備ができたことや、各種の図録等の資料の充実が図られたメリットがありました。

次の御質問でありますが、議員御指摘の日本遺産センターの自立・自走についてですが、文化庁の指摘する自立・自走は、日本遺産の生み出す経済効果による全ての自立という意味ではなく、一定の収入を得つつも安定的な財源の確保による継続的な日本遺産の効果の発揮とされております。

実際に、前回の評価委員の視察時においても、委員の先生からは日本遺産のみで完全な自立・自走は難しいであろうとの言質も得ており、町としましては、町全体で日本遺産を活用して一定の収入を得る努力を行いながら、現状のふるさと納税からの繰入れや町の一般会計からの予算措置による財源確保によって安定的な日本遺産の保全、活用、協議会組織の支援等を継続して図ることが自立・自走と考えております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　いろいろ、すみません、飛ばして、１つだけ聞き苦しい質問で申し訳ないんですけれども、この日本遺産、今認定の見込みということだったんですけれど、もし認定されなかった場合というのは、どういった懸念事項がありますか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　現在のところ認定されないというところは、全く考えていないところでございますけど、例えばされなかった状況としましては、今津和野町を紹介するときに日本遺産の町というそういう冠が使えなくなるというところが一番に出てきてしまいます。これは非常に大きいことで、各表示物とか皆さんに分かりやすく津和野を御紹介するという上では、この１つの言葉がなくなることによって、今まで使えたものが使えなくなるということによって、紹介しづらくなるということが一番に思い浮かぶところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　それ以外は特に困ることということはないですか。何

かお金的に困るとかそういうことは特にないですか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　今、日本遺産の活動を進めていく中で、地域の事業者と一体となって進めていくという形が取れているというものでございます。そういった形が取れなくなると、やっぱり観光としてはマイナスになってしまうという地元の連携を取りながら、商工と観光を進めていかなければいけないという状況の中で、そういうつながりが薄くなってしまうところも問題の１つかというふうに思います。

それと、あと、国のほうの、例えばほかの文化系の補助事業を取る場合、個々の認定がおりているかおりていないかというのも、もしかしたらその条件として、あるかと思いますので、今後、新たな補助事業を取るときには、もしかしたらないときにはその部分で取れないという現実も起きるかもしれないというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　大変中途半端な質問の仕方になってしまいまして申し訳ありませんでした。観光関連は、民間も本当一緒になって頑張っていかないといけないことばかりですので、これからも官民一体となって進めていかれるようにどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、２番、大江梨議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで午後１時まで休憩といたします。

午後０時05分休憩

……

午後１時00分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序４、８番、三浦英治議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　８番、三浦英治です。通告に従って質問したいと思います。

今回、質問は１点、津和野町景観条例についてです。

今年になって津和野町河村に生コンクリート製造用の工場が完成しています。

国道９号線を走っていると、青色に近い水色のセメントサイロと、太陽の加減で建物の外壁やベルトコンベヤーの色彩がぎらぎらしていて大変目についていました。

気になって商工観光課に８月の初旬だったと思うんですが、尋ねますと、８月１８日に津和野町景観条例審議会が開かれるということを聞いて、その後、経過がどうなっているのか気になっていました。いつの間にかセメントサイロの色彩が塗り替えられていたので、行政指導がなされたことだと思います。

景観条例の第５条の４項「景観づくりへの配慮」では「町民及び事業者等は、建造物等の景観行為を行うときは周囲の景観に配慮しなければならない」としています。

事前相談の第５項では「前項の行為を行うときは、事前に行為の内容について、町に事前協議をしなければならない」としています。事前協議を行って条例に適合した最近の事例では、枕瀬地区の倉庫外壁の色彩、また枕瀬及び野口地区の屋外広告物、看板の形状及び色彩が変えておりますし、令和３年度竣工して現在稼働しているバイオマス発電所、これも一部地下ピットにして高さ制限をクリアしております。

建造物の色彩や高さに対して事前に相談はなかったのか、景観条例審議会ではどのような意見が出されたのか、どの時点でどのような行政指導に当たられたのか、時系列的にお答えください。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、８番、三浦議員の御質問にお答えをさせていただきます。

津和野町景観条例についてでございます。

当町では昭和４８年に「津和野町環境保全条例」を定めており、その後、国において景観に関する総合的な法律として平成１６年に景観法が施行され、その性格を受け、津和野町環境保全条例について平成２１年に「津和野町景観条例」に移行し、津和野町景観計画の作成を行っております。

津和野町における景観づくりに関する基本となる事項及び景観法の施行に関して必要な事項を定めることにより、町、町民及び事業者等が連携・協働し、一定の行為を行う際には届出を頂き、本町の個性的で優れた景観を守り、育み、次世代に継承する

ことを目的として運営を行ってきました。

御指摘のように、景観計画区域内で景観行為をしようとするときは、事前に行為の内容について、町に事前協議をしなければならないとあります。

このたびの経緯につきましては、工作物が建設された後に町民の方から御連絡があり、職員が現場を確認したところ、届出が必要な物件と判断をしたため、改めて事業者の方に御連絡し、事前相談と行為の届出が必要なことを伝えたところでございます。

事業者には、条例の趣旨を理解していただき、改めて届出を提出してもらいました。その際、内容について確認をしたところ、景観計画の基準と照らし合わせて、色彩と高さが基準値を超えている部分がございましたので、指導・助言を行い、景観審議会に報告したところでございます。

その後、色彩については、景観審議会委員の御意見を伺いながら、周囲の色彩に配慮したものに変更する措置を取っていただきました。しかしながら、高さについては、現在も景観審議会で協議を行っているところです。

津和野町は、景観法でいうところの景観地区、準景観地区に該当しておらず、色彩や意匠の形態については、必要な限度において、必要な措置を取ることができるものの、高さについてはできないものと解しています。

そうは申しましても、議員御指摘のように、町民及び事業者等は良好な景観を守るために周囲の景観に配慮する必要があるため、今後も景観審議会へお諮りしながら、事業者と協議を引き続き行っていきたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　この色が塗り替えられて本当に気づかなかったです、国道を走っとっても。いつの間にか、それだけ塗り替えられたのが自然に溶け込んでいるのかなという気がしました。当初の青色のときの目立った色というのは、私ばかりじゃなくて、ほかの町民からも話が出たので。すごく目立ったので、こんなにもその景観法によって物事が変わるのかなというのをつくづく感じました。

答弁で、津和野町は景観法でいうところの景観地区、準景観地区に該当しておらず、色彩や意匠の形態については、必要な限度において、必要な措置を取ることができるものの、高さについてはできないものと解しています。と答弁されております。

なのに高さについては景観審議会で協議していくということなんですが、どのような結論が出るんでしょうか。また、どのような措置を考えているのか、予測できることがあればお聞かせください。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　景観法でいうところの津和野町においては、景観地区、それと準景観地区には指定されていないというところでございます。景観地区に指定されると、その建物の高さ、それと形態・意匠について、条例で制限できるというふうなことになっております。

津和野町はそれからは外れているというところでございますが、一般的に申しまして、現在、高さについては、その機能を発揮できない高さとするところまでの制限は控えたほうがよいという。これは景観法の運用指針の中に載っているところがございまして、その高さであっても、ほかに例えば色彩とか、あと形、それと例えば目隠しとか、目隠しについては植樹とか、そういうふうな措置が取れることが考えられると思います。そういうふうな措置、これは一般的なんですけれど、措置を取ることによって目立たなくして良好な景観に配慮するという措置もできるということで、そういうお話が今からできるかなあというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　確かにそれはできないかもしれませんが、現実問題これは地上高２１．６メートル、条例では１５メートルになっております。つまり、６．６メートル分ぐらい高いということなんですが、例えば６メートルの植樹なんてできるわけないし、あとは全体のバランスがあると思います。

それで、景観条例に関しては日本で一番厳しいとされている京都府ですけれども、ここでは条例に違反した場合には１年以下の懲役または最大５０万円の罰金が科せられ、違反業者の公表や広告物の強制撤去の措置が取られております。その京都府天橋立・宮津市では全く同じような事案がありまして、生コン製造会社のバッチャープラントの高さが制限を超えていたため、敷地を埋め立てて地盤高を上げたことでその制限をクリアしたとかという事例もあるんですよね。

じゃあ、京都と津和野はどうなのかなあというのはあるんですけれども、今後、審

議会でこの２１．６、これが１０メートルに見えるためにどのようなことを今から検討していくんだと思いますけれども、ここで景観条例の実効性の確保については一部の条例では同意、許可、承認、命令、罰則等を規定しておりますけれども、ほとんどが届出、指導、勧告、公表等とする条例が大部分になっております。

津和野町景観条例施行規則、これは７２ページもあるんですけれども、その中に様式第４５号の命令書というのがあります。過去にこの命令書が出たことがあるか、ないか、ちょっとお聞きします。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　議員御質問の命令書についてでございますが、過去に出したことはないというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　令和５年３月３１日時点ですけれども、景観行政団体は、都道府県４０団体、指定都市２０団体、中核市６２団体、その他の市町村６８４団体で合計８０６団体あるわけなんですけれども、景観計画策定団体は、都道府県２２団体、政令市２０団体、中核市５９団体、その他の市区町村５５４団体で合計６５５団体です。島根県では６つの市が施行しており、町では当津和野町と海士町、奥出雲町が施行しております。

そこで確認申請なんですけれども、確認申請は建築基準法で規定されている制度です。建築物の性能や安全性について規定した建築基準法等の法令に適合をしているかどうかを審査するための制度です。建物を建てる際、工事に着手する前に、その計画が建築基準法などの法令に適合するものであるかを確認するための申請書類です。この建築主は建築物を建築しようとする場合、当該工事に着手する前に、その計画が建築基準関係規定に適合するものであることについて確認申請を行い、建築主事または指定確認検査機関の確認を受け、建築確認済証の交付を受ける必要があります。というのが、これが流れですいね。

ただ、この関係機関、建築主事の確認には当然、消防法とかいろんな様々な法律が関係してきます。景観条例を施行している市長に、そのところからの問合せはまずないと思います。確認申請がその町に出ている景観法はどうなのかという問合せは、ま

ず不可能であろうと思います。ということは、これを設計した者の責任ではないかなと思います。例えば、給食センターの建設工事では、学校給食法とか食品衛生法とか、またもろもろの建物によって関係法が出てきます。

そこで、今回のようなことがなぜ起きたのかということは、設計士が……。大体、設計士なら分かるはずですいね、当然確認するために。どこでこういう失念が起きたのか。また、合意者である会社、これは今でも大手ですけれども、うっかりしていたというふうにしか説明ができないんじゃないかなと。その建てておいて指導・助言を受けたわけですから、もう前後しているわけですいね。なぜ、こういうことが起きたのか。また、ほかでもこういうことが起きる可能性があるのか。また、町内で建物をやっていたときにこの景観法があるけえ、これは設計変更せな、やはり金がかかってやれんわちゅう話を聞いたことがあるんですよね。

今回このようなことがなぜ起きたのか、どのように考えておるか、ちょっとお聞きかせください。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　このようなことがなぜ起きたかというところでございますが、原因についてはこれということはちょっと存じ上げないというか、分からないというところが正直なところでございます。

ただ、津和野町には景観条例があるということはホームページ上でも公表をしていますし、問合せがあった場合はその問合せに対して、町内ではこれこれこういう決まり事がありますという御紹介もさせてもらっています。あと景観審議会の中のことなんですけれど、審議会の委員さんにつきましても設計士の方、土木事業の関係の方、また町民の方の代表ということで、その関係の方もいらっしゃるところでございます。そういったことを通してＰＲ、周知等を今まで徹底してきたところでございます。

反面、事業者の方、建築主の方が業務をお任せするのにその施工者に委託をする、そうしたときにはその委託事業者というのは、建物なりを建てるときにそこの土地の地域のやっぱり規則、決まり事、条例、例規ですかね、それとあと県、国の決まり事に従って業務を行っていくという義務があると思っております。ですので、その周知の部分と事業者の義務の部分というのが正常に行われることによって法律を遵守した

施工ができるというふうに考えております。

今回の件に、今回といいますか、それがもしできなかったときの原因というのは、これはちょっと特定はできないところでございますが、一般的には先ほど申したような責任の所在があろうかというふうに思っています。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　こうした自治体の自主条例について、国土交通省は法律の根拠を持たないことへの限界が指摘されたとして、その理由として、規制手法として届出・勧告制にとどまっており、強制力を持たないことなどが挙げられるとしています。必要な場合に一定の強制力をも行使し得る法制度の創設が求められていたというのが、この国土交通省の都市地域整備局・都市計画課が出しております景観法の概要と今後の展開という――これは秋号の中で書かれていることなんですけれども、例えば観光山陰の小京都とかを標榜するのであるならば、やっぱり京都府に匹敵するような景観条例もあるし、改正していくべきではないのか。

特に、景観法に関しては町民の中でも、津和野の街中しか適用していないんじゃないかみたいに思っている人がいるのも事実です。合併して高津川流域とか、そういったことまで出て当然この日原のほうでも景観法に基づいて色彩を変えたり、広告物を自作したりとかしていることがあるわけなので、ある程度のその罰則規定というか、ペナルティーというか、そういう方向性ももっとこの津和野を盛り上げるためには、そこまでの法改正が必要なのではないかと思います。いかがでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　議員御指摘のように現在、景観条例につきましては、罰則が規定されていないという状況になっております。

景観計画をつくったとき、作成したときが平成、たしか２０年度ということになっておると思いますが、そのときにその前の条例も併せてつくったというふうに聞いておりますが、そのときの議事録とか会議ではやっぱり罰則規定について話し合われたという記録が残ってございます。

そのとき最終的にどうしたかというと、罰則――議員さんの中にも、つくって強力に規制をしていくことで景観を守っていけるという御意見もあった反面、例えば町

内・町外にかかわらず大きい手法によって建物を造る場合、例えば罰則金３０万円としたときに罰金を支払っても建物を建てる業者が出てきたときにはどうなんだという議論も、どうもされたようでございます。その場合においても社会的ペナルティーというのは考えられるわけでございますけれど、結果的にそのときの議論としては、罰則は設けられなかったというふうなことの結論に至ったということでございます。

今この現実、ここの段階でそういったようなこと、規定を設けるという考えは持っておりませんが、まずはその景観、それぞれの地域の景観を守るための計画なりをもう１回見て、その上でそれからのことをちょっと判断してまいりたいというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　今回この景観条例を質問することで、この施行規則をちょっとコピーしたら７２ページもあって、すごいなっていう部分がありました。それとインターネットでこう拾ってコピーするんですが、例規集で見ると古いんですいね。インターネットのほうが早い。それで、この前後で調べてこれをたどっていくと載っていないのがあったりして。これはまた昼にちょっと調べたんですが、調べ切れんかったので、この条例とこれが合っていないんじゃないかちゅうのを気づいた部分もまたお聞きしますので、先で。ちょっとこっちも調べて、そのときによろしくお願いします。

それとあと、この景観条例というのは、私がちょうど１期目で初めて質問したときにこの景観条例をやった記憶があるんですけれども、やっぱりその見た目というか、見た目と実際、伝建地区でも表だけやって裏はどうでもいいのかという問題はありますけれども、やっぱりこの雰囲気、全体の雰囲気ってこの景観条例ってすごく大切な条例だなあと思います。ぜひ審議会で今以上にこの条例改正を含めて審議していただきたいと思います。

また、地元業者の育成とか地元経済の振興といった観点からもちょっと関連はしてくると思いますので、何とぞよろしくお願いします。

これで質問を終わろうとは思うんですけれども、町長、何か感想なり御意見がありますでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　こうして津和野町に景観条例があり、景観計画があって具体的な数値も定められているという中で、それとは合致しない工作物が今回、事前の相談なく建設されたということは非常に残念なことだというふうに思っております。

そうしたことを現実は現実として捉えながら、今後どういうふうに解決をしていくのかということで、これまで景観審議会も開催をしていろんな御意見も頂きながら、今日を迎えているというようなところでございます。

同時に、やはりこの景観条例と景観計画というのが、その作成した当時と現時点でいろいろそぐわないものが出てきているというのを把握しているところでありまして、やはり一方で産業振興を図るという観点と、そこに今の計画での高さ制限等があることによって、その産業の活発な活動に障害となってしまうというケースも出てきているというふうにも感じているところでございます。

そうした中で今回ある意味では、景観条例等も見直していく一つのよいきっかけにもなっているかと思っております。そうしたところで景観審議会がございますので、そこの御意見もしっかり踏まえた上で、今後の町としての指向性も出していきたいというふうにも思っているところでございます。

それともう１つは、罰則の話も出ておりましたけれども、やはり現行津和野町に照らし合わせますと、先ほどから申し上げておりますように、景観法の景観地区や準景観地区には該当していないということと併せて、景観条例を読み解くということと景観計画を読み解くといういろんな作業があるかと思っています。

今回、景観条例に違反をしているかどうかというのは、そこに読み解いたときに事前相談があったかどうかということは、１つのポイントになるかなというふうにも思っております。

それから、もう１つは、景観計画の中に高さが示されておりますので、そこと合致していないものが現実にできているということでありますから、今後そこの中で実際に罰則というのがその現実的にできるかどうかというのは、また慎重に法律やあるいは全国の事例も――特に、県もそういう事例があるようにも伺っておりますので、そういうものも調査をしながら、今回の件に対しての最終的な措置というのは決めてい

く必要があるかというふうにも思っているところでございます。

そうした中で今回の該当の業者さんについても、結局は事前相談がなかったことで色のやり替えを今実際にしていただいているわけでありまして、そこにも少なからぬ、かなりの損害がその該当業者には出られているというような状況、それから今後、高さを景観審議会がどういう結論を出されるのか分かりませんが、それにカバーできるようなやっぱり措置もお願いしなければならないときには、これもまた業者には事前相談があれば必要でなかったお金がやっぱり必要になってくる。

それは、やはり今回の事前相談がなかったことで業者がかぶっておられる損害がもう実際に出てきているというようなことでもありますので、そういうようなことを総合的に考え合わせながら今後、景観審議会での意見というものも尊重して今回の問題には対処してまいりたいと、そのように思っているところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　ぜひ進めていただきたいと思いますし、途中でちょっと言いましたように、この施行規則の中で様々な様式、書類の様式が何条によってと、それを追っかけていったらそれがなかったりとか見つけたところがありますので、もう１回見直して担当課のほうにお聞きしたいと思いますので、そのときはまたよろしくお願いします。

それでは、私の質問を終わりたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、８番、三浦英治議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで１時４０分まで休憩とします。

午後１時30分休憩

……

午後１時40分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序５、９番、田中海太郎議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　９番、田中海太郎です。通告に従いまして一般質問を行います。

本日は２点あります。

まず、１点目です。道の駅の指定管理についてです。

このたび津和野温泉なごみの里の指定管理が、株式会社津和野開発から三保電機株式会社へと変わりました。第三セクターの会社から民間企業へと変わったわけですが、町民の皆さんはまだ御存じない方も多くおられ、知っている方も詳細が分からず不安を抱えています。ここで改めて、指定管理者の変更の理由と経緯をお伺いします。

２つ目です。一方で、シルクウエイにちはらの指定管理に関しましては、本定例会にて議案として提案されていますが、株式会社津和野開発が引き続き運営を行う見通しのようです。町は今後の方針として、第三セクターの在り方をどう考えていくのか、お伺いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、９番、田中議員の御質問にお答えをさせていただきます。

道の駅の指定管理についてでございます。

まず、津和野温泉なごみの里は、平成１３年の開業時より第三セクターへ運営管理を委託し、平成１８年からの指定管理者制度の導入においても公募は実施せずに、引き続き管理者として選定をしてまいりました。しかし、津和野温泉なごみの里は温浴施設を有していることから多くの管理費を必要とし、長年にわたり第三セクターの経営に大きなマイナスの影響を与えてきたところであります。

一方で、指定管理者の選定方法については、津和野町公の施設指定管理者選定審査会等から、収益性の見込める施設に関しては公募にすべきとの御意見を頂いてまいりました。町としましては、公募することにより民間同士による競争意識が生まれ、よりよい運営管理のための新たな提案等につながることを期待し、今回初めて公募による選定を行うことといたしました。

公募した結果、三保電機株式会社の１団体からの応募となり、８月７日の指定管理者選定審査会での審査、更には９月議会定例会での承認を経て新たな指定管理者として指定されたものであります。

２つ目の御質問でありますが、公共性と企業性を併せ持つ第三セクターは、行政の

施策を補完する法人として地域住民の暮らしを支える業務を行う重要な役割を担う一方で、経営が著しく悪化した場合には、最終的には税金にて負債の穴埋めをしなければならない事態にも陥り、町の財政に深刻な影響を及ぼすことも懸念されます。そのため、道の駅などの公共性が高いと考えられる施設であっても、健全な経営へ向けての取組は必要不可欠であると考えております。

このたびの道の駅シルクウエイにちはらの指定管理者の選定においては、なごみの里と同様に公募としました。第三セクターである株式会社津和野開発を含めた２団体からの応募がございましたが、指定管理者選定審査会での審査により、株式会社津和野開発が指定管理候補者として選定されました。このことは道の駅シルクウエイにちはらの管理運営及び株式会社津和野開発の経営に対して、一定の評価が得られたものと考えております。町としましても、引き続き第三セクターの取組について、継続的かつ定期的に把握、評価、指導を行ってまいりたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　なごみの里の指定管理者となった三保電機株式会社は、先般の議会でも承認され、私も賛成はしました。

しかし、手放しで賛成したわけではなく、先ほどの答弁の中にありましたけれど、民間の競争意識とか新規提案を期待するとありましたけれど、なぜ津和野開発株式会社はそういうことができなかったのか。民間ではないけれど、できなかったかというその検証を行うべきだと思うんですけれど、なぜできなかったかという点に関して何かあれば教えていただきたいというのが１点。

もう１つ、新しく三保電機が参入するということで、今後の道の駅の在り方を町としてどのように考えているか。結局この検証と展望というのをやっぱり役場の中で、いろいろ課を越えて議論したりとか、情報共有とかしていかなきゃいけないと思うんですけれど、現在その動きとか、いろいろ考えがあるかどうかをお伺いします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、なぜ津和野開発が今の新規性だとか新しい取組ができないということを考えたかというあたりですが、特に津和野開発だからできないというふうに考えたことはございません。

今回、公募したという背景は、先ほど町長の答弁にもありましたとおり、民間の方々の新しい知見や創意工夫等を期待したものであります。

繰り返しになりますが、津和野町公の施設指定管理者審査会においても、そういう収益性の見込める施設については公募していくべきだという御意見を頂いておりましたので、そうした背景の中で応募して三保電機さんの御応募を頂いて決まったというところでございます。なので、津和野開発に原因があったとか、津和野開発がそういう新規性のある提案ができないとかいうことを判断理由にしたわけではないというふうに御理解いただきたいと思うのが１点ございます。

その後、今後この道の駅の運営管理について、庁内というか、役場内ということでありましょうが、いろいろ情報共有してということでございますが、先般９月の定例会で議決を頂いたばかりでありまして、現在、津和野開発から三保電機さんへ引継ぎとか、いろいろそういうことの作業をしておる中でございます。なので、まず具体的に役場の中で今後その公の施設、それから道の駅の今後の方向性について課を越えて議論というものは、今のところなされておりません。

ただ今後、今、議員がおっしゃるようなこの５年という長いスパンでございますので、そうした中でいろいろな問題、各課をまたいで協力しながら情報共有して方針を出していく場面があろうかと思いますので、そうした場合にはしっかり議論してまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　そこの検証というところは、またちょっと後ほど触れさせていただきますけれど。

あとその三保電機に関しまして、４月から実際に経営を始めるわけですけれど、現段階で関係各所などとの対話とかいうのは進んでおられるでしょうか。それからまた、会社の方針とか経営理念なども三保電機さんがしっかりとここの町で宣伝とか、そのＰＲをされていらっしゃるかどうかをお尋ねします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　現在、９月の定例会の議決を頂いた後、三保電機さんのほうで観光協会、それから商工会等々の関係機関には挨拶回りをされて

おるというふうに伺っております。

それから、２点目の今の経営理念というか、それは三保電機ということだろうと思うんですが、私どもの解釈としましたら、実際に８月の選定審査会で私どもつわの暮らし推進課は司会役として参加をしておりました。その中の三保電機さんのプレゼンテーション等を聞いておりますと、地域に密着したやり方を信条としておるというふうな御意見を頂いております。

中でも特に今後の向こう５年間を運営していくに当たっては、公性の高い施設を任されるわけですので、特に行政機関、役場等との信頼関係ですとか情報の共有、それから連絡を密にして運営していきたいとの意見は伺っております。詳しい経営理念とかそうしたところまでは伺っておりませんが、やり方の方法論としては、そうしたことを念頭に一緒に共有してやってまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　恐らく、つわ暮らとしては、その次の４月からやられる三保電機がやっぱり公共のサービスを担うわけなので、そうやって真剣に議論しているとは思うんですよ。

ただ、やはり一般の町民から見たら、その全く知らないところから来られて今からやると言われたときにどこを見ればいいのかとか、自分らはある程度議会でも話を聞いたりしたところは多少分かるところはあるんですけれど、全く分からない人からしたら、どういう会社が入ってきてどういうことをやろうとしているのか、これは逐一説明するという――そういう機会はないとは思うんですけれど、なるべくそれを向こうの先方のほうからも何かしらの形で例えばサンネットでもいいですけれどＰＲして、自分達はこういう会社ですという説明をするとか、あともし直接その三保電機ができないのであれば、つわ暮らとか、そういういろいろ行政を通して行政からＰＲったらおかしいですね。こういう会社が次、入ってきます、こういうところをこだわってやっていきます、だから皆さん安心してくださいとか、どんどん利用してくださいと。

今からやられるのかもしれませんけれど、これはやっぱり早急にやったほうが、どっちかといったら新しいものに対してはやはり一般の住民というのは不安を覚えることが多いので、それはやっぱり不安というのは払拭したほうがいいと思うので、そこ

はぜひやっていただきたいと思っています。

それとあと実際に今回、第三セクターから民間に移ったというところの１つの理由としては、やはり温浴施設の赤字というのが町財政に影響を及ぼしていると先ほども言われましたけれど、三保電機に変わったといっても、それがすぐに赤字が解消するとかというのは現実的にはちょっと難しいかなと思っています。やはりだから、そこは民間の発想とか進め方を期待するところしかないんですけれど、津和野町としてもやはり温浴施設に関して何らかの理念とか、こうやっていってほしいと。委託するけれども、こういう考えを持ってやってほしいという思いがあると思うんですけれど、そのあたりの考えとか将来性、具体的じゃなくてもいいんですけれど、何かあったら教えていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　先ほどの最初の御意見ですけれど、三保電機からいろいろＰＲするとかいうのはちょっと難しいということもあるかと思いますので、それは町のほうから、町民の方々が不安を感じていらっしゃるということであれば、安心していただけるようなＰＲの方法は考えたいと思います。

それと温浴施設の赤字の解消の件ですが、我々もすぐ三保電機がなったからといって魔法のように全部が全部解消するとは思っておりません。ただ、第三セクターの津和野開発が長年苦労されてきたというのは我々も横で見ているわけで、それの新しい視点といいますか、そうしたことを期待しているというのは事実でございます。

ただ、町としての温浴に関する視点、スタンスというのはこれまでと何ら変わるものではございません。福祉的な意味合いもあるし、それから本当に町民の方々に更に利用していただけるような環境づくりというのをやっぱり一番の主眼に置いて、このたびの指定管理者の交代もあったかなというふうに考えております。

更には民間の方々が、第三セクターじゃなくて民間の方々がやるので不安があるという議員のお話でしたが、民間の方々がやっても僕らとしたら幾らかのその全然知らない会社が来られたわけなので不安感はあろうかと思うんですけれども、物事が変わっていくときにはやっぱりそれだけのリスクも伴うというふうに我々は解釈していますので、それがいいか悪いかというのはまた違った判断軸になろうかと思っています。

この間９月の定例会に決まってまだ１２月でスタートもしていない中で、そのことの検証をするといってもなかなか我々としても難しいなというふうに考えています。なので、今から今後やっぱり新しく体制が変わって管理運営をしていく中で、しっかりとその辺は協議しながら、住民の方々に御不便ですとかそういうことがないように、むしろ新しくこう変わってよかったというふうに思えるような運営については、我々担当課としても三保電機と協力してやってまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　まだ３か月しかたっていないところがあるので、これは性急にやるとかやらないとかではないんですけれど、やはりまずは１つは丁寧な説明をするというか、続けることというか、動き出しても最初のうちはまだ様子見という状態もあるので、常にやっぱりそういうところで新しい業者と町民が交流したりとか、町が代わっていろんな説明をするとか、そういうことを継続していってほしいと思っています。

それであともう１点はちょっと別の角度からですけれど、津和野温泉なごみの里は、先ほど答弁にもありましたけれど、平成１３年に開業して地域農業とか地場産業の振興、町民の健康増進や福祉向上を目的に産直店舗とレストラン、温泉の複合施設としてオープンしています。このときに補助金として、店舗とレストラン部分は農業構造改善事業というものを利用しています。

温浴施設のほうは起債か何かだったと思いますが、この農業構造改善事業というのは補助金で結構大きな額なんですけれど、この補助金の有効期限というのは一般的にいうと建物の耐用年数に準じているというふうに言われているんですけれど、この施設の建物の耐用年数というのは大体何年ぐらいなのか、今、町は把握しているでしょうか。

それで結局、それは期間内にそれに沿った事業をしないと、違ったことをやってしまうと、やっぱり補助金なので返還義務というのが生じると言われているので、そこら辺を把握しておかないと、ちょっと注意しないといけないかなと思うので確認をします。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　補助金による施設を建てたときの処分の制限期間ということだと思っております。

資料が２０年以上前になるので、ちょっと見当たらないところもあるんですけれど。ただ、財務省のほうが示している減価償却資産の耐用年数等に関する省令の中で、鉄骨鉄筋コンクリート造のものについて、これはなごみのほうに該当すると思うんですけれど、飲食店用、レストランに当たると思うんですけれど、これが３４年、店舗のもの、これが販売に当たるのかなと思いますが、３９年という記載になっているところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　そうしたら恐らくですけれど、２００１年にできたんですかね、だと２０４０年前後まではやっぱりその事業に沿っていたと思います。これは大方、道の駅なので、やっぱり公共の施設なので外れたことはしないとは思うんですけれど、それをやはり念頭に入れて民間の業者さんがやられるんだから、そこはきっちり話をしておかないと。ちょっとした外れたりとかしてしまうと、やはり結構重大なことになりかねないので、そこだけは留意してもらって。ちょっとかなり古いものでデータがないかもしれませんけれど、そこだけのところはしっかり協議していただきたいと思っています。

それと今までもそうですけれど、これからも毎年、指定管理者に指定管理料というのを支払われますよね。それが、なごみの里の場合は3，８０９万円になると思います。これは５年間が指定管理期間なんですけれど、これは基本的に５年間というのは変わらないんでしょうか。というのは例えば、その利益が全くなくて結構赤字が大きくなって大変になったときとか、または逆に利益が結構出て大幅に黒字になった、そういうときにその管理料って増減するものなのか。増減すれば多分、会社としてのモチベーションが上がったりとかすることもあるんでしょうけれど、そこら辺はどうなっているんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　指定管理料については５年間、原則として

変わる予定はございません。ただ、業績に鑑みてどうかという御意見だと思うんですけれども、正直その業績で例えば仮によくなったとか、そういうことで要は三保電機さんの黒字が大きくなったから指定管理料を減らせという意味だと思うんですが、そうしたことにはなかなかちょっと難しいかなというふうに考えております。

ただ、先般のコロナの期間がありましたが、ああいうときにはリスク分担という考え方があって逆にこちらから営業を止める場合がございますので、感染拡大防止のためです。そうしたときには当然損失が出るわけなので、そのために指定管理料を変更するという場合はあるというふうに認識をしております。これは仕様書等にも全部明記してあるというふうに御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　それではちなみに、５年後に例えば、前の５年間のその実績とか業績を判断して指定管理料が変化するということはあり得るんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　それは当然あり得ると考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　そうしたら今度、来年４月以降のお話をします。来年４月以降は町として、なごみの里にどのような形で関わっていくんでしょうか。というのは例えば、運営協議会とか定例会とかを開くときに町として何か関わっていくのかとか、例えば適切な運営がなされているのか定期的にチェックが入るのかとか、また監査のときにちょっと関わるとか何か、どんな関わり方があるのかを教えていただきたいです。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　基本的に指定管理の考え方というのは、我々行政が直接見ないでいいために指定管理に出すわけですから、基本はその指定管理を受けた方々にお任せするというのが基本的なスタンスです。

ただ、多分、議員がいろいろ心配されることもあろうかと、僕の想像の範囲ですけれど。あるんですけれど。監査だとか、それから指導・助言ができることはやるということは募集要項にも明記しておりますし、今後取り交わす予定の仕様書にも明記を

しております。なので、もう任せたからといって任せっ切りというわけではなくて、その都度こちらから監査に入ることもあるし、報告を求める場面もあるし、それから経理の状況等について報告を求めること、それから必要に応じて監査に入ること、そういうことは明記してありますので、役場が全く無関与になるということはないというふうにお考えいただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　ただ、そこら辺は来年以降なので、かなり難しいというか、なかなかはっきりとしたことは言えないと思うんですけれど。いや、結局ほかの市町村の指定管理のところとかちょっと見てみると、実際にやっぱり職員が入っていろいろとこうアドバイスしたりとか、中で一緒になって協議して何かやっているとか……。

多分これは勝手な想像なんですけれど、そこで入ることで町の職員さんがスキルを身につけて次のいろんなことにまた生かしていけるとか、やはり民間のノウハウを手に入れるためには町職員も関わっていくなり、いろいろその経営の参考にするとかそういうこともできると思うので、なるべくその関わるという言い方になってしまうと向こうの先方が嫌がるのかもしれませんけれど、ある程度協力し合って情報を共有するとか、やっぱりチェック機能も必要だと思いますし、そういういろんな面でこう連携していかないと、やはり最初は町民が不安を持つし、やっぱりそこを払拭する意味でも、町が関わっているところを見せるという意味でも、実際に関わるという意味でも大事だと思うので、やっていただきたいと思っていますが、どうでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　誤解のないように申し上げますが、関わらないというイメージはございませんので、むしろ積極的に関わろうと思っていますし、それから三保電機のほうも、町職員とはしっかり連携を取っていくと言っています。三保電機さんは、全国の道の駅ネットワーク連絡協議会にも入っていらして、いろいろ全国の道の駅を視察したり、いろいろな研究もされておるようです。

その中で全国的にも道の駅で成功しているところは、例外なく行政としっかり連携ができておると。行政職員との連携も密になって同じ方向を向いて、同じベクトルで

進んでいるというのが特徴だということも言っておりました。なので、そのことは我々行政のほうの立場でもしっかり連携をして、よりよい道の駅づくりに一緒に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　そうしたら今度、日原のシルクウエイのほうなんですけれど、まだこれは議決されてはいないので見通し的な問題ではあるんですけれど、先ほどの回答の中で日原のシルクウエイは第三セクターなので、第三セクターの取組というところに関しては継続的かつ定期的に把握、評価、指導を行ってまいりたいと考えておられるそうですけれど、実際にそれは具体的に何かあれば、どういうことを行っているか教えてください。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　毎年、第三セクターの経営状況の報告は、この議会の場でもさせていただいております。なので、そうした当然、第三セクターの経営状況というのは我々も把握しなきゃならないという責務があると思っていますので、そうしたことにおいては定期的にお話はしておるというところです。ましてや、うちは株主総会は町長が出ますし、取締役には副町長が入っておりますので、そうしたことで当然、経営のチェック、それから運営の在り方、そうしたものについても、町としても積極的に参画しているというふうに御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　今回のこの質問で私が一番言いたかったことは、この三保電機に関してどうかとかそういう問題ではなくて、やはりまず前提としては今回この案件が提出されたときは民間の大手とかじゃなくて、小さい会社がこうやって新しい町でその公共のことに頑張っていこうということに対しては自分も大変共感しましたし、だからそれで応援しようという意味もあります。

ただ、それだけ期待が大きいだけにやっぱり不安というか、ちゃんとしてほしいという、こうある意味厳しい目というのもありまして、結局第三セクターというのはそれも先ほど答弁がありましたけれど、公共性と企業性を併せ持ち、行政の施策を補完する法人として地域住民の暮らしを支える業務を行う重要な役割を担うと考えておら

れますが、その第三セクターが運営してきた道の駅というのがやっぱり何のために造られたかというと、先ほども言ったけれど、農業振興とか観光とか町民の福祉とか、そういったなかなかお金に代えられない大切なものを守るための組織という感覚なので、やはりそこの前提で話をしていかなきゃいけないので結構厳しい目が向けられると思います。だから、今後、厳しい目が指定管理者のほうに向けられるかもしれませんけれど、それは多分、町民の期待、裏返しは期待だと思っているので、やはりそこら辺を自覚していただきたいなと思っています。

ただ、あとそれだけにこのまだ３か月しかたっていないというところもあるんですけれど、この指定管理が決まるまでと決まってからと、やはりその説明するというのが、先ほどもおっしゃった三保電機さんが直接説明する機会もなかなかないし、そういうのはないかもしれないんですけれど、やはり町民がなかなか知ることができない。そういう場がないのでやはりそれは不安が出ているけれど、多分それは町にはまだ届いていないと思うので、そこをやっぱりもうちょっとうまく説明をして町民が応えるという、何かそこら辺の関係性がうまくできないとなかなかちぐはぐになってしまうので、やはりそこら辺が今後の課題だと思っています。これは決してこうすればいいとか解決策はないと思うんですけれど、それは今後やはり行政も議会も町民も一緒になって考えていって、みんなで情報共有できるような何かがあればいいなと思っています。

それとあと、やっぱり第三セクターで、これは個人的な考えもあるんですけれど、第三セクターの意義というのは――今まだシルクウエイにちはらは今後も続くとは思われますけれど、やはり第三セクターの意義はとても大事なものだと自分は思っていまして、第三セクターだからなかなかその経営が大変になってくる。民間の活力を入れるというのはすごく分かるんですけれど、実際に第三セクターでもちゃんと民間の力をそこの中に入れて成功している例もあります。

例えば、鉄道会社とかだったら千葉のいすみ鉄道とか、新潟のえちごトキめき鉄道とか、そういったところは要は企業のトップの社長がとてもその経営手腕がすごくある人で、その人が入ってきたおかげで一気に赤字だったものが黒字に切り替わっています。やはりだから、第三セクターでもいろんなやり方はあるので、今後これからま

たいろいろ公募で民間企業が入ってきたり、第三セクターが競争していいようになるためには、そういう第三セクター自体の改革というのも進めていただきたいと思っています。

それでは最後に、町長から、今回の質問に関して何か御意見があればお願いします。（「課長でもいいですか」と呼ぶ者あり）課長でもいいです。（発言する者あり）じゃあ、町長、お願いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　この事例に限らず、今まで私も町長を１４年やってきて、やっぱり変わるということ、それから改革をするというときには必ず町民の皆さんというのは本当に御心配があって、そしてまた時にそれは厳しい御意見を頂いているというのはずうっと繰り返しもしてきたという中で、今回もやはり新しく、しかも第三セクターから純粋な民間企業に変わるということで住民の皆さんが心配をされておる。

そして、今日の御質問も聞きながら、私が感じている以上に今回のこの指定管理者の交代というものを町民の皆さんが非常に重く受け止められているということも、一般質問をお聞きしながら感じたところでもございますので、またいろいろどういう機会があるのかというのはこれから考えていきたいと思いますが、やはり町民の皆様にそのことをまた理解をしていただくように努力をしていきたいというふうには思っておりますが、やはりある意味では民間の方に入っていただいたということは、私はある意味これまで以上に結果で示すというのが一番分かりやすい説明責任にもなるんではないかというふうにも思っております。

今回の一連の経過を一番承知をしているのは、やはり今回、津和野開発が応募されなかったという、そこの事実は非常に承知をしているというふうに思っています。これまでは第三セクターの津和野開発が、ああしてなごみの里の運営をしていただいていました。いろんな取組を利用客を増やすためのすごくよいアイデアを出して活動されてこられたことも、大変評価をしているといったところであります。

ただ、やはり温浴施設の経営負担がすごく重いというのがずうっと重なってきていて、そしてまた昨今の原油高というものが本当に大きなダメージを与えてきているという状況で、なかなか津和野開発としてもこの公共性というものを重々承知をしてい

ながらも、もう温浴施設をやはりこれ以上続けていくということは、まさに経営の存続に関わるというところでの判断があったんだろうというふうにも拝察をしているといったところであります。

そうした状況も踏まえた中で今回、三保電機さんが手を挙げていただいたというのはありがたいことでもあって、だから私はやはりこの温浴施設をどう活用して、そこのまた収益性というものに結びつけていくかというところ、すぐには結果が出ないかもしれませんが、そこに三保電機さんが入っていただいた。一番の私、期待するところでもあるといったところであります。

今後も、町としてのこのなごみの里をどういう思いでつくり、どういう思いで運営をしているのかということもしっかり三保電機さんとも話合いをしながら、その上で――これは当然、三保電機さんも理解していただいておるわけでありますが、その上で、この温浴施設を中心としたなごみの里の活用と収益性の向上というものについて一緒に取り組んで、そして今のような赤字から脱却をして黒字になっていくように、そこに１つの結果というものを示していきたいというのが私どもの思いでもあります。というところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　宮内課長は御意見、いいですか。――はい、分かりました。

それでは、次の質問に参ります。次は、ＩＣＴ教育と読書離れについてです。

質問内容は、１つ目は、現在、当町ではＩＣＴ教育を進めていますが、現在の進捗状況を伺います。

２番目に、ＩＣＴ教育を推進するに当たってのメリット・デメリットを伺います。

３番目に、学生の読書離れが進んでいるとされる現在、当町での実態はどのようになっていますか。

４番目は、学生の読書推進の対策をお考えであれば教えてください。

お願いします。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　それでは、ＩＣＴ教育と読書離れについてでございます。

１番目の御質問でございます。設備につきましては、児童生徒１人１台端末整備が令和４年度に完了しております。学校での児童生徒端末利用に係るネットワーク環境整備につきましても、令和４年度に完了をしたところでございます。

現在、各学校において、授業での利活用、学校における日常的な活用を進めているところでございますが、教育委員会としての統一的な指針を示すに至っておらず、町内学校において統一的な進捗状況になっておりません。

２つ目の御質問でございますが、ＩＣＴ教育は、様々なアプリ等コンテンツや学習環境を活用し、子ども一人ひとりに合わせた教育を実現させることができること。教員と児童生徒、児童生徒同士などの双方向のコミュニケーションを実現することができること。学校から離れた場所での学習ができること。児童生徒自身、端末を活用し、調べ学習ができることなどＩＣＴを活用することにより、これまでできなかった学習や端末によるアンケート等の一斉調査の活用などが可能となるものと捉えております。

一方、ＩＣＴ活用においては、クラウドを含めた安定したネットワーク環境の整備、セキュリティーの確保、端末の更新など設備・環境面でのコストが発生します。また、授業で活用するための教職員のＩＴスキルの向上が必須となること、端末の更なる利活用のために端末持ち帰りを進めるに当たり、教職員、児童生徒のみならず、保護者の方へのＩＴリテラシー向上を促進する取組が必要と考えております。

本町におきましては、町の統一的な指針を示すことが町内全学校において統一的にＩＣＴ教育を進めるために重要と考えており、令和５年度において津和野町ＧＩＧＡスクール構想を策定することとしており、令和６年度より統一的な指針を示し、町内全学校で統一的にＩＣＴ教育を進めていくこととしております。

３番目の御質問になりますけれども、学校図書館による令和３年度から令和４年度においての年間１人当たり貸出冊数平均は、小学校においては９１冊から１１１冊と増加しており、中学校においては２３冊から２２冊と微減となっております。町内学校においては、朝読書の実施、図書委員会等、児童生徒の取組による本紹介のポップ作成や具体的な貸出冊数の目標設定等を実施し、読書推進に取り組んでおります。

また、各学校に配置している学校司書等による「おすすめ本の選定・紹介」など児童生徒の興味関心を引くような企画を実施しております。学校の読書推進に係る工夫、

取組により、本町の学校内においては、大きく読書離れが起きているとは認識をしておりません。

４番目の御質問ですが、これまでと同様、各学校の取組を支援し、各学校に引き続き学校司書を配置し、図書館利用の促進、環境整備を行うとともに、ＩＣＴ端末の活用検討を含め、児童生徒の成長においても重要な読書推進に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　まず、私は今回この質問をしようと思ったきっかけとしては、ＩＣＴ教育に関しては昨年ですかね、ちょっと講演会を聞く機会があって、そのときに文科省の審議会か何かで推進されている方の言葉で「これからの学校教育の中心はコンピューターと英語であって、この２つがあれば大体大丈夫だ」的なことをおっしゃられまして、自分としてはもう少し子ども達にはそれ以前のたくさんやることがあるんじゃないかと思ってちょっと疑問を感じまして、質問をするに至った次第です。私には子どもがいますので、ふだんの学校の様子など小さい限りでは聞くことができます。

現在のタブレットの使用状況的に聞くと、小学校では、ある学校では毎日使っていると。中学校では今、週一、二回程度１０分ほど使っていまして、それ以外は鍵をかけて保管庫に入れていると、勝手に使えないそうです。一方で、テレビで東京とかのを見ると、もう本当に授業でブラインドタッチでパタパタやって、すごい能力があるというか、進んでいるなあと。ここで格差があるなというのは感じました。

ただ、私、個人的な意見では、そのタブレット使用に関してはちょっと否定的な考えを持っているので、正直今の状況ぐらいが自分はちょうどいいと思っています、本当は。ただ、回答の中で、町としては今年「町のＧＩＧＡスクール構想を出して来年は統一指針を出す」というふうに今おっしゃられましたけれど、大体どのような内容なんでしょうか。要は、もっとタブレットを使う頻度を上げていくということなんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　現在進めております当町のＧＩＧＡスクール構想につい

てでございますけれども、このことについては先ほどの答弁でもありましたように、まずは町としての統一的な使用の指針というものを示していきたいというふうに考えております。

あと子ども達の成長段階に応じて、そのときにどういったことの利活用をしていくかというような方向性であったりとか、それとあと、それに伴って教職員のスキルアップをしていくための研修であると。それから、端末の利用についての規定についても、改めてここで方向性を考えていきたいと思っております。

それと併せて、今後の端末整備計画といったようなことも考えております。そうした中で子ども達がというか、家庭への持ち帰り等についても触れていきたいということを考えておりますので、そうした中で町、それから学校、それとこのＧＩＧＡスクール構想においては家庭での取組ということも必要になってくると思っておりますので、そうした中で保護者さんにおいても認識すべき情報リテラシーということも、ＰＴＡでの研修会、そういったことも交えながらちょっと検討をしていきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　先週の議会で報告がありました第２次教育ビジョンの中で、生きる力を高める指標として「今年度の授業でコンピューター、タブレットなどのＩＣＴをほぼ毎日使用しているか」という問いの中で、令和４年度は１６％であるのに対して令和９年度目標が１００％になっています。だから、やっぱりこの毎日使用するということを考えられているのか。これは町の指針なのか、それとも文部科学省としてやっぱり毎日使用して慣れていったほうがいいと考えているのか、どちらなんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　これにつきましては、町の指針として例えば、今の学校からのお知らせとかといったようなものも活用ができるというふうに考えておりますし、それからいろいろなアンケートとかというようなことであっても、こういったタブレットというか、ＩＣＴ機器を利用することによって、その業務負担の軽減が図られたりとかというようなことも想定されておりますので、そういった意味を含めて

１００％と。

今現在の子ども達が成長して大きくなると、こういったタブレットというか、ＩＣＴ機器というのはもうマストアイテムになってまいりますので、そうしたところの中で、その使用方法というのも併せて子ども達は学んでいく必要があると考えておりますので、そういったところも踏まえた上で一応１００％を目標ということで定めております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　今の御意見は分かるんですけれど、ここでメリット・デメリットを挙げていただいているんですけれど、結局ちょっとデメリットのほうを取り上げると３つあります。

要は、ハード・ソフトの整備のコスト面のところ、教職員のスキルの問題、それからＩＣＴリテラシーの向上の遅れというふうに多分挙げられたと思うんですけれど、これらは意外と解決可能な短期的な視点であって、やはり自分の一番のデメリットというのがなかなかこれはデータでは出てこないものなんですけれど、その要はデジタル機器との付き合い方、子どもの付き合い方だと思うんですよ。

やはりタブレットのちょっと弊害ちゅうたら語弊があるのかもしれませんけれども、あちこちで声としては聞いているので肌感覚になってしまうんですけれど、実際にうちの子ども達にも感じるのが、とにかくタブレットをもらったらもうタブレットをずうっと見ていて、隠れて見ていて。だから、ばれたら隠すという感じ。だから、うちだけかなと思っていたら、知り合いの保護者に聞くと大体そういう子が多くて。それが結局、親が寝静まって夜中までやっているとか。

そこら辺の結局、問題点も結構全国的な問題になっていて――全国というか、もう全世界の問題になっていて、やっぱりそこら辺で何とかしなきゃいけないんかなあと思っています。だから、そこがデメリットだと思うんですよ。だから、そこに対する対策というのを考えないといけなくて。だから、やっぱりメディアコントロールというか、メリット……。もう社会はそれはそのまま進んでいるというところではあるんですけれど、必ずそこにデメリットが生じるので、そこのデメリットをいかに軽減するかということを考えないと、ちょっとやっぱり子ども達にはそれは危険だと思って

います。

ちょっとあまり時間がないので駆け足になりますけれど、資料も今日は用意したんですけれど、例えば一番下のところに「余暇に何をすることが好きですか」というところで、小学生、中学生、これは光村図書という教科書の出版社のアンケートなんですけれど、ゲームをするというのが７割、６割、ユーチューブを見る――これは複数回答なんですけれど、ユーチューブを見るというのが５割、７割、テレビを見るは５割、４割、屋外で遊ぶは５割、１割ぐらい。多分これは屋外で遊ぶというのは田舎だと思うんですよ、やっぱり。あと読書をする、動画配信を見る、ＳＮＳ。この中を見たら、ほとんどがデジタル機器のことが上位を占めています。

だから、やっぱりそういうことで、そのデジタルはちょっと中毒性があるなと思っていて、これもいろんな見方があって、科学的根拠がＩＣＴは脳に影響しないという説と影響するという説も、これは科学的に実証されていないので、まだやっぱり３０年はたたんとそれは分からないと思うんですけれど。

例えばですけれど、私も一昨年前、ＰＴＡの全国大会で山形へ行ってＩＣＴ教育に関する研修会に参加しました。そのときに高畠の高校の先生がしゃべっていたことは、ＩＣＴ教育は進めるべきではあるけれど、どこかの大学のことをおっしゃったのかちょっと忘れたんですけれど、そこの大学の教授が「高校生はデジタル機器をやめろと言ったら、やはりいけないことだと頭で認識して、やめられないけれど、やめようと努力するんですよ。だけれど、小中学生はやめろと言われても、その欲望が先に行くからなかなかやめられないんだ」という、脳科学者がそういうふうにおっしゃっていたと言っています。

あとアメリカの大学の研究でも、１０歳までにデジタル機器を与えると、中毒になる確率が高いという研究結果も出ています。それで更に今、ヨーロッパでも結構深刻な問題になっているらしくて、スマホの禁止は結構フランスとかヨーロッパ各国でやっているんですけれど、来年の１月からオランダでは小中学校でのタブレット、スマホ使用を全面禁止にするそうです。最初は解禁しとったんですけれど、結局、授業中のそうした機器の使用によって児童生徒の集中力が低下し、成績に悪影響が出ていると説明しています。そういう問題があるので、ちょっと気をつけていただきたいなと

思っています。

それとちょっと時間がないですね。時間がないから、次の読書のことにちょっと入りたいと思います。この読書もなぜ質問しようかと思ったのも、これもまたちょっと身内の話なんですけれど、子ども達が昔、本を読んでいたのが、やはり今は全然読まなくなってほとんど本を開かなくなったということで、やっぱりこれも周りの人に聞いていて、本好きの友達の子どもがおったんですけれど、その子もやはり今は調べることもすぐにデジタルでできるから、もう本は要らないちゅうて読まなくなったと。だから、そういう肌感覚で読書離れが進んでいるなと自分で感じました。

それで、いろいろ調べていったんですけれど、先ほどの回答の中では、津和野町では実際にその貸出しの数が増えたりとかして数字的には大きく読書離れが起きていると認識していないとされてはいるんですけれど、ここもまた資料なんですけれど、図１では、１日の読書時間というのが、ちょっと過去のデータはないんですけれど、２０２２年のデータで結局、小学生、中学生、高校生になるに従って、小学生は例えば全く読書をしない子が３割、低学年。高学年になると４割ちょっと。中学生だと５割超えて、高校生だと６割超えるという、これはベネッセホールディングスの資料なんですけれど、だんだん本を読まなくなっていくんですよね。だから、やはり本を読む機会というのが小学生のときが一番大事であって。

それで、ちょっと質問をさせていただくんですけれど、朝読書の実施状況というのは今どうなっているんでしょうか、町内の。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　町内の小中学校での朝読書でございますが、津和野小学校では現在ちょっと朝読書のほうには取り組んでいないというのを確認しておりますが、そのほかの３つの小学校、それから中学校の２つについては、朝読書について大体１０分から１５分程度の時間を使っているというふうなことを確認しております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　私も地元の学校のことは分かっていましたけれど、小学校はなかなかいろいろほかのことで忙しくてできないというところもあるので、そうかなと思いますけれど。その一方で、先生方とか図書館の司書の方が例えば、木部

小学校では毎週必ず１冊みんなで借りて読もうという運動をやったりとか、やはり先生達の努力によってそこは支えられていると思っています。中学校は意外と週に４回ほどやっているので、いいと思っています。ただ、結局、先ほどの資料でもあったとおり、全く読まない子と、そうやってどんどん読んでいく子と、今は二極化がどんどん進んでいっているんですよね。

それで、先ほどの資料の下にもあったけれど、デジタル機器があって本があって、どっちを選ぶかといったら、やはりみんなデジタル機器のほうを選びます。子ども達に聞いても、調べるのはデジタルのほうがあっという間に調べられるからいいとか、本だと探さなきゃいけないから大変だとか、本は難しいから嫌だとか、そういう声が多いんです。だから、やっぱりそこは教育という現場は、ある程度その嫌なこともやるという発想も、これは古い発想なのかもしれませんけれど、自分達はその嫌なことを学校でやって、好きなことは自分達がその学校帰りにやるというイメージがあったので、やはりその読書という、将来につながっていくという。ここにデータもいろいろあるんですけれど、時間がないのでちょっと出せませんけれど、そういうことを心がけてほしいなと思っています。

それであとは先ほど言ったように、読書離れとＩＣＴというのは、直接的な因果関係も科学的根拠もありません。だけれど、やっぱりＩＣＴを進めれば進めるほど、そっちのほうが便利だから読書が減っていくというところがあります。

それで、これも東北大学って結構その行政とつながって、いろいろそういうＩＣＴ教育に対するよいところと問題点をあぶり出しているところなんですけれど、そこで脳科学者の方が言っているのは、８年間その地元の仙台の子ども達の脳を調査したところ、脳が働くのは読書をしたとき、音読をしたとき、紙に文字を書いたとき、人と対面で話したときなどだそうです。

だから、先ほど教育次長もおっしゃっていたＩＣＴ教育をどう使っていくかというときは、やっぱり先生の仕事の負担を減らすとかいうこと、それからあと出席とか、そういう事務的なところの効率化、そこはとても大事なのでどんどん進めていくべきだと思うんですけれど、やっぱり先ほど世界でも例があるように、小学校からＩＣＴ、自分達がどんどん進めていくということはちょっとまだ未知なところもあるけれど、

脳に影響が出るという不安も残っています。だから、やっぱりそこは慎重にやってほしいと思いますし、その一方で、ちゃんと情報の危険、デジタル機器の危険なことを説明することが大事だと思っています。

それで、あとやっぱりそれこそ教育ビジョンの中にも書いてあるんですけれど、津和野って文化と歴史の町で、森鴎外がいて、西周がいて、安野光雅がいるという本当にアナログな文化をつくってきた方々がいます。やはり多分、津和野町としてはその風土に合わせた教育をやっていこうと思っていると思うので、それはＩＣＴを否定するわけではないんですけれど、ＩＣＴよりまずは前にすることがあるんじゃないかと思っています。

これはちょっと次回の一般質問でもやろうと思っていますけれど、例えば農業という世界をもうちょっと学校に取り入れるとか、何か自然とか手で触ることとか、アナログなことを取り組んだ先にデジタルをやっていってほしいと思っています。

最後にちょっとお伺いしますけれど、読書推進計画って津和野町で今つくっておられるのか、今後つくられるのか、お聞かせください。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　読書推進計画につきましては、当町のほうではまだちょっと策定をしておりません。

ただ、先ほどから議員さんの御指摘がありましたとおり、考える力、言語能力、問題発見能力といったことは、読書によって育まれていくということは我々も認識しております。そういったことを踏まえた中で、今後この読書推進計画の策定については検討していきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　それでは最後に、ちょっと教育長にお伺いしますけれど。多分、教育長も自分とそんなに世代が離れていないので、小さい頃、例えば川で遊んだり山で遊んだり、虫を捕ったりとか、そういうことで今の自分があると思うんですよ。自分もそうなんですよ。やっぱりそれが津和野のよさだと思いますし、その一方で、否定するわけじゃないんですけれど、都会ではやはりその情報をいかに早く取って世界に羽ばたける人材をつくるために、そのＩＣＴ教育にスポットを当ててや

るという考え方とはちょっと違うので。

要は、教育のビジョンとしては、津和野はそっちのほうは得意じゃないけれど、自然が豊かにあって、そういう人達はいらっしゃいっていうふうにアピールしたほうが津和野らしい教育ができると思うんですよ。なので、教育長の個人的な考えでもいいんですけれど、やはり津和野の教育とＩＣＴに関して何かありましたら、ぜひお聞かせください。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　いろいろな御意見を頂きましてありがとうございました。私も子どもの頃は網を持ってカブトムシを捕ったり、川に入って魚を捕ったり、田中議員と同じようなことをしておったというふうに思っております。

今、議員が言われますように、本当に読書というのはやっぱり読解力や語彙力をつくっていくという何か非常に大切なことだというふうに思っています。そういった読書も推進していく中で、津和野町としての風土というふうなお言葉もありました。本町におきましては、副読本として、津和野の歴史あるいは津和野の自然という副読本を作成しておりまして、それを各学校のほうにお配りをして総合的な学習時間等に活用をしていただくようにお願いをしていっとるという状況がありますので、そういったものを活用していく中で、そういった今、議員がおっしゃいました津和野の風土という部分は大切にしていきたいというふうに思っております。

その一方で、やはりＩＣＴ推進につきましては、これはもうああして国がハード面等の整備をしてきており、補助金等も活用しながら進めておるところであります。今後におきましては、そういったＩＣＴの推進が図られるように、統一的なそれぞれ学校での進め方というものをまずは整理をしていきたいというふうに考えておりまして、ＧＩＧＡスクール構想、これにつきましては計画策定委員会というものをちょっと組織化させていただいて、その中には各学校の校長先生、小学校１つ、中学校１校の校長先生あるいは各学校からそういった担当の先生に出ていただいた中で、いろいろ意見を頂いてつくり上げていきたいというふうに考えております。

また、そういった中で今日、議員のほうから御意見いただいた部分も相談、協議をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　すみません、最後になりました。最後に、先ほどちょっと出した東北大学の脳科学者の言葉があるんですけれど、ＩＣＴを教育で使うのは休校要請があったときのオンライン授業とか、共同学習するときのスライドづくり、あるいは識字障害があるなど、ＩＣＴが助けになる子の利用など必要なときにとどめて、それ以外の授業では今までどおりでいいと思うそうなんです。特に、やはり脳が未発達の小学生の利用は慎重に検討してほしいと言っています。

カーナビを使うと地図を忘れるように、キーボードに入力すると漢字が書けなくなるように、使わないと脳の機能はどんどん失われていくと言っています。子どものＩＣＴを使った教育が公教育の中で続けられたら、９割の子どもは自分で考える力を失うでしょうと。これは脳科学者が言っている言葉なんですけれど。だから、この方が言うには多額の予算をかけて、なぜこのようなことをして行っているのか、そこをちょっと疑問に感じています。

それとＩＴ企業が集積するアメリカのシアトルで、これはＮＨＫの番組でやっていたんですけれど、マイクロソフトとかＡｍａｚｏｎとか、巨大ＩＴ企業が働く人達が多く暮らしている場所の学校は、実はＩＣＴを取り入れていないということです。巨大ＩＴ企業のエリートな親達が、実は自分の子どもをコンピューターが１台もない学校に通わせるのがトレンドになっているということでしたけれど、そこでの学校の先生が言うには、世界や人間を理解する前の子どもがタブレットやスマートフォンを使うと、自分で考えられなくなります。人間同士の関係がつくれなくなってしまいます。できる限り多くの生身の人間を経験させることのほうが大事なのです。ということなので、やはりそれを持った状態でＩＣＴ教育を進めていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、９番、田中海太郎議員の質問を終わります。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日は、これにて散会とします。お疲れさまでした。

午後２時40分散会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和５年　第７回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第３日）

令和５年12月13日（水曜日）

議事日程（第３号）

令和５年12月13日　午前９時00分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　一般質問

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　一般質問

出席議員（11名）

１番　道信　俊昭君	２番　大江　　梨君
４番　米澤　宏文君	５番　横山　元志君
６番　沖田　　守君	７番　御手洗　剛君
８番　三浦　英治君	９番　田中海太郎君
10番　寺戸　昌子君	11番　川田　　剛君
12番　草田　吉丸君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長　中田　紀子君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	岩本　要二君	税務住民課長 ……	山下　泰三君
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	清水　浩志君
農林課長 ……	小藤　信行君	商工観光課長 ……	堀　　重樹君
環境生活課長 ……	野田　裕一君	建設課長 ……	安村　義夫君
教育次長 ……	山本　博之君	会計管理者 ……	青木早知枝君

午前９時00分開議

○議長（草田　吉丸君）　おはようございます。引き続いてお出かけをいただきましてありがとうございます。

これから３日目の会議を始めたいと思います。

寺戸昌子議員より、遅刻の届けが出ております。

ただいまの出席議員数は１０名であります。定職数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（草田　吉丸君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は会議規則第１２６条の規定により、２番、大江梨議員、４番、米澤宏文議員を指名します。

日程第２．一般質問

○議長（草田　吉丸君）　日程第２、一般質問。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

発言順序６、１１番、川田剛議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　おはようございます。議席番号１１番、川田剛であ

ります。通告に従い、質問をさせていただきます。

このたびの質問は、各種建設事業や整備計画の再考についてであります。

現在、津和野町学校給食センターの建設工事が行われておりますが、同時に、いわゆる丸久が入る予定である地域活性化複合施設整備工事も行われております。

また、令和５年５月には、津和野町集会施設整備計画が示されました。この計画に基づき、本年１１月臨時会において、旧第２庁舎の解体工事の予算が計上され、可決されております。この工事は、令和６年度から令和７年度にかけて、新築工事が予定されております。また、津和野町民センターは、耐震補強・改修工事が令和８年度から令和１０年度にかけて予定されております。公民館の耐震診断が、令和９年度から令和１０年度、津和野庁舎耐震補強工事が、令和６年度から令和７年度と説明を受けてきました。

さて、津和野町学校給食センター建設工事においては、物価高騰による予算増額について説明を受けている最中であります。上記の事業は、町にとって必要なものであることは認識しておりますが、物価高騰が続く中、建設事業や改修事業等が立て続けに行われるということは、町財政に大きな影響を及ぼすと考えます。

また、少子高齢社会の中にある本町においては、施設の在り方を考えなければならないと考えます。

そこで、これから質問を始めさせていただきます。

まず、津和野町集会施設整備計画は、現時点でどのような計画になっているのかをお尋ねします。そして、このことについて、町長、教育長の所見をお尋ねします。

次に、地域活性化複合施設整備工事、いわゆる丸久が、日原分遣所前の町有地で行われております。当該地に決まる以前は、本年の２月の全員協議会において、マルシンの店舗、敷地及び建物を津和野町が購入し、新店舗に移るまでは丸久に賃貸借契約を締結し、事業承継する旨の説明を受けております。丸久が日原分遣所前の新店舗に移った後のニチマルの店舗の利活用計画と、駐車場にする予定であった現在のニチマル周辺の建物はどのようになるのかお尋ねします。

次に、旧第２庁舎に集会施設が建設された後、現在の日原中央公民館、教育委員会が入っている旧日原工業敷地建物、旧本庁舎について今後の計画をお尋ねします。

また、日原中学校旧むつみ寮についても住民の懸案事項となっております。厳しい財政状況の折、これら日原の中心市街地はもとより、今後の整備計画については、町長部局、教育委員会部局が課題や情報を共有し、いま一度再考すべきと考えますが、町長、教育長の所見をお尋ねいたします。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　おはようございます。それでは、１１番、川田議員の御質問にお答えさせていただきます。

各種建設事業や整備計画の再考について、①から②についてでございます。

①番の御質問ですが、５月２６日の議会全員協議会において、津和野町集会施設整備計画について説明させていただきましたが、今年度につきましては、日原山村開発センター代替施設整備事業として、旧津和野町役場第２庁舎撤去工事の実施設計が終了し、１２月４日に撤去工事の入札を実施したところです。

また、解体後の同敷地造成工事の実施設計業務と、施設建設工事の基本設計及び実施設計業務につきましては、今年度事業として発注を行い、進めているところです。

造成工事については、令和６年度の上半期に実施し、施設建設工事については、令和７年度に実施する予定で計画を進めております。

財源としましては、令和６年度デジタル田園都市構想交付金を活用したいと考え、現在、申請の準備を進めているところです。

また、津和野町民センターの耐震補強、改修工事につきましては、日原山村開発センター代替施設の建設が完成した後に、実施する計画としております。

なお、現在、中期財政計画の見直しを進めておりまして、津和野町民センターの耐震補強、改修工事及び公民館施設の耐震診断等については、実施年度についても再検討しているところです。

②番目の御質問でございますが、日原地域におきましては、集会施設であった日原山村開発センターの使用が困難となり、地域住民の皆様の文化活動やサークル活動を行う場所が制限され、地域活動が縮小傾向となっている１つの要因と考えております。同施設建設は、日原地域活性化の拠点として必要不可欠なものと捉え、計画に基づき進めていきたいと考えておりますが、一方で、町財政に与える影響が大きいことは言

うまでもなく、昨今の物価高騰等の情勢も踏まえ、施設建設に当たっては、規模や使用用途など、より慎重に検討を重ねる必要性を認めております。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、３番目以降の御質問については、私のほうからお答えをさせていただきます。

現在、有限会社マルシンが所有しておりますニチマルの店舗敷地及び建物につきましては、令和６年３月中旬を目途に、町が購入することで調整を進めております。店舗につきましては、昭和４３年６月に建築され、建築後５５年が経過しており、雨漏りや床の凹凸など老朽化が著しく、耐震基準を満たしていない状況であるため、利活用はせず、国の空き家対策総合支援事業を活用して、令和７年度に解体する計画にしております。

また、駐車場にする予定でありましたニチマル周辺の建物等につきましては、現時点では、町で購入等の計画はございません。

続いて、４番目の御質問ですが、現在、旧津和野町役場第２庁舎撤去工事の関係で、シルバー人材センターに旧津和野町役場本庁舎への仮移転をお願いし、１２月から旧本庁舎にて運用を開始しております。集会施設が完成いたしましたら、基本的には、日原公民館や教育委員会日原窓口の機能を新しい集会施設で行うことを想定しておりますので、現在、教育委員会日原窓口と日原公民館が利用している建物につきましては、空くことになります。シルバー人材センターからは、本移転先を模索する中で、当該施設の貸借の希望も伺っているところでありますが、その他の利用方法についても、慎重に検討する必要があると考えております。

また、日原中学校旧むつみ寮につきましても、建物の老朽化が進んでいることから、中期財政計画の見直しの中で、撤去に向けて検討を進めたいと考えております。

５つ目の御質問でありますが、今後の整備計画につきましては、まずは、令和５年３月に策定した津和野町まちづくり基本計画に記載がありますとおり、既成市街地ゾーンとして居住性、生活利便性と防災の視点から導入する機能を検討し、住民の皆様の意見等を踏まえながら、既成市街地ゾーンの一体的な整備に向け、今後、具体的な計画を策定していきたいと考えております。

また、これまでも毎月開催している庁議により、課題や情報の共有を行いながら、中期財政計画も鑑み、慎重に検討を進めていきたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　このたび、質問にあげました施設ですが、このたびの給食センター、このことだけではないのですが、物価高騰の折に様々な建設計画、改修計画が上がっていることに対して、町民の皆様から、津和野町の財政は大丈夫なのかという懸念の声を聞いております。中には、必要性があるのかという声もありますが、要る、要らないという話ではなく、この町にとって必要なものというのは私も認識しております。

そういった中で、これまでの財政の考え方というところで、津和野町中期財政計画、令和３年度から令和７年度という当初に立てられた計画においては、実質公債費率が、令和４年度は９．８％と予想されておりますけれども、実際の令和４年度決算においては、１０．２％ということです。１０．２％とありますが、それでも計画的に推移してきているのだろう、努力されてきているのだろうと思っています。

一方で、これまで計画されてきた普通建設事業費などは、当時からは大分見直しがされて変わってきているとは思うんですが、しかし、この物価高騰というのは、今になってみれば何となくは分かりますが、その策定した当時は絶対に予測できなかったものだと推察します。

そうした中で、現在の中期財政計画、見直し中かもしれませんが、今後の見通しについて、これまでの見解と、見直しする中での今後の見解について、お尋ねをしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　津和野町のいろいろな町政を進めていく上で、御承知のとおり、この中期財政計画を定めながら、財政状況を勘案し、それぞれの事業を具体的に実施してきているという状況でございます。

この中期財政計画でありますけれども、津和野町は、要は歳入の多くを国からの地方交付税によっているということであります。まさに依存財源が、非常に割合が大きいという状況でありますから、いわゆる毎年の地方交付税の動向に、実質公債費率、

これはまさに分母にあたるところです、交付税というのは。そこにも大きく左右をされるというような状況であります。この地方交付税の動向というのは、ある程度の人口減少とかそういうことも加味しながら、中期財政計画に盛り込んでおりますが、やはり毎年毎年、この交付税、できるだけ見込みよりも多くいただけるように、毎年努力をしているという中で、ありがたいことに、ここ数年はずっと計画よりも多くの交付税を配分いただいているというような状況であります。

そういう毎年の交付税の結果を見て、そしてまた更に毎年、この中期財政計画の見直しを常に町としてしているというような状況でもございます。

そういうことから、今後についても、まさに物価高ということも合わせて加味をしながら、中期財政計画というのを毎年のチェックの中でしっかり見直して、そしてまた財政に大きな影響が与えないように、そういう観点でまた事業実施も検討していきたいと、そのように考えているといったところであります。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　当然、交付税の人口が減ってくる中で、交付税も減ってくるでしょうし、補助金がその年に何があるかというのも、なかなか見込みが立たない中で、でもいつかはやらないといけない。そのタイミングというのもすごく難しいと思いますが。しかし、建てられた年が昭和４０年代ということで、５０年以上も経っている建物。それは確かにどんどん更新しなければいけない。その１つが給食センターもそうだと思います。

１つの考え方として、合併ということも考えないといけないのかなというふうに思っています。それはやはり２つの町が１つになったことによって、施設を集約させていくという考え方だと思いますが。これまではどちらの旧町に建てるかという話だったと思うんですけれども、そうではなくて、人口減少の中で考えていかなければいけないのかなと思っております。

先日、我々議会のほうも未来の年表というのを執筆されております河合先生という方が人口減少の講演をされました。その後、私も書籍を取り寄せまして、いろいろ勉強させていただいたんですけれども、御存じのとおり、２０２５年問題というのがあって、都会地のほうでは高齢者が多くなるよという話です。

一方で、この津和野町はこの１０年先を通っていまして、走っていまして、結局、高齢社会の真っ只中にいる中で、今度は少子化というよりも少子社会になっていっている。その少子社会の中で人口が減っていくというのが、もう減るというレベルではなくなって、それが結局、社人研などが言っていました、自治体がなくなるかもしれないというレベルに差し掛かっているんだろうと。それを食い止めるために、各自治体それぞれいろんな事業を通して人口減少の歯止めをかけているんだろうというところだと思います。

その中で、この先生がおっしゃっている中で、１０万人規模というのが１つの重要なポイントだというふうにおっしゃっておられます。これまで一極集中だとか分散型だとかいろんな考え方がある中で、多極集中というのをおっしゃっておられまして、どうしても我々議会ですとか行政にとっては、区分というのを自治体ですとか、県、地方公共団体の線引きで考えてしまいますけれども、先生は人間にとってそこは重要ではなくて、住んでいる方、津和野町でいえば阿東町も商業圏であったり、萩市も商業圏であったりして、県境を越えて生活をされている方がいるんだと。そうした中で、その規模、生活が維持できる規模というのが１０万人というお話でした。この辺りの人口で言いますと、吉賀町、津和野町を足して、大体１万人としても、益田市でも４万人ですので、足して５万人しかいない。そうしたときに浜田市を含めるとやっと１０万人の圏域になってくるわけなんです。山口市を入れるか入れないかまた別になってきますけれども。

そうしたときに、１０万人規模でじゃあ何があるかというと、まず商業が生き残れるそうなんです。例えば、コンビニエンスストアというのは、大体３，０００人から２，２００人の商業圏がなければいけない。１０万人の規模ってどれくらいかと言いますと、映画館があったり、博物館、美術館があったり、公認会計士事務所、法律事務所、大学などがあったり。２０万人以上になってきますと百貨店、短期大学、こういったものが将来存続できるであろうという人口の位置づけです。

じゃあ、この津和野町の今人口が大体６，０００人ぐらいだとしますと、今後、存続できるであろうと言われているものが、葬儀社、銀行、学習塾、訪問介護事業所だそうなんですが、１万人を切ってしまうと介護老人保健施設やフィットネスクラブ、

スポーツ用品店など、そういったものは残っていけないんだと。スーパーマーケットなんかは１０万人の規模でなければ、１０万人規模に１店舗、それだけで十分だという考え方だそうです。これはどういったところから出しているかというと、国土交通省の資料をもとに先生が計算されております。そうした中で、現在、丸久さんが進出して来られますけれども、こういった規模のものはどうかというと、大体５，０００人以下で１店舗。この規模というのが３，０００人の規模であれば、今後も存続できるであろうと。２，２００人規模になってくると、これは残るのが大体５０％の割合でしか残っていかない、今後も存続していかないという状況だそうなんです。

そうしたときに、今、まちづくり計画というのが、津和野町は作られました。その中で、この新規の誘致ゾーンですとか、既成市街地ゾーン、駅周辺ゾーンと、こういったところで区分をすみ分けております。要は、この日原地域、津和野地域にどれだけの人口がいれば、これだけの機能が維持できるという考え方からいけば、この丸久の存続というのはありなのかなと思っています。

それと、集会所施設ですけれども、これも大体２００人の規模で１か所という計算されております。これも２００人の規模であれば、周辺市街地が２００人いれば維持できるということで、これは当然必要な施設なんだろうというふうに感じております。なので、今後、津和野町のこの人口を増加させるとまでは言わないにしても、維持させていくためには、これらの機能を１０万人規模の中で維持させていかないといけないというのは、私は賛成です。ですので、どんどん１０万人規模、浜田市、益田市、津和野町、吉賀町で１０万人規模だから、だったら合併して１つにしてしまってなくしてしまえということではなくて、それでも必要な規模なんだということが言いたかったわけなんですが。

ですが、しかし、現在、この物価高が続いている中で、果たして今建設する必要性があるのかというところを、ここをもう少し考えていただきたいと思っております。実施年度について、津和野町民センター等は実施年度についても再検討をということなんですけれども、今後の集会施設について、規模、使用用途などをより慎重に検討を重ねていくことの必要性を認めていただいているということなんですけれども、規模、我々が想像するのは文化ホールから集会所まで、ものすごく山村開発センターの

集会施設というイメージで幅があります。そうしたときに、どれくらいの規模のものを求めているのか、どれくらいの規模のものだと住民の皆さんが納得していただけるのか、その辺りどういうふうな検討をされているかお尋ねをしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　いろいろ広域化という枠組みの中でもいろいろな事業も考えていかなければならない。それはまさに本当におっしゃるとおりだろうというふうに思っております。

今回のこの給食センターも、もともとの出発点は、当時、議会のほうにもいろいろお諮りをして、御了解をいただいてやってきているというところでもありますが。現行、今、日原と津和野とそれぞれの学校施設に併設して給食を作ってやってきた。それを、やはり今の時代に即して１つにまとめたいということも当時提案させていただいたというところであります。そのときもいろいろ、議会も議論があって、やはり日原、それぞれの学校で密接して作っていくということが非常に大事なので、１つにまとめるというのはどうかという御意見も当然いただきながら、そこでいろいろな議論があった中で、やはり今の時代、先を見越して１つにまとめていこうというところに議論が至ったというところであります。

そういう過程もあって、現在のこの津和野の中学校のほうに、ほかのところにセンターで作るのではなくて、せめて１つは学校の側に残そうという中でのそこの位置の選定もあったというような経過をしてきたというところでもあります。

我々としても、やはり議員の御指摘のように、人口減少の中で、やはり施設ももう津和野、日原ということではなくて、まとめるものは１つにしていこうという考えの中で、これまでも進めてきたというところであります。

それともう１つは、やはり更に広域、益田市から吉賀町、浜田までという話、まさにこれもそのとおりだろうと思っておりまして、これはもう御承知のとおりでありますが、これまでも消防業務、介護の関係の業務は、益田広域の中でやってきましたし、それからごみ関係、それから不燃物処理とともに、し尿処理、ケーブルテレビもそうでありますが、これは吉賀町と共同での事業というのをこれまでもやってきたと、そういう状況であります。

今後も、やはりこれからの時代を見越した中で、現在水道料金がいろいろ今からの話になっていまいりますが、水道ももう津和野町だけでなかなかこの会計が難しいということで、できれば島根県全体で。まずは先に一足飛びに行かなくても、益田圏域の中でスタートするとか、そういう水道事業の広域化ということについても、現在いろいろな議論がなされているというところでもありまして。そうした中で、やはり事業の効率化というものを図っていく必要があるかと思っています。

それから、国保の関係も、これも今一元化ということでやってまいりましたが、料金はもうそれぞれ別々でやってきたという中で、いよいよ今回料金の統一化も県全体として図ろうという具体的な動きが今出始めているというようなところでもあります。

町としても、そういう状況もしっかり把握をしながら、やはり広域的にできるものは広域的にやっていくという、そういう的な財政の負担を軽減するという意味からも、常にそういう検討はしているというところでも、また御理解もいただければと、そのように思っております。

最後に、集会所施設、今後どうするかということでありますが、現在こうして給食センターも増額をしたという、お願いしているという状況の中で、いま一度、中期財政計画も見直しているという、そういう状況であります。その中で、中期財政計画に乗せている事業を取りやめられたり、延期できるものはしていこうという議論を、庁議の中でもやっております。その中の１つの中で、この集会所施設をどうするかということも、今議論に乗せているといったところでありまして、まだ結論は出ておりません。選択肢には、一旦取りやめるか、あるいは延期をするかということも、当然、検討の選択肢には入っているのも事実でありますが、一方で、この問題はやはり山村開発センターのいわゆる施工不良問題、建設当時の、そこに端を発して。そして、ずっと今、日原地区の皆さんは集会所施設がない、そしていろんな社会活動や文化活動がずっと長年できてきていないという、今、大きな課題もあって。更にここでまた引き延ばすのかという意見も、庁議の中でも出てきているというのが、実際のところであります。

だから、そういうことも踏まえて、今後、この集会所施設をどうしていくのかということと併せて、もう１つ財政的な観点から言うと、デジタル田園都市交付金を導入

していこうという、今、計画であります。これも、簡単に国がお金をいただけるわけではないので、商業施設もそうでありましたが、交付金をいただくために、いろんな努力をしているというところであります。そんな中で、ちょっと言い方が誤解を生んではいけませんが、町長としての政治的な勘所という中で、今、交付金、これ集会所施設を建設することで、交付をいただける確率がかなり高くなっているのではないかという見込みをしているという状況である。ですから、これを延期して、また三、四年後に集会所施設をやろうとしたときに、このデジタル田園都市交付金がいただけるかどうかというのは、また確率の問題として、振り出しに戻っていくというような状況もあるというふうに、これはもう今日、率直に申し上げておりますが、そういうような、私自身の勘所として思っているといったところであります。

ですから、今回は２億円という大きなものを交付金でいただくということになります。商業施設で２億円もらって、更に津和野町もらおうという、ある意味では図々しい話かもしれませんが、私としては少しでも多くの交付金をもらえるように、一生懸命頑張っているという状況であります。ですから、そういうタイミングの問題というのがあります。

そしてもう１つ、この交付金をいただくためには、総事業費は４億円以内に抑えていかなければならないという事情がございます。じゃあ４億円というものが総額の事業費として念頭においた中に、これをどういう施設を、規模感を作っていくのかというのが、また今度の我々の今の検討課題にもなっているといったところであります。

ですから、４億円という規模感でいうと、なかなか開発センターを完全に復活するような、そういうものはまず現実的に不可能であろうというふうに思っております。ですので、これは日原地区の皆さんにとっては御不便おかけしますけれども、やはり催し物、ステージのような催し物は、やはり今のような日原小学校の体育館をうまく使っていただいて、そして今回新しく作る集会所施設については、少々大規模な会議をしたりとか、あるいは何とか調理場は作っていく必要があるんじゃないかというふうにも思っておりますが。そういう最低限のものを用意をしながら、この４億円というものに抑えていくということを図っていく必要があるんじゃないかというふうに私自身は感じております。

もちろんこれは行政側だけの思いだけで進められるものではありませんので、これから町民の皆さんにある程度のレイアウトやデザインが出来上がったときには、またお示しもしてやっていきたいというふうにも考えているところであります。実際、最終的にまだこれをいつやるかというようなことも、庁議の中でも再検討している状況でありますから、また年明けの段階ぐらいで我々としての方針を決めて、議会のほうにもいま一度こういう計画でやっていきたいということをお示しをして、了解を得て進んでいきたいというのが、現時点での私の思いでございます。

そして、今もう１つ懸案材料は物価高でございますから、結局我々が当初設計をしたものよりもどんどん材料費とか労務賃が上がる中で、給食センターはまさに今のような状況になっているというところであります。

今回の集会所施設も、まだ物価高というのは続いている中で、しかも４億円に収めなければならないというそういう縛りもあって。そうすると、我々どういう設計をしていくのかというすごく苦労が今出ているわけであります。４億円に抑えるためには、かなり材料費等も厳しく、厳しく見積もった形での設計をしなければならないというところです。だけれど、もし物価高が更に続くようだと、また当初の設計で組んだ予算から増額というような同じケースになって、また議会にもいろんな議論をお願いしなければならないという、御心配をおかけしなければならないというような実情にもなる。そういう今、難しさも我々は感じているというのが、この今の集会所施設の検討段階だということです。ですから、１月のまた全協等では、そういう実情もしっかりお話をして、そして今、国の動き、物価高の動き、そういう中での我々が検討した結果がこうですということを議会にもお示しをして、全てをまた議論していただいて、この集会所施設については進むかどうかを、また議会とともに共通理解の上で進めさせていただきたいというのが今の私の思いでございます。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　恐らく、今後全員協議会の中で説明いただく内容を踏み込んで御説明いただいたということに感謝申し上げます。

ただ一方で、我々、今まで経験してきましたけれども、公共施設というものはやはりどんなに思いを込めて作っても、町民の皆さんが１００％理解してもらえるものっ

てなかなか難しいんだと思います。こうしとけばよかったのに、もっとこうすればいいのに、とそういったところもあります。そうしたときに、山村開発センターの後の集会施設、これは本当に思いのある方は様々な思いを持っていらっしゃると思いますので、当然全ての願いをかなえることはできないかもしれませんが、例えば、今思いつくところで言うと、バリアフリーの部分ですとか、炊事、洗面のそういった部分、我々ではなかなか気づかない、実際に使われている方の思いというのも、そういったところは汲み取っていただいて、できるだけ利便性の高いものを作っていっていただきたいと。また、その設計、建築する時期、その判断というのはものすごく難しいものがあると思いますけれども、また議会と話をしながら、理解を深めながら慎重に進めていっていただきたいと思います。

今度、集会施設に入る際に、今これちょっと提案にもなるんですけれども、今使われている日原公民館、教育委員会と一緒に入っているわけなんですけれども、恐らく今後、集会所施設を建てたらそこに移転するというような御答弁と認識しております。ただ、今、私が思うに教育委員会、山村開発センターの頃からそうなんですが、山村開発、集会所の中に教育委員会が入っているというのが、何か当たり前のような感じになっているのかなと思うんですが、この本庁舎に入ってもいいんじゃないかと思うんです。例えば、今の教育委員会の中に公民館があるといいますか、公民館と共存しています。そうしたときに、一般の方々も出入りされるわけです。現在、教育委員会日原窓口のほうでいろんな仕事もされていると思います。本来目にしてはいけないものもその机の上にあるんじゃないかなと思うんです。そういったセキュリティの観点からも、教育委員会は公民館ではなくて、本庁舎に入るべきだと私は思うんですけども。今後これから、ここで答えは出てこないかもしれませんが、セキュリティの観点、それから本庁舎で役場に来られた方がここで窓口業務が終わる、そういったところで本庁舎にあったほうがいいんじゃないかと思います。当然、公民館と教育委員会が隣接することでのメリットもあると思うんですけども、やはり教育委員会、役場の機能の１つですから、本庁舎にあったほうがいいと思いますが、この辺はいかがでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　今、議員のほうから、日原公民館、教育委員会の日原窓口、そういった組織の在り方といいますか、いろいろと御意見をいただいたところでございます。確かに本庁舎のほうにそういった教育委員会機能を持たせるということも１つの考えであろうかと思いますので、この辺につきましては、やはり組織の体制等の観点もございますので、また内部のほうで慎重に検討させていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　それと、ニチマルの跡地利用ですけれども、解体して、その後の利活用といいますか、町の敷地が造成されるという認識でよろしいんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　お見込みのとおり、解体後は町の敷地になるという予定です。ただ、その後の利活用につきましては、今のところ町長の答弁にもございましたが、まだ具体的な計画等はございません。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　今、進めている段階ということですので、これ以上聞いても答えは出てこないと思います。ただ、このまちづくり計画というのを作りました。そしてニチマルの跡の丸久さんがいろんなところで計画されて、現在のところに建ってきています。

当然住民の方はいろんな意見があると思います。なんでここに建てたんだという方もいまだにいらっしゃいますし、こっちにできたんだから使ってあげないといけないという方もいらっしゃいます。

一方で、やはりその当時から町筋のほうからは買物する場所が遠くなると、歩いていける方ではなくてほとんどの方が車で行かないと、日原の町の中でも厳しいというお話でした。

そうしたときに、先日の全員協議会の中で丸久さんと実施されている買い物支援、買い物支援サービスが始まるということで、そういったところが利活用されるんだと思います。今後、むつみ寮の話も出しましたし、今の日原公民館が入っている施設、

本庁舎、そしてシルバー人材センターと、いろんなところが移転して、今後どうなっていくんだろうという町民の皆さんも疑問に感じております。

今後、このまちづくり計画を基にしていくのか分かりませんけれども、しっかりと住民の皆さんの意見も聞きながら、跡地利用としてもきちんと利活用できるように期待を申し上げます。しっかりと町民の皆さんと、また庁舎内でも議論をして、住民の皆さんがより納得できる解決策をお願いして、質問を終わらせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、１１番、川田剛議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで９時５０分まで休憩といたします。

午前９時37分休憩

……

午前９時50分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続きます。

発言順序７、１番、道信俊昭議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　それでは、質問を始めます。

私の質問内容は、町民が知ることという１点の事項ですので、答弁書の中には２つに分けて書いてありますけれども、これは相互に関連してきますので一挙にお答えを、いっぺんにお答えをお願いしたいと。少々長いですけれども、お答えをお願いしたいと思います。それと、私のいつもの一般質問ですけれども、全て町長が答えていただくということでよろしくお願いいたします。

それでは質問事項ですけど、今回の町民が知ることというのは、私からしたら憲法、国民の知る権利、まずこれが大前提です。それからそれに基づいて法律が作られまして、情報公開法というものが当然上位法にありまして、その下というよりも、逆に先に条例ができたようなんですけれども、津和野町においては津和野町情報公開条例というものがありますので、それに基づいて一応組み立てたつもりでありますのでよろしく御答弁願います。

内容に入ります。まず、なごみの里道の駅の経営者が変わりますけれども、株式会社津和野開発、これ第三セクターについてですが、この第三セクターというのは、私

らは気軽に三セク三セクと言っておりますけれども、それじゃあ、一セク、二セクってあんのかいのと思って、取りあえず町民の方にも知っていただくという意味で、一セクというのが町が経営するもの学校などです。それから二セクというのが民間が経営するもの、これが二セク。そして、その一セクと二セクを合わせたものが三セクというので、一セク、二セクというのがあんまり今まで使われてこなかったので、今のちょっと説明をしておきます。

役員会、これ突然出てきまして、役員会、副町長も役員の１人での決定はあったのか、会議録はあるのか。そして、株主総会は開かれたのか、会議録はあるのか。

３番目に、今回断念した最大の理由は何なのか。

２番目が、株式会社三保電機、これは第二セクターですが、その事業計画書についてです。

１番目が、新しい経営者のもとで現在の従業員の勤務体制が大きく変わる可能性はあるのか。非常に今おられる方が不安に思っておられます。

２番目が、赤字の元凶と言われてきた温浴施設に対して何か大幅に変わる可能性があるのか。いろいろ情報が私なりにつかんではおりますが、町のほうからの言葉を聞きたいというふうに思っております。

次が大きな括りで、なごみの里向かいの町有地にホテルを建設と言われていますがこれについて。

先日、地元の人から連絡がありまして、地盤調査をしているらしいというのがありましたので、私も早速そこへ行ってみました。矢倉が組んでありました。何のための調査なのか、これをまず教えていただきたい。

そして、その費用はどこから出たのか。建築基準法上では、これは事前着工にはならないのではありますが、町の所有地をある日誰かが勝手に調査しているというのは実に不思議なものだというふうに思って、お聞きします。

２番目が地元説明会というのはいつ行う予定か。すみません、予定されているホテルの名前は、前回の私の一般質問の中で述べましたが、それほど意味があるものでもないですので、名前というよりも形、業態です。このことについて、これから質問してまいります。第３の質問をしてまいりますので、これはもうあまり意味がありませ

んので、これを聞く気はありません。

３番目が、地元説明会。地元というのはただ単にその周辺だけという意味じゃなくて、ほかにも町全体とか、それから関係者とか、こういうこともありますので、地元説明会はいつ行う予定かということ。

それから４番目が、あの土地というものは町の土地ですので、財産審議会の意見を聞くべきだと思うがどうでしょうかということです。

それと最後に、なごみの里と道の駅とホテル（予定）の関連はあるのかということをまず最初にお聞きします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、１番、道信議員の御質問に答えをさせていただきます。

町民が知ることについてでございます。

まず、株式会社津和野開発についてでございますが、指定管理者が公募される旨の状況報告は役員に対して行ったとのことでありますが、応募対応をしないことの決定は役員会には諮らず事後報告を行ったと伺っております。また、報告を行った役員会の詳細な会議録はないと伺っております。

また、役員会での報告ののちに、臨時株主総会が開催されております。また、臨時株主総会の詳細な会議録についてはないと伺っております。

次に、株式会社津和野開発におきましては、積年の経営的な課題であった温浴事業におきまして、集客増と費用の削減に努めてきたところ、その効果は薄く、更に水道光熱費の高騰という逆風も加わったことで先行きが見えず、経営改善の目途が立たない状況であったことが指定管理者の申請を断念した理由として大きなものであったと伺っております。

２つ目の御質問の三保電機株式会社の事業計画書についてでありますが、現在株式会社津和野開発の従業員として津和野温泉なごみの里での業務に従事されている方の雇用につきましては、御本人の希望に沿う形で面談の上、継続雇用されることを確認しております。継続雇用を希望されない方以外での大きな変更はないものと認識をしております。

次に、管理費の多くを占める温浴施設の維持管理費に対する対策としまして、現行の手法の見直しや様々な経費削減策の検討、休憩室を活用した収益性の向上についての事業計画を確認しておりますので、新しい取組に対して期待するところではありますが、指定管理者の変更による大幅な変更事項はないものと考えております。

続いて、ホテル建設の関係でありますが、当該地にホテル建設が可能かどうかと、建物の配置構造を検討するための調査であり、町からの費用の支出はありません。

次に、一般的な情報開示については、事業者が全国的に施設展開を図る他の計画と併せて一斉発表を行うこととなります。今のところ事業者が発表を考えておられる日は不明ですが、来年になるとお聞きをしております。なお、町議会に対しては１２月１４日開催の全員協議会において、非公開を前提とした中で、計画の詳細について御説明を申し上げ、御理解を得たいと考えております。

次に、事業者が発表を行った後、実施に向けて検討したいと考えております。これは関係者の説明会でございます。

それから、次の御質問でありますが、財産管理審議会につきましては、条例上、町長である私が諮問し、町有財産並びに営造物の管理、または処分に関し、必要な事項を調査、審議するために設置されているものでございます。これまで開催してまいりました財産管理審議会におきましては町有財産を売り払う場合にのみ開催をしており、このたびのホテル建設に関しましては町有地の賃貸借契約となりますので、財産管理審議会の開催の必要性につきましては今後検討してまいりたいと考えております。

最後の御質問でありますが、誘致を目指しているホテルは道の駅併設型ホテルであり、なごみの里と相乗効果での関連が出てきます。なお、入浴については温浴施設を利用し、食事についても道の駅で食事を提供できるよう調整を行っていきたいと考えます。

また、地元旅館や飲食店による地域食材を使用した魅力的な郷土料理や伝統料理などの提供も行うことによって、地元経済の活性化と津和野のＰＲにも努めてまいりたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　それでは、今から一問一答でいこうと思うんですけど

も、まず、この新しいところ、株式会社津和野開発が社長の一存でこの指定管理から手を挙げなかったということですけども、これ役員会で協議しなかったのかというのが非常に不思議で。当然、会社法の中では、重要な事項は役員会で決めるようにというふうに書いてあるわけですけども、その中に細かいこととしてここの独自の取締役会の決定事項が定款もしくは役員会規則とか規約とか、そういうものに書いてあると思うんですけども。まず、そもそもありますよね、それは。まずそこからいきましょうか。

○議長（草田　吉丸君）　副町長。

○副町長（島田　賢司君）　基本的に会社法から言いますと、付議事項に当たると思います。このたびはつわの暮らしからの稟議で私も知ったところでありまして、それをすぐ社長に申し上げて、役員会をすぐ開いてほしいという旨を伝えました。その役員会では、事後報告ということで受けて、遺憾の意を発言させていただいたところでもございます。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　事後報告ということは、事前にそういうことがなくてやられたということなんですけども、それは当然定款違反ということになりますよね。それ、ちょっと確認します。

○議長（草田　吉丸君）　副町長。

○副町長（島田　賢司君）　議員さん、言われるとおりだと思います。このたび陳謝は受けたんですけど、社長の意向として、社長報酬の５０％の減額を当分を行うということを役員会でも了解を得ましたし、臨時総会でも一応御了解をいただいたところでもございます。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　５０％云々というのは内部の問題ですので。私がここで聞きたいというのは、町はその間、何の情報も得てなかったのか。そういうことをやるとか今度はあるよとかいうことを。だから、協議しなければならない重要事項の中に、この次のときにはどういうふうな計画でやるかということを決めなければならないというのが大体筆頭にくるんですよね。当然それも、私、定款は今持っていませ

ん。株式会津和野開発は持っていませんから分からないんですけども、前の株式会社津和野は持っていますので、それでいくと、筆頭に今の新しい事業に対しては必ずその中で取締役会規則ですけども、その中で次年度の事業計画の決定、これ重要な業務に関する事項というふうに明記されておりまして。これをやってなかったということですから、後の細かいことは当然やってないと思うんですけども、これをやらないでいきなり社長だけがやめますなんていうことは実際できるんかいなというのが。今やってませんということですので、これで分かりましたというわけじゃないですよ。当然分かりましたというわけじゃないですけども、この時点で、それじゃあそれをどうするかというのは、また次に考えていきますけども。こういうようなことをやってきたということが、非常に私、ここの三セクの在り方に、これは一番最後にまたやりますけども、問題があったなというふうに思います。

それと、もう１つ。この回答の中に、役員に対して行ったとのことですとか、それから報告を行ったと伺っておりますとか。これ、ものすごく、これを聞いたときに他人事だなというふうに思えるんです。この道の駅の事業というのは、確か安野光雅事業と同じぐらいのときで、非常に当時の町にとっては２大プロジェクトというふうに捉えられて、非常に重要な案件であります。それなのに、このように、とのことです、とか、こういう伺っております、というようなことは、非常にこれ、よそごとじゃないかなというふうに思うんですけど。今の執行部としては、当時の執行部はものすごくぴりぴりしていましたよ。ですけども、どうです、町長その辺りは。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　これはあくまでも町と津和野開発とは別人格でありますから、こういう一般質問の答弁としては、我々としては津和野開発に確認をし、そして津和野開発から伺ったということを率直に答弁としてお書きをしたということであります。通常の運営におきましては、必ず津和野開発と情報交換をし、そして、なごみの里、そしてシルクウェイにちはら、これの運営について町としてのいろんなお願いもし、そして意見交換もしながら運営をされているということにも変わりはございません。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　通常のやり取りはやっておると。だけど、これ最重要

課題じゃないです。今、ほかのところもやっていますと言われましたけども、この最重要課題が抜けているということ自体が、非常にこれを軽視してるんじゃないかなというふうに思うんですけれども。その辺りはどうかということをもう一度お伺いしたいんですけども。

それと、今、これはあくまでも株式会社も、津和野町は８３％の株を持つ筆頭株主ですので。だから、これは株式会社津和野って言っても、まさにこれは、所有権は町にあるわけですから、この運営が株式会社津和野開発のことですというような答弁でいいんですか。その辺り、もう一度お聞きします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　今回の応募にしないという結論を出されたということは、我々もその情報は全く知らなかったというところでありまして。公募をして、その期間が締め切られて結果として応募がなされなかった。これは津和野開発がですけれども。そこについての情報というのは全く知り得なかったというところでありまして、それがもう紛れもない事実であります。ですから、そのことが、応募がなかったという事実を踏まえて、我々としても株主として、これは役員会にかけた上での決定だったのかどうかというのは当然投げかけをさせていただきました。そして、その後津和野開発としても役員会も開かれたというふうに伺っておりますし、また、最終的には臨時株主総会を開かれて、そこに私も出席をして、そして経過の報告を詳細に受けましたし、私からもこういう経過をたどったということについて、大株主として苦言は申し上げたというふうなところでございます。なので、基本これについては我々も全く、応募しないということは知らなかったというのが事実でございます。そのことは最終的に、繰り返しになりますが、社長が御判断をされたという、そこの手続上のミス。それをしっかり自覚をされて、御自身が報酬カットという責任を取られたというふうに伺っております。伺っておりますし、報告も受けております。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　聞きました、事後にやりました、これで通るんですかね、こういう状態で。これは、今からちょっと私も調べていかないと分からないのですけれども。こういうようなことを事前にやらなければならないことをやらないでお

いて、後でやったからということが相殺されるようなことは絶対ありませんからね。この辺りは町の姿勢というものを非常にやっぱり疑問に思いますので、またこれは次の回ということにいきます。

それで、今度は具体的なことに入っていくんですけれども。今までここの温浴施設を、経営というか携わっていた責任者から事情をちょっといろいろ、話を聞いてみました。そうしたら、入浴料金というのは条例上７００円、今７００円です。前後１０％くらいのあれはできるんですけども、ほぼ決まっておるのにもろもろが今の物価高騰とか、それから一番は灯油がどんと上がったとかいうようなことがあるんだけども。それを町に相談したら、温浴施設も収益事業だから、道の駅の中で処理せよと言われてきたと。このことに非常に、彼としたら、ふんまんやる方ないという思いで、私にとうとうと話をされたんですけども。この考え方、じゃあ赤字になったら町が皆出せということを言ってるんじゃないんですよ、当然。だけど、このスタンスというのは今もお持ちなのかということを確認の意味で町長、お願いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　まず前段のほうでありますが、知らなかったというそこをもう少し詳しくお話をさせていただきますけれども、私どもとしては当然応募があると思ってたというのが紛れもない事実であります。それが結果として、申請がされなかったということで、知らなかったし驚いたというのが実情だというところであります。

それからもう１つの、その温浴施設の料金ということでありますが、これはもうまさに長年赤字がずっと続いてきてということで、そうすると指定管理料を上げるということになるかと思います。その温浴施設の赤字部分を料金に転嫁できない、じゃあどうするかというと、町のほうで何とかしてほしいという話でありますから。そうすると、やはりそこは税金を投入するということになります。一般財源を出していくわけですから。だから、そこにやはりいろんな議論がある中で、やはり収益事業ですから、まずはこの津和野開発として、当時は津和野開発という会社ではなかったかもしれませんが、努力をしてもらいたいというふうに投げかけてきたというのはこれは紛れもない事実であります。

そして、なかなかそれでも収益が改善しない。負債がどんどんどんどん津和野開発

と、それ以前の会社もそうですが、積み上がってきているわけであります。そして、そういう中でどうするかというところで、また町が最終的に第三セクターですから、負債をどうカバーしていくのかという議論もこれから出てくる可能性もあるといったところでもあります。

そして、何もしなかったわけではなくて、今回ある意味では新型コロナの臨時交付金というものが配分をされてまいりました。ですから、町内の業者さんにも公平性を保つためにもという観点で。公平性を保つという観点というのが、町内業者さんも困っておられるから、そこを救済していくという面でこの交付金を使わせていただきました。

そして同時に、その考え方の中で、なごみの里の運営も非常に物価高の影響を受けられているということなので、この臨時交付金を使わせていただいて、そして、経営支援というものに充てさせていただいているという、そういう経過もあるということでありますから、決して町が無関心で、この津和野開発に対して対応してきたということではないというところであります。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　無関心でしたというわけはないですよね、当然。あってもらったら困るわけですけども。

それで次にいきますけど、三保電機の計画なんですけども。まず最初に、この三保電機、道の駅津和野は、今度の農産加工所も関わってくるんですけども、当然計画を募集したら応募があって、そこに計画、こういうことをやりますよというのは当然書いてきているわけですけども。この答弁書からしたら、こんなことで膨大な今までの累積が埋まるのかいというような感じなんです。それ、私が見ているわけじゃないから、だから、中をちょっと教えてほしいんですけど。まず、当然ヒアリングはあったと思うんですよ、ヒアリングは。文書だけでぽんときてそれで終わりじゃなくて、ヒアリングはあったと思うんですけども。

ここで一番問題になってくるのは、この建物という、施設はですね農業経営構造対策。だから、農業、それから観光業等々も含めてですけども、一番は農業なんですけども、温浴施設除けてです。農林課長の出席というものをヒアリングの中でしたかな、

どうかな、というのがちょっとお尋ねしたいんですけど、町長、どうです。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　そこに農林課長が出席したかどうかというのは、私、把握をしておりません。あるいはもう記憶がないのかも分かりませんが、報告を受けていて。ちょっとそこは私自身は関知しておりませんので、もしよければ当人がおりますから、聞いていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　それでは、課長。出席しましたか、どうですか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　私、その審議会のほうには、その日、休暇であったため出席のほうはしておりません。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　次は、職員の処遇。これですけども、これでは全く変わらないというようなことを言っておられるんですけども。今度、ホテルとの関連性が出たときに、このときに変わらないということは、今までの休みが何曜日で、それで９時の、１８時だったかな、ホテルというのは朝から晩まで、夜中までやっているわけなんですよね。その中で、変わらないということはあり得ないと。もう当然私も取材しますので、道の駅の職員と話は当然しました。やっぱり不安に思っているんです。

　この規約、規則が多分一緒だろうと思うんですけども、これの中に書いてあるのは、休館日及び開館時間は次のとおりとする云々と。管理運営上、特に必要があると認めるときは、町長の認を得て、休館日及び開館時間を変更することができると書いてありますから、当然できるわけなんです。こっちでは、今変わらないというふうに最初言われた。これでは今は、休館日木曜日、開館時間が１０時から午後９時。この辺りというのが変わらないというのは、変わらないんです、それとも変わる可能性もあるという、ちょっとその辺りちょっと確認しておきましょう。町長、よろしくお願いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　ホテル関係の話は先ほどの答弁でも申し上げておりますように、明日全員協議会で詳細な説明を議会に対してさせていただく予定にしております。相手方に対しても、これは議会の了解が得なければ実現できない話ですというのは事前に了解の上でお互い協議をしてきたというところでありますから、明日、議会で概ねの了解をいただけるかどうかということをまず第一歩として、そして正式な第一歩として、今後また運営方法の協議にも入っていくということになるかと思います。

そういう過程の中で、このなごみの里との関係が出てくる可能性がありますので、変更の可能性はあるということは言えるかと思っております。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　それでは、ホテルのほうへ移っていきますけれども。先ほど言いましたように、名前。ここに新聞で、でかでかと載っておりますんで。道の駅、ホテル、九州に続々と、いうことで宿泊者は云々と、道の駅なんとかかんとかというのは載っていて、これ展開している。前も言いましたけど、大体分かってはおるんですけども。名前は言いません、名前は言いません、ですが、この後に私が今回メインとすることになるんですけども、ホテルの形態が一体どんなものなのかということを、これが分からないと非常に大きな問題が出てくるということですので、これだけは聞きます。先ほど、後で議会には云々と言いましたけど、そこもちょっと私、今から突っ込んでいきますけども。ホテルの形態ですけど、普通ホテルは、我々が俗称的に知っているのはビジネスホテル、それからリゾートホテル、それからファッションホテル、昔はちょっと違ったんです、今はファッションホテルと言います。それから、カプセルホテルとかこういうのがあります。それと、食事があるのか、ないのか。これによって、道の駅との関連性というのが非常に出てくるわけなんですけども。この辺りの形態も言われません。これはまた言われんと言ったら、また私、後でまた違った角度で言うていくんですけども。今、どうです。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。先ほど町長のほうからは、全協を開いて、その辺を詳しくまた説明があると思いますが。今、このことをどうしても質問されます。道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　前後してもいいですけど。それじゃあこの分は後にし

ましょうか。先に、それじゃあ、私の今回の一番の眼目のところを聞いて、それからにしましょうか。それならちょっと変えましょうね、順番を。

それでは、次にいきます。これから一番の問題なんですけども。この中で、先ほど全協で答えます、非公開です。非公開、ここですよ、一番の問題は。何で非公開なのかというとこなんですよね。私が今回は一番冒頭に、憲法による国民の知る権利ということは、町民の知る権利です。憲法で謳っているんです。それから、法律では情報公開法というのがあります。何で非公開なのか。それで議員にお知らせします。町民の方はどうなんだということです。あの土地は、町の所有物ですので。町の所有物ということは町民のものである。町民のものであるんだったら、町民がどうなっているのというふうに知るという権利は当然あります。私は今、町民を代表としてこうやって質問しているわけです。ですから、私はここでこうやって質問することに対して、何で今ここで非公開なのかということに非常に疑問を持っておる。ここの問題なんです。

それで、同じような感じなのでちょっと続けますけども。説明会を事前に開くということがいかに重要か。説明会というのは、私はよくテレビで説明会というのを見ると、大体バチバチにやり合ってたようなものしかテレビに出ないです。ですけども、そういうイメージじゃなくて、もっと建設的に説明会というものを捉えてほしいということなんです。説明会が何でいるのかということは、まず地元の人にとっては、交通、例えばあそこに何かが始まったら道が変わったりとかいろんなものが動きますから。道路の変更とか、それからポールを立てるとか立てんとかそういうものもあります、まず。それから騒音の問題等々がありますので、あの周辺に住む地元の人達に対して、まず説明するということがまず１点。それから、関係者に対してなぜこの情報が必要なのかというと、先ほど言いましたように職員。私ら、一体これから２交代制になるんだろうか、３交代制になるんだろうか、休日はどうなるんだろうかということの不安があるんで、こういうものを公にしていかなければならないということが関係者。それから、例えば旅館組合。どんな形態のホテルができるのかによって、自分ところのものの業態を変えていかないかんとか。それから、観光協会や商工会にとったら、そこがどういうふうになるかということによって、これからＰＲとか何とか事

前にいろんな準備もしなきゃならないというようなことが必ず必要になってくるんです。それから、最大の、直接には関係ないとしても町民。町民にとったら、あそこの場所に何が建つか、どんな形のものが建つかということで、津和野のイメージがガラッと変わる可能性がある。これに対して、ちまたではどうなるんじゃろうか、どんなものができるんだろうかというような不安。だから、津和野の今までのイメージがありますから。これで津和野町は売ってきたわけだから。このイメージを壊すんじゃないかというようなこともある。これは若干マイナスっぽいとこですけども。

もう１つ、私は決して反対ということを前提に言うとるわけじゃない。町長は昨日でしたか、誰かの質問に答えたけど、場所が変化するときには町民に理解をしてもらわなければならないということを言っておられます。だから、このことを踏まえたときに、もし、あそこにいいものが建って、いい形になるんだったら、こんなものができるということでワクワクするようなものができるんだったら、完成後は協力が受けられるわけなんです。

ですから、私はこの非公開ということに対しては、今の前に言ったような憲法上の問題もあるけども、これに対して今回の一番の問題点はここにあるということですので。まず、質問ですから。何で非公開なのかということをお答えください。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　まず、大前提の問題として憲法、それから法律条例と、そこに国民の知る権利というふうに挙げられております。それは確かに権利として認められております。しかし、権利とともに義務というものも生じております。私どもにはやはり個人情報を守っていく、そして守秘義務というものも負っているということであります。だから、基本的に全ての権利が優先されるわけではないと。ひとつひとつ個人情報の請求があっても、情報公開請求があっても、必ず全てが出せるわけではありません。非開示のものもあるということは、まず大前提として御理解をいただきたいというふうに思います。

その上で、今回のこの事案ということになりますけれども。これはもう何度もこれまでもこの議会の場でお話をしてきたということなので、どういうお答えをしたら御理解をいただけるのかというのが、正直、今、私も混乱しているというのが実情であ

ります。だから、もう繰り返しになってしまいますけれども。交渉ですから、相手先がある。相手先はやはり今の時点で、具体名とか計画を公表されるということは控えてほしいということを望まれているということです。だから、それを我々が無視して、ここで情報を全て出すということはもう既に交渉自体が成り立たなくなっていくということで、この誘致活動そのものがもう全く白紙になってしまうという、そういう前提の中でこの情報管理というものをしながら議会にまだ臨んでいる。そういう段階だということです。これもまた何度もお話ししておりますけれども、必ず議会のほうにもその時期が来ればお諮りをして、いろんな詳細な計画も出させていただいて、その上で御意見を伺ってやっていくということも申し上げてきました。それがいよいよ明日ということになります。

本来であれば、公開の下で普通の当たり前の全協というやり方でやりたかったけれども、まだ相手方がもう少し待ってほしいと、そういう意向を示されているということを踏まえた中で、明日は非公開という形で、まずは。しかし、議会に了解を得なければこのプロジェクトそのものが進めていけませんということを相手方にも理解をいただいた上で、じゃあそこのお互いの意見をすり合わせた形で非公開で全員協議会という形を取らせていただくというのが明日であります。これは、ある意味町民の代表でもある議会の皆さんに、このプロジェクトが本当に進めるにふさわしいかどうかというのを判断をいただいて、その上で今後進めていきたいということであります。その上で、町民の皆さんや関係者の皆さんにもこの情報を全く隠したまま進めていこうということではありません。その時期がまた来れば、必ずこのことについても公表させていただいて、計画も示していただいて、そしていろいろ関係の方々からも御意見も聞いていきたいと。そして、建設的にまさにこの事業がいい方向に進んでいくように取組をしていきたいということであります。

ですから、ある意味、道信議員が今日言われていることは、必ずやりますということも今までずっと申し上げてきているわけでありまして。現在のタイミングでは相手方との関係性もあって、そこに今まで公開をすることに至っていないというのが実情だというところであります。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　私は、原理原則から基づいて、まず公開すべきということを思っていますので、今の町長、個人情報があると。今、個人情報なんかどこにも出ていないのに、そういうような文言を出されてということは非常におかしいなと思っているんです。

それで、私は、やっぱり先に皆さんに相談するということの説明会というのが、先ほど言いましたが、そっちが大切ですよというのは、今いろんなことがあるけども、いろんな知恵があるんですよ、その土地でないと分からんこととか。

だから、向こうが言う一方的な経営方針をバーッと言われて、そうしてこっちが合わせるんではなくて、こっちが積み上げて、いろんな情報を集めて、こちらが、町がいろんな人達の意見を今の関係とか何とかも含めて積み上げて、そうして相手と交渉していくというのが筋じゃないかというふうに私は思っています。

だから、そこの点を、私は町長、はき違えているんじゃないかというふうに思っています。ですから、当然反論、反発されるでしょうけえ、もうそれは要りませんけども。私はもう先に説明会を開いて、皆さんのいろんな知恵、地域でないと分からんこと、だから私はこんなふうに思ってるんです、あそこにあんなホテルができてもらっちゃあ私らは困るとか。これを全部集めてから向こうへ、津和野町の町民はこういうような感じですよということで、当たるべきで。今のあれですと、向こうの経営状態をカチッとしたら、こっちに持ってきますというのは私は反対です。

だから、そこの辺りを、今回一番の最大の目的というのは、ここに情報開示ということがいかに重要かというのを。そうしたら、完成後協力してくれますよ。ちゃんとそういうような、先に自分達の意見が通っていったということになると。だから、そこを、この前の町民に理解、理解という意味をもう一度よく考えていただきたいというふうに思っております。

それから、今のことを私、ここで、じゃあこれひっくり返しますというわけには当然いかんでしょうから、流れていきますので。

次は、財産管理審議会の開催についてですけども。確かに売り払ったときというのがありますね。ですけども、あそこを貸しても、もうほかにいろんなことをしようがないんです。もうそのところ、その貸した相手の形で動いてきますから、全くその後

に手のつけようがないものは売ったと一緒じゃないかということで、財産管理審議会の意見も、もう少し幅を広げて、売った場合でないと審議しませんよというところでポンやるんじゃなくて。広い土地ですから、あれを貸したらどうなっていくんだ、ああなっていくんだとかというものも、ぜひ審議していただきたいというふうに思っております。

それで、ここで今後検討してまいりたいと考えております、検討するという文言があるんですけども、この検討というのは、私が今言ったようなことになるんですか。その点、ちょっと。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　まず、情報公開と住民説明会の話でありますけれども、これはいずれ住民の皆さんにも関係する方にはやっていくということを申し上げているということはもう一度言わせていただきたいというふうに思っております。

そして、これまでも、特にこの計画を進めていく準備段階であっても、非常に大事なことと思っておりましたのは、やはりまずその誘致企業をこの活動を始めていく第一歩の段階として、町内の旅館業者の方々に御迷惑かかるようなことはあってはいけないというところから、ある程度旅館業者の皆様にはお話合いをして、そして、この誘致活動を進めていいのかということも前提の上で了解をいただいて、活動を始めたということです。これは前の議会でもお話ししたことがあるかというふうに思います。

それからもう１つ、建物が建つことでの景観がどうかということも大きな先にクリアしておかなければならないという話ですので、これは景観審議会にも既に諮って、ある程度の了解をいただいた中で現時点を迎えているというところでありまして。そういう形での手続きについては、慎重にやりながらここまで行ってきているという状況です。

それでも、今、情報公開しなさいという話でありまして、それはもう本当にこれも繰り返しになります。じゃあ、今、これをここで相手方の名前等を出すことは、これはもう交渉もやめるということを意味します。（「名前は要らんって言った」と呼ぶ者あり）いや、だから、詳細な計画も出すこともということです。だから、やめなさいということをもうおっしゃっているということです。じゃあ、意見が違う。私がは

き違えているというのをおっしゃいました。だけど、そこはもう議会のルールにも関わることですので、ここで道信さんの御意見をここでぶつけるばかりでなく、一度議会のほうで諮ってみていただけないでしょうか。これは別件の話でもそういう話をしたことがあるかと思っています。だから、例えば明日であれば、情報公開どうするのか、非公開で今お願いしているわけでありますけれども、それが本当に明日非公開がいいのかどうかということを問うてみていただければというふうに思います。そうすると、非公開はだめだということになれば、私どもはこれ全協の議題を取り下げないと。やはり交渉ごとですから、相手との信頼関係を今失うわけにはいかない、今の時点で、ということであります、最終的に議会が、この計画を見られてノーと言われれば、我々もこれは、活動はもうここでストップさせるということも相手にも伝えているわけでありますから。ですから、そういうはき違えとおっしゃいますが、議会は議会としてのまさに権利を持っておられますので、そこを議会の権利として、１人の御意見をやはりまとめていただきたいというふうに私はお願いをしたいと思います。そうしないと、今まで何度も実情を話しても、なかなか御理解をいただけていないというところに、私としても非常に残念な思いを持っているというところであります。

決して議会のルールを無視してまで、私自身がこのことを強引に進めようなんていうことは、夢にも思っていないということは申し上げておきたいと思っております。

○議長（草田　吉丸君）　財産管理の関係は。

○町長（下森　博之君）　財産管理の審議会のことにつきましては、売り払ったも同然だからというその解釈でできるかどうかというのは今の時点では何とも申し上げられませんけれども、どういう審議会をかけていくのかということは、また検討させていただきたいというところであります。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　事前にやっておられるじゃないですか。だから、その事前ということをやっぱりもうちょっとこれからもどんどんどんどんやって、事前にやりますよ、こういうことやりますよということをやってもらえれば、そういうふうに思っておられるんだったらいいということで。もう時間もないですので。

最後に行きますけれども、三セクの問題なんです。今回、株式会社津和野開発は三

セクです。三セクが、もうやらん、放り出した、言葉は悪いです、もう道の駅は儲からんけえやめたみたいなことをやっとるということは、三セクの意義が、社長である当事者がもうそういうふうに思ってそういう行動を起こしたわけですから。三セクというのが本当に意味あるんかというのが、私はこれが事実として三セクを経営しておった人が言うてしまうとるわけだから。これは、もう一度三セクというものを考え直さないかんと。

道の駅、日原のほうの場合は、ちょっと形態が違って、あれは私が聞くところによると、大体テナント料でやっとられると。そうすると、三セクというものに対してお金を継ぎ込んでいくということほかにもありますよね。もう一度見直していったほうが、財政上の問題も含めて。あれを一セクで、町が直接経営するとか、運営するとか。二セクで民間にポンとやってもらうとかいったほうが早いんじゃないかというふうに思うんです。

だから、今後、現実にそういうことがあったから、もう一度三セクというものを勉強し直してみたいと、みようと思う気持ちはどうです、町長。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　これは第三セクターということに限らず、道の駅施設ということやら、それから町もいろんな施設を持っております。それは、当然民間委託というのがありきということではなくて、常に全ての施設について、やはり最終的に町が税金を投じて運営をしていくものであることに間違いはありません。道の駅も第三セクターといえども、これは指定管理料が出ておりますし、あるいは、町有施設もこれはまた直接的に全ての管理のお金が町から出ていく、これは全てが税金でありますから、やはりその税金の使途として、当然これが正しいかどうかということ。それはもう毎年でありますけれども、そのチェックといいますか。そして、今後できるだけ税金を使わないように、収益も上げながら運営をしていくのかということは我々は常に検討しているというのはこれまでもそうでありますし、これからも変わりないということだというふうに思います。

そんな中で、道の駅と第三セクター、第三セクターの今後の在り方ということもま

たその改革の観点から常に議論をしていくということにもなるかと思っております。特に、やはり第三セクターということなので、町だけの事情ではこのことは論じられないというふうに思っております。ＪＡさんからも、やはりずっと津和野開発は赤字が続いているということで、ＪＡさんはＪＡさんのやはりそこの貸借対照表、損益計算書の中に減損処理とかそういう部分でかなり影響してきているので、我々以上に非常にこの津和野開発の経営のことについては、役員会なり、私は役員会には出ていませんが、株主総会でも必ずＪＡの関係の方からは厳しいこの経営の追及というか、意見が交わされているというような実情でもありますから。我々としてもそういう観点も、非常にＪＡさんの御意見も参考にしながら、この津和野開発を、そして第三セクターの経営ということについては、しっかり財務状況を見ながら、そしてしっかり意見交換を交わして、またよくなるように、一緒になってこれからも力を合わせて努力をしていきたいというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　今から意見にすると時間がないので。

最後に、みんなでやりましょうということ。いろんな知恵はいろんなところから出てきますので。これは私の実感でもあるんですけど。だから、そういう形のまちづくりというのをやっていきましょうよというのを。これは質問ではなくて、最後に私の言葉として終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、１番、道信俊昭議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで１１時まで休憩とします。

午前10時48分休憩

……

午前11時00分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序８、４番、米澤宏文議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　議席番号４番、米澤宏文でございます。通告に従い、質問をいたします。

本日は町の方からお聞きしました３点を質問いたします。

１点目が、道の駅津和野温泉なごみの里の運営についてであります。

町内の飲食店が減り続ける中、町内・町外の人にとって駐車場もあり、便利な食事や入浴施設を備えている重要な施設であります。また、町内生産の野菜やお酒、お菓子などの販売でも生産者から重宝がられている施設でもあります。

今回２名の議員の方が質問されておりますが、少し角度が違うところもありますので質問をいたします。

１点目であります。平成６年４月から三保電機経営の民営となることについて質問をいたします。

１番目に、第三セクター津和野開発から民営化への経緯はどうなのか。

２番目として、委託金はどれほど予定されておられるか。

３番目、委託の範囲は温浴施設、販売、レストラン、グラウンドゴルフ場、グラウンドゴルフ場の下には空地があります、この空地。そして、ヘリポート、ヘリポート横、なごみの里前の駐車場といいますか、空地であります。そして、農産加工場。

４番目に、従業員の待遇等はいかがになるのか。

５番、建物機器等の改修や故障時の補助の有無。

６番、黒字のとき、委託金の一部は町に返還されるかどうか。

以上、６点、質問します。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、４番、米澤議員の御質問にお答えさせていただきます。

道の駅津和野温泉なごみの里、令和６年４月から三保電機株式会社の経営になることについてでございます。

津和野温泉なごみの里は、平成１３年の開業時より、第三セクターへ運営管理を委託し、平成１８年からの指定管理者制度の導入においても公募は実施せずに、引き続き管理者として選定してまいりました。しかし、津和野温泉なごみの里は温浴施設を有していることから多くの管理費を必要とし、長年にわたり第三セクターの経営に大きなマイナスの影響を与えてきたところであります。

一方で、指定管理者の選定方法については、津和野町公の施設指定管理者選定審査会等から収益性の見込める施設に関しては公募にすべきとの御意見をいただいておりました。

町といたしましては、公募することによる民間同士による競争意識が生まれ、よりいい運営管理のための新たな提案等につながることを期待し、公募による選定を行うことといたしました。

公募した結果、株式会社三保電機の１団体からの応募となり、８月７日の指定管理者選定審査会での審査、更には９月議会定例会での承認を経て新たな指定管理者として指定されたものであります。

次に、令和２年度から令和４年度における管理運営費及び収入等の実績を勘案し、年間指定管理料の上限額を３，８０９万円の予定としております。

３つ目の御質問でありますが、津和野温泉なごみの里の指定管理者が行う業務の内容及び管理の範囲につきましては、当該施設の設置管理条例に基づいて作成した仕様書及び募集要項の内容に記載のとおりであります。具体的には、総合交流ターミナル施設、温浴施設、ふれあい広場、バーベキューガーデン、駐車場、グラウンドゴルフ場、伝統景観保全広場、以上であります。

４つ目の御質問でありますが、現在、津和野温泉なごみの里の業務に従事されている方の継続雇用の意向については確認をしておりますが、具体的な待遇の中身につきましては、町の関与するところではございませんので把握はしておりません。

次の５つ目の御質問でありますが、施設及び機器等が修繕の必要がある場合におきましては、現行と同様、修繕費等費用負担基準表に則り、修繕費及び施設設備の区分に応じて町と指定管理者とでそれぞれ費用を負担することとしております。

最後の御質問でありますが、指定管理者における本来実施すべき業務が何らかの理由によって実施をする必要がなくなるといった仕様書に記載の業務等が大きく変更せざるを得ない状況となった場合には、業務内容の変更として返還を求めることができるものと考えておりますが、指定管理者の経営努力により生み出された利益による差額につきましては、業務改善による対価であり、返還対象には当たらないと考え、５年間の指定期間における指定管理料の変更は原則ないものと想定しております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　まず、１つ目の第三セクター、津和野開発からの民営化への経緯については分かりましたが、民間経営になることにより更に活発な経営状態になるように期待をしております。

２番目の委託金については、これは発表いただきましたので分かりました。

３番目のことにつきまして、ちょっと分からない言葉がなんぼも出てきております。総合交流ターミナル施設とは、事務所、販売所、そしてレストランを指すものか、これが１つ。また、ふれあい広場とはどこなのか、ふれあい広場、それも。あと、伝統景観保全広場とはどこでしょうか。それと、駐車場とありますが、施設真ん前の駐車場なのか、道路向かいにある空地といいますか、そこなのか。ちょっと判断しかねますが、これはいかがでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、総合交流ターミナル施設ということでありますが、今、議員おっしゃるように、レストランから物販のところ、それから待合室です。それから温浴のところ。全てを指して総合交流ターミナル施設となっております。

ふれあい広場というのは、バーベキューハウスとの間に遊具がございますが、そこのところを指しております。

それから、伝統景観保全広場でございますが、これは道の駅本体の裏側にある裏庭がございますが、あそこ植木とかいろいろありますが、そこ全体的に伝統景観保全広場ということになっております。

駐車場につきましては、道の駅の県道が入る道の駅側です。あそこまでを駐車場ということで委託範囲となっております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　ホテルの建設予定地ですが、ここ、そしてグラウンドゴルフ場の下側は、これもでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　ホテルの建設予定地と目されているところは、範囲には当たらないというふうに考えております。

それと、グラウンドゴルフ場の恐らく下地側というのは、あそこの木質チップのボイラーがあるあそこの進入路を含めたものと思いますが、あそこは範囲に入っております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　ここに書いてはありませんが、農産物加工所、これも入るんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　農産物加工所は入っておりません。これは今回定例会で公の指定管理施設の議案で提案しておりますが、その中で別途契約という形になります。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　そうすると、農産物加工所はもちろん入るということですね、いずれ、明日の。それに載っているのは分かっていたんですが、この中に書いてありませんのでどうかなと。

それでは、４番目の従業員の待遇等でございますが、町の関与するところでないので把握していないは、大きな無責任ではないかと思っております。といいますのも、これまでは町が大きな関わりを持っておられた第三セクターの管理下にありましたので、この移管に関しての従業員に関する説明を協議されたことはないんですか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　町の関与するところではないという町長の答弁がありましたが、既に三保電機さんのほうでパート職員を含む１８名全て面談もしております。基本的に継続雇用の意向というのは伺っております。

待遇の中身というのは、実際給与とか条件面でございますが、これは基本的には今のなごみの里のものを踏襲するとは伺っております。ただ、答弁書にもございますように、その中身の詳しいところの手当とかそういうところについては、我々どもはそこまでは関与していないという意味でございます。なので、現行、給与等は継続とい

うふうなことは伺っております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　それから、乙女峠等が、列福、取りあえずはそれに承認されると、外国人も大変多くなってきます。これはもう第三セクターから離されたのでどうしようもないかもしれませんが、やはり英語、外国語ができる方が随分必要とは思っております。これは言っても仕方がないので終わります。

次、５番目。施設及び機器等の修理時、修繕時と費用負担基準表は町と指定管理者の半々で負担するのか、ほぼ。そこが分かりません。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　これについては半々という意味ではなくて、修繕費と費用負担基準表というのがございます。詳しくは、金額とかは持ち合わせておりませんが、ある一定の基準のところから、例えば大きな修繕とか建物の基幹に入る部分は町が修繕を当然いたします。ただ、その軽微にあたる部分に関しましては、今度は指定管理者である三保電機さんに御負担いただくという形で。これは従来のなごみの里を運営していらっしゃった津和野開発がやっていたのと同じルールを今回適用してやるという意味合いでございますので、そのように御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　最後ですが、ぜひ黒字になってほしいと思うんですが、黒字のとき、委託金の一部が町に返還はあるか、ないか。このことも聞かれましたので、質問をいたします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　先ほどの町長の答弁にもありましたとおり、恐らく黒字経営になったときには、今度の新しい指定管理者の業務改善による対価でありまして、返還の対象にはならないという認識でございますが、いろいろなことが想定されますし、実際、昨日の一般質問でもありましたが、例えばコロナ禍の場合ですと、こちらから営業停止を余儀なくお願いする場合もございます。そうしたところ

は、しっかりと補償しながらリスク分担を町としてもしっかりやりながら、指定管理料の増減については検討してまいりたいと考えております。ただ、黒字が出たからといってすぐに指定管理料を減額という形には当面はならないというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　黒字になってほしいのですが、これは恐らく返還は無理だろうと思っております。

最後に、運営自体が赤字になったとき、これは町からある程度補助を出されるのか、それとも、一切民営化になったのだから三保電機さんが負うべきなのか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　赤字になったということに関しましては、まだ現在のところでは想定をしておりません。いろいろな業務改善の事業計画書をいただきましたし、それから民間ならではのアイデアと申しますか、そうした事業計画等、プレゼンテーションもいただきましたので、ぜひ経営改善が図られて、何とか黒字化とまでは言わないまでも、しっかり赤字を減らして。現行は赤字の状態なので、その赤字がどんどん減っていくような形で運営がなっていただければと期待しているところであります。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　ぜひとも黒字経営を期待しております。

次に、２番目であります。町施設の夜間照明、このことで新聞等で以前は柔らかい地球温暖化と言われましたが、最近では新聞でも強烈な言葉で地球沸騰という言葉に変わっております。これは二酸化炭素の削減以外ありません。海外では砂漠化、そして乾燥による大規模な火災、いろんなことが取りざたされております。そして、洪水も随分想像できないほどの洪水が発生しております。

この一端、削減としまして町内の照明の不要な夜間照明を消灯、または一部照明、センサー感知での照明に変えることで、津和野町の財政を少しでも軽減し、このことについて検討するべきではないかと思い、質問をいたします。これもやはり町の方の意見でございます。夜仕事をされたりいろんなことをされる方からの意見であります。

１つ目に、ＪＲ津和野駅改札室に３２灯、待合室に３８灯の電気灯が、ここは１日中ついております。そして、夜間２０時山口行き、これはちょっと私の勘違いでございましたが、最終便が着くのは２２時とのことでありますが、この最終便が着いた後は、先ほど言いました一部点灯並びにセンサー点灯、または全部消灯とか検討する余地があるのではないかと思っております。

次に、駅舎回廊の電球が３４灯、ＳＬ展望台、これは２２時に消えるようになっておると思います。駐車場回廊、蛍光灯１２灯。駐車場と言いましても、バス乗り場、そしてタクシー乗り場、ここに１２灯あります。これは２２時に消えると思っておりましたが、朝８時までついております。明るいのに赤々とついております。これを１年３６５日点灯して、１０年、２０年、３０年の点灯となれば、大きな財源の消費となるのではないでしょうか。

２番目に、シェアサイクル自転車置き場３か所の照明を一部点灯または全消灯にしてはいかがでしょうか。このことにつきましては、駅前、桑原史成写真美術館裏に、蛍光灯が３灯、赤々と朝までついております。町田鴎外記念館前、ここにも蛍光灯２灯が、これは１０時頃までで消えていたと思います。稲成丁観光リフト下、ここは薄暗い電灯が２灯ついております。

３番目に、津和野城のライトアップ、以前は土、日、月、祝祭日の２２時まで点灯であったと思っておりますが、最近２１時までのライトアップに変更された理由は何なんでしょうか。この津和野城は、太平洋戦争の最中、昭和１７年、国指定史跡にされており、この近隣では最大の歴史的施設であると思っております。そして、日本１００名城に選定され、津和野町が誇る津和野城跡であります。夜間照明により偉大な石垣が浮かび上がり、美しい景観となっております。

以上、３点質問いたします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、町施設の夜間照明についてお答えさせていただきます。

津和野駅の改札スペースと待合室につきましては、２４時間開放していることから、議員御指摘のような状況となっております。一部点灯についてですが、待合室、改札

スペースともに現在指定管理者である観光協会の受付時間に合わせて一部点灯にしております。それ以上の節電につきましては、工事が伴うことになりますので、費用と効果を勘案して今後検討してまいりたいと考えます。

回廊等の消灯時間についてですが、議員御指摘のとおり、ＪＲの時刻表の表示は２０時となっております。しかしながら、津和野着の列車は最終で２２時台の便もあることやタクシーが駅でお客待ちをされていること等を考慮してこの時間としております。

２つ目の御質問でありますが、シェアサイクリングは２４時間利用可能となっていますが、主には盗難に対しての防犯上の理由により夜間点灯を行っております。しかし、鴎外記念館前駐輪場につきましては、地域住民の方から夜間に明るすぎると御意見をいただいたため、２２時に消灯しております。

また、駅前のサイクルステーション周辺は照明が少なく暗いという声もあり、通行人への防犯上での配慮としての意味を含めて、点灯をしております。

３つ目の御質問でありますが、城山ライトアップについては令和３年４月から点灯を開始し、金曜日、土曜日、祝日の前日など、ライトアップ効果と節電を意識しながら実施をしてまいりました。更に来年は、津和野城が築城されて７００年の節目になることから、認知拡大のＰＲとして本年７月から毎日点灯を行っております。ちなみに、５月から９月までは１９時から２２時、１０月から４月までは１８時から２１時、年末年始については朝６時まで点灯を行っております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　ＪＲ津和野駅については、多少私も夜間行って調べたのと多少違うところもありますが、これだけの電灯を、町民の方には別の意見で明るいほうがいいと言われる方もおられるかもしれんですが、しかし、町の財政を考えますと、何十年もつけ続けるわけですので、少し考慮、検討をしていただきたいと思います。

シェアサイクル、自転車置き場３か所の照明でございますが、防犯、盗難等ありますが、これは盗難しようと思えば、盗ろうと思えばいつでも盗れます。ほとんど人通りはありません。したがって、盗難に関してはあまり用がないのではないかなとは思

っておりますが。防犯についても、ほとんど人通りがないところですので、特にリフト乗り場下なんかは、恐らく夜、あそこら辺へ行かれる人はおらないと思います。

２番目のシェアサイクルの自転車置き場についてですが、このシェアサイクルの使用方といいますか、町の人も使い方を知らないと思うんですが聞いてみたところ、町民がこれを使うと高いお金になるので恐らく使わないであろうということを聞いております。とは言いながらも、このシェアサイクルなるものの基本的な使い方とか、町民の方は使わないかもしれないんですが、その説明も何でこれがあるのかなというところも随分、そういう方もおられると思いますので、一度その説明もいま一度、前は説明があったかもしれないんですが、いま一度説明をするべきではないでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　シェアサイクルの利用についての説明が必要なのではないかという御質問です。

シェアサイクルにつきましては、町内に３か所ほどサイクルステーションがございまして、ここにそれぞれ数台の自転車を置いております。その自転車を、ある１か所で利用されて、ほかの２か所の周辺で観光をしていただいて、そのままそこで乗り捨てというか、そこで置いていただいて次に行かれるという自由度の高い自転車の利用のシステムということでございます。この使い方というのは、全国の観光地でも採用されていますし、山口県では萩市が津和野町と同じような形で運用をしているところでございます。使用については、観光協会のほうで御紹介なりをしているところでございますので、協会と商工観光課のほうで改めてお話しして、もっともっと使っていただけるような形で御紹介していきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　このシェアサイクル、確か私が数えたところでは１３台あると思います。電動であり、確かに観光するには便利であると思います。そして、難しげな鍵もついております。しかし、自転車自体が何かでロックされているわけではありませんので、盗難等は今までなかったと思いますが、対策も必要ないかもしれんですが、照明については御意見がありましたので一応お伝えをしております。

この津和野駅とシェアサイクルの照明につきましては、この２点につきましては、

東京や大阪、そして名古屋、この夜間照明を見れば微々たるものかもしれんですが、しかし地球沸騰のちょっとした協力になれば、また、津和野町の財源の削減になればと思い、協議していただきたいと思っております。

最後に、３番目の城山のライトアップでございますが、これは先ほど申しましたように、ここら近辺ではない大きな施設でございます。しかも山頂に建っております。７００年という歳月が経とうとしておりますのでその宣伝効果もあり、私はいいことであるのではないかと思っております。

では、３番目の見晴らし広場について質問をいたします。これは行かれた方の何人かからも聞いておりますが、もちろん私も行っております。駐車場ではなくて、見晴らし広場。見晴らし場所です。ここはバラスで敷いております。粒が大きく、高齢者や歩行弱者の方などの歩行は非常に困難と思います。また、車椅子の通行が特に困難であり、舗装をするべきではないでしょうか。

２番目に、見晴らし広場下の雑草が伸び、町並みが見晴らしにくい。適時、除草が必要と思いますが。以上、２点を質問いたします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、見晴らし広場についてお答えをさせていただきます。

議員御指摘の展望スペースの舗装についてでありますが、当初の設計では先端の展望スペース全体に舗装を行うことも検討したところです。しかしながら、舗装工事を含めると予算に多額の費用が必要となるため、全体の予算配分を考えて、舗装面積を最小限に抑えた設計とさせていただきました。今回御指摘いただきました舗装については、今後皆様からの御意見を伺いながら財源を確保した上で検討させていただきたいと考えます。

広場の草刈りについては、年２回の草刈りを行っておりますが、斜面を刈る際は草刈り機械の届く範囲での草刈りのみを行っております。議員御指摘のように、斜面の雑草が伸びることにより、町並みの見晴らしが妨げられてしまうので、必要に応じて除草を行っていきたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　急斜面で危険を伴う草刈り作業でございます。安全面を十分考慮され、そして創意工夫もされ、見晴らし広場の目的を守っていただきたいと思います。多額の費用で建設された見晴らし広場です。訪れた人が喜ぶ、憩いの広場維持に努めるべきと思っております。そこは何回も私、通りますが、結構人が入っております。ぜひともそのような検討をされるべきと思います。これは答弁要りません。よろしくお願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、４番、米澤宏文議員の質問を終わります。

……

○議長（草田　吉丸君）　ここで午後１時まで休憩といたします。

午前11時36分休憩

……

午後１時00分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、一般質問を続けます。

発言順序９、７番、御手洗剛議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　議席番号７、御手洗剛でございます。

今回の一般質問は１項目でございます。昨日、同僚議員が質問されたことと重複するわけでございますが、よろしく御回答のほど、お願い申し上げます。

地域一体となった観光地、観光産業の再生、高付加価値化事業について。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一昨年来、観光需要は大きく落ち込み、全国の観光地、観光産業が厳しい状況に置かれているが、地方の経済がコロナ禍から力強く立ち直り、成長と分配の好循環を実現するためには、地方創生の牽引役となる観光地の再生が不可欠であります。これを支える観光産業の強化を推進していくことが求められています。

このため、観光庁ではアフターコロナを見据えた観光地、観光産業の再生に向け、稼げる地域、稼げる産業の実現を取りまとめました。本町においても、昨年来、希望者を募り、事業を実施している状況にあります。

そこで、本事業の進捗状況並びに今後の展開についてお尋ねをいたします。

１、令和４年度において採択され、補助金交付決定の案件で工事未完了のものがあると推測するが、補助金交付要綱等の変更によるものか。当初の説明では、年度内完了が条件であるとの説明を受けていた状況にあります。

２、本事業では観光地経営のマスタープランとなる地域計画の構築、磨き上げ及び宿泊施設の改修、廃屋の撤去、面的ＤＸ、公的施設への観光目的での改修支援など、地域産業の稼ぐ力を回復、強化するための取組を支援するものでありますが、令和５年度に申請があり、補助金の交付決定された案件の事業支援別取組と町内、町外業者の参画状況についてお尋ねします。

３、本事業において店舗改修を行った場合、営業開始要件はどのように謳われているのかをお尋ねします。また、店舗改修等で補助金交付を受け、営業開始した者が途中で営業を中止した場合、補助金返還は発生するのでしょうか。

４、令和４年度からの事業により町内事業者はもとより、町外事業者の参画で、既存施設の充実や長年空き家状態であった多くの店舗が改修され、観光地としての受入体制の強化が促進されるものと考えます。既に営業開始した事業者もありますが、本格的には次年度以降と考えます。観光地津和野の再生に向け、行政としてのサポート支援は不可欠であると思いますが、見解をお尋ねいたします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、７番、御手洗議員の御質問にお答えさせていただきます。

地域一体となった観光地、観光産業の再生、高付加価値化事業についてです。

まず、本事業では、国へ提出した計画部分に続いて、実施されていれば完了とみなされる内容となっております。令和４年度事業については、令和５年２月２９日までに国へ提出した事業内容に係る事業費の清算が完了している必要がありましたが、例えば、１つの施設の完成度８０％の部分までを国へ事業計画として提出し、期限までにこの８０％部分について完了していれば、国の事業では事業完了となります。その後、残りの２０％部分を国の事業完了後に施工されたとしても、この事業の支援内容から外れたものとはなっていないということになります。令和４年度の申請事業分については、全て計画とおり完了しております。

２つ目の御質問でありますが、令和５年度は宿泊施設の改修５件、観光施設の改修７件、廃屋の撤去３件が総額４億６，０４０万２，３００円で実施されております。業種内訳は、宿泊業が９件、小売業が１件、飲食サービス業が３件、生活関連サービス１件、公務業１件となっており、そのうち新規開業が１件となっております。現在、令和５年度分の事業に関しては全１５事業全てに対して、国補助分が交付決定済み、島根県、町の補助分については７件が交付決定済みとなっており、国の交付決定を受けた各事業者は、それぞれの個別事業について順次事業に取り掛かっていただいております。

また、全１３事業者のうち、本社所在地が町内の事業者は１１社、町外の事業者は２社となっております。

３つ目の御質問でありますが、一部の事業者の方に対しましては、国へ事業完了後、一定期日までに営業開始する旨を記した書類の提出を求められております。対象となる事業者の方は、国が本事業を活用した新規開業と判断した場合となっており、全ての事業者の方に一律で同様の対応を求めているものではないと聞き及んでおります。本事業に関して、御質問のような場合に関する補助金返還の規定は設けられておりませんので、事業完了後に営業が開始され、中止となった場合の補助金返還は発生いたしません。しかし、補助金を活用し、改修した物件を売買するなどした場合には、補助金の返還を求められます。

最後の御質問でありますが、民間の各事業者の方が独自に施設整備を行えるよう、経営状況の改善を行うための支援が課題だと再認識したところです。今回の事業に関しては、ポストコロナに向け、国としても、これまでにない発想の下、大胆な事業展開をされたものと認識しております。

今後、津和野町の観光がより盛り上がりを見せるには、民間事業者の方の力が必要不可欠でありますので、このたびの国の事業を積極的に活用いただいたことは、頼もしいと認めておりますが、今後、それぞれの投資が津和野観光全体への相乗効果として成果が生まれるよう、商工会、観光協会、行政が連携して、事業の運営に必要な情報を提供し、サポート、支援をしてまいりたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　心配いたしておりました令和４年度の申請事業につきましては、全て計画どおり完了しているとの回答であります。施設改修では補助金の交付決定があって、令和５年２月までに事業費の清算が完了することが要件で、工事期間が非常にタイトであるとの説明を受けたように記憶しております。施設の完成度が８０％の部分までを国へ事業計画として提出し、期限までにこの８０％部分について完了していれば、国の事業では事業完了となり、その残りの２０％部分を国の事業完了後に施工されたとしても問題はないとのことでございます。極めて国の事業としては稀なものではなかろうかなと感じておるところでございますが。

この今回の観光事業の再生に向けた事業に限らず、ほかの国の補助事業全般にこのことが言えるのかどうか。また、採択後の工事期間が短いことで、事業申請後、事業取り下げをした事業者があったかについてお尋ねをいたします。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この地域一体の事業に限らず、ほかの事業で国の補助金の対象が出来高となっているかどうか、タイトな期間の中で取り下げられた事業者がいらっしゃるかどうかと。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　なかなか完全に国の補助事業等を利用した場合に、建設等が完了して初めて補助金が出てくるというパターンが普通ではなかろうかなと思っておりますが、この今回の観光関連の事業については、８０％云々という基準もあるようでありまして、それを満たしておれば補助金が入ることに関しては問題ないということの説明を受けたところであります。最近の国の事業というものが、今回の事業と同じような対応になっているか。それについてお聞きしたわけでありますが。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この事業につきましては、当初は事業者のほうで開業までのところでの改修を目標にして、申請をされているというところはどれも同じでございます。ただ、この事業自体が単年度の事業ということで、その辺りは工事の期間もすごくタイトになるということで、国も認識しておりまして、ですので、途中での変更申請という形で、出来高による改修完了も認めていただけるような事業の形

となっております。ですので、完成まではもしかしたらいかないかもしれないんですけど、そこの変更申請の中で完成した部分について、国は補助金を出すというところで。ここでいうところのあと２０％については、国の補助事業の、残念ながら対象とはならないということになります。ですので、この部分については事業者の自己負担とか、そういったようなことで工事をしていただいて、完成にこぎつけていただくという。そういうイメージでございます。

この形のほかの国の事業というのは、ちょっと存じ上げておりませんが、この事業はそういった形で実施されているということでございます。

実施の中で取り下げがあったか、最初手を挙げられて取り下げがあったかという事業者がいらっしゃるかということにつきましては、ちょっと数は覚えてないんですけど、いらっしゃったというふうに認識しております。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　本事業が、やはり国としても緊急を要して、またこういった観光事業がへこんでいるということの中で、特別対応をされたように理解いたしました。変更申請に基づいていけば８０％程度の進捗であれば補助金対象にはなっているというふうに理解いたしました。

ただ、御回答ありましたように、その場合においては、２０％部分に対する補助金額、これについては自己負担になるざるを得なかったということで、当初想定したものより少なく補助金を受領するということですね。なかなか当初、そういった説明まではなかったもので、大変心配しておりました。ちょくちょく委員会で見るときに、まだ工事が終わっていないように見えるがというところも一時は見えました。それと同時に、実際には年度をまたいで完了を見たところがあったということでございまして。当初我々は、１年で完結しなくては補助金はいただけないというふうに理解しておりましたもので、そういったことも実際にはあったが、４年度、５年度という期間の中で、タイトな設定の中での工事期間であったがために、それが国としてもやむを得ない措置として、このような変更申請が可能になったということで理解をしてよろしいですね。

それから、工事期間がタイトであったがために事業申請を取り下げられたというこ

とが、その対象も現実にあったということでありますが、件数的にはお分かりではないですか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　事業が始まりまして取り下げられた方もいらっしゃったというふうに記憶しております。ただ、件数については把握していないところでございますが、その前に事業始まる前に、説明を、会話を何回かさせていただきました。その中では、やってみたいという方が結構いらっしゃって、この事業の説明をする中で、期間的に間に合わないというのを途中で諦めた方、皆さんで申請する前に諦めた方というのもございました。ですので、始まる前もいらっしゃいましたし、始まってからも、なかなか難しいという現実が見えてきて諦められたという方もいらっしゃったというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　国のほうも格別な対応を取られた中で、当初我々が今回の事業については、補助率の関係でありますが、国が事業費の２分の１、県と町が６分の１、そして、事業者が６分の１というふうなことで、大変魅力ある格好で皆さん方も関心を持たれたのではなかろうかなというふうに思っておりますが。これが、令和５年度において、この国の補助率については２分の１というのは変わらないと思いますが、県等におかれましては、令和４年度に比べたら若干制限といいますか、縮小されたといいますか、縮減されたというか、そういった補助金額になってきた。この経過について、お尋ねをしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　この地域一体の事業、令和４年度につきましては、おっしゃられるような割合で、国、県、町の補助があったというところでございます。そのときには、それぞれ２分の１、６分の１、６分の１というところでございましたが、この事業、全国で国が展開しているところなんですけど、島根県だけにおいては、継ぎ足し事業ということで、本当は２分の１しか国がないところなんですけど、県と町が継ぎ足しをしているところというのは、あまりないというふうに聞いております。お隣の山口県と広島県でもやってないというところなんで、そちらの事業者の方につ

いては、国の２分の１の事業だけで、この事業をやられているということでありました。島根県においても、令和４年、非常に力を入れられて実施を始めたというところでございます。

令和５年も、国が同じ形での事業を出してきたところでございますけど、当初考えておったのは、令和５年度にも同じ事業があるという想定がなかったというところで、上限は設けてなかったというところでございます。令和５年におきましては、今度島根県のほうについても財源的な部分で、なかなか大きいものが出ていきますので、財源からこの事業に対して上限を設けたというところでございます。松江と出雲につきましては、令和４年、５年を合わせて、補助の上限を４億円、あとの島根県内の市では、県の補助金の上限としましては２億、町のほうは１億という枠組みが県のほうで示されましたんで、町のほうもこの県の補助金を上回る補助を出すというのは、なかなか町のほうでも財源的に難しい部分がありますんで、県と同等の金額で補助をするというところで、令和４年と令和５年の補助率が変わってきたというところでございます。

併せて、補助の上限額を設けさせていただいて、１つの大きい事業に補助金が偏って入らないようにという配慮からなんですけど、補助上限をそれぞれの事業で持たさせてもらったというところになります。

併せて、町外、町内の区別をさせていただいて、これはそれぞれの企業の資金力とか営業資源というのが異なりまして、町内の小さな事業者が事業をやりにくくなってはいけないという考えの中で、町外に対しまして町内の６５％というところで制限をさせてもらって、その結果がこのパーセント、割合ということになったところでございます。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　どの県も市町も同じような補助対応をされたということではないということが分かったわけであります。確かに魅力ある事業でありますので、事業者の皆さん方はこの際、取り組もうということが多かったのではなかろうかな。また、稀に見る日本全国共通に取り組まれたものも多かったのではなかろうかな、

そういった感じがいたします。

それで、当初私達も令和４年度しかないのかなというふうな思いで聞いておりましたが、現実には５年度もあったと。このような状況の中で、今のところ、分かってはないと思いますが、次年度も継続してあるような国の方向性というものは見えるものですか。お聞きします。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　令和４年度と令和５年度の２か年についてあるというところでございますけれども、令和５年度につきましては、令和４年度の工期的に非常にタイトな工事を強いたということで、２か年にわたる事業の展開ができるような形になっております。ですので、次年度の令和６年度については、令和５年度の地域一体の事業の中で２か年として実施するということになっております。その先については、まだ国のそういう事業のお話も示されていないというところでございます。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　４年度に、事業申請を考えた方が取り下げられたというようなことも現実にあったと思いますが、５年度に、今４年度に取り下げられた方がまた挑戦をされた事例というのはあったものでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　工期が令和５年度で複数年にわたって計画できるということで、再度申請をされちゃった業者の方はいらっしゃいます。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　それであれば、国の対応も当初よりは変わってきたりした経過もある中で、再度挑戦された、そして採択された案件もあるようでありますので、その点ではある意味、救われた形もあったのではなかろうかなというふうに思うところであります。

昨日の同僚議員からの質問でいろいろと質問され、それにも回答されております。重複いたしますので、最後に町長へお聞きをしたいと思います。

本事業には幸いにも町内、町外の多くの事業者が観光地津和野の再生に向け取り組

まれることは、町民としても大変ありがたく、期待をするものでございます。本事業は、観光産業の再生に向けた稼げる地域、稼げる産業の実現に向けて取り組むという大きな命題があるわけであります。本町として、観光事業、この事業を通じて、今後の展望についてどのようにお考えであるかお聞きしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　やはり津和野町のこれから観光を考える上で、やはりおもてなし力の向上というのは非常に大きな意味を持つというふうに思っております。おもてなし力の向上というのは、ソフトとハードと両面言えるかと思っているんですが、やはりハード部分というのはお金がかかるということで、なかなか民間事業者が積極的に自発的に自分の施設を改修したりとか、あるいは新規開業も自ら多額の資金を初期投資をして始めていくということには、大きな今までハードルがあったというふうに認めている中で、今回本当に画期的なと言っていいと思うんですけれども、観光庁からこのようなメニューが出された、補助事業が出されたということでありまして、本当にありがたかったと思いますし。ましてやそれだけに、全国から３００を超えるぐらいの大人気の申請があったというところの中で、この津和野町の計画が認めていただけたということ、これも本当にありがたいことだし、津和野のやはり観光の１つのポテンシャルでもあり、また観光庁もやはり津和野が更に観光が伸びていくということを期待されたんだというふうに思います。昨日も大江議員の回答にも申し上げたように、観光庁は一部オーバーツーリズムになってきているので、地域が。本当に地方へ、地方へ、特にインバウンドを送っていくということに、これからすごく力を入れていくということを言われております。そういう中に、津和野はまさに地方の観光地でもあるので、そういう観光庁との考え方にも合致をしてきたというところもあるかと、そのように思っております。

先ほども課長から答弁いたしましたように、この補助事業は、県がやはり力を入れていこうということで、県独自に６分の１という、そういう英断をいただいたというところであります。町もやはりそれに応えて、６分の１、県と同等のものを手だてをしたということで、民間事業者の自己負担分が少なくなって、魅力的に更になったという話でありますが。この町の６分の１分、約２か年で１億円くらいになりますけれ

ども、要はこれはなかなか大変な財源を手だての苦労があったというところであります。というのも、通常は、我々は過疎債とかそういう起債を持って財源を当てていくわけでありますが、なかなかここの１億円分については、そういう起債が当たらない、過疎債等の有利なものが難しいということもあります。要は、借り入れはしておりますけれども、ほとんど交付税充当のない、そういうものでこの１億円の財源を手だてをしているということでありまして、それだけ町もこの事業を力を入れて、ぜひ民間のほうに頑張っていただきたいという、そういう思いの中で、結構財政的には厳しい中で無理をして、こういう財源手だてもしたということも御理解をいただきたいというふうに思っております。

そして、今後のことにということにもなるわけでございますけれども、やはりこれだけ民間の皆さんが６分の１といっても、やはり自分達で自己資金を投じて改修をされたということ、そして新しく新規で開業されたということは、やはりそれだけ自己資金を投じているだけに、観光関連のこの事業者の皆様は、これからということも真剣にこれまで以上に考えていただいているということでありますから、そうした思いというものを、うまく面的なものにして、力を結集して、ソフト面でこれからどういう形で津和野の観光を盛り上げていくのかということを、皆様と一緒に考えていきたいというふうに思っております。既に令和４年度で活用した１つの事業者からは、日本遺産を活用した、いろいろな積極的なＰＲをしていただいてもいるという、そういう実績も出ているわけでありまして、本当にありがたいことだというふうに思っております。そういう、これからソフト対策をしていく上で、また観光庁の話に戻るわけでありますが、観光立国の推進計画の中で、既に令和５年度の補正の予算、それから、令和６年度はまだ概算要求でありますが、ここにソフト対策のほうもいろんなメニューが用意されているといったところであります。これはコンテンツ作りということとともに、実は今大きな課題になっております地方の人手不足でありまして。要は、従業員の方の確保をしないと観光が回っていかないわけでありますから、そこの人手不足対策ということにも観光庁は目を向けてメニューも作っていただいているというような状況であります。

それぞれ条件があって、津和野町がそれを即導入できるかどうかはまたこれからの

話になりますが、やはりそういういろいろな観光庁が力を入れてメニューも用意してくれているということも、民間の皆さんに情報提供をしながら、いろいろ活用いただいて、今後ソフト対策としての観光を盛り上げていきたいというふうにも思っております。

それから、ありがたいことに、丸山知事にも、これは鷺舞の、確かユネスコの登録の関係で視察に７月に来ていただきまして、石見の日ということで来られたんだったかちょっとそこははっきり忘れましたけれども、そのときに御案内したのが、今回の令和の４年度分の事業を、採択を受けて、実際に活用された施設、民間の事業者の方を何件か御案内をしてまわりました。そこで、知事も実際にその事業者の方とお話をしていただいて、やっぱり一生懸命津和野の観光が、今若い方々中心に一生懸命頑張ろうとしているという生の声を聞いていただいて、非常に良かったというふうに思っているわけであります。それ以来、知事も、石見のほうの観光は、とにかくやっぱり津和野が中心になるということもおっしゃっていただいているように、遠回しにですが、聞いてもいるところでありまして。今後もやはり県として、津和野の観光というものに応援をいただけるというふうに私自身、確信をしているというようなところでありますから。

そうした、今後も国、県の御支援というものもいただきながら、しかし観光はやはりまずは事業者が面的な協力をしながらも、やはりそこから盛り上がって、行政はやっぱりバックアップしていくというスタンス、これが大事だろうというふうに思いますので、そういう気持ちもしっかり育むということも御支援をさせていただきながら、今後、津和野の観光を更に、今回のハード事業を、より一層成果が、実績があくように頑張っていきたいというふうに、私自身、強く思っているところであります。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　町内の方の中で、お話を聞くにつけ、今回の事業を契機に里帰りをして、我が家の改修の中で、新しい事業に取り組んでいこうという方もおられるということで大変嬉しくも思っております。

また、いつか前に一般質問をさせていただきましたが、宿舎の、老舗の旅館が廃業されて、長年空き家状態になっておったところも改修され、また酒屋さんも改修され

て、県外からの、町外からの事業者の皆さんが参画して、宿泊施設とか店舗展開をされるというふうなことで、かなり新たな動きが見えてきたこの事業でもあろうかというふうにも思っております。

どうぞ、事業者の皆さん方には長くやっていただけないといけません。特に、今回の事業、稼ぐ力を醸成していくといいますか、そういったことが求められているものでもありますし、町民としても期待をするものであります。行政としてしっかりとサポートをいただき、観光協会、商工会ともどもに手を携えて、この観光事業の再生に向けて御努力をいただくことをお願いして、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、７番、御手洗剛議員の質問を終わります。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日は、これで散会します。お疲れさまでした。

午後１時40分散会

―――――――――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和５年　第７回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第４日）

令和５年12月14日（木曜日）

議事日程（第４号）

令和５年12月14日　午前９時00分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第113号議案　令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第114号議案　令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について

日程第４　町長提出第115号議案　令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について

日程第５　町長提出第116号議案　令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について

日程第６　町長提出第117号議案　令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について

日程第７　町長提出第118号議案　津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について

日程第８　町長提出第119号議案　津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について

日程第９　町長提出第120号議案　左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について

日程第10　町長提出第121号議案　津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について

日程第11　町長提出第122号議案　津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第12　町長提出第123号議案　津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関

する条例の一部改正について

日程第13　町長提出第124号議案　津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第14　町長提出第125号議案　津和野町国民健康保険税条例の一部改正について

日程第15　町長提出第126号議案　津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第16　町長提出第127号議案　津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第17　町長提出第128号議案　津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について

日程第18　町長提出第129号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第19　町長提出第130号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第20　町長提出第131号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ戎丁）

日程第21　町長提出第132号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ上新丁）

日程第22　町長提出第133号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）

日程第23　町長提出第134号議案　公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）

日程第24　町長提出第135号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）

日程第25　町長提出第136号議案　公の施設の指定管理者の指定について（道の駅シルクウェイにちはら）

日程第26　町長提出第137号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野

町枕瀬山森林公園キャンプ場）

日程第27　町長提出第138号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）

日程第28　町長提出第139号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）

日程第29　町長提出第140号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）

日程第30　町長提出第141号議案　令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）

日程第31　町長提出第142号議案　令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第32　町長提出第143号議案　令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第33　町長提出第144号議案　令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）

日程第34　町長提出第145号議案　令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）

日程第35　議会活性化特別委員会の報告

日程第36　発委第４号　津和野町議会基本条例の制定について

追加日程第１　町長提出第146号議案　令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事請負契約の締結について

追加日程第２　町長提出第147号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第113号議案　令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について

日程第３　町長提出第114号議案　令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工

事請負変更契約の締結について

日程第４　町長提出第115号議案　令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について

日程第５　町長提出第116号議案　令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について

日程第６　町長提出第117号議案　令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について

日程第７　町長提出第118号議案　津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について

日程第８　町長提出第119号議案　津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について

日程第９　町長提出第120号議案　左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について

日程第10　町長提出第121号議案　津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について

日程第11　町長提出第122号議案　津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

日程第12　町長提出第123号議案　津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第13　町長提出第124号議案　津和野町福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第14　町長提出第125号議案　津和野町国民健康保険税条例の一部改正について

日程第15　町長提出第126号議案　津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第16　町長提出第127号議案　津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について

日程第17　町長提出第128号議案　津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に

関する条例の一部改正について

日程第18　町長提出第129号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）

日程第19　町長提出第130号議案　公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）

日程第20　町長提出第131号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ戎丁）

日程第21　町長提出第132号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ上新丁）

日程第22　町長提出第133号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）

日程第23　町長提出第134号議案　公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）

日程第24　町長提出第135号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）

日程第25　町長提出第136号議案　公の施設の指定管理者の指定について（道の駅シルクウェイにちはら）

日程第26　町長提出第137号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場）

日程第27　町長提出第138号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）

日程第28　町長提出第139号議案　公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）

日程第29　町長提出第140号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）

日程第30　町長提出第141号議案　令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）

日程第31　町長提出第142号議案　令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）

日程第32　町長提出第143号議案　令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）

日程第33　町長提出第144号議案　令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）

日程第34　町長提出第145号議案　令和５年度津和野町水道事業会計補正予算（第３号）

日程第35　議会活性化特別委員会の報告

日程第36　発委第４号　津和野町議会基本条例の制定について

追加日程第１　町長提出第146号議案　令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事請負契約の締結について

追加日程第２　町長提出第147号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）

出席議員（11名）

１番　道信　俊昭君	２番　大江　　梨君
４番　米澤　宏文君	５番　横山　元志君
６番　沖田　　守君	７番　御手洗　剛君
８番　三浦　英治君	９番　田中海太郎君
10番　寺戸　昌子君	11番　川田　　剛君
12番　草田　吉丸君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長　中田　紀子君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	岩本　要二君	総務財政課長 ……	益井　仁志君
税務住民課長 ……	山下　泰三君		
つわの暮らし推進課長 ……			宮内　秀和君
健康福祉課長 ……	土井　泰一君	医療対策課長 ……	清水　浩志君
農林課長 ……	小藤　信行君	商工観光課長 ……	堀　　重樹君
環境生活課長 ……	野田　裕一君	建設課長 ……	安村　義夫君
教育次長 ……	山本　博之君	会計管理者 ……	青木早知枝君

―――――――――――――――――――――――――――――――――

午前９時00分開議

○議長（草田　吉丸君）　おはようございます。引き続いてお出かけをいただきましてありがとうございます。

これから４日目の会議を始めたいと思います。

ただいまの出席議員数は１１名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（草田　吉丸君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、５番、横山元志議員、６番、沖田守議員を指名します。

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第２．議案第１１３号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２、議案第１１３号令和４年度町道一の谷線落石対策工事請負変更契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１３号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

念のため申し上げます。押しボタン式による表決において所定の時間内にボタンを押されなかった場合は、申合せ事項により棄権とみなすこととなっております。各自、自分が選択したボタンのライトが点灯しているか確認をしてください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．議案第１１４号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３、議案第１１４号令和５年度津和野町地域活性化複合施設整備工事請負変更契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　お尋ねします。

これ議案の第１１８号にも関わってきますが、まずこの名称「まごころ市場にちはら」という名称がこの看板に掲げられるとのことです。

一方で、この施設というのは、丸久さんが入られるというイメージもあります。丸久さんのブランドが掲載されていない。それはアルクさんだとかいろんなブランドある中で、この店舗というのが丸久さんなんだということで、１つのブランドとして安心していただける付加価値もつくのかなと思うんですが、参考資料の２のほうでは、方角が分かりづらいんですが、恐らく国道側といいますか、黒いようになっています。バックヤードだからということで黒くなっているのかなというふうにも思うんですけども、せめてどこかに丸久さんなんだということが分かるように認識できれば、利用される方も安心できるかというふうに思うんですが、このまごころ市場にちはらという名称になった理由、それから丸久さんの名前がない理由、そのあたりをまずお尋ねしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、名称がどうやってまごころ市場になったかという経過でございますが、これは丸久のほうの田中社長を中心として決めていただきました。丸久もいろいろ大きな店舗は、例えばアルクとかそういった名前でいろいろ店舗のサイズによって名称を変えておるルールがあるようですが、今回のここにできる施設は、丸久グループの中ではかなり小さいほうの店舗になります。初めての官民一体となった、丸久にとっても大きなチャレンジということで、丸久という名前よりは、それにふさわしい名前というのを丸久社内でいろいろ検討していただいたようでございます。

その中で、まごころ市場といった形の丸久の新しいブランディングといいますか、そういった形で今回の店舗名を決定したいということのお申出がございましたので、それを採用させていただこうかということで考えておるという次第でございます。

一方、今の丸久のロゴですとか、そうしたマークがあったほうがブランド力があっていいのではないかという御意見ですが、これは公共施設でもございます。地域活性化複合施設ということで、国の補助事業等も活用しているということから、あんまり

丸久が前面に出るのもいかがかなというような御意見もありました。

そうした中で、大変今の御意見はありがたい話で、丸久さんも大変そういうお話が議員さんのほうからあったということを多分お伝えすると喜んでくれるんじゃないかと思うんですが、この変更工事の中で野立て看板とかを旧日原町時代にあった星のマークのついた野立て看板を全部取り外して、そのサイズ感で案内看板を今回の追加工事でつくろうと思っていますので、そうした中で、もし丸久というのが入れられれば、そこはちょっと検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　それと、この黒塗りの部分ですが、イメージが暗いかなというふうにも思います。設計の部分で我々がどうこう言うのはなかなか難しいのかもしれませんが、恐らくこれ国道側から見える側のほうだと思うんですよ。そうしたときにもう少し明るいイメージのほうがいいのかなですとか、先日、景観条例のお話も出てきましたが、明るければいい、暗ければいいという話ではなくて、やはり景観に沿った形、前面のほうは僕はいいとは思います。裏のほうがちょっと暗いイメージを持ちますので、その辺は僕の考えではありますが、どのようにされるか、また御検討をお願いしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　貴重な御意見ですので、検討してまいりたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　御質問します。

先ほど副議長のほうからもお話がちょろっとありましたけど、景観条例への抵触は大丈夫なのでしょうかということと、３，０００万もの追加工事といって、それでこの店舗につく看板等々ということなんですが、これある程度理解はできるんですけど、随意ではなく別工事として発注はできなかったものなのだろうかということと、それと併せて、店舗をつくるに当たって看板があるのは当たり前であって、なぜ当初にこれが入っていなかったのかということをお尋ねします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず最初の御質問の景観条例に関しましては、一応商工観光課とも協議してクリアしておるというような認識でございます。

その次の別工事での発注は検討しなかったかというあたりですが、正直検討いたしました。検討したんですが、かえって諸経費等が高くつくであろうということと、あと今の工事請負業者であるところの変更にしたほうが、流れ的にもスムーズにいくかなというあたりを勘案したものでございます。なので、工事費等、全部予算の範囲内の中で収まるように、いろいろこちらも工夫して、財源もそのままといったあたりで今回の変更したいということで業者側とは話をしてきたという次第でございます。

３つ目の外観工事等が最初から入っていなかったかということですが、今回デザイン変更に伴いまして、そうしたことで若干こうした追加工事が出てきたということでございます。特に内装関係は、最初は普通のベタ塗りの壁であったわけですが、今の丸久さんが、ずっと工程会議を２週間に１回やってきておるわけですけども、今後新しくやるわけで、しっかりとした集客施設としたいために、そうした新しくデザインを追加したいということのお申出があったということにより、今回の追加工事となったということでございますので、御理解いただければというふうに思います。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　２点ほど質問します。

前回の説明のときにあったのかもしれませんけど、ちょっと自分が理解していなかったかもしれません。まず１つ目は、本工事の財源のデジタル田園都市国家構想交付金というのは、この本工事で使うに当たって、どういう理由で使えたのかというか、そのつながりを教えていただきたいのと、もう一点は、先ほど横山議員がおっしゃられたことにちょっと関連なんですけど、最初、内装とかがベタな状態だったとおっしゃいましたけど、最初の契約のときは、やはりその後丸久さんと協議して、何らかの追加とかいろんな提案があるんじゃないかなということは想定はされていたでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、デジ田交付金がどういう理由で使わ

れたかということでございますが、デジタル田園都市国家構想交付金の申請する段階で内閣府といろいろ協議してきたわけですが、その中でデジタルを使ったほうがいいということと、新しくこうした公共施設をつくる場合、どうしても我々、町長の答弁にもありましたが、国等の有利な補助金を持ってくるというのを大前提に検討しますので、どっちかというと、デジタル田園都市国家構想交付金の採択要件に合うような形でこの施設を考えてきたという背景もございます。なので、どういう理由で使われたかというのは、採択基準は内閣府が判断するものでございますが、内閣府と協議しながら、どうしたらこのデジタル田園都市国家構想交付金に採択されるかというあたりを考えながら、今回の基本設計といいますか、そうした基本構想を練ってきたというとこでございます。その結果、内閣府も今回の施設について、この交付金が当たるよという形で整理をしていただいたというふうに御理解いただければと思います。適切な説明かどうか分かりませんが、そうした次第で当初予算にも計上ができたということです。

内装の変更についてですが、これ当初からなかなか想定は正直できなかった部分でございます。そうは申しましても、我々はいわゆる商業ベースでは行政は素人ですので、実際に使っていただく丸久さんに入っていただくわけですから、入っていただく丸久さんにより使いやすい環境、よりあそこで末永く事業が継続できる環境ですね、そうしたものをずっと協議してきた中で、今回丸久さんから御提案をいただいたというふうに御理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　それでしたら、デジタル田園都市構想の件は、例えばですけど、そこの中でやる事務のこととか、売上げとかそういうところをデジタル化していくということが１つの理由とかでもよろしいでしょうかということが１点目なんで。

２点目としては、多分丸久さんのいろんな思いとかを酌んでやっていかれるというのは私も理解はできるんですけど、できましたら、最初の当初設計のときに、やはりいろいろ説明していただいて、自分達はそこまでのことは分からない、今の段階では

分からないんですけど、こういう状況でやっていきますけど、今後、丸久さんと協議した結果、いろんな提案があり、またそれが変化するかもしれませんという説明があれば、正直、自分としては納得できます。そういうふうなことを今後やっていただきたいなと思っています。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　デジタル化の部分につきましては、事務手続というよりも、レジのデジタル化ですとか、そうしたことをメインにやっています。内閣府の話からすると、今のこれはやっぱり自立・自走可能な形にしてくださいということがございました。なので、そうしたことも勘案しながら、これはこの変更契約を提案するときにも申し上げましたが、そうした自立・自走を実現するために、今回のこうした追加工事はやっぱり必要だろうという判断があるというのをまず申し上げておきます。

それから、当初設計での説明がなかったというお話ですが、これは設計施工が一括プロポーザル方式でやったという方式の違いがありますので、当初設計がこうであったからこういうことになる、この後変更が想定されるというのは、正直その時点では申し上げられなかったという背景がございます。なので、当初設計がこうで、今回追加設計がこうなったという中にはなかなか当てはまらないかなという認識でございます。なので、こうした設計施工一括発注方式でやると、メリットとしたら、スピード感のある設計施工ができるという反面、議員は多分恐らく、事後報告のような印象をお持ちかもしれませんが、こうしたことの事象も起こり得るというふうに御理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　今頃、このような外部サインとか、街灯設備設置が出てきたことに、ちょっとたまげております。このことは、設計の中に含まれていないということは、もちろん業者も御存じであって、執行部のほうも分かっていたことでしょう。先ほどもほかの議員が聞かれましたが、外部サインがないような店舗、信じられんと思いますが、設計ミス、例えばそういうことは考えられんのですか。

ほかの内装のことについては丸久さんのことなんで、分からんかもしれませんが、このような基本的なことがのってないようなことは、ちょっと信じられんのですが。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　外部サインが、これは、ですから、普通なら設計をして建築確認を取って、それで入札をして執行という形になりますが、これは設計施工が一括でプロポーザルを受けて、それで業者選定をしたという経過がございます。そのプロポーザルで受けた時点での中身の中では、外部サインは当然入っておりましたが、ただ、その当時のプレゼンテーションを受けた中のものとは全く違うものになったということの変更ということでございます。なので、先ほど田中議員のときにも申し上げましたが、そういう設計施工一括発注方式でやると、設計施工がずっと同時に行きますので、変更がこういうタイミングになったということに関しましては、ちょっといささかびっくりしたというのは、僕も十分理解できるんですけども、外部サイン等の幾らかそうした変更が出るのは、当時からある程度は想定していたというふうに、僕らが全く知らなかったというよりは、ある程度そうしたことは出てくるであろうということは想定していたというとこでございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　最近といいますか、以前から変更契約がかなり津和野町は多い。よそは分かりませんが。でも、最近の工事でいいますと中座団地、そして津和野庁舎のそばの教育委員会の建物、そして、川丁で津和野高校の寮を４棟建てておりますが、これらは３件ともこのような変更はなく、請負った金額でされておると聞きます。ある程度のことは契約を締結したんだから、締結した金額の中でしていただけるようなことはできませんか。例えば、丸久さんが言われたことは仕方ない、内装のことは仕方ないかもしれませんが、あとは外部サインとか夜間照明とか、例えばこんなことは入っとって当たり前と思うんですがね。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　変更契約云々に関しては、ちょっと僕が申し上げるところではないかもしれませんが、今回のはあくまでも追加工事でございますので、工事自体の最初に契約を交わしたときの契約から、その中身が変わったとい

うよりは、どっちかというと追加工事というふうな御理解いただけたらと思っております。なので、確かに変更が多いというのは、総論に関しましてはちょっと僕もちょっと申し上げにくいんですけども、当然今回の場合ですと、丸久さんといろいろ話をしながら進めてきたという経過がございますので、最初から外部サインがなかったとかいうところに関しましては、確かにこちらもしっかりその制度といいますか、中身について協議する段階では、ちょっとその辺も町としても指摘をしていかなきゃならなかった部分かなとは、今改めて御意見を聞いて考える次第でありますが。概ね全部の今回の中身については、外構工事を含んで、街灯等も含んで追加工事でございますので、追加工事に伴う変更契約というふうな御理解でいただけたらと思っております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　総額は２，９００万になっていると思うんですけれど、大体、外装と内装でどれぐらいの内訳になっているのかということと、今、米澤議員も質問されましたが、追加工事ということで、もしこの外装工事追加しなければ、どんな感じの外装に本来は仕上がる予定だったのかということ、イメージ難しいかもしれないんですが、教えてください。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　内訳につきましては、店舗内工事、それから内装工事、それから、それに伴う弱電工事等々を含めまして１，５９８万４，０００円でございます。直接工事費です。街灯設備が１８０万２，０００円、それから外部サインが２７１万４，０００円といった形になっております。これ全部直接工事費でございます。それに、あと外構工事が３９万円といった中身でなっております。それにプラス諸経費で２，９００万ばかりだというふうに御理解いただければと思います。

それと、これが追加がなかったらどのようになっているかというあたりですが、それにつきましては、私も今手持ち資料がないので申し上げにくいんですが、当初の設計をやる段階からの前のもし外部サインがなかったらというものがあったかというのは、ちょっと私も今記憶にございませんので、これもあれば、どこかでお示しをしたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　この建物は、丸久さんに入ってもらうために建てるという大前提があるというのは分かっているんですけど、町としての建物という主張があまりに少ないんですけど、それは営業に影響するからということですか。小ちゃく、津和野町地域活性化複合施設と、本当に小ちゃく書いてあるんですよ。中でゆっくり休憩を取ってもらったり、買物をしたものを食べたりすることができる場所を町としてはつくっているので、それをもっと主張してほしいなと思うんですけど、いかがでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　議員おっしゃるように、交流スペース等は中に入っておりますので、その辺はちょっとＰＲをしたいと思っています。この地域活性化複合施設の文字が小さいという御指摘につきましては、なかなか内部でもいろいろ話をしてきたとこです。

一方で、今の丸久というのをどんともっと出した、ブランドを前面に出したほうがいいじゃないかという御意見もありますし、そのデザインに関しましては、我々が考えるよりは、やっぱりちゃんと専門家の、実際デザイン会社がこれ関わってそうしたこともやってくれていますので、そうした中でバランスといいますか、そうしたものも配慮した中で今回決まったというふうに御理解いただければと思っております。

交流スペースのＰＲにつきましては、もうちょっと御指摘のようにしていきたいとは思っております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　おっしゃることは重々分かります。でも、丸久さんなんかにしてみても、初めて官民で頑張っていくということじゃないですか。津和野町がこういうことをやっているんだというのはやっぱり先進的なことなので、それも津和野町はこういうところに力を入れているんだというの宣伝にもなると思うんですけど、今さら変えるちゅうわけにはいかんのかもしれないので、ほかに津和野町はここに交流スペースを入れて、丸久と一緒に頑張っているんだということが分かるようなものをぜひつくっていただきたいなと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　その御指摘の意図は私も重々分かりますし、どういいますか、それをデザイン的に、ビジュアル的にどう表現するかというのは、それもなかなか難しいかなとは思っております。

ただ、今回、丸久と津和野町が包括連携協定を結んでこういう新しい施設ができるというのは、県も非常に注目をしてくれています。先般も地域振興部長自ら来られて、まだ工事途中にもかかわらず物を見ていただいています。

今回、丸久とのニチマルの事業承継から丸久の誘致に至ったわけですが、そのことについては島根県中小企業活性化支援協議会からも非常に多くの事業承継のスキームでお世話になっていますが、今やっぱり県内でも買物不便で、新しい店舗が必要だ、スーパーが必要だということが増えてきているそうです。そういう問合せが増えてきた中で、津和野町の今回の丸久との連携協定における施設の設置というのは、非常に大きな形のモデルケースになるだろうということで、そうした評価も頂いております。なので、ビジュアル的にそれを表現するのはなかなか難しいかもしれませんが、今後、新しい中山間地域の買物不便対策の新しいモデルケースにはなり得るだろうというふうに我々思っていますし、丸久側も、丸久さんは東証プライム市場にも上場されている企業ですが、大手のスーパーの中でも、やっぱり北海道だとか全国の地方では、こうした買物不便地域における問合せで、官民一体となったやり方がちょっとずつ出始めているそうです。なので、島根県のしかも津和野町が、そうしたことでいう意味でいうと、最先端行っていると思いますので、ビジュアル的にはなかなか表現しにくいかもしれませんが、ここの施設を成功させることで、しっかりモデルケースとして町外的にもＰＲしていきたいと、そういった考えで運営してまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　よろしいですか。大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　議事進行のために、休憩の動議を求めたいです。

（「賛成」と呼ぶ者あり）

○議長（草田　吉丸君）　暫時休憩といたします。

午前９時30分休憩

……

午前９時43分再開

○議長（草田　吉丸君）　会議を再開します。

そのほか質疑はございませんか。

私のほうからひとつだけ、街灯の関係ですが、どういう形の街灯ができるか分かりませんが、あの付近に天文台がございますので、下を照らすような街灯ならいいと思いますが、空に向かうような光については、少し考える必要があると思いますが、その辺検討をよろしくお願いします。つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　御指摘のようなことは、以前、旧日原時代にも街灯を整備するときにそうした配慮した覚えが私もありますので、その辺に関してはしっかり配慮してまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　反対の討論として。

丸久さんの要望は受けるべきと思っております。ほかのことは、プロポーザル方式であれば、受注者もこういうものをつくらねばいけないということは分かっておると思うんですが、これは受注契約の金額の中でやるべきではないかなと。２０日に最終日がありますので、そこで丸久さんの要望された金額の変更契約を示していただけたらと思います。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　資料です、米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　資料ではなくて、２，０００万ちょっとの予算でなくて、追加の、丸久さんの分は致し方がないですが、要望は、そのほかはプロポーザル方式やっとれば、受注者も全部分かっとるはずですから、これがなかったちゅうこと自体、私はおかしいと思っとるんです。街灯にしても、外部サイン、例えば看板にしても、それは当然設計の中にあってしかるべきと思っているんですが、それを外した金額で２０日に提出して（「討論、討論」と呼ぶ者あり）

以上で、反対の討論といたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、賛成者の発言を許します。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　賛成討論をいたします。

実は、いまだに、今日の追加提案で補正が上がるようではありますが、学校給食センターの契約金増額の問題が解決されないままにこの変更契約が出ましたので、実は正直なところ驚いたわけであります。ですが、初日の変更の説明理由等を聞きまして、理解をいたしました。

本来、我が町に年商１，０００億、株式会社丸久さんが我が町に進出していただくなんて、誰も想像しておらなかったわけであります。これには、いつかも申し上げましたが、担当課長はじめ担当職員達の昼夜を問わず、ましてや祭日を返上して、我が町がこれ以上衰退しては相ならんと、そういう危機意識で一生懸命にマルシンがなきあとの我が町の姿を想像しながら、一生懸命にこの新しい事業承継の会社を探してくれたわけであります。その熱意が、年商１，０００億の株式会社丸久さんの進出につながったと、こういうことで非常にありがたく感謝をしておるとこであります。

今回の増額、約２，０００万、３，０００万、２，９００数十万でありますが、これは当初予算の中にしっかりその予算は計上してあります。したがって、追加補正はやることなく、この補正の予算の範囲内で追加工事ができるという、こういうことでもありますし、この変更の大きな理由は、度々申し上げますが、丸久さんの意向だと、こういうことでありますから、私は大いに結構だと思います。

ただ、残念なのは、先ほど来から何人かの同僚議員が言うように、当初から丸久さんの意向を入れて、そうして設計ができておれば、このような追加工事にはならなかったと思うんでありますが、プロポーザル方式だというようなことで、それができなかったということでありますからやむを得ませんが、プロポーザル方式が必ず全ての建物等に適切でないことをそれを実証しておりますので、今後の参考にしていただきたい。このことを付け加えて、賛成討論といたします。終わり。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　私もいろいろ悩むこともありますけども、先ほど課長がおっしゃったように、地域と丸久さんというのが一緒になって、地方の衰退を防ぐためにやるということに関して賛成したいと思います。

ただ、やはり先ほど米澤議員がおっしゃったように、追加工事とか変更とか、こういうことは極力避けてほしいです。やはりこれって、なかなか町民の理解が得にくいところがあります。やむを得ない場合もありますけど、ほんと今後それは事前にしっかり協議して、慎重にやっていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１４号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

各自、自分が選択したボタンのライトが点灯しているか確認をしてください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成多数であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（９名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
横山　元志君	沖田　　守君
御手洗　剛君	三浦　英治君
田中海太郎君	寺戸　昌子君
川田　　剛君	

反対（１名）

米澤　宏文君

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．議案第１１５号

○議長（草田　吉丸君）　日程第４、議案第１１５号令和５年度町道商人線道路改良工事請負変更契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　質問させていただきます。

工区の延長ということなんですが、工区の延長でしたら、先ほどの議案と同じように同じようなことを言うんですが、随意ではなく、別工事として発注は考えなかったものなのか。あとそれに併せて、道が狭いからという理由でした。道が狭いぐらいのことは、工事を始める前から分かっておることであって、だったら、一括発注を考えたほうがよかったのではないか。

以上、この２点お伺いします。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　今お話しいただきました、別工事でいいのではないかということで、あと道が狭いのは最初から分かっているということでございました。私として、今までもそうですが、工事当初で発注いたします。そういたしましても、やっぱりコンサルが絵を描きますが、なかなか実際施工してみないと分からない部分があります。それは例えば推定岩盤線の相違とか、そういったものが一例として挙げられます。

今回、こうして変更として上げさせていただきましたは、一応計画の中で全体の計画がございます。それで、今回この区間を施工するということがあります。それで、概ねこの状況でということで、当初入札して業者が決定したわけであります。

ただ、どうしても、私ども建設課当課でございますが、技術の職員と申し上げても、実際に施工する状況をどのようにして進捗したらいいかということまで、事細かに把握していない部分ございます。その中で発注して、どこまでの部分を、例えば今回のケースで申し上げますと、大型ブロックの上まで積んでいくのか、下部の部分を進捗させて延長を延ばすのか、そういったことがなかなかちょっと分からない部分が正直ございます。そういう点につきましては、やはり施工業者の方とお話しして、協議の

中で進捗させるということで、今進めておるところでございます。これは本工事に限らず、ほかの工事でもあります。その協議の中でもっとこうしたらどうかといういろんな御提案いただきながら、例えば資材のほうでも、安価で早く施工できるものがあるとか、そういう御提案を協議でいただいて、それで変更の対象として、監督員のほうで協議の中で承認ということをしている状況でもございます。

道が狭いということは、もちろん最初から分かっておりますけど、そういったことで受注業者の方と工事の進捗のプロセスについて、いろいろ協議の上で進めさせていただいて、最終的に工事目的物として完成したものを施工するということで進めておるところでもございますので、その点については御理解いただきたいなと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　そのほかございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１５号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

各自、自分が選択したボタンのライトが点灯しているか確認をしてください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第５．議案第１１６号

○議長（草田　吉丸君）　日程第５、議案第１１６号令和５年度旧日原保育園解体工事請負契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　初日に若干の説明を受けましたが、まず参加業者、町内の参加業者の名前、たしか５者と言われたような気がしたんですが、５者の名前。そして、落札率は９３．１と言われましたかいね、９５.何ぼでしたか。ここもう一遍、詳しく落札率と。そして予定価格、最低価格を決めとると思うんですが、それをもう一度報告していただきたい。まずはそれをお願いしたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　まず、入札参加されたところですが、堀建設株式会社、株式会社栗栖組、株式会社日成建設、有限会社ナガヨシ技建、以上４者でございます。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　予定価格でございますが、税抜きで5,１７０万でございます。最低制限価格は４，９３７万３，０００円でございます。落札率は９５．８％でございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　町長、これ町長にお伺いするんじゃが、これは４者が入札に参加しとるから、それなりの競争原理は働いていると私は思うけども、予定価

格と最低価格をお示しになって入札を実施されとるわけだ。残念ながら、それでも１，７００万ぐらいの最低との差がありますわね、予定と最低の差額は。競争原理が十分働いておるとお考えですか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　まず、入札の前提条件としまして、入札時に予定価格と最低制限価格は、津和野町の場合は公表しておりません。その中で入札を行うというのが、まず大前提としてあります。

予定価格というのは設計価格でありますから、それを町長が下げて入札を行うということは歩切りということになりますから、これは違反行為ですから、設計価格イコール予定価格というのが、まず大原則になってまいります。

あとは最低制限価格を、これはあと町長が決めていくわけでありますが、そこも全く当てずっぽうで私が決めているということではなくて、県が示している最低制限価格の積算根拠というものがありますから、それに基づいて一定程度の最低制限価格を決めます。そこに基準が出てきます。それを基に、これは業者にも私が常に公表しておりますが、その積算根拠からプラス０．５からマイナス０．５、この間の中で私自身が最低制限価格を決めさせていただきますということを公表しております。

というのも、今は業者さん、かなり設計の能力が上がっておられますので、県の積算根拠の最低制限価格そのままに私が入れてしまうと、大半がそれになってしまって、くじ引きになっていくような感じになりますから、そういうことも避けるために、少しいらって、最低制限価格を決めさせていただいていると。これは県のほうの事業も大体同じようなやり方をされているといったところであります。

最近の土木もそうですが、建築もそうですけれども、そういう県の基準に従って出てきますので、大体、昔は８０％とかそういう最低制限価格が出ておりましたが、今は低くても９１％。大体、建築工事になると１９５％ぐらいのところがまず基準で出てきているというのが最近の傾向でありまして、だから、予定価格と最低制限価格の間には、もともと建築であれば５％とか、土木でも大体１０％ぐらい最近は行かないぐらいですが、その差ぐらいの中で入札が展開されているというのが実情でございます。

今回、競争原理が働いているかということでありますが、結果としては、１者が最低制限価格を下回っておりまして失格となっております。２番目の価格、これが受注業者でございますが、今回、そこに予定価格以下、最低制限価格以上ということで決まって、そしてあと３者、４者と。４者は少し差が開きがありますけれども、３者目とそのうち今回落札をされた２者目の差というのは本当に微々たるものであります。そういう結果を見る限りは、競争原理が働いているというふうに私は理解しているといったとこであります。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　大体分かりましたが、失格者が出るということは、失格業者はそれでもこの工事を請け合って、解体工事ができるという判断をして札を入れるわけですから、町長、そのこともよくお考えにならないと、業者が、言葉が悪いかも分からんが、勉強が足らんというような表現をお互いにしちゃいけん。そのぐらいの町が示した、町長が公表はしないけども、最低価格を決めとるが、それ以下を札を入れるから失格になるんであって、でも、業者はそれでも請け負ったら採算が取れるから請け負うんですから、そこら辺をよく承知いただかないと、財源を浮かす努力は執行者町長にあるんだから、町長が少しでも財源を浮かして、そしていろんなインフラ整備をするということに努力いただかにゃなりませんから、そのようにお願いしたいということと。

もう一言。保育園という施設があるときには、所管は健康福祉課の担当や。解体工事は、つわの暮らし推進課の説明を受ける。私は理解できない。なぜ最後まで解体まで健康福祉課の仕事でないのか、不思議でならない。そこら辺は、担当課長じゃあよう説明せんろうけ、町長説明してください。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　保育園としての基本は機能は終えております。そういう施設であるということと、今回補助金をやはり頂いて解体をするものであります。その補助金の関係がつわの暮らし推進課のほうで申請をしている、担当してきたという、そういう観点の中で、今回つわの暮らし推進課で解体工事という形を取らせていただいたというところであります。

例えば今度集会所施設ということになりますが、そこの部分はデジタル田園都市交付金をやります。これは教育施設ということになってまいりますので、教育委員会のほうが担当していくと。デジタル田園都市交付金を申請は教育委員会のほうでしていくというような形にもなるということであります。

それから、最初のほうの最低制限価格をどうするかということは、非常に重たい問題だなというふうに思います。例えば今回の最低制限価格も県の積算根拠が恐らく９４％ぐらいだったんじゃないかと思いますが、それをあえて８０％ぐらいまでに下げて設定をするのが、本当に入札としてふさわしいのかどうかというのは、もう少し熟慮というか、検討していく必要があるんじゃないかな。やはり入札を行うという意味においては、ある程度の最低制限価格があって、そこにある意味失格が出るというのは、ある意味じゃ入札の公平性を確保する上でも、致し方ない面があるのではないかというふうに私自身は感じているところであります。

最近は一つひとつの国交省からも事業の適正性、公共工事の適正性ということが問われている中で、やはりあまりにも入札価格が、それは業者はできると思って値段を入れてくるのかもしれませんが、やはりそこの差が大きいということが、その事業そのものの品質というものに関わるんではないかという中で、そういう国交省からも通達があり、最低制限価格をある程度の基準に沿った形で設定しているというのが実情でもあるというところであります。

一方で、財政的な面は低く決まれば決まるほどいいわけ、それもよく分かりますので、また今御提言いただいたことについては、指名審査会等で一度またメンバーで議論してみたいと、そのように思っております。

○議長（草田　吉丸君）　そのほかございませんか。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　これは解体工事なので、そんなにあれではないと思うんですけど、やはり最近は、物価高騰のあおりを受けて様々な問題が出ていると思うんですけど、例えば機械のリースとか、何かしらでこの解体工事で、今後物価高騰があり得るとか、そういうことは想定されているでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　物価高騰による、多分恐らく変更契約をま

た懸念されているんじゃないかと思いますが、物価高騰による変更契約というのは、今のところ想定はしておりません。

ただ、解体工事でも以前もありましたけど、いろいろ壊すうちにいろいろなものが出てくるということは想定しなきゃいけないかなと思っています。今回アスベスト等とかも入っておるということが確認されておりますので、その辺はしっかり留意しながら進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　賛成の立場でお話をさせていただきますが、一応賛成はします。賛成はしますが、先ほど同僚議員のほうからもお話ありましたように、この最近の変更契約の在り方をいかがなものかと思っておるところであります。ですので、極力というよりも、次の変更契約は認めたくないと思っておるところであります。極力変更契約のないように、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１６号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第６．議案第１１７号

○議長（草田　吉丸君）　日程第６、議案第１１７号令和５年度町道円の谷線晩越トンネル修繕工事請負契約の締結について、これより質疑に入ります。ありませんか。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　先般、他の地域のトンネル工事において、コンクリートの厚さが３センチしかなくて、結局全部やりかえというニュースを目にしました。そういうことが起きるとは思いませんが、検査のときというのは、このトンネル工事の場合、どういった工事の検査を行うのかをお尋ねいたします。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　今、御質問ありましたトンネル工事の検査ということでございますが、実際には、私も町内の町道のトンネルというのが、当該トンネル、晩越トンネルと唐人屋トンネルがございます。ただ、そのトンネルの工事のときに、もちろん大分前のことですので関わっておりませんので、どういう検査をしたかというのはちょっと把握できていない部分でございますが、一般的に申し上げますと、何でもそうですけど、そこのコンクリート工事とかいろいろやっておりますけど、寸法とかコンクリートの強度とか、いろいろなそういったことは検査すると思います。また、不可視部については、工事写真にて確認しとると思うところでございますが、どうし

ても私がトンネル工事のということが、今回初めてこういったことで業務として関わったものでございますので、詳細なことは私もちょっと技術な何かの資格があるわけではございませんので、ちょっとこの場ではお答えできかねますので御理解いただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　恐らくトンネル工事って、大体県道、国道で、唐人屋トンネルって聞いたことありますけども、検査ですね。でも、それでも掘ったり、工事という工事ではなかったと思うんです。点検とかそういうものでしたら今までもあったと思うんですけども、それと用途廃止というのはあると思いますが、このたび、このトンネルの工事でいろいろ、本当に工事をされるというところでそういったニュースを耳にしましたので、そういったことは起きないと思いますが、しっかりとした工事、津和野町はあまり経験ないということですので、しっかりほかの自治体との検証も含めながら工事進めていただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　１１６号と同じ質問します。

参加業者数、参加業者の社名、予定価格、最低価格、落札率、これをまずは聞きたいと思います。

それと、最初に申し上げておくが、これは１億５，０００万ばかりかかるわけではありますが、たしか当初予算で１億６，４００万ばかり国庫補助が入っとったと思うが、この財源を使うわけだね、それを併せて説明してください。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　ただいま御質問がございました入札の状況でございます。こちらは一般競争入札で実施しております。参加業者が５者ございました。予定価格につきましては、１億４，４８６万円でございます。最低制限価格につきましては、１億３，４４３万円でございます。落札金額につきましては、１億３，４８４万８，０００円でございます。いずれも税抜き価格でございます。落札率につきましては、９３．１％でございます。

当該事業につきましては、議員今お話ございましたとおり、国庫補助事業、長寿命

化対策事業で行っておるものでございます。これにつきましては、今までは、何と申しましょうか、いろんな災害が起こってから事後に復旧するというのがメインになっておりましたが、国のほうも国土強靭化の取組ということで、防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策ということで、事後の復旧よりか、予防保全というところに力を入れるようになっております。

そういった意味を込めまして、これはトンネルの工事でございますが、先ほど申し上げました２つのトンネル、あと町内に約３０７だったと思いますが、橋がございます。そういったものの５年に１回の定期点検を行いまして、対策が必要なものにつきまして実施する、重要構造物について実施するように今しておるところでございます。なお、当該工事の補助率につきましては、６５．４５％でございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　５者の名前は分かりますか。

○建設課長（安村　義夫君）　失礼いたしました。参加業者の名前を申し上げます。株式会社栗栖組、内田建設株式会社、株式会社日成建設、日発建設有限会社、堀建設株式会社、以上、５者であります。

○議長（草田　吉丸君）　ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１７号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第７．議案第１１８号

○議長（草田　吉丸君）　日程第７、議案第１１８号津和野町地域活性化複合施設の設置及び管理に関する条例の制定について、これより質疑に入ります。ありませんか。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　７条なんですけれども、利用の承認というのがあります。この複合施設を占用して利用とする者はとあるんですが、基本的に商店が入っている中でどういったことを想定するのか。例えば駐車場の施設というのは、一応町有地になると思いますので、それを利用することになるのか。それとも、店舗内を利用するという、あまり想定はされないけれども、一応条文にうたってあるものなのか。そのあたりを御確認させてください。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　この部分につきましては交流スペースがございますので、そうした交流スペースを例えば団体等が利用する場合ですとか、そうしたことを想定して一応掲げているというふうに御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　例えば駐車場スペースで何かイベントをするとか、そういった場合は、そこは町有地として扱うのか、それとも、後ほど出てくると思い

ますが、公の施設の指定管理ということで丸久さんにお願いするのか、そこも含めてお願いいたします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今のところ、駐車場の中でも今度の施設ができて、こちら側に日原診療所がございますが、その奥まったところにちょうどスペースがありますが、そのスペースは今回の管理者の指定管理の範囲に入れようとは思っています。それ以外はちょっと別で考えています。ただ、これはまだ今の案の段階でございますので、詳しいところは今後詰めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　これは今日は条例用の制定だけど、この後また規則を決めるの。そして、指定管理者のまたそれも同時になぜ、今日の、今日というか、今定例会に管理者指定までやらないの。既に丸久さんが入るのが分かっておりながら、それは現時点ではできない理由があるの、どうぞ。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　今回、設置管理条例を上程させていただいて、今日決めていただければ、今度、公の施設指定管理者選定審査会を開催します。そこで、丸久さんではありますが、そこで審査をしていただいたという結果を経て、今度３月議会に上程させていただくと、そういう段取りになっております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　ということになりますと、その審査会を経て、指定管理料等は決まってくるということなんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　お見込みのとおりでございます。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　それで参考までに、担当課長に言うとくけど、せっかく丸久さんが入っていただくんだから、施設をああして町があなた方の努力で２億の国庫補助も取ったちゅうて、そして準備をするわ。多分丸久の社長は、おんぶにだっ

こじゃ、非常に精神的な負担がかかるじゃろうと、私が推測するの。したがって、指定管理料はほとんどが町から払いよるけども、ここは、丸久の社長に、むしろ、丸久の社長さんにせっかく入っていただいて申し上げるのは恐縮千万だけど、せめて管理料は、要するに賃貸料だわね。それは、程々の金額を町は頂戴したいと思っとるがというのを、こちらから投げかけてさしあげるのが、私は親切だと思うんです。

例えば、概ね５億かかりますが、２億はあなた方の努力で国庫補助を取ってきた。残り３億は多分過疎債を中心に起債を起こす。そうすると７割は交付税措置があるということになると、実質負担は１億だ。１億をスーパーの（　　）なんかは、三十四、五年だ、償却年数が。それでさらっと割ると、年間３００万か４００万。せめて５００万程度の管理料を丸久さんに請求をむしろされたほうが、町から出すということは、あっては私はならんと思って、ましてや、かえって失礼に当たる。その程度は丸久さんが負担されるほうが、丸久さんの立場に立つと、そのほうが町から示す、親切であると、このように思いますが、町長のお考えはいかがですか。（「町長」と呼ぶ者あり）町から管理料を払わずに、頂戴する施設にしてほしいと。そのほうが丸久さんに対しての礼儀だと思います。あなたはどう思うかちゅう。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　指定管理料については、今のところ、こちらからお支払いをする計画にはないというところであります。今こちらで確認を取っていたのは、質問の意図が分からなかったという意味ではございませんで、過疎債を適用しておるわけでありますから、そこの範囲によって、利用料を頂くということが、過疎債の適用にならない可能性が出てきているということをちょっと心配したもんですから、その辺の確認を今取っていたというとこであります。

ですから、今回、デジタル田園都市交付金を２億頂く。それは本当にありがたいことでありますが、その裏部分の過疎債を、今どこまでが適用として充当していくのかという部分が、確認がしっかり取れておりません。そういうことも後ほど検討・確認しながら、そこの適債性と利用料を取ることとのきちっと整合性も検討しながら、また利用料を頂くかどうかということは検討していきたいというふうにも思っております。

ただ、利用料まで頂くということになりますと、なかなかそこで丸久さんとの交渉事というのがどうなっていくかというのは、またそれはそれで別問題で、難しいところも出てくるかなという印象も受けているというところでございます。

今回はあくまでも、丸久さんとしては地域貢献ということで、チャレンジということから一緒に今やろうという話でございますので、そうしたことも考え合わせながら、利用料を頂くということまでについては、いろいろとまた慎重に検討していく段階にあるかなというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　第１０条の利用料金というところなんですけれど、これはどのようなスペースのどのような利用が想定されての利用料金なのかということを教えてください。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　先ほど申し上げましたが、交流スペース等の利用料等も考えておりますが、詳しくは規則等で定めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１８号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第８．議案第１１９号

○議長（草田　吉丸君）　日程第８、議案第１１９号津和野町下水道事業の設置等に関する条例の制定について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１１９号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第９．議案第１２０号

○議長（草田　吉丸君）　日程第９、議案第１２０号左鐙学習センターの設置及び管理に関する条例の制定について、これより質疑に入ります。ありませんか。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　１点確認させてください。用途変更にするのが大変だということですけども、いわゆる条例上、集会施設にしておくと、利用といいますか解釈が難しくなってきて、利用者にとっては使い方というのは変更はなく、あくまで法的な解釈で学校用途ということの解釈でよろしいでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　法的なところの中で集会所施設として利用するということは、用途上難しいというところでありました。県のほうともいろいろと協議をさせていただく中で、現在、左鐙小学校のほうをＮＰＯ法人さぶみのさんのほうにフリースクールとしての利用ということで委託をしております。そちらが、左鐙小学校のほうで活用しているところと、そういう連携を取っているというところと、それから学校施設として今活用していますので、そういったところで学校用途として使用が可能だということを確認しております。

今現在、学校施設については、申請をいただければ地域住民の方も利用できるような形になっておりますので、同様な扱いとして、地域の方に利用できるような体制を取りたいということで条例改正をお願いしたところでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２０号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　ここで１０時４５分まで休憩といたします。

午前10時32分休憩

……

午前10時45分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、会議を再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１０．議案第１２１号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１０、議案第１２１号津和野町職員の給与に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２１号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宕文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１１．議案第１２２号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１１、議案第１２２号津和野町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２２号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１２．議案第１２３号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１２、議案第１２３号津和野町保健福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２３号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１３．議案第１２４号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１３、議案第１２４号津和野町福祉センターの設置及

び管理に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２４号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１４．議案第１２５号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１４、議案第１２５号津和野町国民健康保険税条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２５号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１５．議案第１２６号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１５、議案第１２６号津和野町介護老人保健施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２６号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１６．議案第１２７号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１６、議案第１２７号津和野町農産物処理加工施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２７号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１７．議案第１２８号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１７、議案第１２８号津和野町水道事業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部改正について、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２８号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第１８．議案第１２９号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１８、議案第１２９号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町町営塾日原）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１２９号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第１９．議案第１３０号

○議長（草田　吉丸君）　日程第１９、議案第１３０号公の施設の指定管理者の指定について（寺田納骨堂）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３０号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方

は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２０．議案第１３１号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２０、議案第１３１号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ戎丁）、これより質疑に入ります。ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　公の施設とはいいながら、これは町が相当大きな投資をして空き家を改修して、そして観光協会が今指定管理を受けとるわけだけど、この１３１号、次の１３２号も含めてになってしまいますが、この利用料というのは、お客さんが利用したときの利用料というのは観光協会の収入になるわけですね。したがって、町から管理料を出すというのはいかがなものかというのを前から思っとったんですが、そこら辺の見解を町長にお尋ねしたいと思うんだが、どうなんですかね。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　この指定管理料は、資料にも出ておりますように０円でございます。宿泊料等上がった収益については、そこからいわゆる清掃代とか、観光協会

の中でそういう経費にも充てていただいていると、それから管理の経費にも充てていただいていると、そういう仕組みでやっております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　だからね、０円にしとるのは今のような理由でしょうが、少なくとも、年間の観光協会が利用料として収入を得とるのは、担当課長、年間これは幾らあるのか。次の１３２号に係る……、堀課長のとこね、答弁できる、今。分からん。分からにゃええけども、年間相当あるんじゃないかと思うのよ、利用者があって。それで十分、観光収入、観光協会の収入源になっとるんじゃないかと思うんだけど、そこら辺との関係、金額は分からんでええけ、感触でちょっと答えて。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　金額については資料がないので、申し訳ありませんが答えられませんが、収益につきましては、観光協会が収入としとるところなんですけど、人件費部分についてまでの賄いについてはできていない。好調な収入なんですけど、清掃とか管理、そういう部分につきましては、収支は黒字になっているというふうな報告を聞いておりますけど、そこで観光協会の人材が管理に携わっておるんですけど、そこの人件費まで含めると赤字になるということございます。

観光協会のほうは、集落支援員のほうを当たっておりますんで、その部分については町のほうで賃金といいますか、給料のほうを見ております。見ておりますが、その部分も合わせると、収支としてはマイナスになっているというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　金額はいいんですけど、大体何人ぐらい月に泊まっています。約でいいです、大体感覚でも。私が見た感じでは、あんまり行っていないなちゅう感じがしとるんですけど、どうなんです。それとか、上がっとるとか下がっとるのかとか、そういうのは把握できません、していません。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　数字としては、今日は資料を持っていないのでお答えできないところなんですけど、協会のほうからのお話では、コンスタントにお泊まりは入っているというふうに聞いておりますし、私もたまに予約サイトのほうを拝見

するのに、マルというのが予約可能な日なんですけど、三角もしくはバツという日が、１か月のうちにはかなりある月もございますし、閑散期についてはどうしても少なくなるという部分ございますけど、コンスタントにお客さんは入っているというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３１号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――・――――・――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宕文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第２１．議案第１３２号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２１、議案第１３２号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町まちなか再生関連施設　町家ステイ上新丁）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３２号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２２．議案第１３３号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２２、議案第１３３号公の施設の指定管理者の指定について（津和野駅）、これより質疑に入ります。ありませんか。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　津和野駅ですけど、設置目的としても、利便性向上とか利用促進を図るとともに、駅利用者や町民の多彩な交流を促進する観光拠点施設ということで、私も大変期待しているんですけれど、以前ちょっと質問もさせていただいたんですけど、現在今、待合室のほうの一部をテナントで貸して、いろんな店が入るように努力されてはいると思うんですけど、状況はどうなっているでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　テナント部分につきましては、昨年の８月の開業を目標に事業者の方を募集をしたところでございます。しかしながら、その時点では、やっていきたいという事業者がいらっしゃらなかったということで、現在に至っておりますが、今年になりまして、そのまま空けておくのももったいないということでございますので、観光協会のほうで土日、あと祝日ですかね、ＤＬが来たときに地元のお土産物とか、そういうものを委託販売するような形で、今そういうふうな形で利用をしております。ある程度、土日にはそういう商売になるという見込みが今つきましたので、協会と今協議しながら、今後あそこのスペースについて、協会が直接委託販売を受けて販売を開始したいというふうな希望で今動いているとこでございます。

今回の補正予算のほうに上程をさせていただきます修繕費というのがございまして、商業施設と待合室の間をシャッターで区切らさせてもらって、そこに商品を置いて販売するのに保管ができるスペースとして活用したいということで、そこの空間を分割して利用したいというふうに考えております。併せましてその商業スペースの部分、棚を出したり片づけたりするような仕掛けをちょっと考えておりまして、閉まったときには例えば会議とかそのほかのワークショップというような、そういうものが開催できるような空間として利用できたらいいということで、そういうふうな方向で現在進めておるとこでございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　観光協会としても努力されていると思います。町全体として、今後、施設を民間の力を活用していくと、この前もおっしゃっていましたの

で、やはり観光協会も努力するとともに、ぜひ観光協会から発信して、もっともっと町民のアイデアを募集したりとかして、多分、今さっきおっしゃられたことだけではなかなか難しいと思うんで、もっともっと活性化できるように、意見を募集するなりしてほしいと思っています。

○議長（草田　吉丸君）　質疑で、回答要ります。商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　議員今おっしゃられたような形で、もっともっと町なかの人が活用できるような形、今、協会でスタートアップをするところなんですけど、そのあたりを広げていきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　改めて観光協会に言ってほしいのが、あの地域の一時避難所という位置づけを観光協会にもう一度でも言っておいていただかないと、何かあったときに、わって行ったときに、あそこはずっと空いているのはいるんですけども、この人達何なんだろうというふうになっちゃいかんので、そのあたりは徹底しておいていただきたいんですけど、いかがです。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　議員おっしゃられるように、あそこの駅の活用の一つとして避難所という考え方でございますけど、そのあたりは観光協会のほうも認識をしっかりしとるとこでございます。おっしゃられるような形で活用なり、敷居を低くしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３３号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２３．議案第１３４号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２３、議案第１３４号公の施設の指定管理者の指定について（日原蚕の人工飼料育研究センター）、これより質疑に入ります。ありませんか。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　人工飼料というのは、桑の葉を加工するものでしょうか。それと冬虫夏草の栽培実績、また販売実績等はあるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　桑の葉の茶として利用するというところもあります。また、冬虫夏草になりますので、冬虫夏草を利用して今サプリとかというのに活用しているというところでございます。

収支につきましては、総会のほうに一応出席しておりますが、今手元にそういった資料がないので、なかなか申し上げにくいんですけど、なかなか経営が行き詰まって

おりましたが、今、回復を徐々に徐々にしていっているという状況だと、総会の中では聞いております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　以前は冬虫夏草の販売も行っているような報告があったんですが、それはないということですね。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　冬虫夏草の販売も変わらずいたしていると聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３４号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君

沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２４．議案第１３５号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２４、議案第１３５号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町日原賑わい創出拠点施設）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３５号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君

三浦　英治君　　田中海太郎君

寺戸　昌子君　　川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第２５．議案第１３６号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２５、議案第１３６号公の施設の指定管理者の指定について（道の駅シルクウェイにちはら）、これより質疑に入ります。ありませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　質問させていただきます。

公募で２者あったということなんですが、片方はきっと民間事業者だと思うところなんですが、先日の同僚議員の一般質問の中でも、利益の上がるとこは民間にやらせるべきだというお話があったところなんですが、なぜここで津和野開発になったんだろうという理由をちょっとお聞かせ願えますか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　２者ございました。もう１者は株式会社出雲ポンプであります。株式会社津和野開発と２者ございましたが、なぜ民間にならなかったのかというのは、審査員が６名いまして、大きく１１項目において、大項目です。それに更に小項目があってそれぞれに点数をつけて合計点を出します。それの６者の平均点でどっちがよかったというのを決めるわけですが、その中でなぜよかったのかと言われると、その平均点の結果が、出雲ポンプが４９．６点、それから津和野開発が５８．４点で津和野開発に決まったという経過を申し上げられますが、理由と言われると、なかなかなぜかというのがちょっと申し上げにくいとう、そういう状況でございます。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３６号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２６．議案第１３７号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２６、議案第１３７号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町枕瀬山森林公園キャンプ場）、これより質疑に入ります。ありませんか。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　今年初め頃ちょっと行ってみたんですが、駐車場ちょっと止めたら係の人がおって、駐車場３００円頂きますとか言われたんだけど、あそこを利用すれば駐車料取るんですかね、駐車料金。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　森林キャンプ公園場のとこになりますけど、一応利用料

という形でいろんな施設のものは取っておりますが、その中に駐車場が入っていたかどうかというのが、今手元に資料がないので分かりませんが、取られたというところであれば、その中に入っていたものだと思っております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　確かに言われてみると、駐車場料金何ぼと。キャンプを利用したりする人の宿泊施設を利用したりする人から、あの山の中で駐車料を取るのはどうかなと思うんですが、また考えていただきたいと思います。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　利用料については、また検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　お尋ねします。

次の１３８号議案が、いわゆる道の駅なごみの里の周辺施設の農産物加工施設を三保電機さんが受けられます。先ほどのシルクウェイにちはらにおいては、出雲ポンプさんで２者で公募で受けたということなんですが、この枕瀬山キャンプ場についても津和野開発が担ってきました。経緯は、もともとということではなくて、いろんな紆余曲折があって今津和野開発さんが受けておられると思いますけれども、もしもこのときにシルクウェイにちはらのほうが、出雲ポンプさんが点数が高くて、そうした場合に枕瀬山キャンプ場だけが管理になるのかなと。それだけでやっていけるのかなと思ったりもしながら、この枕瀬山キャンプ場についても、出雲ポンプさんは公募の中で応募されたのか、もしくは出雲ポンプさんに限らず、公募があった場合に何者かあったのか、お尋ねをいたします。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　この枕瀬山森林公園キャンプ場につきましては、津和野開発１者のみでございました。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３７号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第２７．議案第１３８号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２７、議案第１３８号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町農産物処理加工施設）、これより質疑に入ります。ありませんか。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　これは道の駅に併せて三保電機さんがされるということで、農産加工というのは、特に町民のいろいろ小さい事業者が加工したいという思

いが強い方がいらして、それが利用されるわけなんで、恐らくそこら辺の話もちゃんとお分かりだとは思うんですけれど、三保電機さんも多分新たなことをチャレンジしていって、どんどん道の駅を発展させようと思っていると思うんで、そこら辺で新たな分野に挑戦するために、加工所内を新たな許可を取るための申請をするとか、あと、町民からの依頼で、こういうのを施設で使ってほしいというのを提案を受け入れるとか、そういうシステム的なことは今後だとは思うんですけど、ある程度そういう話をされているでしょうか。三保電機と責任者と町の間で。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　三保電機さんにつきましては、審査会で承認された後、挨拶に来られております。やはりなごみのほうを今後使うに当たって、店舗で販売する加工品、またレストランで提供する食材等を新たに開発していきたいという思いがあるようです。

今現状、施設につきましては、町民の方、また商工関係者が活用しております。利用については、現状まず優先するのは、地域の農業者また商工業者が活用していただく中で、またその空いたところを活用して商品の開発等をしていただくような形でのお願いはしております。また、なかなか心配される方もおられますので、今後、何かしら説明できる場があれば、農林課サイドとしても検討していきたいと思っております。

今後、どういった活用をしていきたいかという詳細については、まだ話を細かくしておりませんので、その辺についてはちょっと分からない状況でございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　恐らく三保電機さんもそうやっていろいろチャレンジしたいと思うんですけど、現状として、結構、今農産加工の施設もたくさん利用者もいらっしゃって、なかなか新しく入るのが難しいような状況であるんですよね。その中で三保電機さんもこれやりたい、あれやりたいとやってしまうと、かなりバッティングする可能性があるんで、そういう意味では、多分規模拡大とかそういう話も出てくると思うんで、そこら辺をまたしっかり協議していただきたいと思いますけど、そ

れはお願いします。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　また、三保電機さんとは、今後、仕様に当たって等も協議してまいりたいと思っております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　利用料等も発生すると思うんですが、これの協議といいますか、そんなことはされておりますか。

○議長（草田　吉丸君）　農林課長。

○農林課長（小藤　信行君）　利用料につきましては、条例等あります。その中で一定の枠の範囲で、また利用料金を決めていただくというところになります。現状の今利用料金をこのまま踏襲するというところと考えているとこでございます。また、変更等がありましたら、その点につきましてはまた説明をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　なごみの里と近い施設なので、同じような形で三保電機さんが指定管理者になられたのかなと思うんですけど、御説明あったかもしれませんが、公募のときは津和野開発さんは手を挙げられなかったんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　公募のときは、三保電機１者でございました。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３８号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――・――――・――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第２８．議案第１３９号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２８、議案第１３９号公の施設の指定管理者の指定について（津和野町原木・チップヤード施設）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１３９号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方

は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　公の施設全般について申し上げておきたいと思うんですが、いとも簡単に、会社の代表者が、特に第三セクターが、今まで我が町の公の施設を管理しとったのを、代表者である社長１人のお考えで指定管理を取りやめたりするという、こういう事態が今回発生しておりますが、これは誠に憂慮すべき事態が私は心配されるわけなんです。

何を申し上げたいというと、第三セクターにお勤めになっている従業員の方は、我が町の職員、我が町の町民の方がほとんどなんですよ。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員、今ですね、指定管理の関係で一応それぞれ議決をしました。今はちょっとそのことで議題になっとるわけで、もし何ならそのことは、また別の……

○議員（６番　沖田　　守君）　したがって、公の施設の管理については、これに関連するから申し上げるの。（発言する者あり）

発言の場というのは、議長、例えばどういう場で発言ができますか。こういう機会でないと、ないと思いますよ。（「それだったら僕も言いたいです。それやったらみんな言いたがりますよ」「ちょっと不規則発言するなよ」と呼ぶ者あり）黙っとれ。（「黙って議長に任せればいいじゃないの」と呼ぶ者あり）

○議長（草田　吉丸君）　暫時休憩いたします。

午前11時30分休憩

……

午前11時33分再開

○議長（草田　吉丸君）　引き続き、会議を再開します。

沖田議員のただいま公の指定管理についての、一つまた新たな御意見が今出てきましたが、今ですね、今日の議決事項としてやっておりましたこの公の施設の採決については、今一応全部終わりました。そういうことで、沖田議員の言われることにつきましては、今ここでというよりか、最後の議会、この議会で最終の議決をした後に、できれば今のことを質疑なりしていただいたらと思いますので、よろしくお願いします。（「了解」と呼ぶ者あり）

―――――――――――・―――・―――――――――――

日程第２９．議案第１４０号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２９、議案第１４０号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第５号）、これより質疑に入ります。ありませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　質問させていただきます。

２７ページの２１６の２６でシルクウェイにちはら修繕工事負担金１，５００万、これもうちょっと詳しく教えていただけますかと、９９ページの１４、７の森鴎外記念館の修繕費で１１３万、これもちょっと詳しく教えていただきたい。あと１０７ページの１４、２２の委託料で防災調査業務委託料が上がっとるんですが、これも詳しく教えていただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　初めに、２７ページの１，５４０万円でございますが、これはニチマルが事業承継に伴いまして丸久に移りますが、その関係で

シルクウェイにちはらのあそこにあるＹショップがあります、あそこにＹショップとニチマルが一緒にやっています。あれの中身を今度丸久さんが入るということになりまして、あの中の修繕工事が発生するということでございます。なので、工事請負費のほうからマイナスの１，５４０万ありますが、それを組み替えて、こちらのほうのシルクウェイにちはら、いわゆる津和野開発への修繕工事負担金として支出するものであるというふうに御理解いただければと思います。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　それでは、最初に９９ページの森鴎外記念館の修繕料でございますが、こちらは、施設内にある消火ポンプの呼水槽の修繕という形になっております。これは消防の点検によって不具合を指摘されておりますので、その修繕ということで御理解をいただければと思います。

それから、１０７ページの委託料、防災調査業務委託料の内容でございますが、こちら伝建地区に今計画をしております防災施設の予定地の測量業務、これが５３万１，２９０円、それから、同じく同防災施設の予定地の不動産鑑定といたしまして４２万２，０００円、それと伝建地区内にお住まいの方に対する防災のマニュアルを作成したいということで考えておりまして、その作成業務として９７万９，０００円を計上させていただいております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　２７ページのシルクウェイにちはらの修繕費のことなんですが、せっかく丸久さんがここに入られるというのであれば、丸久ブランドもしくは丸久の商品そもそもあるものであって、なぜわざわざＹショップのままにしなきゃいけないのかという理由をちょっとお聞かせ願えますか。

○議長（草田　吉丸君）　つわの暮らし推進課長。

○つわの暮らし推進課長（宮内　秀和君）　私も同様のことを思ったわけなんですが、丸久さんとＹショップさん、山崎製パンさんが一緒に何か話をされて、Ｙショップの看板は残したままに、中身は丸久の物にするという、そういった形に話がついたようです。どういいますか、丸久さんとＹショップさん、これまでお付き合い、商売取引

が全然なかったそうでございまして、今回初めてされるそうです。それで、Ｙショップのほうからぜひそうさせてほしいというような申出もあったということで、丸久さんとのその２者の話がちょっとどうなったかまで私詳細は存じ上げておりませんが、そうしたことでＹショップの看板を残したままに中身の商品は丸久であるという形で話がついたというふうに伺っております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　３９ページの民生費、老人福祉費で養護老人ホーム負担金５４３万２，０００円、これは吉賀町の銀杏寮訪問介護事業廃止でとなっておりますが、なぜ廃止になって負担金なのか、ちょっと理解できません。

あと５３ページ、農地費委託料、ため池廃止測量設計委託料で１２１万円、更に測量設計業務委託料、これは３万９，０００円ですが、なぜ似たような経費が出るのか。

あと６３ページ、観光費、備品購入、庁用器具費３３８万８，０００円で津和野駅設置ベンチとはどのようなものでどこに置くのかを質問します。

○議長（草田　吉丸君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　老人福祉費の養護老人ホーム負担金、銀杏寮への負担金でありますが、このうちの主なものが、今回訪問介護事業所を養護老人ホームとしては、いわゆる自前でこれまで運営をされておったわけです。いわゆる施設内の訪問介護を自前で行うことによって給付が得られるというところで介護給付を受けていた。これが人手不足により、そこの人員不足で運営ができなくなったということになりまして、給付が入ってこないと。しかしながら、職員はいるわけで、同じことをやっていかなければならないという中で、吉賀町、津和野町で負担をするということになったというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　建設課長。

○建設課長（安村　義夫君）　５３ページの農地費の委託料でございます。委託料のところでため池の部分と通常の測量設計業務委託と記載しております。

まず、上のほうのため池に関する委託料でございますが、これは山下地区の農業用水路長寿命化・防災減災事業として、ため池を廃止する工事に係る業務委託料でございます。こちらが１２１万円でございます。

それと下のほうですが、これにつきましては農道橋に係る部分でございます。農道橋、添谷地内のほうに農道橋がございまして、それの設計に係る委託料でございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　商工観光課長。

○商工観光課長（堀　　重樹君）　観光費の庁用器具費のところでございますけど、これにつきましては企業版ふるさと納税の申出がございまして、観光関連のほうで何かというお話がございました。その中で津和野駅にただいま回廊のところと、あとトイレの２階の展望台のところでございますけど、ここにベンチがない、ベンチがあったらいいという、そういうお声が協会のほうに入ってきまして、そこと相談したところ、ベンチを設置するのがいいのではないかということになりまして、相手側様につきましてもそれでならということで了承いただきましてベンチを設置することになりました。デザインにつきましては、協会のほうの御希望でアールデコ調、曲線を使った風合いのベンチということでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　３３ページであります。新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業費の中で、住民税非課税世帯への追加給付をするためにシステム改修をするということで、委託金として２５０万３，０００円。これにつきまして改修はされるんでありますが、非課税世帯に対していつ頃給付をされるのか、これをお聞きします。それと、価格高騰重点支援給付金として７，５９５万円出ております。これについてどのような交付先を対象とするものか。これについてお聞きします。

○議長（草田　吉丸君）　税務住民課長。

○税務住民課長（山下　泰三君）　それでは、資料のほう３３ページの新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業費についてでございます。議員お尋ねになりました、今後のスケジュールにつきましては、基準日を３万円の給付のときには、令和５年６月１日であったんですが、このたびの分につきましては、令和５年１２月１日を基準日といたしまして、その住民票等を基に実施していくわけでございますが、改めてこの事業の趣旨について、簡単に御説明いたします。

デフレ完全脱却のための総合経済対策として、１１月２日に閣議決定をされた経過によりまして、非課税世帯を対象とする１世帯当たり７万円の給付について、１１月２９日に国の補正予算が成立し、当町において準備するものでございます。

この価格高騰重点支援給付金につきましては、本年８月以降、非課税世帯等を対象として１世帯当たり３万円の給付を行ってまいりましたが、その追加分として１世帯当たり１０万円を目安として支援され、その差額分として７万円の追加給付として実施されるものでございます。

スケジュールにつきましては、今後、対象者３万円の給付した方に対して、これは前回は確認書を発送して確認書を返送いただきまして支給をさせていただいたものではございますが、このたびは前回の実績に基づきまして、こちらから振込の通知書を発送する予定としております。振込時期につきましては、年明けの１月下旬を今想定しており、準備を進めていきたいというふうに考えているところでございます。

それから、この交付金の財源でございますが、これはエネルギー食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者に対し、地方公共団体が地域の実情に合わせて必要な支援をきめ細やかに実施できるよう、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援地方交付金が拡充され、この制度で拡充されることに伴いまして、その財源を活用して給付させていただくものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　価格高騰重点支援給付金につきましては、これは申請をしてから給付されるというふうな段取りになるんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　税務住民課長。

○税務住民課長（山下　泰三君）　今年の夏に実施をさせていただきました３万円の給付金の際には、対象者をこちらで把握をしまして、それで御案内をさせていただいて、確認書を申請書として町のほうに提出していただくというものでございましたが、このたびはその対象者の方々への追加給付になりますので、対象者のほうはほぼ把握しているということになりまして、その確認を町があらかじめして追加分を発送するということで、支払いの通知書という形で、申請書という形もあるのはあるんですが、

これはあくまでも基準日が変わったことによって、転入された方とかお亡くなりになられた方とか、そういったところの部分で世帯主に対して給付されていたものを、また世帯主の方が変わられたとか、そういったものを確認して、新たに確認書としてこちらから御案内する場合もございますが、ほぼ支払い通知書のほうでお知らせをさせていただくものになります。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　先ほどの１０７ページの防災調査業務委託料の質問に関連してなんですけれども、回答の中で３つ説明があって、９７万円で防災マニュアル、たしか住民対象でとおっしゃったかなと思うんですけれど、この内容についてどういった中身を想定されているか、決まっている部分があれば教えてください。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　議員御質問の防災マニュアルの中身につきましては、詳細については今詰めているところですので、ちょっと手元に資料がございませんので、詳しくはお答えできませんけれども、地区内の方の避難マニュアルであったりとか、あと防火に対する意識啓発というようなことを中心にまとめていきたいというふうに聞いております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　先日の説明にあったかどうか記憶定かじゃないんで、質問させていただきます。

財産収入ところの１７ページで、安野光雅美術館のミュージアムグッズ売り払い収入、この売り払い収入というのはどういうことでしたっけ。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　こちらにつきましては、安野光雅美術館のほうで、今年、館外展を５か所で実施をさせていただいております。そこで安野光雅美術館が取り扱っているグッズ等の売れ行きがよかったというところの中で、今回その収益を予算計上させていただいているというものでございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　それで９９ページに、結局、財産収入として９５３万円と入っているんですけど、これは今後何かに充当するとか、もしくは全体で考えていくとか、何か考えがあれば教えていただきたいのと、一緒に併せて使用料及び賃貸料の消耗品費というのはどのようなものでしょうか、７６１万のやつは。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　それでは、９９ページの安野光雅美術館、こちらにつきましては先ほどの財産収入を財源といたしまして、議員御質問ありました消耗品のほうを考えております。こちらのほうでは、美術館のほうで取り扱う商品の仕入れ、複製画であったり、グッズといったものを考えております。それから、美術館のほうでの絵画、絵展示するための額縁に入れるマットがあるんですけど、そういったものを先ほどのものを財源として実施していきたいというふうに考えております。

それから、使用料及び賃借料でございますが、これは複製画を作製する際の著作権料ということで計上させていただいているものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　館外展でそのように売れたということは大変いいことだと思っていますけど、今後もそういう館外展だったり、安野光雅だけにかかわらず、ほかのもし森鴎外だの、いろんなのでそういう外でやるということも、例年でやられるのか、それとも、こういうのはたまたまあったのかというのをお聞かせ願います。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　館外展につきましては、今計画的にというか、お問合せをいただいたりして、計画を立てて実施をしているところでございます。来年度につきましては、まだ計画は立っておりませんけれども、そういったことは積極的に今後もやっていきたいと考えております。

○議長（草田　吉丸君）　寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　すみません、タブレットのページも言ってほしいです。タブレットで追っていくのが難しく、まずタブレット１０５ページのところで、紙では３９ページ、清流会障がい福祉サービス事業の赤字補填をされるということな

ので、その経緯を教えていただきたいのと、タブレット１２６ページ、紙では８１ページ、Ｊアラート機器の故障により機器の更新が必要になったということなんですが、これ何か事故があって故障したのか、もともとの機器に不具合があったのか。そのもともとの機器に不具合があったのに、町がお金出さないといけないのかとか、その辺を教えていただけたらと思います。とてもＪアラートって大切なものだと思っているので。

○議長（草田　吉丸君）　健康福祉課長。

○健康福祉課長（土井　泰一君）　つわの清流会への補助金であります。これにつきましては、令和２年度につわの清流会のほうの障がい事業に対しまして、赤字が出た場合には、人件費の２分の１を上限として補填をするということで行っております。

今回、つわの清流会、令和４年度の決算において、障がい部門において約６８０万余りの赤字が出たところではありますが、保育所・保育園関係の収入部分が多かったので、幾らか２５０万ばかり障がいのほうを補填しながら、それでも３６０万程度の、障がいのほうで赤字が出ているということで御相談いただき、今回この３６３万２,０００円を予算計上したというところであります。

過去にも令和３年度に、たしかあのとき約５００万ぐらいだったと思いますが、補填をしました。昨年度につきましては、ぎりぎり赤字とならなかったというところで、請求がなかったというような経緯であります。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　総務財政課長。

○総務財政課長（益井　仁志君）　先ほどの御質問で紙の８１ページの御質問でございますが、機械器具費で、確かに議員おっしゃるとおり、Ｊアラートの機器が基盤の経年劣化によりまして急遽故障しまして、これが先月の１１月２１日の３時ぐらいだったんですけども、消防庁のほうから連絡がありまして機器の通信ができないということで調べてくれと言ったら、これが平成３０年ぐらいに入れておる機械でありまして、もう５年６年ぐらいたっておりまして、経年劣化による基盤の損傷というふうにメーカーのほうから聞いております。

対応としましては、今その日から１２月５日にようやく代替の機器が座りまして、

あくまでもこれ代替品ですので、代替の機器が座りまして何とか今は通信ができておる状況ですが、代替ですので新たなものを更新をさせていただきたいということで予算を上げたものでございます。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４０号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宕文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　ここで午後１時まで休憩といたします。

午後０時00分休憩

……

午後１時00分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続いて、会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３０．議案第１４１号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３０、議案第１４１号令和５年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第２号）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４１号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君

三浦　英治君　　田中海太郎君
寺戸　昌子君　　川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第３１．議案第１４２号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３１、議案第１４２号令和５年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第３号）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４２号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君　　大江　　梨君
米澤　宏文君　　横山　元志君
沖田　　守君　　御手洗　剛君
三浦　英治君　　田中海太郎君
寺戸　昌子君　　川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３２．議案第１４３号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３２、議案第１４３号令和５年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第３号）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４３号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３３．議案第１４４号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３３、議案第１４４号令和５年度津和野町病院事業会計補正予算（第２号）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４４号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３４．議案第１４５号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３４、議案第１４５号令和５年度津和野町水道事業会

計補正予算（第３号）、これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４５号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

――――――――――――――・――――・――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

――――――――――――――・――――・――――――――――――

日程第３５．議会活性化特別委員会の報告

○議長（草田　吉丸君）　日程第３５、議会活性化特別委員会の報告を議題とします。

議会活性化特別委員会委員長の報告を求めます。川田委員長。

○議会活性化特別委員会委員長（川田　　剛君）　議会活性化特別委員会報告。

令和４年第５回６月津和野町議会定例会において設置されました議会活性化特別委員会の調査について、津和野町議会会議規則第７７条の規定に基づき報告いたします。

調査事件、議会活性化に関すること。

調査目的、議会運営及び議員活動の活性化と充実を図り、津和野町の町民参加による協働の町づくりに寄与するため、津和野町議会基本条例の制定に向けた協議並びに同条例の在り方を検討するため。

調査方法、机上調査。

調査の経過、第１５回、令和５年１２月８日金曜午後１時から、津和野町役場本庁舎議場にて。

出席者、委員１０人及び議長。

調査事項、津和野町議会基本条例（案）の制定に向けた最終確認。

調査の概要。

１、第１４回において確認した津和野町議会基本条例（案）の条文としての文言の取扱いを島根県町村議会議長会事務局長の清山英晴氏に御確認いただいた。条文に若干修正点があったため、第１５回において修正点を確認した。

２、津和野町議会基本条例（案）について、本委員会より「津和野町議会基本条例の制定について」として本定例会において議案を提案することを確認した。

調査の終了。

本委員会は、令和４年６月から全１５回にわたって議会基本条例の調査や在り方について議論を行ってきた。このたび「津和野町議会基本条例（案）」を本定例会に提案することをもって、本委員会の調査の目的を達したと判断し、本委員会の調査を終了する。

以上。

令和５年１２月１４日、津和野町議会議長、草田吉丸様、津和野町議会議会活性化特別委員会委員長、川田剛。

以上であります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、議会活性化特別委員会の報告を終了いたします。御苦労さんでございました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３６．発委第４号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３６、発委第４号津和野町議会基本条例の制定についてを議題とします。

これより本案件について、議会活性化特別委員会委員長より提案の趣旨説明を求めます。川田委員長。

○議会活性化特別委員会委員長（川田　　剛君）　発委第４号津和野町議会基本条例の制定について。

上記の議案を別紙のとおり、津和野町議会会議規則第１４条第２項の規定により提出いたします。

津和野町議会基本条例の制定について、提案の趣旨及び内容について説明いたします。

前文では、津和野町民（以下「町民」という。）から選挙で選ばれた議員により構成される津和野町議会（以下「議会」という。）は、同じく町民から選挙で選ばれた津和野町長（以下「町長」という。）とともに、二元代表制の一翼を担う議事機関として町民の意思を町政に反映させるため、その役割と責任を改めて認識しなければならない。

議会の改革は、合併前の旧津和野町議会及び旧日原町議会からその時々の情勢に応じて常に行われてきている。先人の議員である諸先輩方が敷いてきたその軌跡に沿って議会改革の道を歩み続けてきており、今後もその歩みを止めてはならない。

我々は、いつの時代においても議会としての機能を発揮し、その責任が果たされるよう議会改革と活性化策を追求していくためにこの基本条例を制定する、としております。

そして、この前文が、この条例の制定をする意義として掲げております。

第１条では、条例制定の目的として、津和野町の持続的で豊かなまちづくりの実現に向けた議会運営及び議員活動について基本事項を定めることを規定しております。

第２条では、議会の活動原則として、議会は、町民の代表機関であることを常に自覚し、公正性、透明性、信頼性を重んじた町民に開かれた議会であること。町民参加、

傍聴意欲の向上に向けた取組を行うなど、議会の活動について規定をしております。

第３条では、正副議長選挙における議長・副議長志願者の所信表明について規定しております。

第４条では、議員の活動原則として、議員は、議会が言論の府であり、合議制の機関であることを十分に認識し、議員相互間の自由な討論の推進を重んじること。また、議員は、町民全体の福祉の向上を目指すために、個別的な事案の解決だけではなく、町政の課題全般について町民の意見を的確に把握すること、自己の能力を高め、町民の信託に応えるような活動をすることについて規定しております。

第５条では、委員会の活動原則について、第６条では、議員研修の充実強化についてそれぞれ規定しております。

第７条では、町民と議会の関係について、議会の活動に関する情報を公開し、町民に対して十分な説明を行うことについて規定しております。

第８条では、意見交換会について、議会で行われた議案等の審議の経過及び結果について町民に報告することについて規定し、第９条では、議会広報の充実として、町政に係る重要な情報の町民への周知について規定しております。

第１０条では、議会及び議員と町長の関係として、議会審議における議員と町長の関係、本会議、ほか会議においては、町長等及び副町長は、議長又は委員長の許可を得て議員の質問及び質疑に対しての反問をすることができることなどを規定しております。

第１１条では、予算・決算における政策説明資料の作成について、第１２条では、議決事件の追加についてそれぞれ規定しております。

第１３条では、自由討議による合意形成、第１４条では、政務活動費の交付、公開及び報告について規定しております。

第１５条では、交流及び連携の推進として、調査研究等を行うために、他の自治体の議会との交流及び連携を推進すること、第１６条においては、議会事務局の体制整備として、議会又は議員の政策形成等の活動支援及び議会事務局の調査機能の強化について規定しております。

第１７条では、議会図書室の活用について規定しております。

第１８条では、災害時の対応として、町民の生命又は生活に直接影響を及ぼすような災害などが発生した場合の議会の対応について規定しております。

第１９条では、議員定数及び報酬について、議会は町民及び有識者の意見を聴取し、適切な反映に努めることについて規定しております。

第２０条では、議員の政治倫理について、そして第２１条においては、この条例が、議会運営における最高規範であること、この条例に違反する議会の条例、規則、規程等を制定してはならないことについて規定しております。

第２２条では、議会及び議員の責務として、議会及び議員は、この条例に定める理念及び原則に基づき、条例、規則及び規程等を遵守し、議会を運営することについて規定しております。

第２３条では、この条例の目的が達成されているか検証を行うことのほか、この条例の見直し手続について規定しております。

以上、２３条からなる津和野町議会基本条例の制定を提案するものであります。

附則として、この条例は、令和６年５月１日から施行するものであります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより発委第４号を採決します。本案件を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、発委第４号津和野町議会基本条例の制定については原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　ここで暫時休憩といたします。

午後１時17分休憩

……

午後１時20分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続き、本会議を再開します。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

追加日程第１．議案第１４６号

○議長（草田　吉丸君）　追加日程第１、議案第１４６号令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事請負契約の締結についてを議題といたします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　本定例会に追加で提案いたします案件は、契約案件１件、一般会計補正予算案件１件の合計２件でございます。重要な案件でございますので、慎重審議を賜り可決賜りますようお願い申し上げます。

議案第１４６号でございますが、令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事請負契約の締結について、議会の議決を求めるものでございます。

詳細につきましては、教育次長から説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　それでは、議案第１４６号令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事請負契約の締結について御説明をいたします。

工事名は、令和５年度旧津和野町役場第２庁舎撤去工事でございます。

契約の方法は、一般競争入札でございます。

契約の金額は、５，４９４万５，０００円、うち消費税額は４９９万５，０００円でございます。

契約の工期でございますが、着工は、津和野町議会の議決のあった日の翌日で、完成は令和６年３月２６日を予定しております。

契約の相手方でございますが、住所、島根県鹿足郡津和野町高峯５６６番地１。

氏名、有限会社ナガヨシ技建、代表取締役、永吉伯亨でございます。

入札は１２月４日に執行し、４者の応札がありました。落札率は９６．１９％でございます。

１枚めくっていただきまして、資料１といたしまして、建設工事請負仮契約書の写しを添付しております。次のページに、参考資料といたしまして配置図を添付しております。

本工事において、解体撤去を行う施設に朱色で色分けをしております。②の車庫をバツをしておりますが、これにつきましては解体撤去の対象外としております。第２庁舎を含みます１２施設と入口看板や植栽等、屋外附帯施設を解体撤去するものでございます。

なお、この契約は、津和野町議会の議決を得たとき、何らの手続をすることなく本契約となるものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　まず、参加業者が何者でどこどこ、それから予定価格、最低価格、それから落札率は今聞きましたから、それはよろしゅうございますが、とりあえずそれを知らせてください。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　本工事における入札ですが、４者により入札を執行されました。入札に応じた業者につきましてですが、堀建設株式会社、株式会社栗栖組、株式会社日成建設、有限会社ナガヨシ技建でございます。以上の４つでございます。

予定価格ですが、５，１９３万円、最低制限価格が４，９９０万４，０００円でございます。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　分かりましたが、これ４者ちゅうんが３者じゃったけど、もう１者どこね。３者しか入らやったの。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　大変すみません。もう一度、業者名を申し上げさせていただきます。１者目が堀建設株式会社、２つ目が株式会社栗栖組、３つ目が株式会社日成建設、４者目が有限会社ナガヨシ技建、以上の４つでございます。

○議長（草田　吉丸君）　ございませんか。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　これは工事ではありませんので、この質問がええかどうか分かりませんが、ここに旧大庭板金とあります。以前の説明では、ここから下る、大分高いですので、道をつくるという話がありましたが、これは建設のときかもしれませんが、その感じはどうなんでしょう。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　以前御説明をさせていただきましたが、この旧大庭板金のところから、ここの集会所を予定しているところに入る進入口をつくりたいというふうに、今のところ計画をしております。そのために今回、図面でいきますと１３番が旧大庭板金になっております。こちらのほうを今回解体をさせていただく予定になっております。

○議長（草田　吉丸君）　米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　今のことは、１３番を解体する。ほかはしないんでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　教育次長。

○教育次長（山本　博之君）　参考資料の図面を見ていただきまして、今回解体をする予定の建物に朱色というかピンク色で色をつけさせていただいております。それぞれ番号をつけておりまして、右下のほうに今回解体撤去をする施設のリストもつけております。表の中では１３あると思いますが、この中の２番目のところの車庫については、今回撤去をしない計画ということで、１２施設の解体撤去を計画したいというとこでございます。

○議長（草田　吉丸君）　よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４６号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、本案は原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

追加日程第２．議案第１４７号

○議長（草田　吉丸君）　追加日程第２、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）を議題といたします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　それでは、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）についてでございますが、歳入歳出予算の総額にそれぞれ２億８，７４０万円を追加し、歳入歳出予算の総額を１０６億７，８５５万５，０００円とするものでございます。

詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　総務財政課長。

○総務財政課長（益井　仁志君）　それでは、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）を御説明申し上げます。

まず４ページを、タブレットでは７ページをお開きください。

第２表、地方債補正の変更でございます。総額で２億８，７４０万円の増額補正をしております。詳細につきましては、事項別明細書の中で御説明申し上げます。

歳出の主なものから御説明いたしますので、１２ページを、タブレットでも同じく１２ページをお開きください。

教育費では、教育諸費の工事請負費として、津和野町学校給食センター建設工事に伴い２億８，６３９万１，０００円を計上しております。また、この財源としまして、過疎債を充当することとしております。

それでは、歳入を御説明申し上げますので、１０ページに、タブレットでは１１ページにお戻りください。

町債では、教育債の過疎対策事業債として、学校給食センター事業費増額に伴い、教育の振興事業２億８，７４０万円を計上しております。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。特に質疑があればこれを許します。ありませんか。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　１３ページの工事請負費２億８，６３９万１，０００円、ただいま説明があったとおり、学校給食センターのこれが要は追加工事、増額契約をしたいというこの金額ということですね、教育長。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　今回補正で計上させていただいております２億８，６３９万１，０００円でございますけども、先般からいろいろ御説明をさせていただいておりますけども、物価上昇に伴うインフレスライド分、そして仕様変更等に伴う増額分ということで、その合計額を計上させていただいたものでございます。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　過去２回にわたって、全員協議会でこの問題については質問もし、説明も受けました。残念ながら、ほとんどの議員が納得できる説明ではなかったというふうに私は理解しております。中には、いいじゃないか賛成ちゅうのが、どうも二、三おるようでありますが、残念ながら、今までの説明では全く合点がいかない。皆さん、執行部一生懸命説明は２回にわたってしたつもりではありましょうが、我々には納得できる説明ではなかったと思いますが、それは承知の上で、今日この補正をかけてこられたという、そういう受け止め方でいいんですね、教育長。

○議長（草田　吉丸君）　教育長。

○教育長（岩本　要二君）　これまで２回の全員協議会を開催していただきまして、このことについて説明をしてまいったとこでございます。今、沖田議員言われますようにといいますか、納得できるものではなかったということでございますけども、この補正予算の計上につきましては、また今後におきましても、丁寧に説明をしていく中で御納得いただけるように努めていきたいというふうに考えております。

○議長（草田　吉丸君）　特によろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

お諮りします。本案については、議長を除く１０人の委員で構成する津和野町学校

給食センター建設事業に関する調査等特別委員会を設置し、これに付託して審査することとしたいと思います。お手元に資料を配付しておりますので、御確認をください。

その中で特別委員会設置の目的でございますが、現在建設中である津和野町学校給食センター施設については、令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）において、物価上昇等の影響による建設事業費の増額が提案をされています。津和野町学校給食センター施設の建設事業については、今後の議会活動に資するために、これまでの経過とその対応について調査する、このような目的であります。構成委員は、議長を除く全議員であります。

設置の期間でございますが、今後も、完成までに議会として検討あるいは確認すべきことが想定されます。そういったことで設置期間につきましては、津和野町学校給食センターの竣工までとしたいというふうに思っています。

それから、この特別委員会につきましては公開で行いたいと思います。それから、配付資料でございますが、これについては、議員の皆さんには配付をいたしますが、傍聴者の方には、今回は配付をしないということで行いたいというふうに思っております。

沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　これは、発議か何かで発議して、そして特別委員会を設置すると、そういうようなことではなしに、議長、ただいまおっしゃったようなことであれ。設置するかどうかの賛否が要るんじゃないの。

○議長（草田　吉丸君）　私、議長から提案をするということでございますので、今から御異議があれば聞きますし、その辺は求めていきます。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　議長の発議じゃね。議長から提案するちゅうわけだね。

○議長（草田　吉丸君）　そういうことでございます。

○議員（６番　沖田　　守君）　それはそれで結構と思いますが、続けてください、どうぞ。

○議長（草田　吉丸君）　ただいま、目的等を皆さんのほうにも資料をお配りしておりますが、こういった形で特別委員会を設置したいということで思っております。これについて、皆さんのほうで何か御異議がありましたら。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　設置の目的、これに異論があります。確かに、ただいま問題になっとるのは学校給食センターの問題ではありますが、特に追加増額の契約案件に我々は異論を申し上げておるんであって、それに絞って特別委員会を立ち上げるんならしかるべきと思いますが、今後の議会活動に資するため、あるいは、これまでの経過とその対応について調査する。何とも知れない、何を一体論議をするのか、私は的を射ておらないと思うんですが。追加の本日提案のあった、補正予算そのものについて議論をするという特別委員会ならまだしも、この目的そのものが的を外れとると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　ただいま沖田議員からございましたが、最初の目的の中で、令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）において、物価上昇等の影響による建設事業費の増額が提案されている。このことに対して、いろいろ、まだ議員さん、まだ説明不足のこともあったりしておりますので、とにかくこの補正予算についていろんな質疑をしたり、当然この補正予算について調査するもんでございます。当然今でて、頂いておる増額の資料等も、まだまだもう少し説明をいただかないと私達も分からない分がありますので、そういったものを含めて、いろいろと議員の皆様には質疑等をしていただきたいと思います。そのほか、皆さん御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　それでは、御異議なしと認めます。したがって、本案件につきましては、議長を除く１０人の委員で構成する津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会を設置し、これに付託の上、会期中の審査とすることと決しました。

これより正副委員長の選出協議のため、暫時休憩とします。

午後１時43分休憩

……

午後１時45分再開

○議長（草田　吉丸君）　引き続き、会議を再開します。

先ほどの休憩中に津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会の正副委員長を選任をいただき、委員長に川田剛議員、副委員長に御手洗剛議員がそれ

ぞれ選任されましたので、御報告します。

それでは、ここで選任されました川田委員長より挨拶を受けたいと思います。川田委員長。

○津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長（川田　　剛君）　ただいま提案されました１４７号議案令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）、この案件につきましては、本定例会期末までの審査を行いたいと思っておりますが、当委員会の設置期間は、津和野町学校給食センターの竣工までということで、竣工するまで当委員会で見守っていきたいと思っております。ただ、それまでは、まずこの本案件につきましては、執行部の皆様におかれましては、各議員の質疑に対し、きちんと答弁をしていただきまして、議会議員の皆様におかれましては、理解いただけるよう理解し判断を委ねたいと思いますので、委員会運営に当たりまして、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

○議長（草田　吉丸君）　ありがとうございました。ここで、休憩中に公の施設の指定管理者の指定に関連して、沖田議員より発言を求められております。これについて許可をしたいと思います。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　これは先ほどの指定管理者の認定についての議案案件の中で本当は発言したかったんでありますが、趣旨に反するということで、議長から発言を止められて、この場を発言の機会を与えていただきました。したがって、申し上げますが、今回、指定管理者が随所に変わっておるところがあります。特に私が申し上げたいのは、本町の唯一の第三セクターである株式会社津和野開発、ここが担ってきた津和野の道の駅なごみ温泉なごみの里、そして日原のシルクウェイという、この２つの道の駅を中心に指定管理業務を担ってきたわけでありますが、先般の一般質問でも道信議員が質問をかけておりました。会社の社長の一存で指定管理を取りやめたりというのが、役員の方々に事後の報告になって、それでこの会社が今日あるというのは、誠に心外だと私は思います。本来であれば、役員会をし、取締役会をし、総会を経て、そうして指定管理者やなんかの指定取扱いというものについては決めていくというのが筋だというふうに思うわけでありますが。ごめんなさい、声が出ません。

申し上げたいのは、社長の一存でこんなことを、町長以下副町長、第三セクターと

いう我が町唯一の町が絡んだセクターでありますが、この運営方法に、町の首長たる者が一言も物が言えんようでは私はいけないと思いますが、町長の見解をぜひともお聞きしたい。私が申し上げたことが、ちょっと理解苦しむかも分かりません。声が枯れて出ませんが、要は津和野開発の社長たる一個人の意志で、指定管理者やなんかが外されるべきようなものなのかどうなのかということを含めて、町長の見解を知りたい。お願いします。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　基本的には沖田議員の御指摘のとおりだというふうに思っております。我々も今回、津和野開発からなごみの里には応募があると、これは一般質問でもお答えしたところでありますけれども、応募があるというふうに思っておりましたが、結果として出されなかったというその事実を知って、それで驚きも持ちながら受け止めたというところでございます。

本来ならば、これは津和野開発のルール上は、役員会での決議ということになるというふうに伺っておりますけれども、その役員会もかけずに、諮らずに応募がなされなかったということでございます。そういう中で、役員会には副町長が役員として出ておりますので、役員会に諮られなかったということ。これは社長と話をされて、厳重に副町長から抗議をされているというようなところであります。その後で株主総会を招集されまして、結局事後の報告ということになったということについて、社長から株主総会において、その経過とおわびというものがあったというところでございます。

そういう中で社長も、このことをある意味では独断で判断されたということ。それは、最終的には大きな責任として御自身も受け止められたというところでございます。正直なところ、副町長のほうには辞表も持って来られたということも伺っているところでありますが、やはりそうは申しましても津和野開発、まだまだ運営もしていただけなければならないということでありまして、そこは慰留をしたという経過でございます。

ただ、社長は、やはり社長としての何かの責任を取らなければならないということで、最終的に御自身の給料、報酬を５０％カットするということを、また役員会のほ

うで諮られたということでございます。

ですから、我々としても、本当にその手続論については残念にも思っておりますが、社長としても、今回のこの手続について大変瑕疵があったということはお認めになられて深く反省をされ、また御自身にも処分を課されているというふうに私どもは感じておりますので、これ以上のことについては、反省もしていただいて、こういうことが二度と起こらないようにということで、ひとまず決着ということにしたいというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　町長、今お話、説明聞きましたから、事後の対応等についてはそれで結構だと思うんですが、問題なのは、そこにおられる従業員の方。これは津和野町内の町民の方、家族の方、大半がそうだろうと思うんですよ。何人おいでになるか、私も十分把握はしておりませんが、社長の一存で、今までおった、津和野開発でやりよった仕事が、うちはやめたけえの、おまえら今度は違う会社へ行けと。こんなことが社長の一存で勝手に決められたら、従業員はどうすりゃいいんですかね。私が一番心配するのは、その人達の気持ちが非常に穏やかでなかっただろうなと。その気持ちを酌むと、大概にせにゃいけんと。町は、第三セクターというのは、町が絡んでセクターを組んどるんですから、そういうふうなやり方というのは、現に反省をされとるちゅんですけ、これ以上申し上げませんが、本当に従業員にお断りを言うていただきたいと思うし、さぞかし、最初のときは、従業員の方は自分達の行く末はどうなるだろうという不安でいっぱいだったろうと思うて、それを思うときに心迫る思いがいたしましたのでお聞きしたんですが、今、町長から話を聞いて、多少気持ちは落ち着きましたが、あってはならないことですから、社長が自分の報酬、大した報酬でもないのに減額される、その必要ないような気がしますが、そこまで責任を感じておいでになるというんですが、これ以上申し上げませんが、よく気をつけていただきたいと、かように思います。終わり。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　それでは、以上で、本日の日程は全て終了しました。

本日は、これで散会します。

午後１時56分散会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員

令和５年　第７回（定例）津　和　野　町　議　会　会　議　録（第５日）

令和５年12月20日（水曜日）

議事日程（第５号）

令和５年12月20日　午後１時30分開議

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第148号議案　町長等の給与の特例に関する条例の一部改正について

日程第３　町長提出第147号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）

日程第４　請願第３号　「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願について

日程第５　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について

日程第６　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について

日程第７　議員派遣の件

日程第８　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について

追加日程第１　発議第１号　議案第147号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案について

追加日程第２　発議第２号　森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書（案）の提出について

本日の会議に付した事件

日程第１　会議録署名議員の指名

日程第２　町長提出第148号議案　町長等の給与の特例に関する条例の一部改正について

日程第３　町長提出第147号議案　令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）

追加日程第１　発議第１号　議案第147号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案について

日程第４　請願第３号　「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願について

日程第５　総務経済常任委員会の所管事務調査報告について

日程第６　文教民生常任委員会の所管事務調査報告について

日程第７　議員派遣の件

日程第８　各委員会からの閉会中の継続調査の申出について

追加日程第２　発議第２号　森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書（案）の提出について

出席議員（11名）

１番　道信　俊昭君	２番　大江　　梨君
４番　米澤　宕文君	５番　横山　元志君
６番　沖田　　守君	７番　御手洗　剛君
８番　三浦　英治君	９番　田中海太郎君
10番　寺戸　昌子君	11番　川田　　剛君
12番　草田　吉丸君	

欠席議員（なし）

欠　　員（１名）

事務局出席職員職氏名

局長　中田　紀子君

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……	下森　博之君	副町長 ……	島田　賢司君
教育長 ……	岩本　要二君	総務財政課長 ……	益井　仁志君
税務住民課長 ……	山下　泰三君		

つわの暮らし推進課長 …… 宮内　秀和君

医療対策課長 …… 清水　浩志君　農林課長 …… 小藤　信行君

商工観光課長 …… 堀　重樹君　環境生活課長 …… 野田　裕一君

建設課長 …… 安村　義夫君　教育次長 …… 山本　博之君

会計管理者 …… 青木早知枝君

午後１時30分開議

○議長（草田　吉丸君）　皆さん、こんにちは。引き続いてお出かけを頂きまして、ありがとうございます。

ただいまより令和５年第７回定例会５日目の会議を始めたいと思います。

ただいまの出席議員数は１１名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第１．会議録署名議員の指名

○議長（草田　吉丸君）　日程第１、会議録署名議員の指名。

会議録署名議員は、会議規則第１２６条の規定により、７番、御手洗剛議員、８番、三浦英治議員を指名します。

―――――――――・―――・―――――――――

日程第２．議案第１４８号

○議長（草田　吉丸君）　日程第２、議案第１４８号町長等の給与の特例に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部より提案理由の説明を求めます。町長。

○町長（下森　博之君）　今定例会に追加で提案をいたします案件は、条例案件１件でございます。重要な案件でございますので、慎重審議を賜り可決賜りますようお願いを申し上げます。

議案第１４８号でございますが、町長等の給与の特例に関する条例の一部改正について、議会の議決を求めるものでございます。

詳細につきましては、担当課長から説明を申し上げます。

○議長（草田　吉丸君）　総務財政課長。

○総務財政課長（益井　仁志君）　それでは、議案第１４８号について御説明申し上げます。

町長等の給与の特例に関する条例の一部改正でございます。

このたびの津和野町学校給食センター施工に関連する措置といたしまして、町長、副町長、教育長の給料月額を減額するものでございます。

裏面の新旧対照表を御覧ください。

令和６年１月１日から令和６年３月３１日までの間に限り、条例別表に規定する額から、町長は１００分の３０、副町長、教育長は１００分の２０を乗じて得た額を減額するものでございます。

附則としまして、この条例は令和６年１月１日から施行するものでございます。

以上でございます。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　この議案に関しましては、恐らく私が先日、質問の中で責任の在り方として出されたことも関係しているとは思われますけれど、この案というのは、先ほどの給食センターの件で町民に対する責任という意味で出されたものでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　理由については、先ほどの特別委員会で申し上げたとおりでございます。

基本的には、建設コストが跳ね上がったという事実、それから、それが財政負担を重くしたということ、そういう事実に基づいて、やはり財政負担をかけることの結果も見ながら、そこに我々としての責任を示していくということでお話をさせていただいたというところでございます。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　私が感じるところは、町長以下執行部３名の責任の取

り方としてだとは思うんですけど、今回の件に関しては、そこの執行部だけではないと思うんです。やっぱりそれは同時に受注業者であったり設計士であったり、まだほか、いろんなところにも問題があるわけで、それを抱き合わせで案というのはなかなかできないとは思うんですけど、やはりこの件に関して、今後、そういう一緒に話していった方々に何かしらを求めていくとか、そういうことはされないのでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　ちょっと反問権がないので、求めていくとはどういうことかということがちょっと分かりませんので、そこは非常に重要なところだと思っていまして、なかなかそこの御質問が分からない中で、軽率なやっぱり発言は差し控えていかなければならないというふうに思っております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　ちょっと説明が不足しました。要は、自分の思いとしては、今回の案に関して、責任の１つとして、そうやって給与の減額というのは理解できるんですけれど、それに当たって、さっきのいろんな議論の中からの話にも関係するんですけど、自分がやっぱり給食センターを進めていくべきだと考えるためには、町長はじめ３役の方の減給だけでは難しいなと思うんです。

だから、今後の展望として、今の質問の中で、これが答えられるかどうかは分かりませんけど、やっぱり給食センターを進めていく上で、責任の取り方というのが、この給与だけにとどまるのか、それとも、今後、ほかのことを考えていかれるのか、そこを伺いたかったんですけど。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　例えば、受注業者に対して、それから設計士に対して、それぞれ個別にまたケース・バイ・ケースということに言えるかと思っております。例えば受注業者について、これが明らかに何か手続上瑕疵があるということ、そういうことにあれば、また何かの指名停止なりの処分ということが考えられるかというふうには思っております。

ですけれども、先ほどの特別委員会でも寺戸議員からの御質問にもありましたように、このことをもってのいわゆる値切り交渉のようなということは、これはふさわし

いことではないというふうには思っております。そこは別問題として、やはりもう一度、お互いのこの見積書やこれから上がってくる請求書を精査する中で、お互いの合意の下でやはりできるだけ金額を下げていくということ、これは当然努力をしていくということにもなるかと思っておりますが、我々が１つ罰則として今回の報酬カットを取ったことをもって、それを今度業者の罰則で値切りというようなことは、それはあってはいけないことだろうというふうに思います。

だから、瑕疵があるんであれば、例えばの話で申し上げていますけど、指名停止とかそういうことのほうに考えていくことなんだろうというふうに思っておりますし、そういう意味では設計士さんも同じということになるかと思っております。この設計料をお返ししてくださいとか、そういうことではなくて、当然、その設計士さんも入札をかけて、それを受注されたものでありますから、今後の入札の中で、何か瑕疵が認めるということであれば、そういう選択肢としてはあるかというふうにも思っております。

○議長（草田　吉丸君）　田中議員、３回の質問です。どうしてもですか。何か重要な質疑があります。（発言する者あり）いいですか。

そのほか、ございませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　町長、これは田中議員のお話を受けての議案だとは思うところなんでありますが、ちょっと勘違いされとるんではないかと私は思っているところです。これもし罪とか罰とか謝罪とかのつもりでこの議案を掲げておるのであれば、それは大きな勘違いであって、田中議員が何を言いたかったかというと、この町負担が１億円にもなるこの増額案で、この１億円をいかに捻出するかというのを田中議員は言いたかったわけであります。

ですので、この議案では、町長以下３役の皆さんが減給されて、それが３か月、計算すれば１００万円程度、到底１億円には足らない。減額というのは、この捻出方法の何か１つの案としてという意味合いであって、お前らバツだという意味合いではないんです。お話分かっていただけるでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　ひとつの責任の取り方の形ということで、我々はこういう提

案をさせていただいております。当然、１億円が全てじゃあ、要はその１億の根拠というのは、過疎債のそこの一般財源部分を指していらっしゃるんだろうと思いますけれども、増額をされてというところ。そこの１億に全て我々に責任があるかどうかということが、まず議論としてあると思います。仕様変更も、議員さんによっては仕様変更そのものがまかりならんから、その１億２，０００万分は、それは執行部の責任だと言われる議員さんもいらっしゃるかもしれないし、インフレスライド部分の１億８，０００万はこれも全て町が悪いのかという話になっていまいります。

１億８，０００万というのが、その物価高そのものが３役の責任という話にもなってくるわけですから、そういうことです。だから３億の中の１億をどう補填をするのかという議論の中で、報酬カットを結びつけていくんであれば、金額面から、それはどだい無理があると私は思っています。

先ほどのときにもお話をしましたが、残念ながら、今まで４回報酬カットというのを経験しております。そのときに、必ず根拠は、必要でない財政負担が生じたときに、そのときに基本的には３役もカットしてきたというところであります。ただ、その財政負担というのが過去の例もどうだったかというと、それはもう何千万というときにあったわけで、だけど、そこに全てを補うことは難しいわけで、やはり、でも何らかの形として示していかなければならないというのが、今回の我々の考えであります。

ですから、金額は確かに微々たるもんかもしれません。その１億でもどこまで認めるかという話の中にしても、それは到底、それを全て償い切れるものではないんだろうと思っていますが、やはり何らかの形を表すという観点の中で、そういうお話はあったと思っています。私は、特別委員会での田中議員の御質問というのは、そこも一つ受け求めたというところに、今回のを出したということであります。

だけれども、今日いま一度お話を聞く中で、だけど、我々の理解が実はそうではないんだということも、今日おっしゃられたのかなというふうには受け止めているところでありまして、そこは、先週金曜日の特別委員会の田中議員の質問を全て正確に私どもが受け止めていなかったんではないかということも、今日、それを分かったということでもあります。

ですから、そこで少し愚痴めいたことを言わせていただくと、あの日も私は最後に、

少なくとも私は報酬カットをさせていただきますと約束の言葉を述べたわけなので、そこがもう既に趣旨が違うというふうにお考えであるならば、やはりそのときに、その手を挙げて御指摘も頂きたかったというのは、私としては少し残念な思いも持っています。そこでの議論の中で、共通のまた認識が深められたのではないかなというふうにも思います。

だから、結果として、田中議員のその御質問の趣旨に全て沿ったものでは、今回ないということなのかもしれませんけれども、我々は我々として、そういう一つの責任の形を取るということと、そしてまた特別委員会で、その発した発言、それは私はあくまでもそのときに感情論になって言った意見ではありません。だけども、そこにもう言葉として残して、そして特別委員会という議会の大変正式な場の中で出した言葉、そこは必ず履行していかなければならないという責任の下で、この追加提案をさせていただいたというところであります。

○議長（草田　吉丸君）　道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　責任という言葉が、ちょっと私から言わせれば、非常に軽いなという感じで、金額じゃないです。私の場合は、私が言いたいのは、地方自治法２２１条で、町長は予算については議会の議決を経ねばならないというふうなことがあるんですけども、司法の場、裁判がもし起きたときに、この責任をという言葉が非常に生きてくる、いわゆる証拠として使われる可能性というのは非常にありますので、ここの部分というのは、責任ということの私はそういうふうに思っているんですけども、このあたり、町長どう思われます。

○議長（草田　吉丸君）　町長。

○町長（下森　博之君）　私はこう思っているんだけれども、町長はどう思われますかということですから、道信議員がそう申しておられることはそのとおりなんだろうと思います。その道信議員のお考えに否定をするつもりは毛頭ございません。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　反対の立場で発言させていただきたいと思います。

やっぱり先ほど私が言ったように、求めとるところはそれではないというところがまず１つありまして、あと、先ほど町長の答弁の中でありました愚痴めいたことの中で、確かに私もそこを理解してもらえとると思ったから、あえてそこについては説明も何もしなかったんですけど、思いが、意思疎通がはかれなかった、それは残念であるというのは確実である。ちょっとそれは私も反省を込めんにゃいけないというところでありますが、反対の理由としては、先ほど言ったように、求めとるのはそれじゃない、それを分かっていただきたいと思いますので、反対させていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　この２日間、審議の中で、今、町長の答弁ありましたとおり、私も委員長席から聞いておりまして、田中議員のおっしゃっている意味というのが、そういうことだったんだということが分かったわけなんですけれども、しかし、その最初の当時の１５日の発言の中で、この責任の所在がどこにあるのかというところから始まったと思います。これをどこに求めるのか、どこを探しても責任を明確にするには、誰かが責任を取らないといけないんじゃないのか、それをやはり保護者や町民の皆さんに説明しなければいけないんじゃないのか、そこで町長、それから職員の皆さん、そして議会もというような発言だったと思っております。

その受け取り方がどうかという話だと思うんですが、しかしながら、これはあくまで、お互い議会も町長も提案できる側でありますので、我々議会のほうは、議会も報酬をカットすべきだという発言がありながらも、ここまでその議論はされておりません。

一方で、町長におかれましては、１５日の金曜日からこの月曜日までの間で、１５日の日には町長本人のカットとおっしゃっていたものが、本日、こうして副町長、そして教育長のカット、そこもまとめられて提案されてきました。このメッセージを町民がどう受け取るか、それをもって、恐らく１億円だとか３億円の補填のための報酬カットとは受け取らないと思います。

私もいろいろな町民の方と話したときに、この責任は誰が取るのかという声は必ず出てきました。必ずといいますか、出てくることもありました。その中で、やはりそ

れは難しい問題でもありましたし、田中議員がおっしゃったようなどこに責任があるんだろうという、本当にこれは難しい問題ではありました。しかし、このたび町長は町長として、執行部側の責任としてこの報酬カット、この３か月のこの額が適切かどうか、これはまた皆さん、町民の皆さんが判断することだとは思いますけれども、この提案に対しては、町長の思い、そういったところも含めて、私は判断し賛成すべきだと考えますので、賛成の討論とさせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　このような形で責任というのを示されるということは私も理解ができるところではあるんですけれども、今回いろんな議論の中で出てきた課題に対して、こういった減給という形で、それが今後の改善につながるのかなというと、私はそこではないのかなというふうに考えていますので、今回の減給という措置は不要ではないかと思って、反対とさせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。三浦議員。

○議員（８番　三浦　英治君）　反対の立場で討論させていただきます。

これまでの反対者の意見とは全然違うんですけども、今回、１２月議会で第１２１号、１２２号議案が出ております。これは津和野町職員、会計年度任用職員の給与の一部改正でした。これは可決されております。本来、これに連動して特別職に関しても一部改正がなされなければならないものが、今回上程されておりません。これだけで十分だと思いますので、私は反対とさせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　端を発して言えば、私が言ったことでこういう話が出てきたわけなんですけど、私も正直、この町長が減給されるということ自体に対して別に反対しているわけではありません。ただ、今の状況でここで出すべきというよりは、自分の中ではまだ、今はこれをいろいろまだ話している段階であって、結局、今

この時期に減給と出すべきではないと思っています。

いろいろ物事が終わって、それでどこに責任があるのか、そのときに改めて出すべきだと思いますし、私の意図が通じなかったのというのは、私の説明不足でもありますが、私としては、ここで減給という問題に反対いたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　まさに、まだ、今、町長自らあるいは副町長も教育長も、この時期に責任を今取るべきではない。給食センターが完成をして、引渡しを受けて、あなた方が新しい年度を迎える来年の３月議会ぐらいにじっくり考えて、ひょっとすれば、３役に幹部職員ぐらいは、あるいはそれまでに議長を通じて我々にも声をおかけいただいて、我々もこの程度のことは覚悟して臨まないと、町民に対して申し訳ないという姿勢は、来年度の当初の予算からぜひとも実施するような、そういう時期に責任の取り方は、お取りになるのが私も適切であると、そういう意味で反対させていただきたい。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　今回、責任論が出ておりますが、まだ誰が取るべきなのかは、いろいろ煮詰まっておりません。しかし、３役の方の責任感といいますか、その誠意は見せていただきました。

また、先ほどもありましたように、次の議会でするべきであると思います。

以上で、今回の反対といたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４８号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

各自、自分が選択したボタンのライトが点灯しているか確認をしてください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締切ります。賛成少数であります。したがって、本案は否決とされました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（２名）

寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（８名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第３．議案第１４７号

○議長（草田　吉丸君）　日程第３、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）につきましては、津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会へ付託し、審査を頂いております。

特別委員会委員長の報告を求めます。１１番、川田委員長。

○津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長（川田　　剛君）　津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会中間報告。

令和５年第７回１２月津和野町議会定例会において設置された津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会の調査について、津和野町議会会議規則第４７条第２項の規定に基づき報告いたします。

設置の根拠、地方自治法第１０９条及び津和野町議会委員会条例第５条。

設置の目的、現在建設中である津和野町学校給食センター施設については、令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）において、物価上昇等の影響による建設事業費の増額が提案されている。津和野町学校給食センター施設の建設事業については、今後の議会活動に資するため、これまでの経過とその対応について調査するものであります。

構成の委員、議長を除く全議員。

設置の期間、津和野町学校給食センターの竣工まで。

審査の経過、第１回、令和５年１２月１５日、金曜日、午前９時から。第２回、令和５年１２月２０日、月曜日、午前９時から。ともに津和野町役場本庁舎議場。

出席者、委員１０人、議長、町長、副町長、教育長、教育次長、教育次長補佐、総務財政課長。

審査事項、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）の審査であります。

審査の結果、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）は、賛成少数により否決すべきと決した。

審査の概要、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）は、令和５年５月３１日、津和野町学校給食センター建設工事において、物価高騰による請負代金額の増額の請求が受注者より発注者である津和野町に対し、津和野町公共工事請負契約約款に基づいて増額された予算と、設計の仕様の変更により請負代金額の増額、そのほかにより構成された予算である。

第１回、第２回を通して、津和野町学校給食センター建設工事に関する予算の審議を行った。

反対の意見として、事業が始まってから進め方これまでの姿勢など、一度立ち止まって協議を進める方策を検討されたのか、リスク管理を怠った状態で事業を推進してきたことが問題である、設計の仕様の変更については、地方自治法第９６条第１項第５号の違反の疑いがあり認めることができない、工期の延長の説明では、工期の短縮を図ることで事業費の圧縮に取り組むような努力が見受けられない、否決することは短期的には町民の不利益になるが、長期的に見れば、事業の進め方や取組方を見直す

きっかけとなり、町民の利益になることを期待するなどの発言があった。

調査の継続、本特別委員会の目的を達するため、引き続き継続調査とする。

津和野町議会議長、草田吉丸様。

津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長、川田剛。

以上であります。

○議長（草田　吉丸君）　ありがとうございました。（発言する者あり）今、もうこの（発言する者あり）報告書については、もう先ほど委員長にお任せする、こういうことでございました。（発言する者あり）語句。語句の訂正ですか。字が違うんですか。（発言する者あり）川田委員長。

○津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長（川田　　剛君）　読み上げで訂正、すみません、失礼しました。第２回の日付が１２月２０日でございます。曜日は月曜日で訂正をお願いいたします。第２回が２０日。

○議長（草田　吉丸君）　これは先ほど言われましたね。（発言する者あり）曜日はどうですか。（「今日、月曜じゃないですね」と呼ぶ者あり）

○津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長（川田　　剛君）　今日水曜日でした。失礼しました。

○議長（草田　吉丸君）　それ訂正ですね。

○津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会委員長（川田　　剛君）　訂正です。失礼しました。

○議長（草田　吉丸君）　１２月２０日の水曜ということで、これを訂正願います。

ただいまの委員会報告に対する委員長への質疑につきましては、議長を除く全議員による委員構成でありますので、これを省略します。

これより討論に入ります。念のため申し上げます。討論の順序でございますが、会議規則第５２条の規定により、本案に反対者、続いて賛成者の順で発言を許可するところですが、議案第１４７号に対する委員長報告は、否決で報告を受けたところであります。ただいまより、議案第１４７号を原案のとおり決することに賛成とする方、続いて、反対とする方の順で発言を許可いたします。

まず、議案第１４７号を原案のとおり決することに賛成の方の発言を許します。御

手洗議員。

○議員（７番　御手洗　剛君）　それでは、賛成の立場で討論を申し上げます。

津和野町学校給食センター建設工事は、予期することのできない資材高騰や労務費の上昇により事業費の上昇をもたらしました。

工事契約第２６条６項のインフラスライド条項の適用はやむを得ないものと判断をいたします。

工事期間中において設計の仕様変更がたびたび生じ、事業費増の状況を呈したにもかかわらず、議会への細かな説明の遅れ等、事務的手続に問題はありました。給食センターも竣工まで残すところ２か月余り、生徒児童の成長に欠かすことのできない給食を安心・安全に届けることが行政の使命でもあります。

今回の教訓を今後に生かすため、町執行部におかれましては、本日の特別委員会への議論を基にしたことの中で、意見を添えて賛成したいというふうに思いますが、それは、中期財政計画につきましては毎年度見直しをされている状況にありますが、今回の補正予算増額を含め、本町においては大型プロジェクトが今後想定される中で、中期財政計画の再見直し、綿密な見直しをしていただくことを望みます。

また、更なる競争意識の醸成のためにも、益田圏域に拡大した入札制度の検討を開始すべきと考えます。

以上、意見を付して賛成討論といたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対の方の発言を許します。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　反対の立場で発言させていただきたいと思います。

５月３１日以降、増額の根拠とされておるのは、刊行物であったり見積書であったり、それを方程式に当てはめてこのスライド条項を算出されておるところでありますが、実際のものとは、実際支払われる額とは恐らく差があるであろう、その支払ったあかしを見せて、今後、遂行していくというのは、これが賛成されるのであればそのまま履行していただきたいと思うとるところなんではありますが、私が特に考えとるところが、仕様変更など議決事項を議決前に行っている、確かにこの軽微なことについては、その都度臨時議会を招集するのも大変なことではあるので、ある程度認められるものだと私も考えているところではありますが、どこまでが軽微なものかという

のは、これからまた議論していかなければならないと思っております。

ですが、２，０００万以上にもなるような仕様変更を裁量で認めろというのは、議会軽視であり、それは、まさしく住民軽視でもあります。それどころか違法性すらあるのではないかと感じておるところであります。

これらを認めてしまっては、我々議員の存在理由を自ら否定するものであったり、そして、議会の本分を見失い、職務を放棄することになるのではないかと私は考えております。

そして、今回議論されておりますのは、補正予算、これを通すか否かであります。今後、これをどこまでが軽微な変更であるか、仕様変更であるかというのと、責任の所在についてというのは、今後、委員会で更に調査する必要があるのではないかということを申し添えて反対とさせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成の方の発言を許します。寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　物価の上昇とかでスライドが起きたということは理解できました。けど、議会の議決する前に追加の予算の工事が行われてしまったことに対しては、とても遺憾に思います。認め難いとは思っております。

しかし、もしもこの議案が可決しなかった場合、交付税とか過疎債とか、町の自主財源でないもの、頂かなくてはいけないものを返さなくてはいけない。それから、これから先、それが手に入らなくなるという事態が想定されます。その場合、これからの町民の生活がどのようになっていくか、大変危惧いたします。町民にそれほどの負担をかける議案ではないと、賛成するべきではないかと思いながらも、今後の町民に負担をかける、そのことを考えると、とても反対することができません。

何かとてもへんてこりんな賛成討論ではありますが、今後の町民の生活を思うと、私は賛成させていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対の方の発言を許します。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　今回の事案に関しまして、賛成、反対と町の中でも２分しています。やはりこういう状況というのはとても悲しいことで、教育委員会の方も一生懸命説明していただきましたし、でも、私達もなかなか理解に苦しむところもあり、結局、本当にぎりぎりまで賛成、反対を迷いました。

結局、この問題、可決しても否決してもどっちにしても厳しい現実は待っています。やっぱりそこをまず考えた上で、私も本当に賛成したかったんですけど、今のままの案では賛成できません。

先ほど、町長の答弁にもありましたけど、やはり町長は町長で給与の減額というのをおっしゃいました。私はそれに更に受注業者と設計士に何かしらのと言ったんですけど、それは決して値引きとか瑕疵があったとかではありません。何度も言うようですけど、結局、交付税以外の１億円という負担を将来にかけて負担を乗せるのではなく、今、生きている私達全体で、これを少しでも、全額ではないにしろ少しでもカバーしなきゃいけないと思っているので、それなりにみんながちょっとずつでも気持ちを負担するという気持ち、そこが案に出てくれば自分は賛成できます。

だから、今の案のままでは賛成できません。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成の方の発言を許します。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　賛成の立場で討論をさせていただきます。

委員長報告の中で否決すべきと申し上げながら、この立場になるというのは大変苦しい思いもありますし、このたびのこの特別委員会での審議、賛成の方も反対の方も、真剣にこの議案に対して向き合っていただいたと思います。よって、このたびの審議の中で、簡単に賛成、簡単に反対という判断は非常に難しかっただろうと思っております。

そのような中で、この問題の根本というのは、いろいろ皆さん、各議員によっては違ってくると思うんですけども、やはりこのスタートであった基準日の６月１日以前、以降というところから、この１２月までのこの半年間、この期間の部分というのは、やはり執行部の怠慢もあったのかなと思ったりもしておりますし、一方で、じゃあこれを否決することによって、それが町民の皆さんが議会がよく仕事をしているかというと、僕はそうではないと思っております。

このたびのここまで洗い出されてきた問題、反省すべき点、例えば設計の仕様変更、この額をどこまで出したら議会にかけるのか、これはいわゆる地方自治法９６条の違反じゃないかという声もありますが、やはりそう言われても仕方がないかなと思われ

るぐらいの内容だと思います。恐らく、町民の中でもこの判断を迷う方いらっしゃると思います。

しかしながら、それでもって、それだから駄目なんだということではなく、我々はこの反省に立って、議会として、執行部に向けて二度とこのようなことが起こらないように、それを求めていくのが議会の職責の一つだと思っております。当然、否決という判断、尊重いたしますし、反対という判断もあると思いますが、私の判断としましては、賛成をもって、このたびのこの議案の洗い出された問題点を二度と起こさないように、そうした議論のきっかけとなるよう求めたいと思っております。

以上、賛成の討論とさせていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、反対の方の発言を許します。大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　反対の立場から討論させていただきます。

今回のこの給食センターの工事は、工事が始まる以前、契約の段階、契約以前から増額という決定をして、また工事が始まった直後からも、業者からの見積りが出ないというような通常とは異なる状況で金額が増えているという、そういう中で、通常とは違うような中で、これまでどおりの進め方、またちょっとリスク管理においても、十分でないまま工事が進められてきた結果が、私は今回の増額という金額になっていると思います。

もちろんその増額の金額に対しては、私は真剣に説明をしてくださったと、そのようには思っています。ですが、今回の件というのを私は認めるということは、今回はたまたま給食センターが問題になっていますけれど、これはほかの課でも私は起こり得る問題だと思いますので、同様の姿勢というのを認めることになりかねないんじゃないかと考えています。

やっぱり今回のような問題が起こるというのは、私は役場という組織の仕組みの問題、そこにやっぱり問題があるんじゃないかなというふうに思っています。今回、質疑を進めていく中で、いろんな今後の対応の話をしてくださったと思っています。こういうところを改善していかないといけないと思う、ここに課題があったと思う、こういうタイミングがよかったんじゃないか、そんな話があったと思うんですけれど、それは本来は、私はこちらからの質問で出てくるというよりかは、増額という話と同

じタイミングで、そういったものが出てきて示されてあるべきなんじゃないかなというふうに思っていて、今、やっぱり世の中にスピード感とか、行政に対して求められている役割とか、もっともっと時代の変化に合わせていった組織にならないといけないんじゃないかなというふうに思っていて、それは議会も本当同じだなというふうに私は思っていますし、行政と議会の関係も同じだなと思っていて、今回の問題というのを注視できなかった責任というのが議会にもあるなというふうに感じています。

私がこのように今回判断することは、委員長報告にもありましたけれど、短期的には、お金の面で本当はされるべきだった事業ができないとか、そういったことで本当に町民の皆さんにとって不利益になるということはあるんだと思います。なんですけれども、もっと長期的な視点で見たときに、町民の皆さんの利益になるというふうに考えて、今回は反対とさせていただきます。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　次に、賛成の方の発言を許します。沖田議員。

○議員（６番　沖田　　守君）　判断に誠に苦労して、さっきの特別委員会でも賛成の立場で発言をしましたが、私は反対するのはたやすいことであります。しかし、それで問題が解決はしません。したがって、今回は、今回の教訓を本当に執行部の皆さんも、我々議会にも大きな責任がありますから、一緒になって、本当に議会改革をやると同時に、このような問題に対して真摯に取り組むということを肝に銘じて、これから諸課題に取り組んでいきたい。

町長には一言申し上げたい。

確かに、県下の町村会の会長もおやりになったりすれば、出張の回数は極めて多い。我が町におるときよりは、東京中心に出張されている日にちが、今日町長どこ行ったろうか、多分東京じゃない、こんな返事が返ってくるように、非常にお忙しい。お忙しいのは結構だけど、自らが東京へ行かれなくても、松江へ行かなくても、その他へ行かなくても、副町長以下、配下の幹部職員それぞれ出かけていただいて、研鑽を積んでいただくほうが、我が町のために事業を率先して頑張ってくれるのは、幹部職員を中心とした職員でありますから、そこに大方は委ねて、町長は内政にもうちょっと気を遣っていただかないと、このような事態がまた起きる可能性が非常に強いという

こと、指摘を申し上げて賛成の討論といたします。終わり。

○議長（草田　吉丸君）　次に、反対の方の発言を許します。道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　反対です。大反対です。

それで、町長は仕様の変更をすることは、これは当たり前だしやぶさかではない、設計を変えるのもいい、しかし、これは予算に上げて議員に承認を得るという手続を怠ったことが最大の原因です。地方自治法２１１条では、町長は予算については議会の議決を経ねばならないとあり、９６条では、地方議会は予算を議決しなければならないとあります。

先ほどから聞いて、非常に問題なのは、法律ではそうあるが今後のという議会ではという、上位法を守らないで、これを否定しておいて、これは許していこうというようなことは絶対にあってはならない。法律があり、条例があり、法律があり、そして最終的には憲法がある。これを守らないで、それで津和野町議会ではというような発言は、非常に私からすれば何たることかというふうに思います。

１つの例として、今回、指示書がなかった、あったのかもわかりませんけど、どうも私の感じでは、そのときの業者とのやり取りの中に、町の指示書がどうもないみたい。これは大きな問題です。だから、指示書がないということは、こういうような文書主義の行政としては大失態だと思っておりますので、このことも反対の大きな理由でもあります。

そして最後に、給食は、先ほど町長が言われましたが、給食に関しては、配食に関しては、今までのものがあるから、今のものがあるから問題はなく配食できるということでもありましたし、子ども達に多少の不便はあるかもしれませんが、これは担保されております。

それから、今後の補助金に何らかの問題が出てくるかもしれない、いや、出てくるというような言い方に関して、私は大いに疑問を持っております。というのは、私の例ではありますけども、町と県が絡んだ工事があったときに、私はそれに抗議をした。そうすると、当時の大分前ですけども、課長が、そんなことをしたらこれから補助金が出んなるぜと、私を叱責しました。私はまだ入って間もない頃だったので、そのことに疑問を持って、直接、県のほうへ出向きました。そうして、これは浜田市長だっ

たんですけども、そこのトップと会いました。そうしたら、いや別に何も問題ないよ、それを駄目だと思うものを執行することのほうがよっぽど問題だ、返してくれてもありがたい、そのほうがありがたいという言葉をもらったときに、やはりそういう補助金のことが将来に左右されることは絶対にあり得ないという自信を持っております。

以上のことからして、私は、今回はぜひこれを違った形で、先ほども言いましたけども、予備費のほうに回して、もう一度検討し直すというところで対処していただくように思って、反対といたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、反対の方の発言を許します。米澤議員。

○議員（４番　米澤　宏文君）　反対の討論といたします。

この学校給食センター建設事業に反対するものではありません。この給食センターは、今後、児童の減少とともに保育園、また高等学校、そして大災害時の炊き出し等にも活用されると聞いており、また期待をしております。

ただし、今回のこの予算に賛成しますと、今度２月に出される変更契約にこのままの数字が出てくると思います。前回、町長が言われたように、議会が承認しないとこれは出せないと、通らないと言われましたが、ここで賛成したものを次に変更契約で出された金額を削減とか、いろんなことでできないと思っております。

更に、まだ期間がありますので、受注者と協議をされるとも聞いております。この協議をされた後に、１月に臨時会においてどのような協議になって、どのような結果になったかを報告されて、その後、このような予算を計上されるべきと思っております。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　次に、賛成の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、反対の方の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより議案第１４７号を採決します。本案に対する委員長報告は否決であります。

議案第１４７号について採決をします。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　採決を締め切ります。

以上のとおり、採決の結果、賛成、反対同数であります。したがって、地方自治法第１１６条第１項の規定によって、議長が本案に対して採決します。

議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）については、議長は可決と採決します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（５名）

沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	寺戸　昌子君
川田　　剛君	

反対（５名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
田中海太郎君	

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　休憩の動議をお願いいたします。

○議長（草田　吉丸君）　休憩動議認めます。

午後２時28分休憩

……

午後２時35分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続き、本会議を再開します。

お諮りします。ただいまの休憩中に、川田議員ほか４名から、発議第１号議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案が提出をされました。

これを日程に追加し、追加日程第１として直ちに議題としたいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　異議なしと認めます。

発議第１号議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案を追加日程として議題とすることに決定をいたしました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

追加日程第１．発議第１号

○議長（草田　吉丸君）　追加日程第１、発議第１号議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案についてを議題といたします。

それでは、提案者より提案理由の説明を求めます。川田副議長。

○議員（１１番　川田　　剛君）　議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案でございます。

この議案につきまして、津和野町議会会議規則第１４条第１項の規定により、別紙のとおり付帯決議案を添えて提出をいたします。

裏面を御覧ください。別紙であります。

議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案。

議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）は、令和５年５月３１日、津和野町学校給食センター建設工事において、物価高騰による請負代金額の増額の請求が受注者より発注者である津和野町に対し、津和野町公共工事請負契約約款に基づいて増額された予算と、設計の仕様の変更により請負代金額の増額、その他により構成された予算であります。

このことに関する議会への報告は、令和５年１０月１９日に議会全員協議会において説明を受けておりますが、町が受注者から請求を受けてから、また設計の仕様の変

更が行われてから議会に報告するまで、相当数の月日が経過していることは大変遺憾であります。

また、設計の仕様の変更額の１億７０９万９，０００円は議会議決をなされていないにもかかわらず、仕様の変更部分の建設工事が行われておりますが、地方自治法第９６条第１項第５号の趣旨を遵守すべきと考えます。

設計の仕様の変更や請負代金の変更が行われる際に、議会に対する報告の取決めがなされていないことが一因であり、早急に規定を作成すべきであります。

津和野町工事請負契約約款第２６条第６項に基づく請求については、設計の仕様の変更分も含まれております。

津和野町職員の中に設計士資格を有する者など、専門的な知見を有する者もおらず、内容の精査について時間を要した状況であります。今後、このような事案においては、専門家など第三者の見識を活用することも必要であります。

このたびの補正予算の増額や今後の社会情勢の変化、不測の事態によっては、脆弱な津和野町の財政への影響は大きく、中期財政計画の見直しが必要であります。中期財政計画の見直しに際し、津和野町が今後実施する予定である大型の事業については、実施時期等を慎重に判断し、また、更なる競争意識を醸成させる意味においても、益田圏域に拡大した入札制度の検討を開始すべきであります。

また、このたびの問題は、請負代金額の増額のみならず、町民に対する情報提供の不足も一因であるといえます。大型の事業については、町民の関心も高く、計画の段階から情報通信技術等を活用し、広く町民に周知し、意見を聞きながら実施すべきであります。

以上、議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に付し決議する。

津和野町議会議長、草田吉丸様。

提出者、津和野町議会議員、川田剛ほか４名。

以上であります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で、提案理由の説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　この決議案を読ませていただいて、一体何を決議するんだ、何を付帯するんだ、あまりにもぼんやりし過ぎて、何を付帯しているのかが読み取れないと私は考えますので、反対させていただきます。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。田中議員。

○議員（９番　田中海太郎君）　私は反対しましたが、とにかく決まった以上、何かやんなきゃいけない、その中でこの決議案が出てきました。かといって、対案を出せるという状況ではありません。取りあえず、今、ここの文章を読んで、やるんであれば、これをこれからずっと注視していかなきゃ、あと方法はないと思います。

なので、賛成いたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。大江議員。

○議員（２番　大江　　梨君）　賛成の立場で討論します。

私も可決された以上、こちらに書かれている内容、これからどれだけ具体的に実施されているか、そこに注視して努力していくべきと思いまして賛成いたします。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　次に、反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。道信議員。

○議員（１番　道信　俊昭君）　この中の文言、ここで、この１行で私は賛成したいと思うのが、益田圏域に拡大した入札制度の検討を開始すべき、この文言だけで、もうこれをぜひやりたいというふうに思って賛成いたします。

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　それでは、討論なしと認めます。

これより発議第１号を採決します。本案を原案のとおり決することに、賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成多数であります。したがって、発議第１号議案第１４７号令和５年度津和野町一般会計補正予算（第６号）に対する付帯決議案の提出については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（９名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	沖田　　守君
御手洗　剛君	三浦　英治君
田中海太郎君	寺戸　昌子君
川田　　剛君	

反対（１名）

横山　元志君

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第４．請願第３号

○議長（草田　吉丸君）　日程第４、請願第３号「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願について議題とします。

本請願につきましては、お手元に配付のとおりであります。

お諮りいたします。本請願につきましては、会議規則第９２条第２項の規定により、委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。よって、本請願は、委員会付託を省

略することに決定いたしました。

これより、本請願について、紹介議員より説明の必要があれば、これを許可します。川田議員。

○議員（１１番　川田　　剛君）　「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願書であります。

請願者は、島根県木材協会益田支部支部長、高津川森林組合代表理事組合長であります。

内容につきましては、まず、請願趣旨でありますが、我が国の森林は国土の７割を占め、温室効果ガスの排出削減や自然災害の防止等の公益的機能を有しており、国民全体に様々な恩恵をもたらしています。これらの機能を果たすべく、令和元年度に森林環境譲与税が創設されました。その使途については、間伐などの森林整備、人材育成や担い手の確保、木材利用の推進や普及啓発等に関する費用に充てることとされています。

しかしながら、森林環境譲与税は、総額の５０％を私有林人工林面積、３０％を人口、２０％を林業従事者に応じて配分され譲与されていることから、森林面積が少ないにもかかわらず、人口の多い大都市に対する配分額が多くなっているとの問題が指摘されております。

早急な整備を必要とする広い森林を抱える地方自治体への適切な配分が行われず、防災上の観点からも、森林整備を促進する財源とされた趣旨を損なうことが懸念されております。

よって、下記の実現を強く国や関係機関に要望することを強く求めた請願であります。

請願事項であります。

森林環境譲与税の創設経緯や目的に鑑み、森林整備と森林資源の活用をより効果的に推進するため、広い森林を抱える地方自治体への配分を重点化するように譲与税の見直しを速やかに実施すること、国の一般会計における森林関係予算を拡充すること、以上、２つを国や関係機関に意見書として提出してもらいたいという請願であります。

直近の話でありますが、今年の１２月１４日、政府与党税調の中においては、この

大綱は組まれておりますが、まだ国会の中の審議については行われていない状況であります。

以上であります。

○議長（草田　吉丸君）　以上で説明を終わります。

これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより請願第３号を採決いたします。本請願を採択することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、請願第３号「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願については、採択と決定しました。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第５．総務経済常任委員会の所管事務調査報告について

○議長（草田　吉丸君）　日程第５、総務経済常任委員会の所管事務調査報告についてを議題とします。

総務経済常任委員会委員長の報告を求めます。道信委員長。

○総務経済常任委員会委員長（道信　俊昭君）　総務経済常任委員会所管事務調査報告書。

令和５年第５回（９月）定例会において、許可を頂きました所管事務調査について、会議規則第７７条の規定に基づき報告いたします。

１、調査事項、ふるさと納税について。

２、調査目的、現状を調査し、議会活動に資するため。

３、調査方法、机上調査。

４、調査の経緯、第１回、日時、令和５年１０月１０日、火曜、午前９時。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

出席者、総務経済常任委員会５名、（欠席）沖田守。

内容、調査の確認、日程について協議。

第２回、日時、令和５年１１月６日、月曜、午後１時３０分。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

出席者、総務経済常任委員会６名、つわの暮らし推進課宮内秀和課長、佐伯晃係長。

内容、所管課からの回答を集約、問題・課題の調査。

第３回、日時、令和５年１１月２２日、水曜、午前９時。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

出席者、総務経済常任委員会６名。

内容、机上調査まとめ。

第４回、日時、令和５年１２月１３日、水曜、午後２時１７分。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

出席者、総務経済常任委員会６名。

内容、机上調査まとめ。

５、調査の概要。

（１）津和野町ふるさと納税の仕組みと現状について。

ふるさと納税とは、寄附者が選んだ自治体に寄附（ふるさと納税）を行った場合に、寄附額のうち２，０００円を超える部分について、所得税・住民税から原則として全額が控除される制度である。

ふるさと津和野基金条例があり、対象事業のうち、下記の７つから寄附者が選択できる。

①１０月というのはちょっとミスですので、削除しておいてください。産業の振興に関する事業。

②自然環境の保全に関する事業。

③医療または福祉の充実に関する事業。

④観光の振興に関する事業。

⑤文化の振興に関する事業。

⑥教育または人づくりの充実に関する事業。

⑦その他町長が別に定める事業。

２０２２年、令和４年度の寄附額は約７，５００万円であり、この数年間は増額傾向である。返礼品の品目は約２００程度、登録事業者は約７０程度である。

（２）担当職員の体制について。

２０２０年（令和２年度）よりコーディネーターとしてポマーロ株式会社と契約し、集落支援員１名、正規職員１名の体制であった。

２０２２年、令和４年度６月までの集落支援員を雇用していた。

２０２２年７月以降は正規職員１．５人体制である。

（３）ポータルサイト、コーディネーター等活用に至った経緯と効果について。

２０１７年、平成２９年度以降、寄附額が増大しているのは、ポータルサイトを５つに増やしたことも原因のひとつと考えられる。

２０２０年にポマーロ株式会社と契約することで、写真の撮り方等ブラッシュアップができていると考えられる。

ポータルサイトを、さとふるに集約することにより、寄附受領証明書の発行のほか、

返礼品の自動発送がされており、特に返礼品の発送や代金の支払い事務等については簡素化でき、事業主の負担軽減となっている。また、クレーム対応、処理などを行うことにより、担当職員の負担軽減にもつながっている。

（４）ふるさと津和野基金の積上げの状況と基金の充当について。

２０２２年、令和４年度までの寄附額の総額は約３億５，２００万円である。現在の基金残高は約１億２，２００万円である。

寄附額は、ポータルサイト等の募集経費に約５０％、基金への積上げに５０％を振り分けている。

（５）返礼品リストへの掲載手続の流れについて。

さとふるとポマーロ株式会社担当職員が定期的にミーティング等を行い、新規登録事業者や品目の拡充に努めている。あわせて、返礼品の見直しと体験型の返礼品を考えている。

体験型返礼品とは、宿泊補助券やサイクリングツアーなど、津和野に来て体験してもらうことである。

（６）ふるさと納税に対する今後の取組について。

行政によるクラウドファンディングや企業版ふるさと納税の拡充を図りたい。ふるさと納税の冊子「むすぶ」については、前年度寄附者は年２回送付し、返礼品の紹介とともに寄附金の使途内容等を伝えている。寄附者以外の町外に住む津和野町出身者等への送付も行っている。

寄附額の平均は２万円程度であり、今後もこの価格帯の品目を拡充させたい。

２０２３年、令和５年度の目標額は１億円である。

（７）津和野町から他自治体への寄附の実態について。

津和野町から他自治体へ寄附があるものの、寄附額控除のうち７５％は次年度の交付金として還付される仕組みとなっているようである。

調査意見、ふるさと納税は単に寄附金を集めることを目的としているだけではなく、返礼品によっては、津和野のイメージを高める側面もある。自主財源の乏しい当町にとっては貴重な財源であり、より一層の拡充を模索されたい。

２０２２年、令和４年度の寄附額は約７，５００万円であり、すばらしい努力とい

える。今後も企業版ふるさと納税の拡充等を図り、目標額である年間寄附額１億円を目指し、引き続き努力されたい。

３、津和野出身者等への冊子「むすぶ」の送付は効果的だと思われる。今後も引き続き継続されたい。

４、ポマーロ株式会社へのコーディネーター料については、現状、年契約であるが、着実に寄附額を伸ばしているということを鑑み、今後、歩合制にすることなど、実績に応じたコーディネーター料を検討されたい。

総務経済常任委員会委員長、道信俊昭、津和野町議会議長、草田吉丸様、令和５年１２月２０日でございます。

以上です。

○議長（草田　吉丸君）　これより委員長報告に対する質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

以上で、総務経済常任委員会の所管事務調査報告を終了します。委員長、お疲れでした。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第６．文教民生常任委員会の所管事務調査報告について

○議長（草田　吉丸君）　日程第６、文教民生常任委員会の所管事務調査報告についてを議題とします。

文教民生常任委員会委員長の報告を求めます。御手洗委員長。

○文教民生常任委員会委員長（御手洗　剛君）　所管事務調査報告書。

令和５年第５回（９月）定例会において、許可を頂きました所管事務調査において、会議規則第７７条の規定に基づき報告をいたします。

調査事項、保育園と小学校の連携の取組について。

調査目的、現状を調査して議会活動に資するため。

調査方法、机上調査。

調査の経過、日時、令和５年１１月２０日、月曜、午後１時３０分より。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

内容、机上調査。

出席者、文教民生常任委員４名、欠席、米澤宏文委員。健康福祉課土井泰一課長、教育委員会、山本博之次長、大垣隆次長補佐。

日時、令和５年１２月１１日、月曜、午前９時より。

場所、津和野町役場本庁舎委員会室。

内容、机上調査のまとめ。

出席者、文教民生常任委員４名、欠席、米澤宏文委員。

１番目といたしまして、保育園と小学校との連携の取組である架け橋プログラムとは、子どもに関わる大人が立場を超えて連携し、架け橋期、義務教育開始前後の５歳児から小学校１年生の２年間にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すもの。

従来、保育園には小学校に向けて準備をするアプローチカリキュラムが、小学校にはスタートカリキュラムが存在するが、それぞれが独立しており連携していないのが現状であった。

そこで、文部科学省では、令和４年度から３か年程度を念頭に、全国的な架け橋期の教育の充実とともに、モデル地域における実践を並行して集中的に推進していくこととなった。

令和４年度にモデル地区の募集が行われ、本町を含めた１９自治体が採択されている。京都市、横浜市などの大規模自治体が多く、町単位での採択は津和野町、西会津町のみである。採択を受けると、１０分の１０で年間最大７００万円の補助を受けることができ、３年間で保小連携のカリキュラムを作成することが事業目標となる。

２、架け橋プログラムの取組経過・体制。

本プログラムの採択を受ける以前の令和２年度より、保小連携コーディネーターを配置し、保育園と小学校の連携強化を図ってきた。その活動の中で見えてきた課題を解決するため、日原小学校をモデル地区に選定し、架け橋プログラムにエントリーを行い、下記のような体制で取組が進められている。

事務局、教育委員会、教育魅力化コーディネーター（保小連携）、日原小学校校長、

日原小学校教頭、日原小学校１年生担任、山のこども園うしのしっぽ園長、日原保育園園長、幼児教育コーディネーター、島根県立大学斎藤教授、島根県立大学高橋教授、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）シニアアナリスト田熊氏。

令和４年度事業内容。

架け橋カリキュラム開発会議の開催。全３回であります。

津和野町の架け橋プログラムにおけるテーマの決定、実践方法の検討。

令和５年度事業内容。

架け橋カリキュラム開発会議の開催、全４回。

保育園と小学校が共に授業を行う共同実践、全３回。

予算執行の状況であります。

１年目、約３０万円。主に交流時のバスの運転委託。

２年目、約４００万円。主に有識者の先生の招聘。

３、架け橋プログラムの特徴。

他自治体、特に大規模自治体は、従来のアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを単純に合わせたようなカリキュラムづくりを進めている。また、いつ何を行うという具体的な内容である場合が多い。それに対し、津和野町のカリキュラムは概念的な要素が強く、具体については各保育園、小学校、それぞれの小学校区で話合いで決めていくというカリキュラムになっていることが特徴である。

４、成果と課題。

教師や保育士の言葉かけや子どもに対するスタンスに変化が見られるが、概念的な部分が強いため評価が難しいとの認識である。

保小連携で対象となるのは、主に１年担当だけであるが、保育所に比べると小学校の先生が事業に対して消極的な印象である。それでも保育園のフォーラムに小学校の管理職が参加する等、５年前よりは変化が見られる。保育園側には、本事業を抵抗感はなく受け入れているようである。

５、架け橋プログラムの今後。

令和５年度は、令和４年度の同様に共同実践と会議を積み重ね、カリキュラムを策定する。架け橋プログラム３か年終了後は、町内他地区への横展開を行っていく。

６、審査意見。

架け橋プログラムを実践、また、モデル地区以外への展開については、町が主体となって研修を丁寧に行うことが非常に重要であり、研修内容についても熟考の上、実施されたい。

新たな取組を浸透させるためには、現在の教員の負担を軽減することも必要であると考える。教員の多忙の要因を教育委員会としても把握し、町として負担軽減に取り組めることはないか検討されたい。

成果を数値で示すことは難しい事業であるが、本事業は０歳児からの人づくり教育の一つの大きな特徴となり得るものである。事業内容について、広く住民への周知を図られたい。

本事業は、保育園については健康福祉課と小学校、教育委員会の事業であるため、所管課が異なる事業であるが、双方からの積極的な連携姿勢を期待する。

以上、令和５年１２月２０日、津和野町議会議長、草田吉丸様、文教民生常任委員会委員長御手洗剛。

以上であります。

○議長（草田　吉丸君）　これより委員長報告に対する質疑に入ります。ありませんか。寺戸議員。

○議員（１０番　寺戸　昌子君）　報告の中の２番の最初の丸の事務局のところなんですけど、事務局のところにＯＥＣＤのシニアアナリストの田熊氏が参加されているということですが、ＯＥＣＤがどのように関係をしてくるのかが分からないので教えていただけたら。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗委員長。

○文教民生常任委員会委員長（御手洗　剛君）　これにつきましては、ＯＥＣＤのシニアアナリストの田熊氏の関係でありますが、経済協力開発機構との関わり合いということであります。これについては分かりません。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。横山議員。

○議員（５番　横山　元志君）　４番の成果と課題についてのところなんですが、小学校の先生が事業に対して消極的な印象であるとありますが、この事業に対して保育園

側だけが本気であれば、あんまり意味がなくなってしまうと考えるところであります。このことについて、何か意見等ございませんでしたでしょうか。

○議長（草田　吉丸君）　御手洗委員長。

○文教民生常任委員会委員長（御手洗　剛君）　これにつきましても、ここにも書いておりますように、現実的にはそういった状況にある、なかなか保育園に比べると小学校のほうが消極的であるということであります。

小学校として現状を見ましても、保育園は年長さんが中心に小学校に入るための取組としての位置づけを持って、積極的に対応しやすいといいますか、小学校に行ったらまた環境が違うから、それに対する取組をしっかりしていこうというふうなことで取り組まれておるんではなかろうかなというふうに思っております。

小学校について、若干、もう小学校生活に慣れていけば、徐々にこの連携というのは大切なものでありますが、感覚的には薄れていくのかなというふうに思っております。まず小学校生活に慣らせるということが主眼になっておるんではなかろうか、そういったことで慣れていけば、もう安心して小学生としての対応が、先生方に担当の先生におかれましては、それを中心として取組を進めていくというふうな形になっておるんではなかろうかなというふうに理解しております。

○議長（草田　吉丸君）　ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

以上で、文教民生常任委員会の所管事務調査報告を終了します。委員長お疲れでした。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

日程第７．議員派遣の件

○議長（草田　吉丸君）　日程第７、議員派遣の件を議題とします。

お諮りします。議員派遣の件につきましては、お手元に配付しましたとおり派遣することにしたいと思いますが、御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。したがって、議員派遣の件は、お手

元に配付しましたとおり派遣することに決定しました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

日程第８．各委員会からの閉会中の継続調査の申出について

○議長（草田　吉丸君）　日程第８、各委員会からの閉会中の継続審査の申出についてを議題とします。

各委員会から、会議規則第７５条の規定により、お手元に配付のとおり閉会中の継続調査の申出があります。

各委員会の閉会中の継続調査の申出について

委員会	目　的	事　項	期　限
総務経済	議会活動に資するための所管事務調査	入札制度のあり方について	３月定例会まで
文教民生	〃	上下水道の現状と課題について	３月定例会まで
議会運営	所掌事務調査	議会の運営に関する事項	３月定例会まで
津和野町学校給食センター建設事業に関する調査等特別委員会	議会活動に資するための調査・審査	津和野町学校給食センター施設建設事業に関する経費等について	津和野町学校給食センターの竣工まで

お諮りします。申出のとおり、閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。したがって、各委員会からの申出のとおり閉会中の継続調査とすることに決定しました。

先ほど、請願第３号「森林環境譲与税の譲与基準の見直しを求める意見書」の提出を求める請願についてが採択されました。この請願は意見書の提出を求める請願であります。つきましては、発議第２号森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書（案）の提出についてを日程に追加し、追加日程第２、議案第２号としたいと思いますがこれに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。したがって、発議第２号を日程に追加し議題とすることに決定しました。

日程の追加をお願いします。ここで５分間休憩といたします。

午後３時15分休憩

……

午後３時18分再開

○議長（草田　吉丸君）　休憩前に引き続き、本会議を再開します。

―――――――――――――・―――――・―――――――――――――

追加日程第２．発議第２号

○議長（草田　吉丸君）　追加日程第２、発議第２号森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書（案）の提出についてを議題とします。

本意見書につきましては、お手元に配付のとおりであります。

お諮りします。本案件につきましては、会議規則第３９条第２項の規定により、趣旨説明を省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。したがって、発議第２号は趣旨説明を省略することに決定しました。

これより質疑に入ります。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　ないようですので、質疑を終結します。

これより討論に入ります。まず、原案に反対者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　次に、原案に賛成者の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　討論なしと認めます。

これより発議第２号を採決します。本案を原案のとおり決することに賛成の方は１のボタンを、反対の方は２のボタンを押してください。

〔賛成・反対ボタンにより表決〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　押し忘れなしと認めます。採決を締め切ります。賛成全員であります。したがって、発議第２号森林環境譲与税の譲与基準の見直しに関する意見書（案）の提出については、原案のとおり可決されました。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

賛成（１０名）

道信　俊昭君	大江　　梨君
米澤　宏文君	横山　元志君
沖田　　守君	御手洗　剛君
三浦　英治君	田中海太郎君
寺戸　昌子君	川田　　剛君

反対（０名）

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　意見書の提出先については、議長に一任いただきたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（草田　吉丸君）　御異議なしと認めます。

各関係機関の方へ、津和野町議会の意見書として提出してまいりたいと思います。

―――――――――――――・―――・―――――――――――――

○議長（草田　吉丸君）　以上をもちまして、本日の日程は全て終了しました。

会議を閉じます。令和５年第７回津和野町議会定例会を閉会します。お疲れさまでした。

午後３時20分閉会

―――――――――――――――――――――――――――――――

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

年　　月　　日

議　　長

署名議員

署名議員